2021年度　生活デザイン専攻　開講科目

*がついている科目は実務経験のある教員による授業科目です。

■2回生　教養科目

人間と仏教Ⅱ	・・・・・・・・・	CI委員長 ・・・・・・・	1
社会活動実践	・・・・・・・・・	CI委員長他 ・・・・・・・	3
人間と文学	・・・・・・・・・	前田　敬子 ・・・・・・・	5
行動と心理	・・・・・・・・・	中尾　繁史 ・・・・・・・	7
音楽の世界	・・・・・・・・・	大久保功治 ・・・・・・・	9
スポーツ実技	・・・・・・・・・	出村　友寛 ・・・・・・・	11
データサイエンス入門	・・・・・・・・・	諏訪　いずみ ・・・・・・・	13

■2回生　専門科目

生活経営学	・・・・・・・・・	澤崎　敏文 ・・・・・・・	15
＊保育学	・・・・・・・・・	岡田　和美 ・・・・・・・	17
色彩学Ⅱ	・・・・・・・・・	橋本　洋子 ・・・・・・・	19
生活情報処理	・・・・・・・・・	三輪　　優 ・・・・・・・	21
グラフィックデザインⅡ	・・・・・・・・・	西畑　敏秀 ・・・・・・・	23
グラフィックデザインⅢ	・・・・・・・・・	西畑　敏秀 ・・・・・・・	25
消費環境論	・・・・・・・・・	西畑　敏秀 ・・・・・・・	27
＊WebデザインⅠ	・・・・・・・・・	吉村　正照 ・・・・・・・	29
＊WebデザインⅡ	・・・・・・・・・	賀川　泰成 ・・・・・・・	32
プロダクトデザインⅡ	・・・・・・・・・	橋本　洋子 ・・・・・・・	34
プロダクトデザインⅢ	・・・・・・・・・	橋本　洋子 ・・・・・・・	36
クラフトデザインＩＡ	・・・・・・・・・	松井　勝彦 ・・・・・・・	38
クラフトデザインＩＢ	・・・・・・・・・	古木　晶子 ・・・・・・・	40
クラフトデザインⅡＡ	・・・・・・・・・	増田　頼保 ・・・・・・・	42
ファッションデザインⅡ	・・・・・・・・・	前田　博子 ・・・・・・・	44
生活造形Ⅱ	・・・・・・・・・	前田　博子 ・・・・・・・	46
生活造形Ⅲ	・・・・・・・・・	前田　博子 ・・・・・・・	48
環境デザイン演習	・・・・・・・・・	内山　秀樹 ・・・・・・・	50
＊インテリアプランニング	・・・・・・・・・	原田 ゑつ子 ・・・・・・・	52
＊インテリア設計	・・・・・・・・・	林　公一朗 ・・・・・・・	54
専門演習	・・・・・・・・・	西畑　敏秀他 ・・・・・・・	56
卒業研究	・・・・・・・・・	内山　秀樹　・・・・・・・	58

2021年度　生活情報専攻　開講科目

*がついている科目は実務経験のある教員による授業科目です。

■2回生　教養科目

人間と仏教Ⅱ	・・・・・・・・・	CI委員長 ・・・・・・・	60
社会活動実践	・・・・・・・・・	CI委員長他 ・・・・・・・	62
行動と心理	・・・・・・・・・	中尾　繁史 ・・・・・・・	64
＊福井地域学	・・・・・・・・・	南保　勝 ・・・・・・・	66
音楽の世界	・・・・・・・・・	大久保 功治 ・・・・・・・	68
スポーツ実技	・・・・・・・・・	出村　友寛 ・・・・・・・	70
中国語Ⅰ	・・・・・・・・・	章　　璐 ・・・・・・・	72
中国語Ⅱ	・・・・・・・・・	章　　璐 ・・・・・・・	74
データサイエンス入門	・・・・・・・・・	諏訪　いずみ ・・・・・・・	76

■2回生　専門科目

生活経営学	・・・・・・・・・	澤崎　敏文 ・・・・・・・	78
＊保育学	・・・・・・・・・	岡田　和美 ・・・・・・・	80
人間関係論	・・・・・・・・・	清水　聡 ・・・・・・・	82

情報ネットワーク ・・・・・・・・・ 谷口　秀次 ・・・・・・・ 84
情報メディア ・・・・・・・・・ 島田　貢明 ・・・・・・・ 86
情報の構造と表現 ・・・・・・・・・ 小倉　久和 ・・・・・・・ 88
データベース論 ・・・・・・・・・ 小倉　久和 ・・・・・・・ 91
プログラミングⅢ ・・・・・・・・・ 島田　貢明 ・・・・・・・ 94
プログラミングⅣ ・・・・・・・・・ 諏訪 いずみ ・・・・・・・ 96
文章・言語表現 ・・・・・・・・・ 張籠　二三枝 ・・・・・・・ 98
ビジネスイングリッシュ ・・・・・・・・・ 野本　尚美 ・・・・・・・ 100
コミュニケーション演習Ⅱ ・・・・・・・・・ 帆谷　和浩 ・・・・・・・ 102
データベース演習Ⅱ ・・・・・・・・・ 篭谷　隆弘 ・・・・・・・ 104
生活会計学Ⅱ ・・・・・・・・・ 大西　新吾 ・・・・・・・ 106
＊生活商品学 ・・・・・・・・・ 南保　　勝 ・・・・・・・ 108
＊ビジネス実務演習Ⅰ ・・・・・・・・・ 澤崎　敏文 ・・・・・・・ 110
＊ビジネス実務演習Ⅱ ・・・・・・・・・ 澤崎　敏文 ・・・・・・・ 112
日本の文化 ・・・・・・・・・ 土井百合子・鈴木晴子 ・・・・・・・ 114
国際理解 ・・・・・・・・・ 内藤　　徹 ・・・・・・・ 116
専門演習 ・・・・・・・・・ 澤崎　敏文他 ・・・・・・・ 118
卒業研究 ・・・・・・・・・ 内山　秀樹 ・・・・・・・ 120

2021年度　食物栄養専攻　開講科目

＊がついている科目は実務経験のある教員による授業科目です。

■2回生　教養科目

人間と仏教Ⅱ ・・・・・・・・・ CI委員長 ・・・・・・・ 122
社会活動実践 ・・・・・・・・・ CI委員長他 ・・・・・・・ 124
ヒトの生物学 ・・・・・・・・・ 大久保嘉雄 ・・・・・・・ 126
環境の化学 ・・・・・・・・・ 沖　　昌也 ・・・・・・・ 128
スポーツ実技 ・・・・・・・・・ 出村　友寛 ・・・・・・・ 130
データサイエンス入門 ・・・・・・・・・ 諏訪　いずみ ・・・・・・・ 132

■2回生　専門科目

生活経営学 ・・・・・・・・・ 澤崎　敏文 ・・・・・・・ 134
＊保育学 ・・・・・・・・・ 岡田　和美 ・・・・・・・ 136
＊食品加工実習 ・・・・・・・・・ 小林　恭一 ・・・・・・・ 138
＊臨床栄養学 ・・・・・・・・・ 木下　充子 ・・・・・・・ 140
＊臨床栄養学各論 ・・・・・・・・・ 木下　充子 ・・・・・・・ 142
＊臨床栄養学実習 ・・・・・・・・・ 木内　貴子 ・・・・・・・ 145
調理学実習Ⅱ ・・・・・・・・・ 森　恵見 ・・・・・・・ 148
公衆衛生学 ・・・・・・・・・ 出口　洋二 ・・・・・・・ 150
公衆衛生学各論 ・・・・・・・・・ 出口　洋二 ・・・・・・・ 152
＊栄養指導論Ⅱ ・・・・・・・・・ 牧野みゆき ・・・・・・・ 154
＊栄養指導実習 ・・・・・・・・・ 牧野みゆき ・・・・・・・ 156
＊給食管理実習 ・・・・・・・・・ 牧野みゆき ・・・・・・・ 158
＊給食管理臨地実習 ・・・・・・・・・ 牧野みゆき ・・・・・・・ 160
解剖生理学実験 ・・・・・・・・・ 髙木　康之 ・・・・・・・ 162
生化学Ⅰ ・・・・・・・・・ 髙木　康之 ・・・・・・・ 164
生化学Ⅱ ・・・・・・・・・ 谷　　政八 ・・・・・・・ 166
生化学実験 ・・・・・・・・・ 髙木　康之 ・・・・・・・ 168
運動生理学 ・・・・・・・・・ 平井　一芳 ・・・・・・・ 170
＊社会福祉 ・・・・・・・・・ 近藤　俊英 ・・・・・・・ 172
食料経済 ・・・・・・・・・ 加藤　辰夫 ・・・・・・・ 174
＊栄養情報処理 ・・・・・・・・・ 牧野みゆき ・・・・・・・ 176
＊フードスペシャリスト論 ・・・・・・・・・ 小林　恭一 ・・・・・・・ 178
フードコーディネート論 ・・・・・・・・・ 森　恵見 ・・・・・・・ 180

専門演習 ・・・・・・・・・ 小林 恭一他 ・・・・・・・ 182
卒業研究 ・・・・・・・・・ 内山 秀樹 ・・・・・・・ 184

2021年度 幼児教育学科 開講科目

*がついている科目は実務経験のある教員による授業科目です。

■2回生 教養科目

人間と仏教Ⅱ ・・・・・・・・・ CI委員長 ・・・・・・・ 186
社会活動実践 ・・・・・・・・・ CI委員長他 ・・・・・・・ 188
人間と文学 ・・・・・・・・・ 前田 敬子 ・・・・・・・ 190
運動と健康 ・・・・・・・・・ 内田 雄 ・・・・・・・ 192
スポーツ実技 内田 雄 ・・・・・・・ 194
英語会話 ・・・・・・・・・ 野本 尚美 ・・・・・・・ 196
データサイエンス入門 ・・・・・・・・・ 諏訪 いずみ ・・・・・・・ 198

■2回生 専門科目

保育原理 ・・・・・・・・・ 増田 翼 ・・・・・・・ 200
教育社会学 ・・・・・・・・・ 増田 翼 ・・・・・・・ 203
＊子育て支援 ・・・・・・・・・ 玉 節子 ・・・・・・・ 206
＊社会的養護Ⅱ ・・・・・・・・・ 木越 直昭 ・・・・・・・ 208
教職論 ・・・・・・・・・ 増田 翼 ・・・・・・・ 210
＊子ども家庭支援の心理学 ・・・・・・・・・ 千崎 愛 ・・・・・・・ 213
子ども理解の理論と援助方法 ・・・・・・・・・ 中尾 繁史 ・・・・・・・ 215
子ども家庭支援と教育相談 ・・・・・・・・・ 中尾 繁史 ・・・・・・・ 217
子どもの保健 ・・・・・・・・・ 齋藤 正一 ・・・・・・・ 220
子どもの食と栄養Ⅱ ・・・・・・・・・ 木内 貴子 ・・・・・・・ 222
保育内容総論 ・・・・・・・・・ 松川 恵子 ・・・・・・・ 224
うたと伴奏Ⅰ ・・・・・・・・・ 木下由香・川﨑美砂子 ・・・・・・・ 226
うたと伴奏Ⅱ ・・・・・・・・・ 木下由香・川﨑美砂子 ・・・・・・・ 228
乳児の生活とあそび ・・・・・・・・・ 小川智枝・玉 節子・坂本流美 ・・・・・・・ 230
障害児保育と特別支援Ⅰ ・・・・・・・・・ 中尾 繁史 ・・・・・・・ 232
＊障害児保育と特別支援Ⅱ ・・・・・・・・・ 内田 彰夫 ・・・・・・・ 234
保育の専門性 ・・・・・・・・・ 増田 翼 ・・・・・・・ 236
ふくいの保育 ・・・・・・・・・ 香月 拓・江端 佳代 ・・・・・・・ 238
おもちゃ研究 ・・・・・・・・・ 香月 拓・重村 幹夫 ・・・・・・・ 240
レクリエーションⅠ ・・・・・・・・・ 大久保郁子 ・・・・・・・ 242
レクリエーションⅡ ・・・・・・・・・ 大久保郁子 ・・・・・・・ 244
＊教育実習Ⅰ ・・・・・・・・・ 松川 恵子 ・・・・・・・ 246
＊教育実習Ⅱ ・・・・・・・・・ 江端佳代・松川恵子 ・・・・・・・ 248
＊保育実習Ⅰ ・・・・・・・・・ 松川恵子・中尾繁史 ・・・・・・・ 250
＊保育実習指導Ⅰ ・・・・・・・・・ 松川恵子・中尾繁史・山下清美 ・・・・・・・ 252
＊保育実習Ⅱ ・・・・・・・・・ 木下 由香 ・・・・・・・ 254
＊保育実習指導Ⅱ ・・・・・・・・・ 木下 由香 ・・・・・・・ 256
保育実習Ⅲ ・・・・・・・・・ 中尾 繁史・増田 翼 ・・・・・・・ 258
保育実習指導Ⅲ ・・・・・・・・・ 増田 翼 ・・・・・・・ 260
保育・教職実践演習（幼稚園） ・・・・・・・・・ 重村 幹夫他 ・・・・・・・ 262
保育総合ゼミナール ・・・・・・・・・ 松川 恵子他 ・・・・・・・ 264

■2回生 資格取得に関する科目

子どもと絵本 ・・・・・・・・・ 松川恵子・前田敬子 ・・・・・・・ 266

講義科目名称： 人間と仏教Ⅱ　　授業コード：1120101　1320101　1620101

英文科目名称： BuddhismⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	１単位	必修
担当教員			
CI委員長			
生活科学学科　教養科目		演習	ナンバリング：10A102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、宗教行事や講演など様々な活動を通して、建学の精神「仁愛兼済」の生き方を育み、学園是「和敬・精進・反省」の実践力を養うことである。 ※キャンパスカレンダーに記載されたＡＨの日を具体的な活動の場とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①仁愛学園の建学の精神について理解する。	生活DP7	30
	目標②仁愛学園の歩みについて説明できる。	生活DP1	10
	目標③仁愛学園の歩みについて説明できる。	生活DP6	10
	目標④「仁愛兼済」を実践する姿勢を身につける。	生活DP8	25
	目標⑤自らを振り返る態度を身につける。	生活DP9	25
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。（和敬） 生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。（精進） 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	1年次 4月　降誕会・・・第1回講義	第1回レポート
	2	4月　学歌・讃仏歌指導	
	3・4	5月　開学記念日	
	5	5月　2年後の理想像と１年次前期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の説明および記入
	6	6月　第2回講義	第2回レポート
	7	9月　CI企画 1年次前期の自己評価と後期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	8	12月　成道会	
	9	1月　讃仰会（追弔会）	
	10	2年次 4月　降誕会・・・講演 1年次の自己評価と2年次前期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入 ※遠隔非同期にて実施
	11・12	5月　開学記念日	※詳細は後日連絡
	13	9月　CI企画 2年次前期の自己評価と後期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	14	11月　成道会	
	15	12月　讃仰会（追弔会）・・・講演	第3回レポート
	16	1月　2年間の自己評価	『充実した学生生活を送るために』の記入

定期試験	試験に代わって、全講義終了後に第3回レポート『充実した学生生活を送るために』を記入してもらう。
準備学習に必要な時間	日常生活のなかで、常に仁愛の自覚を持ち、兼済の実践に努めること。また、課題の作成に多くの時間が必要になる。
教科書	使用しない

参考図書、教材、準備物等	参考図書：『礼讃抄』『和』（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 適宜、資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	各レポートは授業担当者が確認した後、返却されるので、修学ポートフォリオ（ファイル）にまとめておくこと。
評価の配点比率	目標①第1回レポート（30%） 目標②第2回レポート（10%） 目標③第2回レポート（10%） 目標④第2回レポート（10%）、第3回レポート（15%） 目標⑤第3回レポート（15%）、『充実した学生生活を送るために』（10%）
受講上の注意	AHは必ずスーツを着用し、学章・念珠を持って参加すること。ただし、5月の開学記念日は除く。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 社会活動実践　　授業コード：1120201　1320201　1620201

英文科目名称： Social Activities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
通年	１・２年次	１単位	選択	
担当教員				
CI委員長・総合学務センター長				
生活科学学科　教養科目		演習		ナンバリング：10A501
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は、建学の精神に基づき、自らが他者のために働き出す実践的活動を行うことである。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。		生活DP2	5
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。		生活DP6	5
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。		生活DP7	10
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。		生活DP8	20
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。		生活DP9	10
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。		生活DP2	5
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。		生活DP6	5
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。		生活DP7	10
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。		生活DP8	20
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。		生活DP9	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。		
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。		
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。（和敬） 生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。（精進） 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について	
		単位認定の方法 本科目の単位認定は、通常の科目のように教員の作成したシラバスに基づいて実施されるものではなく、在学期間中に学生が自ら主体的に取り組んだ30時間以上の活動（ボランティア活動、地域支援活動、福祉活動、学習支援活動、NPO活動、国際貢献活動など）について単位を認定するものである。		
		活動後、所定の用紙（社会活動実践記録・単位認定申請書、社会活動実践レポート用紙）に活動内容、感想を記入し、資料と共に教務課に提出して認印を受ける。申請書類の提出をもって履修登録を兼ねることとする。夏期、冬期等休暇中の活動報告は休暇明け1週間以内に提出すること。		
		活動を証明する資料提出が困難な場合は、所定の用紙に活動先責任者の証明をもらうこと。また学生が多数で取り組んだ場合には、活動の指導者または責任者が取りまとめて申請することも可とする。ただし、レポート用紙は学生各人が提出しなければならない。		
定期試験	試験に代わって、レポートを提出してもらう。			
準備学習に必要な時間	適宜、事前事後学習を必要とする。			
教科書	使用しない			
参考図書、教材、準備物等	使用しない			
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートは、評価後にフィードバックする。			

評価の配点比率	目標①②レポート（100%）
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 人間と文学　　授業コード： 1120301

英文科目名称： Human Being and Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
前田　敬子			
生活科学学科生活デザイン専攻 教養科目		講義	ナンバリング：10B501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、児童文学、短歌、詩に触れることや、自作表現を鑑賞し合うことによって、文学鑑賞力を高めるとともに、自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身に付けることである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け％
	目標①短歌、童謡、詩の魅力や良さを語ることができる。	生活DP1	20
	目標②作品のいくつかを暗唱することができる。	生活DP6	30
	目標③自分の生き方や社会との関わり方を支える文学の意義と効用を理解し、自らの生活に活かすことができる。	生活DP9	10
	目標④自ら言葉を大切にし、読み書き、音声の表現が的確にできる。	生活DP5	40
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。 生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	文学の魅力　金子みすゞの生涯（1）	各自、これまでの文学経験を語れるように準備しておく。
	2	文学の魅力　金子みすゞの生涯（2）	金子みすゞの詩を暗唱する。
	3	文学の魅力　金子みすゞの生涯（3）	作品をたどりテーマや工夫を知る。
	4	金子みすゞの作品の理解を深めよう。	自発的に作品を読み、興味関心を深める。
	5	金子みすゞと西條八十	韻律になれ、声に出して読もう。
	6	金子みすゞと北原白秋	韻律になれ、声に出して読もう。
	7	山川登美子について調べよう	グループごとに山川登美子について調べ、プレゼンテーションをする。
	8	山川登美子の歌を暗唱しよう	好きな歌を紹介し合おう。
	9	山川登美子の歌への理解を深めよう（1）	「恋衣」全体を通読し、自分と結びつけて感想をまとめる（1）
	10	短歌を詠み、互選しよう	共感できる歌、工夫されている歌について話し合おう。
	11	山川登美子の歌への理解を深めよう（2）	「恋衣」全体を通読し、自分と結びつけて感想をまとめる（2）
	12	山川登美子の歌への理解を深めよをう（3）	「恋衣」全体を通読し、自分と結びつけて感想をまとめる（3）
	13	山川登美子の歌への理解を深めよう（4）	「恋衣」全体を通読し、自分と結びつけて感想をまとめる（4）
	14	山川登美子の晩年の歌を知る	山川登美子を「明星」や故郷と結び付けて理解しよう
	15	学びの成果をまとめよう	文学から受けた印象をもとに表現を工夫しよう。

定期試験	全授業終了後、試験に代わってレポートを提出させる。
準備学習に必要な時間	テキストの下読みやプレゼンテーションの準備に毎時間３時間程度の事前事後学習が必要。
教科書	青空文庫「恋衣」（底本：「恋衣 名著復刻 詩歌文学館」日本近代文学館 1980（昭和55）

参考図書、教材、準備物等	参考図書：『新装版『金子みすゞ全集』Ⅰ～Ⅲ（ＪＵＲＡ出版局）、矢崎節夫『みんなを好きに金子みすゞ物語』（ＪＵＲＡ出版局2009）、逸見久美『恋衣全釈』（風間書房2008）、坂本正親編著『山川登美子全集』上下巻（文泉堂出版1994）など
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組みに関しては第１回のガイダンスで説明する。自主的に関連図書を通読することが望ましい。授業では臆せずに、感じた疑問や感想を発言するようにしてほしい。成績評価を含め、質問等がある場合は、オフィスアワーなどを利用して連絡すること。授業中の感想のまとめ、短歌や詩の創作、最終レポートはコメントとともに返却する。
評価の配点比率	目標①授業中の発表内容や感想のまとめ20％ 目標②作品の暗唱30％ 目標③短歌・詩の創作10％ 目標④授業中の発表技能と最終レポート40％
受講上の注意	時代は変わっても、人の心はそれほど大きくは変わらない。文学的な表現にふれて、言葉の美しさ、感覚の豊かさ、思考の深さを感じてみよう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 行動と心理　　授業コード：1120401　1320301

英文科目名称： Behavioral Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前期	２年次	２単位	選択	
担当教員				
中尾　繁史				
生活科学学科生活デザイン専攻・生活情報専攻　教養科目		講義		ナンバリング：10B502
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は、人の行動とその心理を理解することである。 人が行動するとき、そこには何らかの理由がある。その理由を考えるため、「心身の発達」「認知(知覚・記憶・学習・思考)」「動機づけ(学習意欲)」「その人らしさ(性格・知能)」「対人関係」「心の病気」について学ぶ。また、心理テストを実施し、自分を知るとともにレポート作成を通じて自己を客観視する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①心理学の諸分野における基本的事項について理解する。	生活DP3	40
	目標②様々な問題について、心理学的解釈のもとに問題解決のための論理的思考ができる。	生活DP4	20
	目標③生活上の課題について、心理学がどのように応用できるか述べられる。	生活DP5	20
	目標④様々な問題について、心理学的解釈を通して問題の所在を理解する。	生活DP2	10
	目標⑤人間の思考プロセスについて理解し、社会や文化の多様性について省察できる。	生活DP9	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。 生活DP3：人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	1章　心理学とは	授業の進め方、取組み方・成績評価について説明する。
	2	2章　胎児期・乳幼児期の心理	
	3	3章　児童期・青年期の心理	心理テスト実施①
	4	4章　成人期・老年期の心理	
	5	5章　感覚・知覚	心理テスト実施②
	6	6章　学習と記憶	
	7	7章　思考と言語	
	8	中間試験と中間まとめ	1章～７章までの中間試験を実施する。
	9	8章　動機づけと学習意欲	心理テスト実施③
	10	9章　性格	
	11	10章　知能	心理テスト実施④
	12	11章　対人認知	
	13	12章　社会的影響	心理テスト実施⑤
	14	13章　ストレスと心の病気	
	15	14章　カウンセリングと心理療法	

定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。
準備学習に必要な時間	復習：講義毎に、2時間程度の事後学習として講義内容を復習すること。 予習：次回の講義内容に関連する新聞記事等を参照し、自分が興味を持ったテーマについて心理学的解釈を行うこと(1時間程度)。

教科書	使用しない。授業時に資料を配布する。
参考図書、教材、準備物等	参考図書については講義中に紹介する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	疑問点は講義中に質問することが望ましい。 計5回の心理テストのレポートにはコメントを付して返却する。
評価の配点比率	目標①心理テストのレポート10%、中間試験20%、期末試験10% 目標②心理テストのレポート10%、期末試験10% 目標③心理テストのレポート10%、期末試験10% 目標④心理テストのレポート10% 目標⑤心理テストのレポート10%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 音楽の世界　　授業コード：1120501　1320501

英文科目名称： World of Music

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期または後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
大久保　功治			
生活科学学科生活デザイン専攻・生活情報専攻　教養科目		講義	ナンバリング：10B506
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、世界の様々な音楽文化活動に触れることにより、受講生の音楽的教養の向上をめざすと同時に、文化人としての心を育むことにある。 我々の周辺を見ると、ＢＧＭに始まりコンサートホールでの音楽に至るまで、さまざまな種類の音楽が溢れている。授業ではこれらの音楽諸作品の構造及び背景について立体的なアプローチを行いながら、さまざまな音楽の豊かな表現に触れてゆく。まず、ヨーロッパで発生したいわゆる西洋音楽の基本的な構造（西洋音楽の三つの要素である旋律、和音、リズムを中心に）を主軸に於きながら、西洋音楽との基本的な構造について比較、対照を行った上で、それらの音楽作品の魅力を探ってゆく。今日楽しまれている音楽作品（ジャズ、ポピュラー、日本の伝統音楽、その他の民俗音楽、その他の商業音楽）を鑑賞する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①国家や民族によって異なった独自の音楽文化が存在することを理解する。	生活DP9	10
	目標②音楽的教養を深化させ、文化的教養や視野を広める。	生活DP1	20
	目標③音楽の基本的理論を学習し理解する。	生活DP3	20
	目標④日本音楽の音楽的な特徴を理解し、楽しく鑑賞することが出来る。	生活DP1	30
	目標⑤音楽文化がコミュニケーションの重要な役割を果たしていることを理解する。	生活DP6	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。 生活DP3：人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	音とイメージの世界（映画やBGMに使用される音楽のイメージについて）	
	2	旋律と音階について（音階の構造について）	関連する音楽関係の書籍を学習すること（中学・高校の音楽教科書など）
	3	音楽と宗教（音楽と宗教のかかわりについて）	関連する音楽関係の書籍を学習すること
	4	民族の音階と旋律（民族による音階の特徴について）	関連する音楽関係の書籍を学習すること
	5	音楽の構造を学ぶ①ハーモニーについて	関連する音楽関係の書籍を学習すること（中学・高校の音楽教科書など）
	6	音楽の構造を学ぶ②リズムについて	関連する音楽関係の書籍を学習すること（中学・高校の音楽教科書など）
	7	音楽の構造を学ぶ③ポップするリズム	関連する音楽関係の書籍を学習すること
	8	日本の音楽について（日本音楽の魅力を探る）	関連する音楽関係の書籍を学習すること（中学・高校の音楽教科書など）
	9	音楽の構造を学ぶ④楽曲の形式について（歌曲の形式について）	関連する音楽関係の書籍を学習すること（中学・高校の音楽教科書など）
	10	音楽の構造を学ぶ④楽曲の形式について（器楽曲の形式について）	関連する音楽関係の書籍を学習すること
	11	音楽鑑賞①フルート音楽を聴く	Ｅ館４階ホールにて実施する
	12	楽器について（楽器の種類と構造について）	関連する音楽関係の書籍を学習すること
	13	VOICE（声の魅力と発声法について）	関連する音楽関係の書籍を学習すること
	14	音楽鑑賞②ディズニー映画：ファンタジー鑑賞	Ｅ館４階ホールにて実施する
	15	音楽鑑賞③バレエ音楽の鑑賞：クルミ割り人形DVD	Ｅ館４階ホールにて実施する

定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。
準備学習に必要な時間	毎時間3時間程度の事前事後学習が必要。
教科書	使用しない。授業時に資料を配布する。
参考図書、教材、準備物等	参考資料：中学・高校の音楽教科書を準備しておくこと。その他、必要に応じて資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	試験は、評価後にフィードバックする。
評価の配点比率	目標①期末定期試験10%、目標②～④期末定期試験70%、目標⑤期末定期試験20%
受講上の注意	授業では音楽鑑賞に多くの時間をさく。静粛に音楽鑑賞することが重要である。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： スポーツ実技(生活科学学科)　　授業コード：1120601　1320601　1320602　1620501

英文科目名称： Sports Practical Skill

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	１単位	選択
担当教員			
出村　友寛			
生活科学学科　教養科目		実技	ナンバリング：10C101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、体力とスポーツの知識、技術、マナーを身につけることである。 そのために、各種スポーツを実践する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標① 積極的に各種スポーツに参加し、他者と共に体力の維持、増進に取り組むことができる。	生活DP6	40
	目標② 各種スポーツの技術を理解し、身につけることができる。	生活DP1	20
	目標③ 各種スポーツの知識を理解し、身につけることができる。	生活DP1	20
	目標④ スポーツの多様性を理解し、生涯にわたる関わり方を考えることができる。	生活DP9	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション・キンボール①基本技術（キャッチ、パス）	
	2	キンボール②基本技術（セット、ヒット）	
	3	キンボール③ゲーム	
	4	トランポリン①ストレート･バウンズ	膝保護のため、長パンを推奨
	5	トランポリン②ストレート･バウンズの発展技	
	6	トランポリン③ニー・ドロップ･バウンズ	
	7	トランポリン④シート･ドロップ･バウンズ	
	8	トランポリン⑤連続技	
	9	トランポリン⑥実技試験の構成と練習	
	10	トランポリン⑦実技試験とまとめ	実技試験①
	11	バレーボール①基本技術（パス、トス、サーブ）主に1対1	
	12	バレーボール②基本技術（スパイク）主に1対1	
	13	バレーボール③基本技術および連携プレー	
	14	バレーボール④実技試験	
	15	バレーボール⑤ゲーム	実技試験②
	16	バスケットボール①基本技術（ボールハンドリング、ドリブル）	
	17	バスケットボール②基本技術（パス）	
	18	バスケットボール③基本技術（フリースロー）	
	19	バスケットボール④基本技術（レイアップシュート）	
	20	バスケットボール⑤ゲーム	実技試験③
	21	フットサル①基本技術（パス、ドリブル）	レポート課題の提示

	22	フットサル②基本技術（シュート）	
	23	フットサル③ゲーム	
	24		後期前半にあたる開講23回で授業は終了
定期試験	試験に代わって、全講義終了後にレポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	体調を整えて授業に臨んでください。		
教科書	使用しない。		
参考図書、教材、準備物等	資　料：資料は掲示・板書によって提示する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	体調を整え、実技ができる状態で出席すること。運動に適した服装、靴が必要です。 レポートは、評価後にフィードバックする。 成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メール（tomodemu@jindai.ac.jp）で連絡してください。		
評価の配点比率	目標①、②実技試験60% 目標③、④レポート40%		
受講上の注意	運動禁忌等がある場合は、事前に申し出てください。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： データサイエンス入門　　授業コード： 1120701　1320901　1620601

英文科目名称： Introduction to Data Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
諏訪　いずみ			
教養科目(生活科学学科)		講義	ナンバリング：10D503
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、情報を整理・分析するための知識・技術を身に着けることを目的とする。 基礎的な数学と統計処理についての講義と演習を通して、データの処理・分析に必要な基礎知識と技術を学ぶ。表計算ソフトを使用した演習を行うことで、基礎数学・統計処理に関して立体的・実用的な知識・技術を身につける。これらを通して、データに基づいて考える力を身に着ける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①データ分析で必要となる基本統計量の意味や相関・回帰分析・検定の考え方を理解して利用できる。	生活DP1	33
	目標②数学的知識を元に、データとして現れる事象の数学的・物理的背景について説明する意欲がある。	生活DP8	27
	目標③データに基づいた論理的な判定・予想ができる。	生活DP4	30
	目標④表計算ソフトを用いて基本的なデータ処理ができる。	生活DP5	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。（精進）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、Excel 関数入門(1) 関数の基礎	以下毎回、Excel課題と記述課題の提出あり。 以下毎回、Moodle上の次回のプリントを読んでおく。
	2	Excel関数入門(2) 関数・数式利用の基本、参照グラフの利用	
	3	数学関数(1) 簡単なデータ処理	
	4	数学関数(2) 二次関数とグラフ	
	5	数学関数(3) 二次方程式を解く	
	6	数学関数(4) 指数関数と対数関数	
	7	数学関数(5) 三角関数の基礎	第１回特別課題出題
	8	数学関数(6) 三角関数の応用（媒介変数の利用による図形）	
	9	表計算と統計(1) 基本的な統計関数	
	10	表計算と統計(2) 分布の状態を知る：分散、標準偏差	
	11	表計算と統計(3) 正規分布	第１回特別課題提出
	12	表計算と統計(4) ２つの変量の関係：相関係数	第２回特別課題出題
	13	表計算と統計(5) 回帰分析	
	14	表計算と統計(6) 検定	
	15	データ分析アドインの利用と統計処理のまとめ	第２回特別課題提出
定期試験	定期試験に代わって、全講義終了後に期末課題を提出。		
準備学習に必要な時間	毎回、２時間程度の事前・事後学習が必要。全講義プリントをMoodle上に公開するので、目を通して授業に臨む。不明な用語等は、参考図書、高校教科書等で確認しておくことが望ましい。返却した課題は、理解が不十分だった点を次回以降の授業のために復習する。特別課題は、事後学習として行う。		

教科書	使用しない。毎回，授業内容・課題に関するプリントを配布する．配布したプリントは、すべて授業に持参すること
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『Excel関数全辞典』(技術評論社編集部　技術評論社　2016)等の関数辞典
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方、成績評価の詳細に関しては、第１回のガイダンスで説明する。Excel課題・記述課題は基本的に講義時間内で作成・提出とする。特別課題は事後学習として行う。記述課題は添削して返却する。課題で指定の項目が達成されていない場合は再提出を指示する。成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メール（suwa@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。
評価の配点比率	目標①授業内課題17%、2回の特別課題8%、期末課題8% 目標②授業内課題15%、2回の特別課題6%、期末課題6% 目標③授業内課題22%、2回の特別課題4%、期末課題4% 目標④授業内課題6%、2回の特別課題2%、期末課題2%
受講上の注意	情報を整理・分析するための知識・技術を身に着けることを目標とします。これらは情報を見極め、的確な判断を下す基礎となります。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 生活経営学　　授業コード： 1121101

英文科目名称： Family Resource Manageement

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
澤崎　敏文			
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目（学科共通科目）		講義	ナンバリング：11A501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、自立した消費者として、安心・安全で豊かな消費生活を営むことができる知識と技能を身につけることである。 私たちは、現在、自分以外の人が作ったモノ、あるいは自分以外の人が提供してくれるサービスを消費することなくして生活することはできない。よりよい消費は生活の質を確保する一つの手段である。しかしながら消費に関する問題は後をたたない。現代の消費の問題を把握するとともに、具体的な消費の問題を考えることを通じて消費のトラブルを未然に防止する方法を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け％
	目標①　私たちの生活の中での消費の意義や重要性を主体的に考えることができる。	生活DP8	10
	目標②　消費者として商品やサービスの選択と購入を誤りなく計画的に実行することができる。	生活DP5	30
	目標③　現実の消費者問題を把握し，その問題の起きる背景を科学的に理解できる。	生活DP4	30
	目標④　問題の当事者になった際に，他に対して問題の内容を説明でき，制度的な手続きも含め，有効な対応策をとることができる。	生活DP2	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。（精進）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、生活経営についての概論	社会生活における「経営」の考え方について議論します。
	2	ファイナンシャルプランニング１ （目標） ・金融の仕組み、預金と投資の違い等に関して基礎的な知識を習得します。 ・会社の仕組み、株式の仕組みなどについて基礎的な知識を習得します。 （内容） ・銀行の仕組み、会社・株式の仕組みについて ・日経平均などの指標について ・投資シミュレーションをしてみよう！	事前学習：日経新聞から事前に日経平均株価について調べておくこと 事後学習：株式のポートフォリオシミュレーションを提出すること（Moodle上）
	3	ファイナンシャルプランニング２ ・会社の仕組み、株式の仕組みなどについて基礎的な知識を習得します。 ・上場企業、非上場企業の違い、株式市場などについて基礎的知識を習得します。 ・投資信託、分散投資などの基礎的知識について。	・会社・株式の仕組みについて、上場企業・非上場企業のメリット、デメリット ・日経平均などの指標について、投資信託と分散投資の意味 ・日経２２５の会社から自分のポートフォリオを組み立て 事後課題：実際の日経２２５企業からポートフォリオを作成します。
	4	ファイナンシャルプランニング３ ・投資信託、分散投資などの基礎的知識について知る。 ・前回作成したポートフォリオをグループごとに評価、発表してみます。	事前学習：前回作成したポートフォリオについて、発表できる資料等を準備すること。
	5	ファイナンシャルプランニング４ ・投資信託と分散投資について、実際の商品などを見比べてレビューします。	事前学習：証券会社のホームページ等で投資信託について事前に調査、理解してくること。

	6	契約概論 ・契約の基本的な考え方 ・債権と債務の関係 ・民法の基本	事前学習：民法典（eGov：政府公式法律データベース）の構成について事前に調査、理解してくること。
	7	契約概論２ ・民法に関する知識の復習（総則、債権） ・民法に関する知識（物権、家族法）	事前学習：民法典（eGov：政府公式法律データベース）の構成について事前に調査、理解してくること。
	8	契約と消費生活 ・消費生活に必要な知識 ・クーリングオフ制度 ・製造物責任について（PL法と消費者保護） ・インターネット上での契約、スマホなどのアプリでの契約	演習：LINEなどのアプリの利用規約（契約書）を読んでみよう！ 事前学習：SNS等無料で利用しているアプリ等の法律関係がどうなっているか調査、理解してくること。
	9	契約と消費生活２ ・ローンについて ・クレジットカードの仕組みと注意点 ・電子マネーの仕組み	事前課題：福井銀行、福邦銀行のホームページからローン等に関する内容を確認、金利等について調査、理解してくること。
	10	金融関連、民法、消費生活に関するまとめのテスト	これまで学習した内容（１～９週）についての確認テストを実施します（選択式、記述式ともにMoodle上で行います。）
	11	生活設計について考える１ ・１０週目のまとめテストに関するフィードバック（振り返り） ・保険に関する基本的なお話	事前学習：保険に関する状況調査を実施してくること（Moodle上）
	12	生活設計について考える２ ・第３週目に作成した株のポートフォリオを最新にして、分散投資のメリット、デメリット等についてグループで議論を行います。 ・最終課題となるライフプランプロジェクトの条件説明	【グループディスカッション】 グループに分かれて、ライフサイクルに合わせた生活設計について、プランを立てます。 次週までに、生活設計に関するレポートを提出、それらをもとに次週議論を行います。
	13	生活設計について考える３ 全国銀行協会のシミュレーターを利用して、グループごとに、自分たちが考える最適なライフプランを作成します。そのための準備を実施。	【グループディスカッション】 グループに分かれて、それぞれに議論した視点で、生活設計を行います。それらを、発表できる形でまとめてもらいます。次週までに、グループごとに発表形式（パワーポイントファイル）にまとめて、提出すること。
	14	生活設計について考える４ 全国銀行協会のシミュレーターを利用して、グループごとに、自分たちが考える最適なライフプランを作成します。そのための準備を実施。	【グループディスカッション】 発表のための根拠資料等の調査、発表資料作成を行います。
	15	最終プレゼンテーション（グループ演習） 生活経営のまとめ	これまで学んだ知識の再確認 最終レポートについての準備を行います。

定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、レポートを提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、３時間程度の事前・事後学習が必要。毎回の授業主題に関係する参考図書や資料は事前に授業中に示すので，授業を受ける前に参照してくることが有用である。また授業中に必要な資料を配付するので，当該授業のノートを事後に整理する際にあわせて整理していくことが授業内容の習得のために重要である。
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	資　料：Moodle等を利用して必要な教材、資料は配布する予定。 参考図書：授業の中で紹介する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	本講義は，自分の生活に密着した事象を題材に講義を行うものなので、受講生には、新聞を読んだり、消費生活センターを訪ねたりするなど、積極的に自己学習を行うことを期待する。レポート等は、評価後にフィードバックする。
評価の配点比率	目標①　ミニテストや課題提出　10% 目標②　ミニテストや課題提出　20%，最終レポート　10% 目標③　ミニテストや課題提出　20%，最終レポート　10% 目標④　ミニテストや課題提出　20%，最終レポート　10%
受講上の注意	毎回、授業最初にミニテストを実施します。これらミニテストの実施も全て評価となります。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	☑課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　☑発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　☑双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　☑自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 保育学　　授業コード： 1121201

英文科目名称： Childcare Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
後期	２年次	２単位	選択	
担当教員				
岡田　和美				
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目（学科共通科目）		講義		ナンバリング：11A502
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は、社会や家庭生活における保育を学ぶことである。 家庭科の教員や保育士といった専門職をめざすのではなく、一般の学生を対象にしている。 自分自身が育ってきた過程や子ども時代を振り返りながら、子どもの発達段階、子育ての方法や環境、社会のシステムなど保育に関わる基本的な知識を身につけ、子どもが育つこと、子どもを育てること、自分が育つこと等を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①０歳から６歳の子どもの発達を学びながら、 発達段階に合った子どもの接し方や育て方を知り、実践出来るようになる。	生活DP3	15
	目標②子どもに語りかけることや、年齢に適したふれあい遊びや絵本等を知り、自分なりに実践出来るようになる。 （古来の伝統行事や歌、手遊び、手作りおもちゃ等を含む。）	生活DP9	20
	目標③人の話を聞く、自分なりに考える、自分の考えを話す等、他者とのコミュニケーション能力を身につける。	生活DP6	35
	目標④子どもの発達段階に合った安全な環境や、代表的な病気、怪我等を知り、将来母親になった時に、安心して子育てが出来るようになる。	生活DP5	15
	目標⑤少子高齢化、情報の氾濫など、子どもを取り巻く社会の中で子育てをする親としての態度を身につける。	生活DP7	15
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP3：人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。 生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。（和敬） 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	保育学を学ぶことの意義と授業内容について グループワーク（妊娠、出産、子育てについて）オリエンテーション（保育学の内容と展開及び学ぶことの意義について）	自主学習：非認知能力について調べたり、自分の考えをまとめたりする。
	2	乳幼児保育、教育の現状と課題 グループワーク(非認知能力について) 質の高い保育、認定こども園・幼稚園・保育園の違い等	自主学習：自分の乳幼児期について、母子手帳で調べたり、親に聞いたりして、自分の考えをまとめる。
	3	自分の乳幼児期を振りかえる 母子手帳って何？どう記入してどう生かすの？ 歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技	自主学習：大好きな絵本とその理由をまとめる。
	4	子どもと絵本 グループワーク(自分が選んだ絵本の読み聞かせごっこ)	演習：絵本の読み聞かせ 自主学習：我が子がどんな子に育ってほしいかについて、自分の考えをまとめる。
	5	こどもの心身の発達と遊び（0～5か月ころ） 歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなど 実技演習：抱っこの仕方、おむつ交換の仕方	新生児人形を使用して学ぶ。 自主学習：初めて作る離乳食、どんなメニューにしますか。
	6	子どもの心身の発達と遊び（6～11か月ころ） 歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技演習：ミルクの作り方と与え方	新生児人形や本物の哺乳瓶、ミルク缶を使用して学ぶ(測り方、作り方、飲ませ方) 自主学習：かみつきやひっかきについて調べたり自分の考えをまとめたりする。
	7	子どもの心身の発達と遊び（1歳ころ）歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実	自主学習：歩き始めた時のことをお家の人にインタビュー

		技	
	8	子どもの心身の発達と遊び（2歳ころ）歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技、イヤイヤ期の対応の仕方について	自主学習：初めて集団生活に入った時期とその時の様子について調べたり自分の考えをまとめたりする。
	9	子どもの心身の発達と遊び（3歳ころ）歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技	自主学習：第一反抗期について調べたり自分の考えをまとめたりする。
	10	子どもの心身の発達と遊び（4歳ころ）歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技	自主学習：好きな折り紙あそびを仕上げる。
	11	子どもの心身の発達と遊び（5歳ころ）歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技	自主学習：授業で作ったおもちゃを仕上げる。
	12	子どもの心身の発達と遊び（6歳ころ）「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技	自主学習：小学校入学前後の思い出ついて調べたり自分の考えをまとめたりする。
	13	子育て環境について考える(こども園等や小学校、地域社会とのよりよい連携及び障害児・児童虐待・子育て支援制度等について)	自主学習：乳幼児期に自分が経験した病気やけがについて調べる。
	14	子どもの代表的な病気とその対応を知る。	自主学習：ノートまとめ
	15	子どもの発達段階に応じた代表的な怪我とその対応を学ぶ。	自主学習：ノートまとめ
定期試験	課題についてのレポートと授業内容や自主学習をまとめたノートの提出。		
準備学習に必要な時間	毎回、 3時間程度の事前・事後学習が必要。		
教科書	河原紀子 「0歳～6歳子どもの発達と保育の本　第2版」　（学研）		
参考図書、教材、準備物等	必要に応じてプリントを配布する。B5版ノート。毎回、糊とハサミを持参する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の内容をまとめるためのノート(Ｂ５版)を各自購入して準備する。(配布されたプリント、課題、授業で学んだこと等をまとめる) 定期試験終了後、いったんノートを提出するが、フィードバックしたノートは、将来に役立たせる。		
評価の配点比率	最終レポート：35%（目標①5%、目標②5%、目標③15%、目標④5%、目標⑤5%） 課題、ノート作成：35%（目標①5%、目標②5%、目標③15%、目標④5%、目標⑤5%） 授業内小課題等：30%（目標①5%、目標②10%、目標③5%、目標④5%、目標⑤5%）		
受講上の注意	子どもの発達や子育てのポイント等、教養としての「保育」を学ぶことで、将来少しでも安心して子どもを産み育てることができるようになると同時に、素敵な社会人、親、保護者になる考え方や態度が身につくように発信していく。		
教員の実務経験	保育園における全年齢の担任経験や、保育士・主任保育士・園長等の経験及び、行政における育児相談・地域への子育て支援事業の発信・啓蒙等の経験がある。それらの経験を活かして、子育ての楽しさ、大変さ、壁にぶつかった時の乗り越え方など、具体的な事例や演習を通して、共に考え、学び合う。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 色彩学Ⅱ　　授業コード： 1121301

英文科目名称： Colors ScienceⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前期	２年次	２単位	選択	
担当教員				
橋本　洋子				
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		講義		ナンバリング：11B107
添付ファイル				

授業の概要	色彩の基本を身につけることを本授業の目的とする。 1年次での色彩学Ⅰに続き、色彩の基礎をさらに広く学び、それを基にビジュアル、プロダクト、ファッション、インテリア・エクステリアの各デザイン分野における色彩の知識を身につける。 また、11月に実施される「色彩検定２級」に合格できるよう過去問題にも取り組む。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①デザインとして必要な色彩に関する知識を有している。	ＤＰ１	25
	目標②色彩に関する知識を各分野別に活用できる。	ＤＰ５	30
	目標③色の三属性を概ね理解できる。	ＤＰ２	25
	目標④配色カードや色紙を用いて、目的に合った配色を作ることができる。	ＤＰ７	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：生活を豊かにするための専門的な知識を総合的に有している。 ＤＰ２：デザインの基礎的な技能（描写、造形、配色、構成力等）を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：適切なデザイン手法を用いて、独創的な表現・運営ができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：社会における自分の役割を自覚し、感謝の心を持って主体的に行動することができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	●オリエンテーション（色彩学Ⅱについて） ●色のユニバーサルデザイン（振り返りを含む）	事前学習：色彩検定テキスト２級編　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：授業内容を復習し、ノートのまとめを見直す
	2	●光と色　照明 ・前回の授業内容の小テスト実施Moodle（10分） ・模範解答と解説	事前学習：色彩検定テキスト２級編　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：小テストで間違えた箇所をテキストで再確認し、ノートのまとめを見直す
	3	●色の表示　マンセル表色系 色の表示・色立体 ・前回の授業内容の小テスト実施Moodle（10分） ・模範解答と解説	事前学習：色彩検定テキスト２級編　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：小テストで間違えた箇所をテキストで再確認する
	4	●色彩心理　視覚効果・心理効果 ・前回の授業内容の小テスト実施Moodle（10分） ・模範解答と解説	事前学習：色彩検定テキスト２級編　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：小テストで間違えた箇所をテキストで再確認する
	5	●色彩調和　色彩調和論 自然から（配色カードで演習） ・前回の授業内容の小テスト実施Moodle（10分） ・模範解答と解説	事前学習：色彩検定テキスト２級編　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：小テストで間違えた箇所をテキストで再確認する
	6	●色彩調和　配色技法（配色カードで演習） ・前回の授業内容の小テスト実施Moodle（10分） ・模範解答と解説	事前学習：色彩検定テキスト２級編　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：小テストで間違えた箇所をテキストで再確認する

	7	●色彩調和　配色技法（配色カードで演習） ・前回の授業内容の小テスト実施Moodle（10分） ・模範解答と解説	事前学習：色彩検定テキスト２級編　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：イメージ配色を仕上げる
	8	●配色イメージ　演習（配色カード） ・前回の授業内容の小テスト実施Moodle（10分） ・模範解答と解説	事前学習：色彩検定テキスト２級編　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：小テストで間違えた箇所をテキストで再確認する
	9	●ビジュアル　ビジュアルデザインの色彩 ・前回の授業内容の小テスト実施Moodle（10分） ・模範解答と解説	事前学習：色彩検定テキスト２級編　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：小テストで間違えた箇所をテキストで再確認する
	10	●ビジュアル　メディアデザインの色彩 ・前回の授業内容の小テスト実施Moodle（10分） ・模範解答と解説	事前学習：色彩検定テキスト２級編　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：小テストで間違えた箇所をテキストで再確認する
	11	●ファッション　色彩と配色 ・前回の授業内容の小テスト実施Moodle（10分） ・模範解答と解説	事前学習：色彩検定テキスト２級編　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：小テストで間違えた箇所をテキストで再確認する
	12	●インテリア　住空間のカラー ・前回の授業内容の小テスト実施Moodle（10分） ・模範解答と解説	事前学習：色彩検定テキスト２級編　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：小テストで間違えた箇所をテキストで再確認する
	13	●インテリア　スタイルと色彩 ・前回の授業内容の小テスト実施Moodle（10分） ・模範解答と解説	事前学習：色彩検定テキスト２級編　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：小テストで間違えた箇所をテキストで再確認する
	14	●色彩検定テキスト２級編まとめ・重要ポイント ・前回の授業内容の小テスト実施Moodle（10分） ・模範解答と解説 ●過去問題を来週までの宿題とする	事前学習：色彩検定テキスト２級編　全般とノートのまとめを見返す 事後学習：振り返りで不安な箇所をテキスト・ノートで再確認し、次週の授業での質問をまとめる
	15	●色彩学Ⅱのまとめ ・色彩検定過去問について ・模範解答と解説	事前学習：まとめテストで間違えた箇所の質問内容を整理する 事後学習：テキスト・ノートを見直し、11月の色彩検定２級に備える

定期試験	試験期間中に筆記試験を実施しない。 授業内で小テスト・まとめテストを行う。
準備学習に必要な時間	毎回60分程度　該当する授業のテキストを読みノートにまとめる
教科書	色彩検定公式テキスト２級編　（公益社団法人　色彩検定協会）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：2011～2020色彩検定２級過去問題集 「UC級 色のユニバーサルデザイン 」（公益社団法人 色彩検定協会 監修）　株式会社グラフィック社 教材：　必要に応じてプリントを配布する 準備物：　新配色カード199ｂ、ベーシックカラー140、カッター(替え刃)、スティックのり、定規など
課題（試験・レポート等）のフィードバック	諸状況により内容が前後することが有る 課題は、評価（A・B・C）を付け、気になる点や誤りにはコメントを添えて返却する
評価の配点比率	授業内で行う小テスト20%　授業への取り組み姿勢30%　提出物50% 小テスト・課題には下記の目標を含むので、全ての課題提出が望ましい 目標①目標①デザインとして必要な色彩に関する知識を有しているか 25%。 目標②色彩に関する知識を各分野別に活用できるか 30% 目標③色の三属性を概ね理解できているか 25%。 目標④配色カードや色紙を用いて、目的に合った配色を作ることができるか 20%
受講上の注意	色を好みだけで選ぶのではなく、合理的に、かつ、効果的に選択できるように、日々の生活の中で気になる広告や印刷物を積極的に探しましょう。
教員の実務経験	企業内デザイナーとして、製品・カタログ・販促品の企画デザインを行い、さらにフリーのデザイナーとして色彩指導にも携わる。 また、大学、短期大学、専門学校、デザイン講座等で、専任講師・非常勤講師を務める。 それらの経験を活かし、講義に演習等を交えながら、生活の中で使える色彩学を目指した授業を行なっている。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 生活情報処理　　授業コード： 1121401

英文科目名称： Processing of Human Life information

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
三輪　優			
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		演習	ナンバリング：11F502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、モノづくりにおいて重要なツールである3DCG表現の基礎を身につけることである。 そのために、数ある3DCG作成ツールの一つであるBlender（オープンソース）を使って、初歩的な造形作業を繰り返し演習し、最終的にオリジナルデザインを3DCGで表現できるよう学習します。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①造形の構成に応じて、効率的なモデリングの段取りができる。		ＤＰ２	30
	目標②三面図（下絵）から立体がモデリングできる。		ＤＰ２	30
	目標③オリジナル立体デザインを意図した構図でフォトリアル画像で表現できる。		ＤＰ５	30
	目標④オリジナル立体デザインをアニメーションで表現できる。		ＤＰ５	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：デザインの基礎的な技能（描写、造形、配色、構成力等）を身につけている。		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：適切なデザイン手法を用いて、独創的な表現・運営ができる。		
	【主体性・多様性・協働性】			

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	3DCGとは	3DCG事例の紹介
	2	Blenderの基本操作	
	3	平面を折り曲げて立体造形する	デジタルコンテンツを配布するので自主学習
	4	平面を押し出して立体造形する	デジタルコンテンツを配布するので自主学習
	5	演習(1) ： ティーセットをつくる	第３回と第４回のデジタルコンテンツを参考にオリジナル作品をつくるので、構想をねっておく
	6	光源・カメラ・材質設定	演習(1)の講評 デジタルコンテンツを配布するので自主学習
	7	演習(2) ： シーンを表現する	携帯デバイス等で撮影した画像をグループで共有しオリジナルシーンを表現する
	8	立方体から粘土細工の様に立体造形する	演習(2)の講評 デジタルコンテンツを配布するので自主学習
	9	演習(3) ： 立体の模写	第８回で配布する下図を元にモデリングする
	10	部分から全体へ立体造形する	演習(3)の講評 デジタルコンテンツを配布するので自主学習
	11	演習(4) ： キャラクターを立体化する	自ら下図を準備して、段取りをたててモデリングする
	12	アニメーション設定	演習(4)の講評 デジタルコンテンツを配布するので自主学習
	13	演習(5) ： アニメーションのためのモデリング	第１２回のデジタルコンテンツを参考にオリジナル作品をモデリングする
	14	演習(6) ： アニメーションで表現する	第１２回のデジタルコンテンツを参考にアニメーションを表現する
	15	作品の発表と相互評価	
定期試験	試験期間中に試験を実施しない。		
準備学習に必要な時間	演習の前に、前回授業で配布されたデジタルコンテンツを必ず予習しておく。（３０分程度）		
教科書	使用しない。		

参考図書、教材、準備物等	教　材：Blender（オープンソース3DCGソフトウェア）、演習毎の専用デジタルコンテンツを配布
課題（試験・レポート等）のフィードバック	3 DCGツールの習得は難しくありません。しかし、製品ごとに造形方法が異なるため、効率的に作成するための段取りが簡単ではありません。演習で学んだことを自ら応用できるよう繰り返し復習してください。 演習データは次回授業で講評します。
評価の配点比率	目標①30%　目標②30%　目標③30%　目標④10%
受講上の注意	新鮮で自由な発想を表現する一つのツールとして、3DCGを様々な発信の場で積極的に利用しましょう。
教員の実務経験	自動車、家電、工作機械、住宅設備などの製品デザインを担当。 モノづくりの面白さが伝わるよう、現場での3DCGの活用例など挙げながら講義を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　■反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： グラフィックデザインⅡ　　授業コード： 1121501

英文科目名称： Graphic DesignⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
西畑　敏秀			
生活科学学科生活デザイン専攻 科目　専門科目		演習	ナンバリング：11D501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、課題をとおして発想・表現要素・表現技術を学ぶことである。ビジュアル・コミュニケーションのためのグラフィックデザインについて「ポスター」や「広告」などの広報ツールや「マーク・ロゴタイプ」や「ピクトグラム」などの演習を行う。 なお、本科目は連続２コマの授業を１５週実施する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①実際に社会で活用されている案件の課題を実践することで現実的なデザインに対応できる応用力を習得できる。	ＤＰ１	40
	目標②他のアプリケーションソフトと連動した作品制作や編集に活用できる。	ＤＰ５	30
	目標③今後さまざまな書類、印刷物、提案書を作成できる基本的なデジタルデータ処理能力習得できる。	ＤＰ３	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：生活を豊かにするための専門的な知識を総合的に有している。 ＤＰ３：多様な素材を扱う技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：適切なデザイン手法を用いて、独創的な表現・運営ができる。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	はじめに／オリエンテーション	
	2	グラフィックデザインの役割	
	3	演習課題／マーク・ロゴタイプ／講義・スケッチ制作（１）	依頼者の情報を把握する
	4	演習課題／マーク・ロゴタイプ／講義・スケッチ制作（１-2）	キーワードの調査、検索
	5	演習課題／マーク・ロゴタイプ／mac制作（2）	デザインの方向性、企画意図の整理
	6	演習課題／マーク・ロゴタイプ／mac制作（2-2）	デジタルオペレーション
	7	演習課題／マーク・ロゴタイプ／提出・講評（3）	独自性はあるか、造形美が感じられるか、
	8	演習課題／マーク・ロゴタイプ／提出・講評（3-2）	依頼主の条件を満たしているか
	9	演習課題／ピクトグラム（１）	目的とアイデアの検証
	10	演習課題／ピクトグラム（１-2）	アイデアスケッチ制作
	11	演習課題／ピクトグラム／mac制作（2）	デザインの方向性、企画意図の整理
	12	演習課題／ピクトグラム／mac制作（2-2）	デジタルオペレーション
	13	演習課題／ピクトグラム／提出・講評（3）	独自性はあるか、造形美が感じられるか、
	14	演習課題／ピクトグラム／提出・講評（3-2）	テーマの条件を満たしているか
	15	演習課題／アートディレクションとコピー(1)	まず企画ありき～表現のための企画
	16	演習課題／アートディレクションとコピー(1-2)	企画と連動したコピーライティング
	17	演習課題／写真とイラストレーション、文字(1)	テーマにそった写真の企画を考案すること
	18	演習課題／写真とイラストレーション、文字(1-2)	テーマにそったイラストイメージを考案すること
	19	演習課題／ポスター（１）	情報を効果的に伝える手段と技法

	20	演習課題／ポスター（１-2）	アイデアスケッチ
	21	演習課題／ポスター／mac制作（2）	限られた条件下での試作シュミレーション
	22	演習課題／ポスター／mac制作（2-２）	ビジュアルとコピーを効果的に構成・デザイン
	23	演習課題／ポスター／提出・講評（3）デザインコンクール出品	客観性、無意識状態でどう印象づけるか
	24	演習課題／ポスター／提出・講評（3-2）デザインコンクール出品	配色・タイポグラフィの検証、イメージは伝わるか
	25	演習課題／モノグラム（１）	単純さと美しさ～世界のピクトグラム
	26	演習課題／モノグラム（１-２）	アイデアスケッチ
	27	演習課題／モノグラム／mac制作（2）	書体が持つイメージの活用
	28	演習課題／モノグラム／mac制作（2-２）	デジタルオペレーション
	29	演習課題／モノグラム／提出・講評（3）	独自性はあるか、造形美が感じられるか、
	30	演習課題／モノグラム／提出・講評（3-２）	目指す印象を最終的にデザインできたか
定期試験	試験は実施しない		
準備学習に必要な時間	毎回30分程度、前回の操作や手順を復習して次回に備えておくこと		
教科書	教科書は使用しない。		
参考図書、教材、準備物等	なし		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業課題の講評、掲示、返却時に個別にアドバイス		
評価の配点比率	授業課題100％ 目標①40％　目標②30％　目標③30％		
受講上の注意			
教員の実務経験	広告会社制作部でグラフィックデザイナー４年、広告企画制作会社でアートディレクター４年、デザインプロダクションでデザインプロデューサー15年　県内企業を中心に、メディア広告・グラフィックデザインを核としたブランディングコミュニケーション、デザインマネジメントを手がける。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： グラフィックデザインⅢ　　授業コード： 1121601

英文科目名称： Graphic DesignⅢ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
西畑　敏秀			
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		演習	ナンバリング：11D504
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、ブランディングにおけるCI、VIの仕組みや関係を開発事例から学び、具体的に自分自身の課題として取り組むことで手段や展開方法を学ぶことである。ブランディングは企業のみならず、商品、地域社会、ショップ、各種サービス、学校、個人、イベントに至るまでさまざまな規模で展開されている。 なお、本科目は連続２コマの授業を15週実施する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連 学習成果番号	重み付け%
	目標①実際に社会で活用されている案件の課題を実践することで現実的なデザインに対応できる応用力を習得できる。	ＤＰ１	40
	目標②Webデザイン、演習Ⅱと連動してトータルに実践的な応用デザインを習得できる。	ＤＰ６	30
	目標③今後さまざまな書類、印刷物、提案書を作成できる基本的なデジタルデータ処理能力習得できる。	ＤＰ５	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：生活を豊かにするための専門的な知識を総合的に有している。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：適切なデザイン手法を用いて、独創的な表現・運営ができる。 ＤＰ６：制作意図や効果・影響についてわかりやすく伝えることができる。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	はじめに／オリエンテーション	
	2	ブランドイメージについて	
	3	開発事例検証（１）	無意識に知っている企業や商品について
	4	開発事例検証（１−２）	事例を書き出してキーワードを探る
	5	企画案チェック（１）	架空の企業（商店）像を想定しキーワードを設定する
	6	企画案チェック（１−２）	キーワードから具体的なデザインスケッチの検討
	7	演習・制作（１）基本デザインシステム	スケッチ10案
	8	演習・制作（１−２）基本デザインシステム	スケッチを元にデジタルオペレーション
	9	演習・制作（２）基本デザインシステム	キーワードが活かされたデザイン検討
	10	演習・制作（２−２）基本デザインシステム	独自性，造形美を検証しながら仕上げ
	11	演習・制作（３）基本デザインシステム	マーク、ロゴの組み合わせバリエーション検討
	12	演習・制作（３−２）基本デザインシステム	マーク、ロゴの組み合わせを確定する
	13	演習・制作（４）基本デザインシステム	カラーリング、タイプフェイスの組み合わせバリエーション検討
	14	演習・制作（４−２）基本デザインシステム	カラーリング、タイプフェイスの組み合わせを確定する
	15	演習・制作（１）応用デザインシステム	名刺、封筒、事務用品デザインのアイデアスケッチ
	16	演習・制作（１−２）応用デザインシステム	名刺、封筒、事務用品デザインのデジタルオペレーション
	17	演習・制作（２）応用デザインシステム	看板、屋外広告、店舗イメージデザインのアイデアスケッチ
	18	演習・制作（２−２）応用デザインシステム	看板、屋外広告、店舗イメージデザインのデジタルオペレーション
	19	演習・制作（３）応用デザインシステム	車両、ユニフォームデザインのアイデアスケッチ

	20	演習・制作（3-2）応用デザインシステム	車両、ユニフォームデザインのデジタルオペレーション
	21	演習・制作（4）応用デザインシステム	パッケージ、包装紙、カレンダーデザインのアイデアスケッチ
	22	演習・制作（4-2）応用デザインシステム	パッケージ、包装紙、カレンダーデザインのデジタルオペレーション
	23	演習・制作（1）広告デザイン	ブランドイメージ表現企画（アートディレクション）
	24	演習・制作（1-2）広告デザイン	ブランドイメージ表現企画（具体的なビジュアルとコピーの作成）
	25	演習・制作（2）広告デザイン	新聞広告、雑誌広告の表現企画（アートディレクション）
	26	演習・制作（2-2）広告デザイン	新聞広告、雑誌広告の表現企画（具体的なビジュアルとコピーの作成）
	27	演習・制作（3）広告デザイン	テレビCM企画、プロモーション映像企画（アートディレクション）
	28	演習・制作（3-2）広告デザイン	テレビCM企画、プロモーション映像企画（絵コンテ、構成案の作成）
	29	演習・制作（4）広告デザイン	パンフレット、カタログ、webサイトの表現企画（アートディレクション）
	30	演習・制作（4-2）広告デザイン	パンフレット、カタログ、webサイトの表現企画（具体的なビジュアルとコピーの作成）

定期試験	試験は実施しない
準備学習に必要な時間	毎回30分程度、前回の操作や手順を復習して次回に備えておくこと
教科書	教科書は使用しない。
参考図書、教材、準備物等	なし
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業課題の講評、掲示、返却時に個別にアドバイス
評価の配点比率	授業課題100％ 目標①40％　目標②30％　目標③30％
受講上の注意	
教員の実務経験	広告会社制作部でグラフィックデザイナー４年、広告企画制作会社でアートディレクター４年、デザインプロダクションでデザインプロデューサー15年　県内企業を中心に、メディア広告・グラフィックデザインを核としたブランディングコミュニケーション、デザインマネジメントを手がける。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 消費環境論　　授業コード： 1121701

英文科目名称： Introduction to Consumption and Environment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
西畑　敏秀			
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		講義	ナンバリング：11D503
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、あらゆるデザインの現場で基本的な構成要素となる、文字、レイアウト等、情報伝達のコツ・ポイントを学ぶことである。 和文、欧文、文字組み（縦・横）、大小、文字間、行間等具体的な構成を日常使用するコンピュータソフトを自在に操作できる技術とノウハウを学習する。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①写真の大小と文字組、配置構成、余白の効果的構成等、レイアウトの基本と実践をマスターし、プレゼンテーションパネル作成や企画書を作成する場合などのテクニックを習得できる。		ＤＰ８	30
	目標②パソコンでの操作に先立ち、発想や企画があってこその表現であることを理解できる。		ＤＰ１	30
	目標③社会における自分の役割を自覚し、主体的に行動できるようにする。		ＤＰ７	40
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：生活を豊かにするための専門的な知識を総合的に有している。		
	【思考力・判断力・表現力】			
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：社会における自分の役割を自覚し、感謝の心を持って主体的に行動することができる。 ＤＰ８：地域社会の課題に対して、他者を思いやりながら協働して対応策を提案することができる。		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	はじめに・オリエンテーション　消費社会とデザイン	毎授業ごとに課題レポートを提出
	2	文字とデザイン	毎授業ごとに課題レポートを提出
	3	文字／歴史、カテゴリー	毎授業ごとに課題レポートを提出
	4	文字／和文書体～かな、明朝体	毎授業ごとに課題レポートを提出
	5	文字／和文書体～かな、ゴシック体	毎授業ごとに課題レポートを提出
	6	文字／和文書体～その他、伝統系、ファンシー系	毎授業ごとに課題レポートを提出
	7	文字／欧文書体～セリフ体	毎授業ごとに課題レポートを提出
	8	文字／欧文書体～サンセリフ体	毎授業ごとに課題レポートを提出
	9	文字／欧文書体～その他、スクリプト系、ディスプレイ系	毎授業ごとに課題レポートを提出
	10	文字組み／様式、文字間、行間	毎授業ごとに課題レポートを提出
	11	レイアウト基本／図版率、版面率、余白	毎授業ごとに課題レポートを提出
	12	レイアウト基本／ジャンプ率～画像、文字、トリミング	毎授業ごとに課題レポートを提出
	13	レイアウト基本／グリッド拘束率、構成要素、リズム、対比、アクセント、比率	毎授業ごとに課題レポートを提出
	14	期末課題／名刺～講評	毎授業ごとに課題レポートを提出
	15	期末課題／雑誌広告～講評	毎授業ごとに課題レポートを提出

定期試験	試験は実施しない
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度、日常的に一般消費者の立場から、名刺やリーフレット、ウェブサイトの構成など、わかりやすくするための工夫がどこにあるのか、その手順や工夫している点を調査してして次回の授業に備えておくこ

	と。
教科書	教科書は使用しない。
参考図書、教材、準備物等	なし
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題レポートの返却時に個別にアドバイス
評価の配点比率	期末課題40%、毎授業の課題レポート60% 目標①期末課題30%　目標②課題レポート30%　目標③課題レポート40%
受講上の注意	
教員の実務経験	広告会社制作部でグラフィックデザイナー４年、広告企画制作会社でアートディレクター４年、デザインプロダクションでデザインプロデューサー15年　県内企業を中心に、メディア広告・グラフィックデザインを核としたブランディングコミュニケーション、デザインマネジメントを手がける。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： Ｗｅｂデザイン Ｉ　　授業コード： 1121801

英文科目名称： Web Design I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
吉村　正照			
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		演習	ナンバリング：11D502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、IT化の進んだ社会環境で活躍できるデザイン力を身につけることである。そのために、Webメディアの特徴を理解した上でWebデザインの基礎を学び、実践的な演習を通して「Webページを作成できる能力」を獲得していく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①Webメディアの特徴を理解し、Webらしいデザインができる。	ＤＰ３	40
	目標②印刷メディアとの違いを理解し、正しくデータを作成できる。	ＤＰ２	10
	目標③コンピュータとツールの使い方を習得し、効率的に速く正確に制作できる。	ＤＰ２	10
	目標④実現したいデザインのために自ら調べて実装できる。	ＤＰ４	40
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：デザインの基礎的な技能（描写、造形、配色、構成力等）を身につけている。 ＤＰ３：多様な素材を扱う技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：自ら設定した様々な課題解決に向け、比較・判断し企画・段取りができる。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	Web制作概論（歴史、画面の構成要素、制作の流れ）	Webの歴史やインターネットの仕組み、制作をしていく上での基礎知識を理解する。普段見ているWebサイトを制作者視点で見てみる。
	2	Webで使う画像	PhotoshopやIllustratorからWeb用の画像を書き出す方法を理解する。Web用の画像形式の種類・特徴を理解する。プリント用の画像との違いを明確に理解する。
	3	HTML：見出し、本文、コンテンツの埋め込み	文字を表示する方法やYouTube動画、Googleマップを埋め込む方法について理解する。今回新しく学んだ技法を復習する。
	4	HTML：リンク、画像	リンクを付ける方法や画像を表示する方法について理解する。用途に応じた画像の形式を覚える。今回新しく学んだ技法を復習する。
	5	動画撮影・編集の基礎	Webで動画を扱う方法を理解する。素材となる動画は事前に撮影する。編集はスマホアプリで行う。今回新しく学んだ技法を復習する。
	6	動画を公開する・Webページに表示する	動画をYouTubeにアップロードしてWebページに表示する一連の方法を理解する。今回新しく学んだ技法を復習する。
	7	CSS：文字、色	文字のサイズや色を変更する方法を理解する。今回新しく学んだ技法を復習する。
	8	CSS：レイアウト	CSSによるレイアウトの方法を理解する、今回新しく学んだ技法を復習する。
	9	CSS：余白、ボーダー	余白や線をつける方法を理解する、今回新しく学んだ技法を復習する。
	10	CSS：%によるレイアウト	%を用いたレイアウトの方法を理解する、今回新しく学んだ技法を復習する。
	11	CSS：レスポンシブデザイン	画面の幅に応じてスタイリングを変更する仕組みを理解する、今回新しく学んだ技法を復習する。
	12	CSS：セレクタの書き方	状況に応じたセレクタの書き方を理解する。今回新しく学んだ技法を復習する。
	13	CSS：固定表示	メニューなどを固定表示する方法を理解する。今回新しく学んだ技法を復習する。

	14	CSS： アニメーション	CSSによるアニメーションの方法を理解する。今回新しく学んだ技法を復習する。
	15	Webフォント	Webフォントの仕組みや利用方法を理解する。今回新しく学んだ技法を復習する。
	16	Webアイコン	Webアイコンの仕組みや利用方法を理解する。今回新しく学んだ技法を復習する。
	17	画面設計：ワイヤーフレーム	ワイヤーフレームの作成方法を理解する。今回新しく学んだ技法を復習する。
	18	画面設計：デザインカンプ	デザインカンプの作成方法を理解する。今回新しく学んだ技法を復習する。
	19	シングルページのウェブサイト制作①	シングルページのウェブサイトの制作方法を理解する。
	20	シングルページのウェブサイト制作②	シングルページのウェブサイトの制作方法を理解する。今回新しく学んだ技法を復習する。
	21	期末課題：コンテンツ制作①	期末課題（ポートフォリオサイトを予定）のコンテンツを作成する。
	22	期末課題：コンテンツ制作②	期末課題（ポートフォリオサイトを予定）のコンテンツを作成する。次回までにすべてのコンテンツをデータで準備する。
	23	期末課題 ： HTMLコーディング①	コンテンツをHTMLでマークアップする。
	24	期末課題 ： HTMLコーディング②	コンテンツをHTMLでマークアップする。次回までにすべてのコンテンツをHTML化しておく。
	25	期末課題 ： CSSコーディング①	HTMLをCSSでスタイリングする。
	26	期末課題 ： CSSコーディング②	HTMLをCSSでスタイリングする。次回までにすべてのスタイリングを完了しておく。
	27	期末課題 ：全体調整、ブラッシュアップ①	教員のレビューを受けて、課題の完成度を高めていく。
	28	期末課題 ：全体調整、ブラッシュアップ②	教員のレビューを受けて、課題の完成度を高めていく。次回の発表内容を準備する。
	29	期末課題 ： プレゼンテーション、総論	制作した作品について発表する。他の学生の作品を参考に、改善点を修正する。
	30	期末課題 ： 不具合・改善点の修正	指摘された不具合や改善点を修正の上再提出する。
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、修正した期末課題を再提出させる。		
準備学習に必要な時間	毎回、2時間程度の事後学習が必要。Web制作の技法を習得するためには「継続的にコードを打って覚える」ことが必要となる。また、日頃から「制作者の視点」でWebサイトを見られるようになることが望ましい。		
教科書	『Webデザイン基礎入門』（エムディエヌコーポレーション 2019）		
参考図書、教材、準備物等	授業内で紹介する		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題はすべてe-ラーニングシステム（Moodle）で受け付けた上でフィードバックする。 小テスト（毎回）：授業で学んだ知識を5問程度出題し、自動採点によりフィードバックする。 小品（毎回）：毎回の授業で小さな作品を制作し提出してもらう。点数とコメントによりフィードバックする。 質問はMoodleに記載のメールアドレスまたはMoodleメッセージで受け付ける。		
評価の配点比率	目標①課題作品30%、授業毎の課題10% 目標②課題作品5%、授業毎の課題5% 目標③課題作品5%、授業毎の課題5% 目標④課題作品20%、授業毎の課題20%		
受講上の注意	自分自身のコンピュータにも制作環境を整えること。Webはみなさんの生活に欠かせないものになり、現在もどんどんと進化をしているところです。この新しいデザインの分野にぜひチャレンジしてみてください。		
教員の実務経験	20年近いウェブデザイナーとしての実務経験を活かし、実際にプロの現場で利用されているツールを使って演習を行う。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： Ｗｅｂデザイン Ⅱ　　授業コード： 1121901

英文科目名称： Web Design Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
賀川 泰成			
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		演習	ナンバリング：11D505
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、IT化の進んだ社会環境で活躍できる、効果の高いWebサイトのデザイン力を身につけることである。 そのため、Webサイトを制作するために必要な企画構成の立案方法や、パソコン(PC)サイト・スマートフォン(スマフォ)サイト両方のページデザインの基本を学び、実践的な演習を通して「Webデザイナー」としての能力を獲得していく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①Webデザインの特徴を理解し、基本的なデザインができる	ＤＰ２	20
	目標②パソコンサイト・スマフォサイトの特徴に合わせたデザインができる	ＤＰ５	25
	目標③企画構成の技法を理解した、Webサイトの企画構成ができる	ＤＰ１	25
	目標④企画構成に合わせた、効果の高いデザインができる	ＤＰ５	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：生活を豊かにするための専門的な知識を総合的に有している。 ＤＰ２：デザインの基礎的な技能（描写、造形、配色、構成力等）を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：適切なデザイン手法を用いて、独創的な表現・運営ができる。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	Webデザイン概論、Webサイトの構成	Webデザインの概略、Webサイトの構成を理解。 課題①例題のサイト構成図を作成。事後学習：概略や技法の復習
	2	Webサイトの構成	課題①の続き。 事後学習：概略や技法を習得するための復習ををする
	3	Webサイトの企画構成（基本1）：Webサイト制作の流れと制作メンバーの役割、企画構成の立案方法（調査手法）	Webサイト制作の流れと制作メンバーの役割、企画構成の立案方法（調査手法）を理解する。 事後学習：概略や技法の復習
	4	（基本1）：企画構成の立案方法（調査手法）演習	課題②：例題のお店のWebサイトと、インターネット調査を個人または2～3名のチームで行う。 事後学習：概略や技法の復習
	5	Webサイトの企画構成（基本2）：企画構成の立案方法（コンセプト、サイト構成、チーム編成）	課題②を個人またはチームごとに発表と評価。前回の振り返り。企画構成立案方法を理解する。 事後学習：概略や技法の復習
	6	（基本2）：企画構成の立案方法（コンセプト、サイト構成、チーム編成）演習	課題③：課題②の調査分析を元に企画構成を行う。企画構成立案方法を理解する。企画構成立案方法を理解する。 事後学習：概略や技法の復習
	7	Webサイトの企画構成（実践）：企画構成立案	課題③：課題②を元に企画立案。企画構成立案方法を理解する。 事後学習：概略や技法の復習
	8	（実践）：企画構成立案	課題③：課題②を元に企画立案時間中に完了しなかった場合は次週までにやり終えておくこと。企画構成立案方法を理解する。 事後学習：概略や技法の復習
	9	ページデザインの基本（1）：PCサイトのページデザイン1	レイアウト、文字、色など、PCサイトのデザイン技法を理解する。 ※テキストを使用 事後学習：概略や技法の復習
	10	ページデザインの基本（1）：PCサイトのページデザイン1	レイアウト、文字、色など、PCサイトのデザイン技法を理解する　※テキストを使用 事後学習：概略や技法の復習

	11	ページデザインの基本（2）：PCサイトのページデザイン2 スマフォサイトのページデザイン	PCサイト・スマフォサイトのデザイン技法を理解する ※テキストを使用 事後学習：概略や技法の復習
	12	ページデザインの基本（2）：PCサイトのページデザイン2 スマフォサイトのページデザイン	色の基礎知識・画像のファイル形式・フォーム　※テキストを使用。Webデザインでの Illustratorの使用方法。 事後学習：概略や技法の復習
	13	ページデザインの実践（1）：PCサイト・スマフォサイトのページデザイン作成1	課題④課題③で立案した企画を元にページをデザインする ※テキストは参考書として使用すること 事後学習：概略や技法の復習
	14	ページデザインの実践（1）：PCサイト・スマフォサイトのページデザイン作成1	課題④課題③で立案した企画を元にページをデザインする ※テキストは参考書として使用すること 事後学習：概略や技法の復習
	15	ページデザインの実践2 ：PCサイト・スマフォサイトのページデザイン作成2	課題④課題③で立案した企画を元にページをデザインする ※テキストは参考書として使用すること 事後学習：概略や技法の復習
	16	ページデザインの実践2 ：PCサイト・スマフォサイトのページデザイン作成2	課題④課題③で立案した企画を元にページをデザインする ※テキストは参考書として使用すること
	17	ページデザインの実践3 ：PCサイト・スマフォサイトのページデザイン作成3	作成したページデザインのブラッシュアップ。 時間中に完了しなかった場合は次週までにやり終えておくこと 事後学習：概略や技法の復習
	18	ページデザインの実践3と、課題作品制作の課題発表	事後学習：概略や技法の復習
	19	課題作品制作（1）：企画構成立案	事前学習：課題作品制作の企画構成立案のために、事前に制作する企業および店舗を決定しておくこと。 事後学習：提出期日内で提出できるように計画を立てて制作すること
	20	課題作品制作（2）：企画構成立案	事後学習：提出期日内で提出できるように計画を立てて制作すること
	21	課題作品制作（3）：企画構成立案	企画構成が出来上がってら、チェックを受けること。 事後学習：提出期日内で提出できるように計画を立てて制作すること
	22	課題作品制作（4）：各ページのページデザイン	提出期日内で提出できるように計画を立てて制作すること　※テキストは参考書として使用すること 事後学習：提出期日内で提出できるように計画を立てて制作すること
	23	課題作品制作（5）：各ページのページデザイン	事後学習：提出期日内で提出できるように計画を立てて制作すること
	24	課題作品制作（6）：各ページのページデザイン	事後学習：提出期日内で提出できるように計画を立てて制作すること
	25	課題作品制作（7）：各ページのページデザイン	事後学習：提出期日内で提出できるように計画を立てて制作すること
	26	課題作品制作（8）：各ページのページデザイン	事後学習：提出期日内で提出できるように計画を立てて制作すること
	27	課題作品制作（9）：各ページのページデザイン	事後学習：提出期日内で提出できるように計画を立てて制作すること
	28	課題作品制作（10）：各ページのページデザイン	期間中に完成し提出すること 事後学習：提出期日内で提出できるように計画を立てて制作すること
	29	課題作品制作（11）：各ページのページデザイン	出来上がり次第、チェックを受けること 事後学習：振り返り
	30	課題作品制作（12）：各ページのページデザイン プレゼンテーション、総論	改善点を指摘された場合は修正の上再提出すること 事後学習：振り返り
定期試験	試験に代わって課題作品を制作し提出する。		
準備学習に必要な時間	毎回、2時間程度の復習が必要。日頃から制作者としての視点として、『コンセプト』や『ターゲット』、『デザインの意図』、『Webサイトの効果』などを考えてWebサイトを見られるようになることが望ましい。		
教科書	『だれでもWebデザインができる本 増補改訂版』（エクスナレッジムック）		
参考図書、教材、準備物等	適宜、配布する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題②③④については、個々に内容や考え方、効果などをチェック時にフィードバックする。 質問等がある場合は、電子メール（kagawa@growpus.com）で連絡すること。		
評価の配点比率	目標①課題作品12%、課題①3%、課題②③5% 目標②課題作品20%、課題④5% 目標③課題作品25%、 目標④課題作品30%		
受講上の注意	Webは社会の情報発信の中心となり、どんどん進化しています。今まで出来なかった表現が明日にはできる。自分自身のデザインも進化させましょう。Web系の仕事に就きたい人だけではなく、グラフィック系の人も、 受講することをおすすめします。また、前期のWebデザインIとの連動となり、WebデザインIを受講していること		

	が望ましい。 机上にかばん等、授業に関係のないものを置くことを禁ずる。デザイン制作はIllustratorとPhotoshopで行う。
教員の実務経験	福井県内の中小企業の企業ブランドの構築、採用ブランドの構築を行う、株式会社グロウプスの代表。企業ブランド構築のための調査分析から企画立案、デザイン、Webサイトの構築などを手がけている教員が、Webサイトの企画構成立案や、PCサイトやスマフォサイトのページデザインの講義と演習を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： プロダクトデザインⅡ　　授業コード： 1122001

英文科目名称： Product DesignⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前期	２年次	２単位	選択	
担当教員				
橋本　洋子				
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		演習		ナンバリング：11F501
添付ファイル				

授業の概要	この授業の目的は、デザインは「思いやり」であることを学ぶことである。 価値観の多様化に伴い高い感性が問われ、女性らしいきめ細やかな感覚がデザインにも求められている現代において、発想力を鍛え、伝わるための表現力と、プロダクトデザインの基礎を学ぶ。 手を動かし考える手法と、考えたアイデアを具現化する方法を習得する。 明るく楽しい生活のための創意工夫と、そのための段取り力を身に付ける。 なお、本科目は２コマ連続の授業を１５週実施する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連 学習成果番号	重み付け%
	目標①思いやりのアイデアを、社会に向けて効果的にプレゼンテーションすることができる。	ＤＰ６	30
	目標②素材の特性を活かしたデザインができる。	ＤＰ３	20
	目標③考えや行なったことを解りやすくまとめることができる。	ＤＰ４	20
	目標④完成度を高めるために協働できる。	ＤＰ８	15
	目標⑤他者の意見に耳を傾けつつ自分の考えも伝えられる。	ＤＰ８	15
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：多様な素材を扱う技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：自ら設定した様々な課題解決に向け、比較・判断し企画・段取りができる。 ＤＰ６：制作意図や効果・影響についてわかりやすく伝えることができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：地域社会の課題に対して、他者を思いやりながら協働して対応策を提案することができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション（プロダクトデザインIについて） プロダクトデザインの紹介①	事前学習：デザインとは何かを調べ、考えをノートにまとめる
	2	プロダクトデザインの紹介②	事後学習：身近な興味のあるデザインを探し、集める
	3	デザインについて「たたむ」とは？	事前学習：色々な「たたむ」ものを集める
	4	パッケージデザインについて「たたむ」とは？ グループ決め	事後学習：集めたものの良い点を探す
	5	パッケージデザインについて「たたむ」とは？ 集めたモノについて話し合う（グループ）	事後学習：集めたものの良い点を探す
	6	デザインについて「たたむ」とは？ 「たたむ」モノを決める（グループ）	事後学習：決めたモノについて調べる
	7	デザインについて「たたむ」とは？ 調べたモノについて話し合う	事前学習：コンセプトと簡易モデルが一致しているか 事後学習：アイデアスケッチを描く
	8	デザインについて「たたむ」とは？ 調べたモノについてスケッチを描いて方法を探る	事後学習：アイデアスケッチを描く
	9	デザインについて「たたむ」とは？ モノについてスケッチを基にコンセプトを決める	事前学習：コンセプトとは何か、調べてノートにまとめる
	10	デザインについて「たたむ」とは？ コンセプトを意識し、素材・アイデアを検討	事後学習：課題提出のための準備
	11	デザインについて「たたむ」とは？ プレゼンテーション内容検討（役割分担も）・準備	事前学習：プレゼンテーションの趣味レーション
	12	パッケージデザインについて「包む」とは？ プレゼンテーション ＜課題提出１：「たたむについて」＞	事後学習：授業の振り返り
	13	「問題点」「あったらいいなぁ」を考える①	事前学習：身近な問題点等を考え、ノートに書き出す

	14	「問題点」「あったらいいなぁ」を考える②	事後学習：コンセプトを考える
	15	「問題点」の解決策や、「あったらいいなぁ」の具体策を考える　＜課題提出２：「問題点」「あったらいいなぁ」＞	事前学習：「問題点」「あったらいいなぁ」に関することを調べる
	16	アイデアスケッチを描く	事後学習：アイデアスケッチを描く①
	17	簡易モデル制作１ 制作の段取りを組む	事前学習：コンセプトと合っているか考える
	18	アイデアの検証と修正 アイデアスケッチを描く②	事後学習：アイデアスケッチを描く②
	19	簡易モデル制作２ 段取りの効率化を考える	事前学習：簡易モデル１の修正箇所を洗い出す
	20	アイデアの決定 プレゼンテーション（１）　＜課題3　発表・提出＞	事後学習：プレゼンテーション練習
	21	図面作成	事前学習：３面図の書き方の確認
	22	図面確認と詳細図	事後学習：図面の確認
	23	最終図面制作	事前学習：素材について調べる
	24	素材とカラーの検討	事前学習：素材と色の意味を考える
	25	最終モデルの制作手順（工程表を作る）	事前学習：アイデアスケッチを描く
	26	最終モデルの制作	事後学習：手を動かしながら考える
	27	最終モデルの仕上げ	事前学習：モデルの最終チェック
	28	プレゼンテーションパネルの作成	事後学習：課題作品の提出　＜課題提出4：作品の提出＞
	29	プレゼンテーションパネルの修正	事前学習：プレゼンテーション練習
	30	プレゼンテーション内容検討 プレゼンテーション（２）　＜課題５発表・提出＞	事後学習：授業の振り返り

定期試験	試験期間中には行わない。 課題提出が必要で、それらで採点する。
準備学習に必要な時間	毎回45分程度必要 アイデアスケッチ等は事前に考えてスケッチブックに描きためておく。
教科書	「プロダクトデザインの基礎　スマートな生活を実現するための71の知識」ワークスコーポレーション
参考図書、教材、準備物等	参考図書： 教材：プリント等を必要に応じて配布する 準備物：スケッチブック(A4以上)、カッターナイフ(替刃)・デザインカッター(替え刃)、カッター専用定規(15cm・60cmなど)、カッターマット、コンパス、モデル材料など（特殊なモデル材料は各自で準備のこと）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	アイテム探しや調査などは事前学習と考え、アイデア展開やモデル作成などを授業中に行うこと。 諸状況により内容が前後することが有ります。 提出物には、評価(A・B・C)をつけて返却する。
評価の配点比率	提出物70%　授業への取り組み姿勢10%　プレゼンテーション20% 目標①効果的なプレゼンテーションができるか 30% 目標②素材の特性に適したデザインができるか 20% 目標③考えや行なったことを解りやすくまとめることができるか 20% 目標④完成度を上げるために協働できるか 15% 目標⑤他者の意見に耳を傾けつつ自分の考えも伝えられるか 15%
受講上の注意	問題点からモノへ、アイデアがカタチになっていく過程を楽しんで欲しい。
教員の実務経験	企業内デザイナーとして、製品・カタログ・販促品の企画デザインを行い、さらにフリーのデザイナーとしての経験も有する。 また、大学、短期大学、専門学校、デザイン講座等で、専任講師・非常勤講師を務める。 それらの経験を活かし、学生の個々の能力に合った丁寧な指導を行なっている。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： プロダクトデザインⅢ　　授業コード： 1122101

英文科目名称： Product DesignⅢ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
橋本　洋子			
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		演習	ナンバリング：11F503
添付ファイル			

授業の概要	デザインプロセスの一つとしての３Dプリンター活用体験を目的とする。 ２年前期の「生活情報処理」を受講済み、又は、同等の知識を有することを前提とする。 プロダクトデザインⅠ・Ⅱを更に発展させ、創る技術力を身に着け、伝える表現力のために３Dプリンターなどを使い、より精巧なモデル作成を体験する。 自分のアイデアを３Dプリンターで検証し、更に完成度の高いアイデアへと進めるための一過程としての手法を学ぶ。 なお、本科目は２コマ連続の授業を１５週実施する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連 学習成果番号	重み付け%
	目標①身の周りのモノに関心を持ち「思いやり」のあるデザインができる。	ＤＰ１	20
	目標②自分のアイデアを３Dプリンター等を使い具現化できる。	ＤＰ５	30
	目標③３Dプリンターを使って形の検証をしながらアイデアを高めることができる。	ＤＰ６	30
	目標④社会性を持った問題解決ができる。	ＤＰ７	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：生活を豊かにするための専門的な知識を総合的に有している。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：適切なデザイン手法を用いて、独創的な表現・運営ができる。 ＤＰ６：制作意図や効果・影響についてわかりやすく伝えることができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：社会における自分の役割を自覚し、感謝の心を持って主体的に行動することができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション（プロダクトデザインⅢについて） ３Dプリンターの種類と仕組み	事前授業：３Dプリンターについて調べてノートにまとめる
	2	３Dプリンターの種類と仕組み	事後学習：使用するプリンターについて復習する
	3	３Dプリンター（使い方１）・ABS・PLA	事前授業：３Dプリンター素材のABSとPLAつにいて調べノートにまとめる
	4	基本の形を３Dプリンターで造る１データー作成	事後学習：授業の復習
	5	基本の形を３Dプリンターで造る	事前授業：データー作成
	6	基本の形を３Dプリンターで造る３修正と再出力	事後学習：データー作成
	7	３Dプリンターで出力　①	事前学習：データーの修正
	8	３Dプリンターで出力　②　　＜課題１：初めての３D出力　提出＞	事後学習：思い通りにできたか、修正点についてノートにまとめる
	9	困ったを集める	事前学習：身近な問題点を探す
	10	身の廻りのものの改善を考える	事後学習：身近な問題点を探す
	11	「問題点」や「あったらいいなぁ」を考える①	事前学習：アイテムを探す（問題探し）
	12	「問題点」や「あったらいいなぁ」を考える②コンセプト	事後学習：コンセプトを考える（言葉探し）
	13	「問題点」の解決方法や「あったらいいなぁ」の具体策を考える	事前学習：コンセプトの確認
	14	アイデアスケッチを描く１	事後学習：アイデアスケッチを描く
	15	簡易モデル(スタディーモデル)の制作１	事前学習：アイデアスケッチを描く
	16	アイデアの検証と修正　アイデアスケッチを描く２	事前学習：アイデアスケッチを描く
	17	簡易モデルの制作２	事前学習：３D図面の確認

	18	アイデアの決定（レンダリング）　　＜課題２：レンダリング　提出＞	事後学習：レンダリングの確認
	19	図面作成（３D用）	事前学習：図面作成（３D用）
	20	図面確認（３D用）	事後学習：図面修正
	21	図面修正（３D用）	事前学習：図面修正
	22	素材とカラーの検討	事後学習：素材を集める
	23	３Dプリンター（使い方２）	事前学習：３Dプリンターの使い方を再チェック
	24	モデルの制作（３Dプリンター）	事後学習：３Dプリンターデーター修正
	25	図面修正検討（３D用）	事前学習：３Dプリンター出力物の確認
	26	最終図面作成（３D用）	事後学習：３Dプリンターデーターの修正箇所の確認
	27	最終モデルの制作（３Dプリンター）	事後学習：磨きを完成させる
	28	モデル仕上げ（磨き）	事後学習：磨きを完成させる
	29	モデル仕上げ（塗装）	事前学習：プレゼンテーション練習
	30	最終モデル仕上げ・プレゼンテーション　　＜課題３：最終モデル　提出＞	事後学習：授業全体を振り返る

定期試験	試験期間中に試験を実施しない。 課題の提出が必要。
準備学習に必要な時間	毎回45分程度 より完成度が上がるようにチャレンジのための熟考を繰り返す
教科書	「プロダクトデザインの基礎　スマートな生活を実現するための71の知識」ワークスコーポレーション その他の必要な資料はその都度配布
参考図書、教材、準備物等	参考図書： 教材：　　必要に応じてプリント等を配布する 準備物：　スケッチブック(A4以上)、カッターナイフ(替刃)・デザインカッター(替刃)、カッター専用定規(15cm・60cmなど)、コンパス、モデル材料など（特殊なモデル材料は各自が準備のこと）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	アイテム探しや調査などは事前学習と考え、アイデア展開やモデル作成などを授業中に行うこと。 諸状況により内容が前後することが有ります。 提出課題は、評価(A・B・C)を付けて返却する。
評価の配点比率	課題70%　プレゼンテーション30% 全ての課題に下記の目標を含む 目標①思いやりのあるデザインができるか 20% 目標②３Dプリンター等で具現化できるか 30% 目標③３Dプリンターでアイデアを高められるか 30% 目標④社会性をを持った問題解決ができるか 20%。
受講上の注意	自分が描いた２次元の図面から、３次元の物が出来上がる喜びを味わって欲しい。
教員の実務経験	企業内デザイナーとして、製品・カタログ・販促品の企画デザインを行い、さらにフリーのデザイナーとしての経験も有する。 また、大学、短期大学、専門学校、デザイン講座等で、専任講師・非常勤講師を務める。 それらの経験を活かし、学生の個々の能力に合った丁寧な指導を行なっている。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： クラフトデザインＩＡ　　授業コード： 1122201

英文科目名称： Craft DesignＩＡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
松井　勝彦			
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		演習	ナンバリング：11F102
添付ファイル			

授業の概要	この授業の目的は、陶芸の初歩を、実技を通して器の機能性と共に学ぶことである。さらに、お茶・お花・和食の器から日本文化への興味と理解を深める。技法としては手びねりとたたら成形により、絵付けも体験する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①粘土の可塑性を生かし自由度の高い即興も含めた制作をすることができる。	ＤＰ３	30
	目標②制作前のデザインから焼成にむけて器の機能性を高めるデザインができる。	ＤＰ５	30
	目標③絵付け・釉薬掛けにおいて伝統的または個性的な表現ができる。	ＤＰ２	30
	目標④最後に自分の作品の制作意図や効果について発表できる。	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：デザインの基礎的な技能（描写、造形、配色、構成力等）を身につけている。 ＤＰ３：多様な素材を扱う技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：適切なデザイン手法を用いて、独創的な表現・運営ができる。 ＤＰ６：制作意図や効果・影響についてわかりやすく伝えることができる。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション、概要説明	
	2	たたらによる皿の成形	事前に成形する皿のデザインパースを描いて実物大の型紙を切り抜く。
	3	手びねりによる花器の成形	事前に花器のデザインパースを描き、実物の大きさを生ける花のイメージにて決定する。
	4	手びねりによる花器の成形	即興での変更も可。花器としての機能も考慮する。
	5	手びねりによる茶碗の成形	自分の手になじむ茶碗の大きさを把握する。
	6	手びねりによる茶碗の成形	削りが終わらなかった場合は空き時間に終了させること。
	7	マグカップの成形	マグカップのデザインパースを描く。特に取っ手のデザインに配慮する。
	8	マグカップの成形	
	9	絵付け、釉薬掛け	作品の装飾デザインを描いてくる。
	10	絵付け、釉薬掛け	上に掛ける釉薬の効果を把握する。またその相性にも配慮する。
	11	絵付け釉薬掛け	釉薬の底面のふき取りには十分気をつけること。
	12	絵付け釉薬掛け	釉薬の濃度による効果を考える。
	13	金津創作の森展覧会鑑賞	屋外の常設展示物と企画展の鑑賞。後で鑑賞レポートを提出する。
	14	金津創作の森展覧会鑑賞	穴窯や制作アトリエを訪ねて制作現場の空気に触れる。
	15	講評	自分の作品の制作意図や効果について他の人に伝える。

定期試験	試験期間中の試験は実施しない。
準備学習に必要な時間	事前に作品の具体的な大きさのイメージを把握してデザインパースを作成してくる。約１時間から２時間。
教科書	使用しない。

参考図書、教材、準備物等	準 備 物：タオル、エプロン、汚れてもいい服装
課題（試験・レポート等）のフィードバック	9,10,11,12回目の絵付け釉薬掛けは必ず出席すること。 提出された課題のフィードバックは講評にて行う。
評価の配点比率	目標①作品の完成度、作りこみ度。30% 目標②使い勝手、重さを考慮する。30% 目標③装飾の効果。30% 目標④制作意図の実現度。10%
受講上の注意	粘土という素材は押せば凹み伸ばして曲げるのも自在にできる即興性に富んだ素材です。その粘土から実際に使えるオリジナルな器が自分の手から生まれるところを体験してもらいます。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： クラフトデザインＩＢ　　授業コード： 1122301

英文科目名称： Craft DesignＩＢ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
古木　晶子			
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		演習	ナンバリング：11E103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、自らのイメージを形に表現し、他者が身につける物として完成させる技術の取得である。 ガラス工芸の日本内外での歴史・その種類に造詣を深め、いくつかの基本的技術を学習し、とんぼ玉を制作する。 それらを用い、アクセサリー作りの手法・道具などについて基礎を身につけ、“贈るアクセサリー”の制作を行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①ガラスの特性を理解し、とんぼ玉の形成に反映させることができる。	ＤＰ３	15
	目標②バーナーなど道具を安全・適切に使用することができる。	ＤＰ３	5
	目標③技法を組み合わせて自分のイメージをとんぼ玉として表現できる。	ＤＰ５	20
	目標④身につける対象・TPOを考えてアクセサリーづくりができる。	ＤＰ５	20
	目標⑤アクセサリー作りの基本的な技術を作品に反映することができる。	ＤＰ３	20
	目標⑥自分のコンセプト・考えをわかりやすく伝える事ができる。	ＤＰ６	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：多様な素材を扱う技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：適切なデザイン手法を用いて、独創的な表現・運営ができる。 ＤＰ６：制作意図や効果・影響についてわかりやすく伝えることができる。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	とんぼ玉の歴史、安全の為のレクチャー。基礎となる丸玉の練習。	プリント資料配布(1～6回まで）。
	2	基礎技術①：線流しの模様	溶けたガラスが垂れる・形を変えるという自然現象を利用した模様作りを通してガラスの特性を学ぶ。
	3	基礎技術②：点打ち模様（水玉・同心円）＋ひっかき模様	模様を自分で描くための基本動作を身につける。ガスバーナーの調整や道具の使い方を学習する。
	4	基礎技術③：ガラスの2色使い	グラデーションの玉をつくる。
	5	基礎技術④：レース棒を使う	「レース棒」を縦・横にしたときの模様の違いを学び使い方を考える。 提出物①この時点でのとんぼ玉１～２個。目標①②について評価する。
	6	アクセサリー作り 身につける物を作ることについてのレクチャー	前半で作った玉で基本的なアクセサリーを作り、道具・材料の使い方を学ぶ。 チョーカー・ストラップを作る。 世代・性別・TPOによって素材や仕立て方が違うことを学習。自分の手を離れたものが安全に使われるために気をつけることなどについて考える。 以降の授業ではアクセサリー作りととんぼ玉づくりを並行して行う。
	7	基礎技術⑤：小さいとんぼ玉を作る	15㎜以下の小さい玉を作りイヤリングやピアスに使えるそろいの玉を制作する。
	8	応用技術①：モザイクパーツを使う（花・葉） 応用技術②：銀箔使う・泡を使う・雲母パウダーを使う	ガラス以外の素材を使った効果を学習。
	9	アクセサリー作り②：コードのバリエーション	金具を使わず着脱できるアクセサリーを制作するため紐の結び方を中心に学習する。
	10	応用技術③：基礎・応用技術を複数組み合わせる	学習した技術を3つ以上組み合わせた玉を作る事。 ピアス・イヤリングづくりを通して、二個一組のもののデザインについて、アレルギーについて考える。
	11	応用技術④：基礎・応用技術を複数組み合わせる	学習した技術を3つ以上組み合わせた玉を作る。
	12	アクセサリー作り	自分以外の誰かに贈るアクセサリーを考え仕立てる。

	12		ガラス以外の素材との組み合わせを考える。
	13	学外授業・ピンブロウ体験（金津・エズラグラススタジオ）	ガラスの塊を蒸気で膨らませる技法ピンブロウを体験しバーナーワークとの違いなどを学習する。 （※状況に応じて吹きガラス体験に変更有）
	14	学外授業・ピンブロウ体験（金津・エズラグラススタジオ）	一輪挿しorグラスorボウルを作る。
	15	講評	提出物②「自分以外の誰かに贈るアクセサリー」を提出し、プレゼンテーションをする。講評用のプリントを提出。

定期試験	試験期間中の試験は実施しない。
準備学習に必要な時間	毎回、事前に前回学習した技法を確認するのが望ましい（火の前で焦らないための予習として） 7回目以降毎回1時間程度の事前学習が必要。習った技法を複数くみあわせて作るとんぼ玉を考えてくること。 また授業計画には特に書いていないが基本的に6回目以降アクセサリー作りは毎回してもらうので、 作りたいアクセサリーの仕立てについても同様に考えてくる。
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	準 備 物：タオル、サングラス（無い人はメガネなど目を保護する物）、スニーカーなど足先が出ず底のしっかりした靴(サンダル等不可)、綿製のTシャツ、丈の長いパンツなど、足が出ないように。エプロンは必ず持参すること。 安全第一です。炎を前にして作業を行います。丈の短い衣服や化学繊維はなるべく避ける。エプロンをかならずつけるようにする。 髪の毛は結ぶ・留めるなどして眼前に落ちてこないようにしてください。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	提出物①について：提出物は採点し返却。7回目の授業で解説をする。 提出物②について：講評会の場で各々の発表のあとこちらから質問、それを踏まえて解説・意見交換をする。
評価の配点比率	提出物①：基礎的とんぼ玉 目標①ガラスの特性反映度（形10%、模様5%） 目標②ス汚れの有無5% 提出物②：自分以外の誰かに贈るアクセサリー 目標③イメージの表現度20% 目標④対象、TPOの考慮度20% 目標⑤基本技術の反映度20% 目標⑥プレゼン力10%　プリントの内容10%
受講上の注意	溶けて形を変える素材にはなかなか出会えないと思います。直接触って微調整することもできません。思い通りにならない素材ではありますが思いがけない美しさに出会うこともあります。そして同じものは二つとありません。あなただけのとんぼ玉を、どんな人がどんなふうに身につけるかを考えて、その人だけのアクセサリーに仕立てましょう。道具を使い自分で直す技術も同時に身につけてください。自分を表現することと相手を思いやることの両方を大切にできる物づくりを学んでもらいたいです。
教員の実務経験	バーナーワークでのガラス装飾品（とんぼ玉のアクセサリーや和装小物）、ガラスのモチーフを使ったシルバージュエリー、コアガラスという世界最古のガラス器製作法による冷酒杯・香合などの制作、ギャラリーやデパートなどでの個展・常設展示、といった実務経験を生かし、バーナーによる制作技術のほか、アクセサリーの制作方法、身につけるアクセサリーを作るための基本的な知識、技術、注意点などを講義する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： クラフトデザインⅡＡ　　授業コード： 1122401

英文科目名称： Craft DesignⅡＡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
集中講義	２年次	１単位	選択	
担当教員				
増田　頼保				
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		演習		ナンバリング：11F103
添付ファイル				

授業の概要	この授業の目的は、様々なクラフトデザインや日常的なステージに応用が可能な創作和紙について、和紙の歴史、原料素材の理解、実験的・実証的制作、作品発表に重点を置き学ぶことである。さらに和紙素材の性質、特質、活用法やクラフト作品に結び付けるデザインマインド（芸術的な思考）や技術についても学ぶ。 また、伝統的な素材の和紙が現代生活の中にどのように生かされるか授業を通して学習する。 ※この授業は夏休み期間中に集中で開講されます。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連 学習成果番号	重み付け%
	目標①一人ひとりの個性や創造性を大切にしながら、環境という視点、リサイクル・リユース・リデュースなどにも配慮しながら、一貫して和紙原料から一つのクラフト作品に仕上げることができる。	ＤＰ３	20
	目標②世界遺産となった和紙や和紙にかかわる伝統的素材を扱うことができる。	ＤＰ３	10
	目標③学生自身が一人前のデザイナーとして実際に販売することを想定した実習や企画書作成、それに伴う技術を習得できる。	ＤＰ５	30
	目標④課題作品を基に発表することができる。	ＤＰ６	20
	目標⑤デザイン的アプローチで社会に対し地域貢献ができること。	ＤＰ７	10
	目標⑥共同作品を制作する中で、他者を思いやる心を醸成することができる。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：多様な素材を扱う技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：適切なデザイン手法を用いて、独創的な表現・運営ができる。 ＤＰ６：制作意図や効果・影響についてわかりやすく伝えることができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：社会における自分の役割を自覚し、感謝の心を持って主体的に行動することができる。 ＤＰ８：地域社会の課題に対して、他者を思いやりながら協働して対応策を提案することができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	〈１日目〉午前：オリエンテーション（和紙の里での学外実習） 施設利用説明と和紙クラフトについて理論実習 増田講師による、和紙の流し込み技法についての説明と実演	・授業前に必ず教科書を読んで第１章を要約したレポートを作成しておくこと。（ノート３ページ程度） ・和紙の里見学　伝統工芸士による実演。 ・和紙の歴史や紙漉きの工程を事前にインターネット等で調べること。
	2	〈１日目〉午前：オリエンテーション（和紙の里での学外実習） 施設利用説明と和紙クラフトについて理論実習 増田講師による、和紙の水を使った技法についての説明と実演	・研修場に移動する途中の植栽には和紙の原料となる樹木があるので、よく観察し事後の調査と毎日のレポート作成に生かすこと。
	3	午後：和紙の可能性について実習指導：足し算について－和紙原料やネリを混ぜた技法の習得（和紙の里での学外実習）	・和紙原料は楮（こうぞ）を使用するので、楮の特徴を事前調査すること。
	4	午後：和紙の可能性について実習指導：足し算について－和紙原料やネリを混ぜた技法の習得（和紙の里での学外実習）	・和紙に入れ込む素材を自作するか、用意すること。
	5	〈２日目〉午前：和紙の可能性について実習指導：引き算について－和紙原料を取る（和紙の里での学外実習）	・自然な模様や人工的な模様を入れるので、伝統的な模様について調べること。
	6	〈２日目〉午前：和紙の可能性について実習指導：引き算について－和紙原料を取る（和紙の里での学外実習）	・和紙の用途はどのようなものがあるか事前に調べること。
	7	〈２日目〉午後：和紙の紙漉き実習　共同制作で独創性・協調性を図る	・1m×2mの大きなサイズの和紙に共同で制作する。 ・材料の選定、強度、デザインなど相談を受ける。

	8	〈２日目〉午後：和紙の紙漉き実習　共同制作で独創性・協調性を図る	・1日目の講義レポート提出 （A4サイズ表紙1枚＋レポート3枚以上）
	9	〈３日目〉午前：自作の和紙を使って自由にクラフト作品化制作指導（学内での実習） 午前：クラフトデザイン作品化指導	・クラフト作品を自作の和紙で制作する。事前に、構想を練り必要と思われる材料を用意すること。
	10	〈３日目〉午前：自作の和紙を使って自由にクラフト作品化制作指導（学内での実習） 午前：クラフトデザイン作品化指導	・プレゼン（企画書）用の紙に概要やタイトルなど書込み制作する。
	11	〈３日目〉午後：自作の和紙を使って自由にクラフト作品制作化を個別に指導（学内での実習）	・アイディア、発想の面白さを特に評価するので、自作のクラフト作品のセールスポイントを明確にすること。
	12	〈３日目〉午後：自作の和紙を使って自由にクラフト作品制作化を個別に指導（学内での実習）	・2日目の講義レポート提出 （A4サイズ表紙1枚＋レポート3枚以上）
	13	〈４日目〉午前：自作の和紙を使って自由にクラフト作品制作完成（学内での実習）	・プレゼン（企画書）用紙の提出（課題）
	14	〈４日目〉午前：クラフト作品完成・プレゼン（企画書）用紙完成（学内での実習）	・3日目の講義レポート提出（A4サイズ表紙1枚＋レポート3枚以上）
	15	〈４日目〉午後：発表会　プレゼン（企画書）用紙を基に、完成作品の発表	・最終日の講義レポートはメールにて提出 （A4サイズ表紙1枚＋レポート3枚以上）

定期試験	試験に代わって、毎講義にレポート提出。講義終了後にプレゼン（企画書）用紙は提出し、課題作品のプレゼンも行う。（約５分間）
準備学習に必要な時間	休日４時間くらいを利用して、自分の住んでいる地域の特性を調査し、課題を抽出して連携して行けるよう、コミュニケーションを十分にとれるような関係を構築すること。
教科書	「図説　神と紙の里の未来学」杉村和彦、山崎茂雄、増田頼保編著　晃洋書房
参考図書、教材、準備物等	参考図書：岡本太郎著「日本の伝統」（光文社千恵の森文庫） 教材：講義レジュメや関連資料を配布して授業を行う。 準備物：毎回Ｆ６かＦ８の大きさのスケッチブックと色鉛筆セット、水彩絵の具セット、筆などを必ず持参すること。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	提出された課題のフィードバックは講評にて行う。
評価の配点比率	目標①小レポート20％ 目標②和紙制作実習課題10％ 目標③プレゼン（企画書）作成とクラフト作品30％ 目標④プレゼンテーション20％　提出物の要件を満たさない場合減点対象とする。 目標⑤社会に対するデザイン的アプローチの有無を評価10％ 目標⑥社会的な課題解決に対するリサーチ力を評価対象10％
受講上の注意	学外に出かけて実際の生産現場も参考にしたい。訪問や実習では、水を使ったり汚れるかもしれないので、濡れても良い履物（長靴、ビーチサンダル）、ジャージなど動き易く少々汚れても良い服装が望ましい。 福井県内の伝統的な技術を現代に生かせるデザイナーが、これからの福井の新たな伝統を創る。
教員の実務経験	1979年から今立現代美術紙展を設立、現在に至る。紙漉きワークショップ、自作の和紙のランプシェード・ワークショップ、自作の和紙による彫刻、和紙インスタレーション、自作の和紙による舞台美術、和紙風車の羽根から屋外風力発電用の金属製の風車用羽根のデザインを手掛ける。エコ・ジャパン・カップ準グランプリ受賞。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： ファッションデザインⅡ　　授業コード： 1122601

英文科目名称： Fashion DesingⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
前田　博子			
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		演習	ナンバリング：11E501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、衣服を纏うことについて深く考える力とつくる力を身につけることである。 前半はものづくりの現場を見学し、ものづくりを経験することにより、「つくりて」を想う心を養う。 後半はトータルコーディネートを意識した課題としてオリジナルの衣服をつくる。 制作時での考え方やその方法について深く考え、自ら学習する姿勢を身につける。 加えて、持続可能なものづくりについて考察する。 なお、本科目は２コマ連続の授業を１５週実施する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①衣服を構成する素材を扱うことができる。	ＤＰ３	30
	目標②事前に調べたことを参考に自身の考えを形にすることができる。	ＤＰ５	50
	目標③制作したものについてわかりやすくまとめることができる。	ＤＰ６	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：多様な素材を扱う技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：適切なデザイン手法を用いて、独創的な表現・運営ができる。 ＤＰ６：制作意図や効果・影響についてわかりやすく伝えることができる。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	纏うことの意について／検索	書籍やインターネットで検索する
	2	纏うことの意について／まとめ〈まとめレポート提出〉	調べたことをもとに「纏うこと」について考える
	3	装飾課題／上書きTシャツ アイデア	裁縫道具、ダサイTシャツ持参
	4	装飾課題／上書きTシャツ 版制作	裁縫道具、ダサイTシャツ持参 次回までに作業をすすめておく
	5	装飾課題／上書きTシャツ 版制作	裁縫道具、ダサイTシャツ持参
	6	装飾課題／上書きTシャツ 色彩計画	裁縫道具、ダサイTシャツ持参 次回までに作業をすすめておく
	7	装飾課題／上書きTシャツ プリント	裁縫道具、ダサイTシャツ持参
	8	装飾課題／上書きTシャツ まとめ　〈まとめレポート、課題提出〉	つくったものを発表し、相互評価をおこなう
	9	工場見学	工場内を見学しやすい服装をこころがけること
	10	工場見学〈まとめレポート提出〉	工場内を見学しやすい服装をこころがけること 工場見学で学んだことをレポートにまとめる
	11	みんなの制服／アイデア	参考資料持参 資料を収集しA4用紙にまとめて提出
	12	みんなの制服／個別発表〈まとめレポート提出〉	資料を収集しA4用紙にまとめて提出
	13	みんなの制服／アイデア持ち寄り相談	画材道具を用意
	14	みんなの制服／アイデア決定・スケジュール計画	画材道具を用意
	15	みんなの制服／準備	使用する素材・材料を用意する 分担した作業ができるように役割の決定をしておくこと
	16	みんなの制服／裁断	裁縫道具、使用する素材・材料を用意する 次回までに作業をすすめておく

	17	みんなの制服／縫い方①	裁縫道具、使用する素材・材料を用意する
	18	みんなの制服／縫い方②	裁縫道具、使用する素材・材料を用意する 次回までに作業をすすめておく
	19	みんなの制服／縫製①	裁縫道具、使用する素材・材料を用意する
	20	みんなの制服／縫製②	裁縫道具、使用する素材・材料を用意する 次回までに作業をすすめておく
	21	みんなの制服／縫製③	使用する素材・材料を用意する
	22	みんなの制服／縫製④	裁縫道具、使用する素材・材料を用意する 次回までに作業をすすめておく
	23	みんなの制服／装飾①	裁縫道具、使用する素材・材料を用意する
	24	みんなの制服／装飾②	裁縫道具、使用する素材・材料を用意する 次回までに作業をすすめておく
	25	みんなの制服／装飾③	裁縫道具、使用する素材・材料を用意する
	26	みんなの制服／装飾④	裁縫道具、使用する素材・材料を用意する 次回までに作業をすすめておく
	27	みんなの制服／仕上げ①	裁縫道具、使用する素材・材料を用意する
	28	みんなの制服／仕上げ②	裁縫道具、使用する素材・材料を用意する
	29	みんなの制服／撮影準備	つくったものに合わせたコーディネートを考えてくる
	30	みんなの制服／撮影〈まとめレポート、課題提出〉	つくったものをわかりやすく説明できるようにしておくこと 相互評価をおこなう
定期試験	試験期間中に試験を実施しない。		
準備学習に必要な時間	授業時間内に終えられなかった課題については1時間程度作業を進めておくこと。 課題が変わる場合は事前にデザインや仕様を調べておくこと。		
教科書	鷲田清一著「ひとはなぜ服を着るのか」		
参考図書、教材、準備物等	準 備 物：スケッチブック、裁縫道具、筆記用具など制作に必要なものは各自で準備。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	つくったものや配布した資料は必ずファイルに保管すること。 レポートに関しては、LMS（仁短Moodle）を用いてフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。		
評価の配点比率	提出課題100％ 目標①提出課題の制作プロセス30％ 目標②提出課題の完成度50％ 目標③まとめレポート20％		
受講上の注意	日頃からファッションについての関心を深めるために「自分らしさ」を意識した洋服選びを心がけてください。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 生活造形Ⅱ　　授業コード： 1122701

英文科目名称： Textile DesignⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
前田　博子			
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		演習	ナンバリング：11E502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、テキスタイル制作における基礎的な技法を応用したものづくりをおこなうことである。 考え方やその方法について深く考え、自ら学習する姿勢を養う。 生活造形Ⅱの主な内容は「染め」とし、それら関する基礎的知識・技法を学習する。 加えて、持続可能なものづくりを思索するため繊維素材を育てることも並行する。 この授業は2コマ連続による演習授業を15週実施する。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①染め、プリント技術を知っている。		ＤＰ１	40
	目標②自身の考えたコンセプトを作品として提示できる。		ＤＰ４	40
	目標③自分の考えてつくったものをわかりやすくまとめることができる。		ＤＰ６	10
	目標④自分の考えや技法を社会性をふまえて省察できる。		ＤＰ７	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：生活を豊かにするための専門的な知識を総合的に有している。		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：自ら設定した様々な課題解決に向け、比較・判断し企画・段取りができる。 ＤＰ６：制作意図や効果・影響についてわかりやすく伝えることができる。		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：社会における自分の役割を自覚し、感謝の心を持って主体的に行動することができる。		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	染め/染料についてオリエンテーション 実のなるタネの準備	学内近辺から染料を含む草木を探す
	2	染め/染料について〈天然染料、たたき染め〉 〈課題提出〉	探した草木から染料を取り出す
	3	染め/染料について〈天然染料、浸染〉	学内近辺から染料を含む草木を探す
	4	染め/染料について〈天然染料、浸染〉　〈課題提出〉	集めた草木から染料を抽出する
	5	染め/染料について〈天然染料、浸染〉	家庭内にあるもので染料を含むものを探す
	6	染め/染料について〈天然染料、浸染、定着〉 〈課題提出〉	染まったものと染まらなかったものをわかりやすくまとめる
	7	染め/廃材について〈天然染料〉考察	染料として使用した材料がくりまわせるかを考える
	8	染め/廃材について〈天然染料〉実践	考察したことが実現できるかを実践する
	9	染め／省察、反省	今までの授業を踏まえて失敗したことについて考える
	10	染め／解決策の模索 実のなるタネの植え替え	まとめレポートの提出
	11	版について／説明	スケッチブック、画材道具持参
	12	版について／実践	スケッチブック、画材道具持参
	13	図案制作／説明	アイデアとなる資料を持参
	14	図案制作／アイデア収集	授業時間内に終わらなかった場合は次回までに仕上げる
	15	図案制作／アイデア分類	スケッチブック、画材道具持参
	16	図案制作／アイデア選出	授業時間内に終わらなかった場合は次回までに仕上げる
	17	図案制作／配置タテ	スケッチブック、画材道具持参
	18	図案制作／配置ヨコ	授業時間内に終わらなかった場合は次回までに仕上げる

	19	図案制作／リピート①	スケッチブック、画材道具持参
	20	図案制作／リピート②	授業時間内に終わらなかった場合は次回までに仕上げる
	21	型制作／準備	画材道具、カッター、定規持参
	22	型制作／切り出し	授業時間内に終わらなかった場合は次回までに仕上げる
	23	プリント／配色計画	色見本持参
	24	プリント／染液つくり	汚れても良い格好 授業時間内に終わらなかった場合は次回までに仕上げる
	25	プリント／防染	汚れても良い格好
	26	プリント／防染	汚れても良い格好 授業時間内に終わらなかった場合は次回までに仕上げる
	27	プリント／抜染準備	汚れても良い格好
	28	プリント／抜染	汚れても良い格好 授業時間内に終わらなかった場合は次回までに仕上げる
	29	プリント／定着	汚れても良い格好
	30	プリント／仕上げ　〈課題提出〉	完成後は相互評価をおこなう。
定期試験	試験期間中に試験を実施しない。		
準備学習に必要な時間	図案を作成する際にはどのようなテキスタイルの柄が存在するのかを、古典および現代まで幅広く調べておくこと。 授業時間内に終えられなかった課題については1時間程度作業を進めておくこと。		
教科書	閏間正雄監修『服地の基礎がわかるテキスタイル事典』[㈱ナツメ社]		
参考図書、教材、準備物等	準 備 物：スケッチブック、裁縫道具、筆記用具など制作に必要なものは各自で準備。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートに関しては、LMS（仁短Moodle）を用いてフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。		
評価の配点比率	目標①制作過程における技術の理解40%　目標②完成作品40% 目標③まとめレポート10%　目標④制作姿勢及びコンセプトの社会性10% 提出課題100%		
受講上の注意	染料を用いた実習のため、衣服に染料が付着する可能性が高いのでエプロンなど汚れてもよい格好で受講してください。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 生活造形Ⅲ　　授業コード： 1122801

英文科目名称： Textile DesignⅢ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
前田　博子			
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		演習	ナンバリング：11E503
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、シルクスクリーンプリントの技法の修得と物語性のあるモノづくりを行うことである。 考え方やその方法について深く考え、自ら学習する姿勢と協働することの意義を養う。 加えて、持続可能なものづくりのあり方としてアップサイクルを目指したものづくりを考察する。 この授業は2コマ続きの演習である。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①刺繍技術を知っている。布の特性を理解している。	ＤＰ３	30
	目標②装飾における素材研究を深め、アイデアを生み出し、制作する力を身につける。	ＤＰ５	50
	目標③自分の考えと社会の関係性を省察できる。	ＤＰ７	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：多様な素材を扱う技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：適切なデザイン手法を用いて、独創的な表現・運営ができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：社会における自分の役割を自覚し、感謝の心を持って主体的に行動することができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	わたしの好きをみつける	自身が持っている布にはどのような柄が多いかを事前にしらべる。
	2	まとめる／お気に入りの図案	他者に伝わりやすい観点に分類する。 次回発表
	3	発表／お気に入り図案	他者の発表を聞いて相互評価を行う。
	4	線で柄を描く①	画材道具持参 課題が終わらなかった場合は次回までに完成させる。
	5	面で柄を描く①	画材道具持参
	6	面で柄を描く②	画材道具持参 課題が終わらなかった場合は次回までに完成させる。
	7	線と面を組み合わせて柄を考える①	画材道具持参
	8	線と面を組み合わせて柄を考える②	画材道具持参 課題が終わらなかった場合は次回までに完成させる。
	9	線と面を組み合わせて柄を描く①	画材道具持参
	10	線と面を組み合わせた柄を描く②	画材道具持参 課題が終わらなかった場合は次回までに完成させる。
	11	線と面を組み合わせた柄を仕上げる①	画材道具持参
	12	線と面を組み合わせた柄を仕上げる②	画材道具持参 課題が終わらなかった場合は次回までに完成させる。
	13	型紙をつくる①	画材道具持参
	14	型紙をつくる②	画材道具持参 課題が終わらなかった場合は次回までに完成させる。
	15	製版データを完成させる	画材道具持参 課題が終わらなかった場合は次回までに完成させる。
	16	色彩計画	画材道具持参 課題が終わらなかった場合は次回までに完成させる。
	17	シルクスクリーンプリント／染料の作り方	染料の特徴を理解する。
	18	シルクスクリーンプリント／染料の使い方	染料の特徴を理解する。

	19	シルクスクリーンプリント／プリントの仕方	染料の特徴を理解する。
	20	シルクスクリーンプリント／定着の仕方	課題が終わらなかった場合は次回までに完成させる。
	21	シルクスクリーンプリント／抜染	染料の特徴を理解する。
	22	シルクスクリーンプリント／抜染	課題が終わらなかった場合は次回までに完成させる。
	23	シルクスクリーンプリント／顔料	染料と顔料の違いを理解する。
	24	シルクスクリーンプリント／顔料	課題が終わらなかった場合は次回までに完成させる。
	25	相談／よびつぎテキスタイル	協働性を意識して行動すること
	26	制作①／よびつぎテキスタイル	協働性を意識して行動すること
	27	制作②／よびつぎテキスタイル	協働性を意識して行動すること
	28	制作③／よびつぎテキスタイル	協働性を意識して行動すること
	29	制作④／よびつぎテキスタイル	協働性を意識して行動すること
	30	定着・完成／よびつぎテキスタイル	完成後は相互評価をおこなう。
定期試験	試験期間中に試験を実施しない。		
準備学習に必要な時間	知識を深めるため事前に布の柄や染料の特性について調べておくこと。 授業時間内に終えられなかった課題については1時間程度作業を進めておくこと。		
教科書	閏間正雄監修『服地の基礎がわかるテキスタイル事典』[㈱ナツメ社] 田中忠三郎著「物には心がある」		
参考図書、教材、準備物等	準備物：スケッチブック、裁縫道具、筆記用具など制作に必要なものは各自で準備。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートに関してはLMS（仁短Moodle）を用いてフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。		
評価の配点比率	目標①制作過程における技術の理解度30%　目標②コンセプトと完成作品50%　目標③制作姿勢及びコンセプトの社会性20% 提出課題100％		
受講上の注意	染料を用いた実習のため、衣服に染料が付着する可能性が高いのでエプロンなど汚れても良い格好で受講してください。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 環境デザイン演習　　授業コード： 1122901

英文科目名称： Exercise of Environmental Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
内山　秀樹			
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		演習	ナンバリング：11C502
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、建築模型の制作、まちづくり実践、個別テーマの制作をとおして、環境デザインに関する応用力を身につけることを目的とする。 模型制作については基礎的課題から応用的課題を通じて制作スキルを向上する。まちづくり実践については、デザインの力で地域社会の課題を解決する方策の検討、企画準備をまちづくり実践、環境デザインに関して自分で設定したテーマについての企画・制作に関する知識と方法を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①模型制作の手順や留意点を理解し、正確に制作することができる。	ＤＰ３	20
	目標②応用的な模型を手際よく、美しく制作することができる。	ＤＰ３	20
	目標③地域社会の課題の解決のためのデザイン手法を提案することができる。	ＤＰ４	40
	目標④地域社会の課題解決に向け、他者と共同して取り組むことができる。	ＤＰ８	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：多様な素材を扱う技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：自ら設定した様々な課題解決に向け、比較・判断し企画・段取りができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：地域社会の課題に対して、他者を思いやりながら協働して対応策を提案することができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	初級模型制作(1)-1：模型制作方法の説明	模型作りの説明を十分理解できなかった者、出席できなかった者は、貸出用DVDを見て復習しておくこと。
	2	初級模型制作(1)-2：課題①の説明　敷地、1F床の制作	同上
	3	初級模型制作(2)-1：2F床、壁の制作	デザインカッター、カッター対応定規を用意すること。 授業開始までにその他必要な工具、材料を倉庫から準備して待機すること。
	4	初級模型制作(2)-2：2F床、壁の制作	同上
	5	初級模型制作(3)-1：屋根の制作、エクステリアの説明	次回授業までに初級模型の課題を仕上げて提出のこと。
	6	初級模型制作(3)-2：屋根の制作、エクステリアの制作	同上
	7	応用模型制作(1)-1：課題②の説明、オリジナル図面の作成、出力	「すまいの計画」（1回生後期開講）で作成したプランをもとに模型用の図面を作成するので、データの確認、プランの改善を検討しておくこと。
	8	応用模型制作(1)-2：課題②の敷地、1F床の制作	
	9	応用模型制作(2)-1：2F床、壁の制作、屋根	
	10	応用模型制作(2)-2：2F床、壁の制作、屋根	
	11	応用模型制作(3)-1：エクステリアの制作	第12回授業で合評をするので、この授業で完成するよう、屋根までの作り込みを終えておくこと。
	12	応用模型制作(3)-2：課題②についての合評	課題②についてプレゼンできるように準備してくること
	13	まちづくり実践(1)-1：課題③に関する説明	実際の森田地区の地域課題を取り上げその解決に向け現況調査、課題の検討とプランニングを行う。 地元会議等、実践活動が夜や休日になる場合があるので、空けておくように。
	14	まちづくり実践(1)-2：対象地域の調査、テーマに関する情報収集	同上

	15	まちづくり実践(2)-1：地域課題の整理	対象地域について、地域課題の整理と課題解決方策を検討する。 地元会議等、実践活動が夜や休日になる場合があるので、空けておくように。
	16	まちづくり実践(2)-2：まちづくりの方針検討	同上
	17	まちづくり実践(3)-1：企画・計画	対象地域について検討した企画、計画を実施するための準備を行う。 地元会議等、実践活動が夜や休日になる場合があるので、空けておくように。
	18	まちづくり実践(3)-2：・準備・段取り	同上
	19	まちづくり実践(4)-1：実践	具体的に現場で企画、計画を実行する。 地元会議等、実践活動が夜や休日になる場合があるので、空けておくように。。
	20	まちづくり実践(4)-2：実践	同上
	21	個別テーマ(1)-1課題④の説明:個別テーマの検討	個別テーマを検討するので事前に、環境デザインのアプローチで取り組みたい地域社会の課題について調べてくること。
	22	個別テーマ(1)-2テーマに関する情報収集	同上
	23	個別テーマ(2)-1:企画、ラフスケッチ、プレゼン準備	授業後半に各自の企画についてのプレゼンできるように準備して臨むこと。
	24	個別テーマ(2)-1:課題③のプレゼン	同上
	25	個別テーマ(3)-1:試作（企画計画案の検討）	
	26	個別テーマ(3)-2:試作（企画計画案の検討）	
	27	個別テーマ(4)-1:制作,実行	
	28	個別テーマ(4)-2:計画の取りまとめ	
	29	個別テーマ(5)-1:最終とりまとめ、仕上げ	授業後半に各自の作品について合評するので、プレゼンできるように準備しておくように。（課題④の提出）
	30	個別テーマ(5)-2:合評	同上
定期試験	試験期間中に試験を実施しない。		
準備学習に必要な時間	毎回の到達目標等を示すので、目標に至っていないものは必ず事後学習・作業を行い、目標に到達しておくこと。 毎回１時間程度の事前事後学習・作業が必要。		
教科書	使用しない。		
参考図書、教材、準備物等	必要資料 適宜配布する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題等は期末もしくは採点が済み次第、各自に返却する。		
評価の配点比率	目標①：課題①模型作りの手順の理解と丁寧さ　20% 目標②：課題②模型作りの手際よさと、出来栄え　20% 目標③：課題③まちづくり実践の提案内容　20%、課題④の個別テーマの提案内容　20% 目標④：課題③まちづくり実践でのグループへの協働性、貢献度　20%		
受講上の注意	環境デザイン分野の卒業研究に取り組むものは、受講することを原則とする。 机上には、授業に関係ない、かばん等を置くことを禁ずる。 私語が目立つ場合は座席指定とする。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： インテリアプランニング　　授業コード： 1123001

英文科目名称： Interior Planning

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
原田　ゑつ子			
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		演習	ナンバリング：11C501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的はインテリア業界に従事するために必要な住生活用品の知識、接客販売の知識、能力を修得することである。販売知識、商品知識を学び、７月に実施されるリビングスタイリスト２級の資格試験を受験する。住宅展示場を見学しインテリアの現状も学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①住関連商品の販売知識を修得することが出来る。	ＤＰ１	20
	目標②住関連商品の商品知識を修得することが出来る。	ＤＰ１	20
	目標③インテリア従事者としての接客マナーを修得、表現することが出来る。	ＤＰ４	20
	目標④社会人としてのビジネスマナーを修得、表現することが出来る。	ＤＰ４	20
	目標⑤グループで協調し企画、提案することが出来る。	ＤＰ７	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：生活を豊かにするための専門的な知識を総合的に有している。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：自ら設定した様々な課題解決に向け、比較・判断し企画・段取りができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：社会における自分の役割を自覚し、感謝の心を持って主体的に行動することができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス　リビングスタイリスト、インテリアコーディネーターとは	
	2	リビングスタイリストについてレポート作成	レポート作成
	3	ミニレポート発表、講評	
	4	リビングスタイリスト、インテリアコーディネーターの仕事	過去問題を解く　（自主学習）　次週解説解答
	5	販売知識　流通（流通のしくみ　小売業の役割）	
	6	販売知識　流通（小売業の分類　チェーン租織）	過去問題を解く　（自主学習）　次週解説解答
	7	販売知識　情報	
	8	販売知識　マーケティング　店舗演出	過去問題を解く　（自主学習）　次週解説解答
	9	販売知識　接客販売 （基本業務　購買心理　接客販売の流れ）	
	10	販売知識　接客販売 （話し方　立ち振る舞い　身だしなみ　クレーム）	過去問題を解く　（自主学習）　次週解説解答
	11	販売知識　ビジネスマナー（社会人の基本、報告連絡相談）	
	12	販売知識　ビジネスマナー（ビジネス用語　自己管理） 文章問題	過去問題を解く　（自主学習）　次週解説解答 文章問題
	13	文章問題発表 商品知識　家具（家具の分類）	
	14	商品知識　家具（いす　テーブル　収納家具　ベッド）	過去問題を解く　（自主学習）　次週解説解答
	15	商品知識　窓装飾（カーテン）	
	16	商品知識　窓装飾（シェード） こんなリビングスタイリストになりたい　レポート作成	過去問題を解く　（自主学習）　次週解説解答 レポート作成

	17	レポート発表	
	18	商品知識　窓装飾（スクリーン　ブラインド）	過去問題を解く　（自主学習）　次週解説解答
	19	商品知識　照明　　（照明の基礎　光源）	
	20	商品知識　照明　　（照明器具）	過去問題を解く　（自主学習）　次週解説解答
	21	商品知識　設備　（キッチン　バス）	
	22	商品知識　設備　（トイレ　その他の設備）　リフォーム	過去問題を解く　（自主学習）　次週解説
	23	商品知識　住生活アクセサリー　（グリーン　テーブル）	
	24	商品知識　住生活アクセサリー（アート　その他の雑貨）	過去問題を解く　（自主学習）　次週解説解答 模擬テストの自主学習
	25	接客場面を想定しグループで対策、対応、解決を討議する	
	26	対策案、対応策、解決策をグループでレポート作成	レポートを仕上げる
	27	グループで発表	
	28	解説及び講評	
	29	リビングスタイリスト資格試験事前模擬テスト	
	30	模擬テスト解説解答	

定期試験	期末試験に代わって、リビングスタイリスト資格試験事前に模擬テストを行う。
準備学習に必要な時間	レポート作成、過去問を解く課題に1時間程度必要とする。
教科書	リビングスタイリスト資格試験公式テキスト1級・2級（ハウジングエージェンシー）、 リビングスタイリスト資格試験過去問題集2020（ハウジングエージェンシー）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：インテリアコーディネーターハンドブック総合版上、下（発行 公益社団法人インテリア産業協会）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	講義の終わりに、その講義内容の過去問題を配布し（自主学習）次の講義で解説する。人前で話すことが苦手意識の克服をねらいに、提出のレポート（リビングスタイリストについて、こんなリビングスタイリストになりたい、住宅展示場見学）を発表し、それを評価アドバイスする。
評価の配点比率	目標①②③④7月のリビングスタイリスト資格試験結果４０％、リビングスタイリスト模擬試験３０％　ミニレポート１０％ 目標⑤接客場面討議発表、レポート２０％
受講上の注意	授業ではリビングスタイリストの資格取得を目標にするが、将来はインテリアコーディネーターを目的とする。インテリアコーディネーターの情報は随時発信する。
教員の実務経験	インテリアコーディネーターとしてインテリア業界に携わった経験を活かし、現場での実務例を挙げて解説し、実情に即した講義を行う。また、レポート発表、住宅展示場見学発表の講義では、インテリア業務の経験に基づいて、学生の質問に答えたり、助言を行ったりする。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： インテリア設計　　授業コード： 1123101

英文科目名称： Interior Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
林　公一朗			
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		演習	ナンバリング：11C503
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、２次元汎用ＣＡＤソフト「ＪＷＣＡＤ」を使い、木造住宅の基本的な平面図や展開図などを入力できる技能を身につけることである。 また、自ら設定したコンセプトを基に、３Ｄマイホームデザイナーを使い、住宅一軒分のインテリアをデザインしていく能力を身につける。 色彩計画、生活動線、趣旨趣向などから、最適なエレメントを選択していくうえで、ソフトの習熟を図る。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①ＪＷＣＡＤの基本的な操作を身につけることができる。		ＤＰ３	30
	目標②マイホームDやイラストレーターでプレゼンボードを制作することができる。		ＤＰ３	20
	目標③住宅一軒分のインテリアをデザインすることができる。		ＤＰ５	20
	目標④コンセプトに基づいたエレメントを選択しデザインすることができる。		ＤＰ５	10
	目標⑤コンセプトに基づいたプレゼンボードを仕上げることができる。		ＤＰ６	10
	目標⑥プレゼンボードを、わかりやすく伝えることができる。		ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：多様な素材を扱う技能を身につけている。		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：適切なデザイン手法を用いて、独創的な表現・運営ができる。 ＤＰ６：制作意図や効果・影響についてわかりやすく伝えることができる。		
	【主体性・多様性・協働性】			

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス：ＪＷＣＡＤやマイホームDの説明、使用方法などの概要説明	
	2	ＪＷＣＡＤのシステム概要説明、環境設定（プログラム起動、ファイル保存等）の確認	
	3	ＪＷＣＡＤの操作　基本操作① コマンド「線分」「四角形」操作の習得	一番基本となる操作を習得していくので、事後問題なく使えるよう復習しておくこと
	4	〃 コマンド「円」「消去」「中心線」操作の習得	
	5	ＪＷＣＡＤの操作　基本操作② コマンド「複線」「２線」「包括」操作の習得	
	6	〃 コマンド「コーナー」「寸法」「文字」操作の習得	
	7	ＪＷＣＡＤの操作　基本練習 基本的な平面図の入力	習得した基本操作を基に、基本練習問題を入力、最後に出力し提出する
	8	〃 システムキッチン詳細図の作図	
	9	ＪＷＣＡＤの操作　応用練習（平面図の作図①） 「通り芯」「柱」の入力	
	10	〃 「壁」「建具」「床仕上げ」の入力	
	11	ＪＷＣＡＤの操作　応用練習（平面図の作図②） 「床仕上げ」「家具」の入力	
	12	〃 「設備機器」「外構」の入力	
	13	ＪＷＣＡＤの操作　応用練習(平面図の作図③、展開図の作図) 「文字」「寸法」の入力、印刷 展開図の入力①	平面図および展開図を入力、最後に出力し提出する

	14	ＪＷＣＡＤの操作　展開図の入力②、印刷	
	15	課題制作:住宅1軒分の企画書の立案	自らが考える理想の住宅を１軒分デザインするための企画書を立案し発表する
	16	課題制作:企画書のコンセプト発表 課題制作:住宅のデザイン① エスキース	エスキース
	17	課題制作:住宅のデザイン① エスキース、間取りの計画①	エスキース、３Ｄマイホームデザイナーを使用し、住宅をデザインしていく（部屋の配置・同線計画等）
	18	課題制作:住宅のデザイン② 間取りの計画②	
	19	課題制作:住宅のデザイン② 間取りの計画③	
	20	課題制作:住宅のデザイン③ 間取りの計画④	
	21	課題制作:住宅のデザイン③ 外観、窓の入力	外部や細部の入力
	22	課題制作:住宅のデザイン③ 室内仕上げ等の入力	
	23	課題制作:住宅のデザイン④ 家具、小物等の入力	エレメント（家具・小物・照明等）の入力
	24	課題制作:住宅のデザイン④ 設備機器、照明等の入力	
	25	課題制作:エクステリアのデザイン① 庭・アプローチの入力	エクステリア（外構）の入力
	26	課題制作:エクステリアのデザイン② 外構エレメントの入力	
	27	課題制作:プレゼンボードの制作	イラストレーターを使用し、Ａ３用紙３枚以上のプレゼンボードを制作する
	28	課題制作:プレゼンボードの仕上げ	
	29	プレゼンボードの制作発表	制作したプレゼンボードを発表する（１人５分程度）
	30	制作発表の続き、講評	

定期試験	試験期間中に試験を実施しない。
準備学習に必要な時間	毎回1～2時間程度の事後学習が必要。 住宅一軒分の企画・立案には多くの時間が必要となるため、それまでの授業を通じて予め構想を練っておくことが大事である。
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	教　材：ＪＷ　ＣＡＤ（フリーソフト） マイホームデザイナーPRO８(メガソフト) イラストレーター、A3判写真用マット紙 若しくは 光沢紙（3枚以上）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業内(15回目)の課題提出とし、最後に講評を行う。 15回の授業終了後の課題提出は原則認めない。
評価の配点比率	目標①：課題①JWCADの習熟度、基本操作：5%×2回＝10%、応用練習（平面図：15%＋展開図5%＝20%） 目標②：課題②のプレゼンボードの制作（20%） 目標③：企画書（課題②）のコンセプトに基づき住宅をデザインできたかどうか（20%） 目標④：課題②のコンセプトに基づいたエレメントを選択できたかどうか（10%） 目標⑤：課題②のコンセプトに基づきプレゼンボードとして表現できたかどうか（10%） 目標⑥：課題②のプレゼンテーション（10%）
受講上の注意	講義前半ではＪＷＣＡＤを使い、後半では３Ｄマイホームデザイナーを使い、住宅全体のデザインをします。 自分の中のイメージを図面化（平面図、立面図）若しくは画像化（パース、画像等）してプレゼンテーションボードを制作し、他人に伝える能力を養います。
教員の実務経験	一級建築士として様々な建築物の設計･デザインに携わっているという実務経験を活かし、建築物に密接な関係性があるインテリア・デザインについて、一歩踏み込んだ知識や実例などを講義する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 専門演習　　授業コード： 1123201

英文科目名称： Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	選択
担当教員			
西畑敏秀、内山秀樹、前田博子、橋本洋子			
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		演習	ナンバリング：11Z501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、協働的に問題を解決する能力を身につけることである。 グループもしくは個人によるプロジェクト活動・制作を通して、研究法やコミュニケーション方法を学ぶ。 課題を調査し、その課題に対してデザイン思考（企画立案、企画実行し、自己評価・相互評価を経て、改善案を探る）を活用して解決方法を提案する。 その内容を分かりやすく美しく、報告書として編集する。 この授業での学習を卒業研究へとつなげていくことがねらいである。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①自ら設定したさまざまな課題解決に向けて、思考・判断ができる。		ＤＰ４	40
	目標②適切なデザイン手法を用いて、独創的な表現・運営ができる。		ＤＰ５	30
	目標③制作意図や効果・影響について分かりやすく伝えることができる。		ＤＰ６	10
	目標④地域社会の課題に対して、他者を思いやりながら協働して対応策を提案することができる。		ＤＰ８	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】			
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：自ら設定した様々な課題解決に向け、比較・判断し企画・段取りができる。 ＤＰ５：適切なデザイン手法を用いて、独創的な表現・運営ができる。 ＤＰ６：制作意図や効果・影響についてわかりやすく伝えることができる。		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：地域社会の課題に対して、他者を思いやりながら協働して対応策を提案することができる。		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス（全体説明と注意点など） 報告書について（全ての記録をファイリングし提出）	※毎回事後学習で次回までの課題を行う
	2	研究テーマの検討	
	3	研究テーマの個人発表	
	4	研究テーマの再検討	
	5	研究テーマの個人再発表	
	6	研究テーマの方向性とグループの決定 グループでのテーマの検討	
	7	研究テーマに関する調査	
	8	調査結果に基づく研究テーマ案の発表	
	9	研究テーマの決定と研究計画の作成	
	10	研究テーマと研究計画の発表	
	11	研究テーマに関する情報の収集・分析・考察①	
	12	研究テーマに関する情報の収集・分析・考察② 発表準備	
	13	途中発表①前半	履修者による相互評価を行う
	14	途中発表①後半	履修者による相互評価を行う
	15	中間発表資料作成	
	16	中間発表のまとめと振り返り 後期研究計画の検討	
	17	調査研究活動①	

	18	調査研究活動②	
	19	調査研究活動③	
	20	途中発表②前半	履修者による相互評価を行う
	21	途中発表②後半	履修者による相互評価を行う
	22	調査研究活動④	
	23	調査研究活動⑤	
	24	調査研究活動⑥	
	25	途中発表③前半	履修者による相互評価を行う
	26	途中発表③後半	履修者による相互評価を行う
	27	報告書の作成	
	28	発表資料の作成①	
	29	途中発表④前半	履修者による相互評価を行う
	30	途中発表④後半	履修者による相互評価を行う

定期試験	試験期間中に試験は行わない。 進捗状況の途中発表と報告書の提出が必要で、それらで採点する。
準備学習に必要な時間	毎回60分程度 「つくる・しらべる・かんがえる・かつどうする」をじっくり時間をかけて行う。
教科書	使用しない。 その都度必要な資料を配布する。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：その都度、適宜紹介する。 教材：　必要に応じてプリントなどを配布する 準備物：　必要と思われる物は各自準備すること。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	定期的な発表に対して、適宜教員や学生からアドバイス、フィードバックする。
評価の配点比率	途中発表60%、報告書40% 目標①自ら設定したさまざまな課題解決に向けて、思考・判断ができる。40% 目標②適切なデザイン手法を用いて、独創的な表現・運営ができる。30% 目標③制作意図や効果・影響について分かりやすく伝えることができる。10% 目標④地域社会の課題に対して、他者を思いやりながら協働して対応策を提案することができる。20%
受講上の注意	卒業研究のための方法論を学ぶ科目ですから、主体的に取り組んでください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 卒業研究　　授業コード： 1123301

英文科目名称： Graduation Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	必修
担当教員			
内山　秀樹			
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目		演習	ナンバリング：11Z502
添付ファイル			

授業の概要	卒業研究を通して、問題を発見し、発見した問題に対する探究の方法を学び、問題を解決していく総合的な知識・技術を学習する。 ※時間割の中には、授業を組まない。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①卒業研究のテーマについて、適切なデザイン手法で独創的な表現が出来る。		ＤＰ４	20
	目標②卒業研究における問題を解決するため、的確に判断できる。		ＤＰ５	20
	目標③他者の意見を傾聴し、自らの考えを伝えられる。		ＤＰ６	20
	目標④主体的に卒業研究に取り組むことができる。		ＤＰ７	20
	目標⑤多様な文化、多様な人や考えの意義を説明できる。		ＤＰ８	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】			
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：自ら設定した様々な課題解決に向け、比較・判断し企画・段取りができる。 ＤＰ５：適切なデザイン手法を用いて、独創的な表現・運営ができる。 ＤＰ６：制作意図や効果・影響についてわかりやすく伝えることができる。		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：社会における自分の役割を自覚し、感謝の心を持って主体的に行動することができる。 ＤＰ８：地域社会の課題に対して、他者を思いやりながら協働して対応策を提案することができる。		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について	
		【生活デザイン専攻】 社会における各デザインの分野についての研究・制作を行う。指導教員の指示に従い、主として演習形式で行うが、主題によっては異なった形式で行う場合もある。		
		下記の計画は、専攻全体で実施する。		
		9月下旬：生活デザイン専攻　卒業研究中間発表会 1月1週目：卒業研究要旨の提出 1月末：卒業研究成果物の提出 2月中旬：生活デザイン専攻　卒業研究発表会 卒業研究展覧会		
定期試験	試験に代わって、卒業研究発表会にて口頭発表を行う。			
準備学習に必要な時間	中間発表や作品提出時に、毎回、１時間程度の予習・復習が必要です。			
教科書	卒業研究指導担当者の指示を受けること。			
参考図書、教材、準備物等	卒業研究指導担当者の指示を受けること。			
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題のフィードバックは、卒業研究指導担当者ごとに行う。			
評価の配点比率	生活デザイン専攻は次の配分で評価する。卒業研究成果物60%（目標①③⑤）、卒業研究要旨・発表40%（目標②④）			
受講上の注意	卒業研究に向けて日常的に展覧会等に行き、社会性や感性を高めるよう努力すること。			

教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 人間と仏教Ⅱ　　授業コード：1120101　1320101　1620101

英文科目名称： BuddhismⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	１単位	必修
担当教員			
CI委員長			
生活科学学科　教養科目		演習	ナンバリング：10A102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、宗教行事や講演など様々な活動を通して、建学の精神「仁愛兼済」の生き方を育み、学園是「和敬・精進・反省」の実践力を養うことである。 ※キャンパスカレンダーに記載されたＡＨの日を具体的な活動の場とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①仁愛学園の建学の精神について理解する。	生活DP7	30
	目標②仁愛学園の歩みについて説明できる。	生活DP1	10
	目標③仁愛学園の歩みについて説明できる。	生活DP6	10
	目標④「仁愛兼済」を実践する姿勢を身につける。	生活DP8	25
	目標⑤自らを振り返る態度を身につける。	生活DP9	25
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。（和敬） 生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。（精進） 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	1年次 4月　降誕会・・・第1回講義	第1回レポート
	2	4月　学歌・讃仏歌指導	
	3・4	5月　開学記念日	
	5	5月　2年後の理想像と１年次前期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の説明および記入
	6	6月　第2回講義	第2回レポート
	7	9月　CI企画 1年次前期の自己評価と後期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	8	12月　成道会	
	9	1月　讃仰会（追弔会）	
	10	2年次 4月　降誕会・・・講演 1年次の自己評価と2年次前期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入 ※遠隔非同期にて実施
	11・12	5月　開学記念日	※詳細は後日連絡
	13	9月　CI企画 2年次前期の自己評価と後期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	14	11月　成道会	
	15	12月　讃仰会（追弔会）・・・講演	第3回レポート
	16	1月　2年間の自己評価	『充実した学生生活を送るために』の記入

定期試験	試験に代わって、全講義終了後に第3回レポート『充実した学生生活を送るために』を記入してもらう。
準備学習に必要な時間	日常生活のなかで、常に仁愛の自覚を持ち、兼済の実践に努めること。また、課題の作成に多くの時間が必要になる。
教科書	使用しない

参考図書、教材、準備物等	参考図書：『礼讃抄』『和』（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 適宜、資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	各レポートは授業担当者が確認した後、返却されるので、修学ポートフォリオ（ファイル）にまとめておくこと。
評価の配点比率	目標①第1回レポート（30%） 目標②第2回レポート（10%） 目標③第2回レポート（10%） 目標④第2回レポート（10%）、第3回レポート（15%） 目標⑤第3回レポート（15%）、『充実した学生生活を送るために』（10%）
受講上の注意	AHは必ずスーツを着用し、学章・念珠を持って参加すること。ただし、5月の開学記念日は除く。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 社会活動実践　　授業コード：1120201　1320201　1620201

英文科目名称： Social Activities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	１単位	選択
担当教員			
CI委員長・総合学務センター長			
生活科学学科　教養科目		演習	ナンバリング：10A501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、建学の精神に基づき、自らが他者のために働き出す実践的活動を行うことである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	生活DP2	5
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	生活DP6	5
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	生活DP7	10
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	生活DP8	20
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	生活DP9	10
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	生活DP2	5
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	生活DP6	5
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	生活DP7	10
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	生活DP8	20
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	生活DP9	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。（和敬） 生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。（精進） 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		単位認定の方法 本科目の単位認定は、通常の科目のように教員の作成したシラバスに基づいて実施されるものではなく、在学期間中に学生が自ら主体的に取り組んだ30時間以上の活動（ボランティア活動、地域支援活動、福祉活動、学習支援活動、NPO活動、国際貢献活動など）について単位を認定するものである。	
		活動後、所定の用紙（社会活動実践記録・単位認定申請書、社会活動実践レポート用紙）に活動内容、感想を記入し、資料と共に教務課に提出して認印を受ける。申請書類の提出をもって履修登録を兼ねることとする。夏期、冬期等休暇中の活動報告は休暇明け1週間以内に提出すること。	
		活動を証明する資料提出が困難な場合は、所定の用紙に活動先責任者の証明をもらうこと。また学生が多数で取り組んだ場合には、活動の指導者または責任者が取りまとめて申請することも可とする。ただし、レポート用紙は学生各人が提出しなければならない。	
定期試験	試験に代わって、レポートを提出してもらう。		
準備学習に必要な時間	適宜、事前事後学習を必要とする。		
教科書	使用しない		
参考図書、教材、準備物等	使用しない		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートは、評価後にフィードバックする。		

評価の配点比率	目標①②レポート（100%）
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 行動と心理　　授業コード：1120401　1320301

英文科目名称： Behavioral Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前期	２年次	２単位	選択	
担当教員				
中尾　繁史				
生活科学学科生活デザイン専攻・生活情報専攻　教養科目			講義	ナンバリング：10B502
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は、人の行動とその心理を理解することである。 人が行動するとき、そこには何らかの理由がある。その理由を考えるため、「心身の発達」「認知(知覚・記憶・学習・思考)」「動機づけ(学習意欲)」「その人らしさ(性格・知能)」「対人関係」「心の病気」について学ぶ。また、心理テストを実施し、自分を知るとともにレポート作成を通じて自己を客観視する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①心理学の諸分野における基本的事項について理解する。	生活DP3	40
	目標②様々な問題について、心理学的解釈のもとに問題解決のための論理的思考ができる。	生活DP4	20
	目標③生活上の課題について、心理学がどのように応用できるか述べられる。	生活DP5	20
	目標④様々な問題について、心理学的解釈を通して問題の所在を理解する。	生活DP2	10
	目標⑤人間の思考プロセスについて理解し、社会や文化の多様性について省察できる。	生活DP9	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。 生活DP3：人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	1章　心理学とは	授業の進め方、取組み方・成績評価について説明する。
	2	2章　胎児期・乳幼児期の心理	
	3	3章　児童期・青年期の心理	心理テスト実施①
	4	4章　成人期・老年期の心理	
	5	5章　感覚・知覚	心理テスト実施②
	6	6章　学習と記憶	
	7	7章　思考と言語	
	8	中間試験と中間まとめ	1章～７章までの中間試験を実施する。
	9	8章　動機づけと学習意欲	心理テスト実施③
	10	9章　性格	
	11	10章　知能	心理テスト実施④
	12	11章　対人認知	
	13	12章　社会的影響	心理テスト実施⑤
	14	13章　ストレスと心の病気	
	15	14章　カウンセリングと心理療法	

定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。
準備学習に必要な時間	復習：講義毎に、2時間程度の事後学習として講義内容を復習すること。 予習：次回の講義内容に関連する新聞記事等を参照し、自分が興味を持ったテーマについて心理学的解釈を行うこと(1時間程度)。

教科書	使用しない。授業時に資料を配布する。
参考図書、教材、準備物等	参考図書については講義中に紹介する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	疑問点は講義中に質問することが望ましい。 計5回の心理テストのレポートにはコメントを付して返却する。
評価の配点比率	目標①心理テストのレポート10%、中間試験20%、期末試験10% 目標②心理テストのレポート10%、期末試験10% 目標③心理テストのレポート10%、期末試験10% 目標④心理テストのレポート10% 目標⑤心理テストのレポート10%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 福井地域学　　授業コード： 1320401

英文科目名称： Science of Fukui area

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
南保　勝			
生活科学学科生活情報専攻　教養科目		講義	ナンバリング：10B505
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、地域経済を歴史的・文化的視点から考察し、社会人としての教養を磨くとともに、地域のあるべき姿を考えることである。 そのために、以下３つの視点を学ぶ。 １．福井県はどのように成立し、近世、明治期の福井県にはどのような産業が栄えたか（過去）。 ２．そして現在、福井県の経済、それを支える産業・企業・地域人のすごさとは（現在）。 ３．その上で、今後求められる地域のあるべき姿、地方創生を考える（未来）。 テキストをベースに、授業計画に沿って進める。各講義の終わりに当日の講義の復習も兼ねた「演習」に取り組む。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①地域経済を歴史的・文化視点で考察できる。		生活DP2	30
	目標②地域の産業・企業・県民生活等、地域経済の特徴が説明できる。		生活DP4	15
	目標③地域経済・産業・企業等の未来について述べることができる。		生活DP5	15
	目標④地域活性化の方向性を示すことができる。		生活DP6	30
	目標⑤地域の課題に対し自己の主張が述べられる。		生活DP9	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。		
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。 生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。		
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス。福井県はどのように成立したか。	「継体天皇」と「越国」、近世・幕末へ、福井県の誕生について
	2	近世、明治期における福井県の産業	日本屈指の工業地域、和釘の生産では日本最大
	3	福井県経済の今（その1）	地域の経済規模、人口、産業
	4	福井県経済の今（その2）	労働、県民性、歴史から生まれたライフスタイル
	5	歴史で辿る市まちの姿（その1）	あわら市、坂井市、福井市、大野市、勝山市
	6	歴史で辿る市まちの姿（その2）	鯖江市、越前市、敦賀市、小浜市
	7	製造業（その1）	繊維産業、めがね産業
	8	製造業（その2）	化学、機械・金属、伝統的工芸品産業
	9	非製造業	商業・サービス業、建設業、転換期の原子力産業
	10	地域企業の特徴（その1）	意外と多い長寿企業
	11	地域企業の特徴（その2）	外発型企業群、小規模企業の技術水準の高さ
	12	地方創生に向けて（その1）	地方創生とはいったいどうゆう意味か
	13	地方創生に向けて（その2）	地方創生に向けて、官民が成すべきこととは
	14	総括（その1）	1回目講義～6回目講義までの復習
	15	総括（その2）	7回目講義～13回目講義までの復習
定期試験	試験中に筆記試験を行う		

準備学習に必要な時間	毎回の授業に合わせて、教科書の該当箇所を事前学習しておくこと（１時間程度）
教科書	南保勝著「福井地域学」[2016.3]晃洋書房
参考図書、教材、準備物等	南保勝著 「地域経営分析」 [2019.3]晃洋書房
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業への取り組み方については、1回目のガイダンスで説明します。授業終了前に実施する演習は、評価の対象とするため真面目に取り組み提出すること。試験等は、評価後にフィードバックする。疑問点、質問などは、Eメール(nambo@fpu.ac.jp)、Moodleメッセージで連絡ください。
評価の配点比率	目標①　筆記試験出題数50問のうち30% 目標②　筆記試験出題数50問のうち15% 目標③　筆記試験出題数50問のうち15% 目標④　筆記試験出題数50問のうち30% 目標⑤　授業終了後毎回実施する演習10%
受講上の注意	本講義を通して福井県の地域特性を少しでも理解し、社会人として活かしてほしい。
教員の実務経験	地方銀行及びそのシンクタンクで学んだ実践的な経済学、経営学を活かして、福井地域学という領域学を確立したが、その福井地域学でまとめた地域の歴史、文化、伝統、産業、暮らしなど地方創生にも関連する必要知識を教示し、地域愛を育てる。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　■反転授業　■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 音楽の世界　　授業コード：1120501　1320501

英文科目名称： World of Music

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期または後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
大久保　功治			
生活科学学科生活デザイン専攻・生活情報専攻　教養科目		講義	ナンバリング：10B506
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、世界の様々な音楽文化活動に触れることにより、受講生の音楽的教養の向上をめざすと同時に、文化人としての心を育むことにある。 我々の周辺を見ると、ＢＧＭに始まりコンサートホールでの音楽に至るまで、さまざまな種類の音楽が溢れている。授業ではこれらの音楽諸作品の構造及び背景について立体的なアプローチを行いながら、さまざまな音楽の豊かな表現に触れてゆく。まず、ヨーロッパで発生したいわゆる西洋音楽の基本的な構造（西洋音楽の三つの要素である旋律、和音、リズムを中心に）を主軸に於きながら、西洋音楽との基本的な構造について比較、対照を行った上で、それらの音楽作品の魅力を探ってゆく。今日楽しまれている音楽作品（ジャズ、ポピュラー、日本の伝統音楽、その他の民俗音楽、その他の商業音楽）を鑑賞する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①国家や民族によって異なった独自の音楽文化が存在することを理解する。	生活DP9	10
	目標②音楽的教養を深化させ、文化的教養や視野を広める。	生活DP1	20
	目標③音楽の基本的理論を学習し理解する。	生活DP3	20
	目標④日本音楽の音楽的な特徴を理解し、楽しく鑑賞することが出来る。	生活DP1	30
	目標⑤音楽文化がコミュニケーションの重要な役割を果たしていることを理解する。	生活DP6	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。 生活DP3：人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	音とイメージの世界（映画やBGMに使用される音楽のイメージについて）	
	2	旋律と音階について（音階の構造について）	関連する音楽関係の書籍を学習すること（中学・高校の音楽教科書など）
	3	音楽と宗教（音楽と宗教のかかわりについて）	関連する音楽関係の書籍を学習すること
	4	民族の音階と旋律（民族による音階の特徴について）	関連する音楽関係の書籍を学習すること
	5	音楽の構造を学ぶ①ハーモニーについて	関連する音楽関係の書籍を学習すること（中学・高校の音楽教科書など）
	6	音楽の構造を学ぶ②リズムについて	関連する音楽関係の書籍を学習すること（中学・高校の音楽教科書など）
	7	音楽の構造を学ぶ③ポップするリズム	関連する音楽関係の書籍を学習すること
	8	日本の音楽について（日本音楽の魅力を探る）	関連する音楽関係の書籍を学習すること（中学・高校の音楽教科書など）
	9	音楽の構造を学ぶ④楽曲の形式について（歌曲の形式について）	関連する音楽関係の書籍を学習すること（中学・高校の音楽教科書など）
	10	音楽の構造を学ぶ④楽曲の形式について（器楽曲の形式について）	関連する音楽関係の書籍を学習すること
	11	音楽鑑賞①フルート音楽を聴く	Ｅ館４階ホールにて実施する
	12	楽器について（楽器の種類と構造について）	関連する音楽関係の書籍を学習すること
	13	VOICE（声の魅力と発声法について）	関連する音楽関係の書籍を学習すること
	14	音楽鑑賞②ディズニー映画：ファンタジー鑑賞	Ｅ館４階ホールにて実施する
	15	音楽鑑賞③バレエ音楽の鑑賞：クルミ割り人形DVD	Ｅ館４階ホールにて実施する

定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。
準備学習に必要な時間	毎時間3時間程度の事前事後学習が必要。
教科書	使用しない。授業時に資料を配布する。
参考図書、教材、準備物等	参考資料：中学・高校の音楽教科書を準備しておくこと。その他、必要に応じて資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	試験は、評価後にフィードバックする。
評価の配点比率	目標①期末定期試験10%、目標②～④期末定期試験70%、目標⑤期末定期試験20%
受講上の注意	授業では音楽鑑賞に多くの時間をさく。静粛に音楽鑑賞することが重要である。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： スポーツ実技(生活科学学科)　　授業コード：1120601　1320601　1320602　1620501

英文科目名称： Sports Practical Skill

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
通年	２年次	１単位	選択	
担当教員				
出村　友寛				
生活科学学科　教養科目		実技		ナンバリング：10C101
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は、体力とスポーツの知識、技術、マナーを身につけることである。 そのために、各種スポーツを実践する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標① 積極的に各種スポーツに参加し、他者と共に体力の維持、増進に取り組むことができる。	生活DP6	40
	目標② 各種スポーツの技術を理解し、身につけることができる。	生活DP1	20
	目標③ 各種スポーツの知識を理解し、身につけることができる。	生活DP1	20
	目標④ スポーツの多様性を理解し、生涯にわたる関わり方を考えることができる。	生活DP9	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション・キンボール①基本技術（キャッチ、パス）	
	2	キンボール②基本技術（セット、ヒット）	
	3	キンボール③ゲーム	
	4	トランポリン①ストレート･バウンズ	膝保護のため、長パンを推奨
	5	トランポリン②ストレート･バウンズの発展技	
	6	トランポリン③ニー・ドロップ･バウンズ	
	7	トランポリン④シート･ドロップ･バウンズ	
	8	トランポリン⑤連続技	
	9	トランポリン⑥実技試験の構成と練習	
	10	トランポリン⑦実技試験とまとめ	実技試験①
	11	バレーボール①基本技術（パス、トス、サーブ）主に1対1	
	12	バレーボール②基本技術（スパイク）主に1対1	
	13	バレーボール③基本技術および連携プレー	
	14	バレーボール④実技試験	
	15	バレーボール⑤ゲーム	実技試験②
	16	バスケットボール①基本技術（ボールハンドリング、ドリブル）	
	17	バスケットボール②基本技術（パス）	
	18	バスケットボール③基本技術（フリースロー）	
	19	バスケットボール④基本技術（レイアップシュート）	
	20	バスケットボール⑤ゲーム	実技試験③
	21	フットサル①基本技術（パス、ドリブル）	レポート課題の提示

	22	フットサル②基本技術（シュート）	
	23	フットサル③ゲーム	
	24		後期前半にあたる開講23回で授業は終了
定期試験	試験に代わって、全講義終了後にレポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	体調を整えて授業に臨んでください。		
教科書	使用しない。		
参考図書、教材、準備物等	資　料：資料は掲示・板書によって提示する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	体調を整え、実技ができる状態で出席すること。運動に適した服装、靴が必要です。 レポートは、評価後にフィードバックする。 成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メール（tomodemu@jindai.ac.jp）で連絡してください。		
評価の配点比率	目標①、②実技試験60% 目標③、④レポート40%		
受講上の注意	運動禁忌等がある場合は、事前に申し出てください。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 中国語Ⅰ　　授業コード：1320701　1320702

英文科目名称： Chinese Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前期	２年次	１単位	選択	
担当教員				
章　璐				
生活科学学科生活情報専攻　教養科目		演習		ナンバリング：10D501
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は、中国語の基礎を身につけ、中国語で「基本的な事項の確認や自分の意思を伝えるレベル」に到達することである。 そのため、まず発音と文法の基礎を学べ、次に聞く、話すことに重点において学習する。ペア、グループなどの練習方式を採用する。「話す、聞く、読む、書く」四つ技能の総合的な学習を進め、中国語の映像を見たり、中国の事情を紹介することを通して、中国語に親しみを感じ、中国の文化を理解する。終了時点に中国語検定準4級の実力を目指す。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①中国語の表記法、文字、発音、文法の基礎を習得する。	生活DP1	50
	目標②中国語でその場に応じる挨拶の表現と意思表示ができる。	生活DP6	10
	目標③ペア、グループなどの練習方式で、テーマごとで自由に会話ができる。	生活DP6	30
	目標④中国語を学ぶことで、多様な文化をふれ視野を広げることができる。	生活DP9	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、映像教育、中国の国土、民族など、中国語の表記法、文字、普通話、方言などを紹介する。	(事後)　「中国に関する質問」のプリントを配る、次週に提出すること。（１時間）
	2	中国語の発音。母音、子音、声調(四声)の習得。（ペアワーク）	(事後)　自分の名前、故郷、国名を練習し、次週中国語で発表する。（１時間）
	3	発音の注意事項。100までの数字を言える、聞き取れること。（ペアワーク）	(事後)　数字の練習プリントを配る、次週に提出すること。（１時間）
	4	人称代詞。是非を問うことに対し、正しいのか、違うのか、わからないのかを答えられる。（ペアワーク）	(事後)　中国語を翻訳するプリントを配る、次週に提出すること。（１時間）
	5	中国語の基本語順。簡単な自己紹介ができる。（ペアワーク）	(事前)　自己紹介することばを収集すること。（１時間）
	6	疑問詞疑問文。行先や場所の説明ができる。（ペアワーク）	(事前)　《場所単語集》の発音を予習すること。（１時間）
	7	連動文。自分の好みを言えること、趣味を簡単に紹介することができる。（ペアワーク）	(事前)　《食べ物、スポーツ単語集》の発音を予習すること。（１時間）
	8	形容詞述語文。友達と一緒に外出の誘い言葉が言える。（ペアワーク）	(事後)　「スターバックスに行きませんか」の会話作成、次週に提出すること。（１時間）
	9	存在を表わす表現。家族を紹介することができる。（ペアワーク）	(事後)　家族構成の読み方を練習し、次週テストする。（１時間）
	10	名詞述語文。買い物に値段を聞くことができる。（ペアワーク）	(事後)　「中国で買い物する」のプリントを配る、次週に提出すること。（１時間）
	11	比較文。年齢の言い方、日本と中国の違う所が言える。（ペアワーク）	(事前)　日本と中国の異同点を収集すること。（１時間）
	12	反復疑問文。アルバイトについて紹介することができる。（ペアワーク）	(事前)　職種のことばを収集すること。（１時間）
	13	完了及び否定文。自分の行動、目的を説明することができる。（ペアワーク）	(事後)　《私の週末》を題する作文、次週に提出すること。（１時間）
	14	助動詞。銀行で貯金、両替することができある。（ペアワーク）	(事前)　《銀行用語》の発音を予習すること。（１時間）

	15	中国語映画を鑑賞した後、振り返ることができる。（ペアワーク）	(事後)　《総まとめ単語集》を配る、定期試験を準備する。（１時間）
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。		
準備学習に必要な時間	30分程度の事前予習としてことばを収集すること。事後学習はレポートを作成するのため、30分程度の時間が必要です。		
教科書	『Ｗｅ　Ｃａｎ！　中国語(初級)』 朝日出版社		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『中国語学習ハンドブック』相原茂編著 大修館書店 最新刊 辞　書：杉本達夫他『デイリーコンサイス中日・日中辞典』三省堂 相原茂編著『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 最新版　DVD&CD付		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	一般に「中国語＝漢字」というイメージがありますが、言語は第一義的に音ですので視覚的に理解するのではなく、中国語の音を聞いて理解するように心掛けてください。　授業中は大きな声を出すよう心掛けてください。レポート等は、評価後にフィードバックします。		
評価の配点比率	目標①定期試験４０％、事前事後の宿題を提出する１０％（１＊１０回）。　目標②授業中のミニテスト１０％（１＊１０回）。　目標③授業中の定められたテーマの会話発表３０％(３＊１０回）。　目標④中国語のことばや習慣比べの情報収集するレポート１０％（５＊２回）。		
受講上の注意			
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 中国語Ⅱ　　授業コード： 1320801

英文科目名称： ChineseⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
章　璐			
生活科学学科生活情報専攻　教養科目		演習	ナンバリング：10D502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、中国語の基礎を身につけ、中国語で「簡単な依頼、買い物、旅行など特定の場面のコミュニケーションができるレベル」に到達することである。 そのため、まずは発音、文字、文法の基礎を復習する。次に聞く、話すことを重点におき、自分のことを話したり、身近な問題について自分の考えを述べたり、簡単な作文を作成することができる。ペア、グループなどの練習方法や中国を紹介する映像教育を通して、「聞く、話す、読む、書く」四つ技能の総合的な学習を進める。日本から世界へ視野と考えを広げ、異なる文化の背景を持つ人とコミュニケーションを取る勇気と能力を身につける。終了時点に中国語検定4級の実力を目指す。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①中国語発音を熟練し、基礎文字と文法を復習する、簡単な作文ができる。	生活DP1	50
	目標②依頼や買い物、旅行など特定な場面の会話ができる。	生活DP6	10
	目標③グループなどの学習形態で、定められたテーマで自由な会話ができる。	生活DP6	30
	目標④中国語で自分の考えを述べ、異文化を持つ方とコミュニケーションをとる	生活DP9	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	中国語Ⅰの復習。年月日の言い方、中国の祭日の映像を見る。	(事後)　中国語Ⅰの復習プリントを配る、次週に提出すること。（１時間）
	2	主述述語文。体調を訴えることができる。会話作り及び発表《病院で》。（ペアワーク）	(事前)　病名の単語を調べること。（１時間）
	3	時量補語、時刻の言い方。予定やスケジュールが言える。会話作り及び発表《日曜日の計画》。（ペアワーク）	(事後)　時量、時刻の復習プリントを配る、次週に提出すること。（１時間）
	4	選択疑問文。人を誘ったり誘われたりの表現ができる。会話作り及び発表《中国に行く》。（ペアワーク）	(事前)　中国の有名な都市を調べること。（１時間）
	5	助動詞“会”と“能”。中国南北料理の映像をみる。会話作り及び発表《日本の寿司》。（ペアワーク）	(事後)　助動詞の使い方のプリントを配る、次週に提出すること。（１時間）
	6	副詞“在”。電話であいさつ、応対する、連絡することができる。（ペアワーク）	(事後)　挨拶用語のプリントを配る、次週に提出すること。（１時間）
	7	中国の映画を鑑賞する。中国語で50～100字の感想文を書く。（ペアワーク）	(事後)　感想文を見直すこと、次週に提出すること。（１時間）
	8	助動詞“可以”。自分で食事を注文することができる。会話作り及び発表《レストランで》。（ペアワーク）	(事前)　中国料理の単語を調べること。（１時間）
	9	禁止の表現。電車の乗り方を聞くことができる。会話作り及び発表《東京に行く》。（ペアワーク）	(事前)　東京に行く乗り物の時刻、運賃を調べること。（１時間）
	10	助詞“从～”。タクシーの乗り方を聞くことができる。会話作り及び発表《タクシーで駅に行く》。（ペアワーク）	(事後)　乗り物の乗り方を宿題し、次週に提出すること。（１時間）
	11	助動詞“要”。《中国の二十歳の若者》の映像と仁短生の成人式の着物写真を見る。会話作り及び発表《成人式》。（ペアワーク）	(事後)　《成人式》のテーマで５０字くらいをまとめ、次週に提出すること。（１時間）

	12	挿入語“听说～”。《中国人の生活習慣》の映像を見る。日本と中国の生活習慣について感想を述べる。（ペアワーク）	(事前)　日本の生活習慣を調べること。（１時間）
	13	使役表現。緊急時の連絡する、避難する方法を言える。会話作り及び発表《地震》。（ペアワーク）	(事前)　日本で緊急時の連絡する、避難する単語を調べること。（１時間）
	14	二重目的語。自分の就職先を紹介する。選んだ理由を説明することができる。（ペアワーク）	(事後)　作文《私がしたい仕事》を題し５０字をまとめ、次週に提出すること。（１時間）
	15	総まとめ。①単語のリレー。②テーマ別の中国語表現のリレー。③中国語を聞いて、動作で答える。（ペアワーク）	(事後)　定期試験の準備。（１時間）
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。		
準備学習に必要な時間	30分程度の事前予習としてことばを収集すること。事後学習はレポートを作成するのため、30分程度の時間が必要です。		
教科書	『Ｗｅ　Ｃａｎ！　中国語(初級)』　朝日出版社　著者：徐　送迎		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『中国語学習ハンドブック』相原茂編著 大修館書店 最新刊 辞　書：杉本達夫他『デイリーコンサイス中日・日中辞典』三省堂 相原茂編著『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 最新版　DVD&CD付		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	一般に「中国語＝漢字」というイメージがありますが、言語は第一義的に音ですので視覚的に理解するのではなく、中国語の音を聞いて理解するように心掛けてください。　授業中は大きな声を出すよう心掛けてください。 レポート等は、評価後にフィードバックします。		
評価の配点比率	目標①定期試験４０％、事前事後の宿題を提出する１０％（１＊１０回）。　目標②授業中のミニテスト１０％（１＊１０回）。　目標③授業中の定められたテーマの会話発表３０％(３＊１０回）。　目標④中国の映像を見て感想文を提出することと、日中情報収集するレポート１０％（５＊２回）。		
受講上の注意			
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： データサイエンス入門　　授業コード： 1120701　1320901　1620601

英文科目名称： Introduction to Data Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
諏訪　いずみ			
教養科目(生活科学学科)		講義	ナンバリング：10D503
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、情報を整理・分析するための知識・技術を身に着けることを目的とする。 基礎的な数学と統計処理についての講義と演習を通して、データの処理・分析に必要な基礎知識と技術を学ぶ。表計算ソフトを使用した演習を行うことで、基礎数学・統計処理に関して立体的・実用的な知識・技術を身につける。これらを通して、データに基づいて考える力を身に着ける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①データ分析で必要となる基本統計量の意味や相関・回帰分析・検定の考え方を理解して利用できる。	生活DP1	33
	目標②数学的知識を元に、データとして現れる事象の数学的・物理的背景について説明する意欲がある。	生活DP8	27
	目標③データに基づいた論理的な判定・予想ができる。	生活DP4	30
	目標④表計算ソフトを用いて基本的なデータ処理ができる。	生活DP5	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。（精進）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、Excel 関数入門(1) 関数の基礎	以下毎回、Excel課題と記述課題の提出あり。 以下毎回、Moodle上の次回のプリントを読んでおく。
	2	Excel関数入門(2) 関数・数式利用の基本、参照グラフの利用	
	3	数学関数(1) 簡単なデータ処理	
	4	数学関数(2) 二次関数とグラフ	
	5	数学関数(3) 二次方程式を解く	
	6	数学関数(4) 指数関数と対数関数	
	7	数学関数(5) 三角関数の基礎	第１回特別課題出題
	8	数学関数(6) 三角関数の応用（媒介変数の利用による図形）	
	9	表計算と統計(1) 基本的な統計関数	
	10	表計算と統計(2) 分布の状態を知る：分散、標準偏差	
	11	表計算と統計(3) 正規分布	第１回特別課題提出
	12	表計算と統計(4) ２つの変量の関係：相関係数	第２回特別課題出題
	13	表計算と統計(5) 回帰分析	
	14	表計算と統計(6) 検定	
	15	データ分析アドインの利用と統計処理のまとめ	第２回特別課題提出

定期試験	定期試験に代わって、全講義終了後に期末課題を提出。
準備学習に必要な時間	毎回、２時間程度の事前・事後学習が必要。全講義プリントをMoodle上に公開するので、目を通して授業に臨む。不明な用語等は、参考図書、高校教科書等で確認しておくことが望ましい。返却した課題は、理解が不十分だった点を次回以降の授業のために復習する。特別課題は、事後学習として行う。

教科書	使用しない。毎回，授業内容・課題に関するプリントを配布する．配布したプリントは、すべて授業に持参すること
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『Excel関数全辞典』(技術評論社編集部　技術評論社　2016)等の関数辞典
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方、成績評価の詳細に関しては、第１回のガイダンスで説明する。Excel課題・記述課題は基本的に講義時間内で作成・提出とする。特別課題は事後学習として行う。記述課題は添削して返却する。課題で指定の項目が達成されていない場合は再提出を指示する。成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メール（suwa@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。
評価の配点比率	目標①授業内課題17%、2回の特別課題8%、期末課題8% 目標②授業内課題15%、2回の特別課題6%、期末課題6% 目標③授業内課題22%、2回の特別課題4%、期末課題4% 目標④授業内課題6%、2回の特別課題2%、期末課題2%
受講上の注意	情報を整理・分析するための知識・技術を身に着けることを目標とします。これらは情報を見極め、的確な判断を下す基礎となります。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 生活経営学　　授業コード： 1321101

英文科目名称： Family Resource Manageement

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
澤崎　敏文			
生活科学学科生活情報専攻　専門科目（学科共通科目）		講義	ナンバリング：13A501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、自立した消費者として、安心・安全で豊かな消費生活を営むことができる知識と技能を身につけることである。 私たちは、現在、自分以外の人が作ったモノ、あるいは自分以外の人が提供してくれるサービスを消費することなくして生活することはできない。よりよい消費は生活の質を確保する一つの手段である。しかしながら消費に関する問題は後をたたない。現代の消費の問題を把握するとともに、具体的な消費の問題を考えることを通じて消費のトラブルを未然に防止する方法を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け％
	目標①　私たちの生活の中での消費の意義や重要性を主体的に考えることができる。	生活DP8	10
	目標②　消費者として商品やサービスの選択と購入を誤りなく計画的に実行することができる。	生活DP5	30
	目標③　現実の消費者問題を把握し，その問題の起きる背景を科学的に理解できる。	生活DP4	30
	目標④　問題の当事者になった際に，他に対して問題の内容を説明でき，制度的な手続きも含め，有効な対応策をとることができる。	生活DP2	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。（精進）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、生活経営についての概論	社会生活における「経営」の考え方について議論します。
	2	ファイナンシャルプランニング１ （目標） ・金融の仕組み、預金と投資の違い等に関して基礎的な知識を習得します。 ・会社の仕組み、株式の仕組みなどについて基礎的な知識を習得します。 （内容） ・銀行の仕組み、会社・株式の仕組みについて ・日経平均などの指標について ・投資シミュレーションをしてみよう！	事前学習：日経新聞から事前に日経平均株価について調べておくこと 事後学習：株式のポートフォリオシミュレーションを提出すること（Moodle上）
	3	ファイナンシャルプランニング２ ・会社の仕組み、株式の仕組みなどについて基礎的な知識を習得します。 ・上場企業、非上場企業の違い、株式市場などについて基礎的知識を習得します。 ・投資信託、分散投資などの基礎的知識について。	・会社・株式の仕組みについて、上場企業・非上場企業のメリット、デメリット ・日経平均などの指標について、投資信託と分散投資の意味 ・日経２２５の会社から自分のポートフォリオを組み立て 事後課題：実際の日経２２５企業からポートフォリオを作成します。
	4	ファイナンシャルプランニング３ ・投資信託、分散投資などの基礎的知識について知る。 ・前回作成したポートフォリオをグループごとに評価、発表してみます。	事前学習：前回作成したポートフォリオについて、発表できる資料等を準備すること。
	5	ファイナンシャルプランニング４ ・投資信託と分散投資について、実際の商品などを見比べてレビューします。	事前学習：証券会社のホームページ等で投資信託について事前に調査、理解してくること。

	6	契約概論 ・契約の基本的な考え方 ・債権と債務の関係 ・民法の基本	事前学習：民法典（eGov：政府公式法律データベース）の構成について事前に調査、理解してくること。
	7	契約概論２ ・民法に関する知識の復習（総則、債権） ・民法に関する知識（物権、家族法）	事前学習：民法典（eGov：政府公式法律データベース）の構成について事前に調査、理解してくること。
	8	契約と消費生活 ・消費生活に必要な知識 ・クーリングオフ制度 ・製造物責任について（PL法と消費者保護） ・インターネット上での契約、スマホなどのアプリでの契約	演習：LINEなどのアプリの利用規約（契約書）を読んでみよう！ 事前学習：SNS等無料で利用しているアプリ等の法律関係がどうなっているか調査、理解してくること。
	9	契約と消費生活２ ・ローンについて ・クレジットカードの仕組みと注意点 ・電子マネーの仕組み	事前課題：福井銀行、福邦銀行のホームページからローン等に関する内容を確認、金利等について調査、理解してくること。
	10	金融関連、民法、消費生活に関するまとめのテスト	これまで学習した内容（１～９週）についての確認テストを実施します（選択式、記述式ともにMoodle上で行います。）
	11	生活設計について考える１ ・１０週目のまとめテストに関するフィードバック（振り返り） ・保険に関する基本的なお話	事前学習：保険に関する状況調査を実施してくること（Moodle上）
	12	生活設計について考える２ ・第３週目に作成した株のポートフォリオを最新にして、分散投資のメリット、デメリット等についてグループで議論を行います。 ・最終課題となるライフプランプロジェクトの条件説明	【グループディスカッション】 グループに分かれて、ライフサイクルに合わせた生活設計について、プランを立てます。 次週までに、生活設計に関するレポートを提出、それらをもとに次週議論を行います。
	13	生活設計について考える３ 全国銀行協会のシミュレーターを利用して、グループごとに、自分たちが考える最適なライフプランを作成します。そのための準備を実施。	【グループディスカッション】 グループに分かれて、それぞれに議論した視点で、生活設計を行います。それらを、発表できる形でまとめてもらいます。次週までに、グループごとに発表形式（パワーポイントファイル）にまとめて、提出すること。
	14	生活設計について考える４ 全国銀行協会のシミュレーターを利用して、グループごとに、自分たちが考える最適なライフプランを作成します。そのための準備を実施。	【グループディスカッション】 発表のための根拠資料等の調査、発表資料作成を行います。
	15	最終プレゼンテーション（グループ演習） 生活経営のまとめ	これまで学んだ知識の再確認 最終レポートについての準備を行います。

定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、レポートを提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、３時間程度の事前・事後学習が必要。毎回の授業主題に関係する参考図書や資料は事前に授業中に示すので，授業を受ける前に参照してくることが有用である。また授業中に必要な資料を配付するので，当該授業のノートを事後に整理する際にあわせて整理していくことが授業内容の習得のために重要である。
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	資　料：Moodle等を利用して必要な教材、資料は配布する予定。 参考図書：授業の中で紹介する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	本講義は，自分の生活に密着した事象を題材に講義を行うものなので、受講生には、新聞を読んだり、消費生活センターを訪ねたりするなど、積極的に自己学習を行うことを期待する。レポート等は、評価後にフィードバックする。
評価の配点比率	目標①　ミニテストや課題提出　10% 目標②　ミニテストや課題提出　20%，最終レポート　10% 目標③　ミニテストや課題提出　20%，最終レポート　10% 目標④　ミニテストや課題提出　20%，最終レポート　10%
受講上の注意	毎回、授業最初にミニテストを実施します。これらミニテストの実施も全て評価となります。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	☑課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　☑発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　☑双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　☑自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 保育学　　授業コード： 1321201　1321202

英文科目名称： Childcare Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
後期	２年次	２単位	選択	
担当教員				
岡田　和美				
生活科学学科生活情報専攻　専門科目（学科共通科目）		講義		ナンバリング：13A502
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は、社会や家庭生活における保育を学ぶことである。 家庭科の教員や保育士といった専門職をめざすのではなく、一般の学生を対象にしている。 自分自身が育ってきた過程や子ども時代を振り返りながら、子どもの発達段階、子育ての方法や環境、社会のシステムなど保育に関わる基本的な知識を身につけ、子どもが育つこと、子どもを育てること、自分が育つこと等を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①０歳から６歳の子どもの発達を学びながら、 発達段階に合った子どもの接し方や育て方を知り、実践出来るようになる。	生活DP3	15
	目標②子どもに語りかけることや、年齢に適したふれあい遊びや絵本等を知り、自分なりに実践出来るようになる。 （古来の伝統行事や歌、手遊び、手作りおもちゃ等を含む。）	生活DP9	20
	目標③人の話を聞く、自分なりに考える、自分の考えを話す等、他者とのコミュニケーション能力を身につける。	生活DP6	35
	目標④子どもの発達段階に合った安全な環境や、代表的な病気、怪我等を知り、将来母親になった時に、安心して子育てが出来るようになる。	生活DP5	15
	目標⑤少子高齢化、情報の氾濫など、子どもを取り巻く社会の中で子育てをする親としての態度を身につける。	生活DP7	15
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP3：人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。 生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。（和敬） 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	保育学を学ぶことの意義と授業内容について グループワーク（妊娠、出産、子育てについて）オリエンテーション（保育学の内容と展開及び学ぶことの意義について）	自主学習：非認知能力について調べたり、自分の考えをまとめたりする。
	2	乳幼児保育、教育の現状と課題 グループワーク(非認知能力について) 質の高い保育、認定こども園・幼稚園・保育園の違い等	自主学習：自分の乳幼児期について、母子手帳で調べたり、親に聞いたりして、自分の考えをまとめる。
	3	自分の乳幼児期を振りかえる 母子手帳って何？どう記入してどう生かすの？ 歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技	自主学習：大好きな絵本とその理由をまとめる。
	4	子どもと絵本 グループワーク(自分が選んだ絵本の読み聞かせごっこ)	演習：絵本の読み聞かせ 自主学習：我が子がどんな子に育ってほしいかについて、自分の考えをまとめる。
	5	こどもの心身の発達と遊び（0～5か月ころ） 歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなど 実技演習：抱っこの仕方、おむつ交換の仕方	新生児人形を使用して学ぶ。 自主学習：初めて作る離乳食、どんなメニューにしますか。
	6	子どもの心身の発達と遊び（6～11か月ころ） 歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技演習：ミルクの作り方と与え方	新生児人形や本物の哺乳瓶、ミルク缶を使用して学ぶ(測り方、作り方、飲ませ方) 自主学習：かみつきやひっかきについて調べたり自分の考えをまとめたりする。
	7	子どもの心身の発達と遊び（1歳ころ）歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実	自主学習：歩き始めた時のことをお家の人にインタビュー

		技	
	8	子どもの心身の発達と遊び（2歳ころ）歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技、イヤイヤ期の対応の仕方について	自主学習：初めて集団生活に入った時期とその時の様子について調べたり自分の考えをまとめたりする。
	9	子どもの心身の発達と遊び（3歳ころ）歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技	自主学習：第一反抗期について調べたり自分の考えをまとめたりする。
	10	子どもの心身の発達と遊び（4歳ころ）歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技	自主学習：好きな折り紙あそびを仕上げる。
	11	子どもの心身の発達と遊び（5歳ころ）歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技	自主学習：授業で作ったおもちゃを仕上げる。
	12	子どもの心身の発達と遊び（6歳ころ）「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技	自主学習：小学校入学前後の思い出ついて調べたり自分の考えをまとめたりする。
	13	子育て環境について考える(こども園等や小学校、地域社会とのよりよい連携及び障害児・児童虐待・子育て支援制度等について)	自主学習：乳幼児期に自分が経験した病気やけがについて調べる。
	14	子どもの代表的な病気とその対応を知る。	自主学習：ノートまとめ
	15	子どもの発達段階に応じた代表的な怪我とその対応を学ぶ。	自主学習：ノートまとめ

定期試験	課題についてのレポートと授業内容や自主学習をまとめたノートの提出。
準備学習に必要な時間	毎回、 3時間程度の事前・事後学習が必要。
教科書	河原紀子 「0歳～6歳子どもの発達と保育の本　第2版」　（学研）
参考図書、教材、準備物等	必要に応じてプリントを配布する。B5版ノート。毎回、糊とハサミを持参する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の内容をまとめるためのノート(Ｂ５版)を各自購入して準備する。(配布されたプリント、課題、授業で学んだこと等をまとめる) 定期試験終了後、いったんノートを提出するが、フィードバックしたノートは、将来に役立たせる。
評価の配点比率	最終レポート：35%（目標①5%、目標②5%、目標③15%、目標④5%、目標⑤5%） 課題、ノート作成：35%（目標①5%、目標②5%、目標③15%、目標④5%、目標⑤5%） 授業内小課題等：30%（目標①5%、目標②10%、目標③5%、目標④5%、目標⑤5%）
受講上の注意	子どもの発達や子育てのポイント等、教養としての「保育」を学ぶことで、将来少しでも安心して子どもを産み育てることができるようになると同時に、素敵な社会人、親、保護者になる考え方や態度が身につくように発信していく。
教員の実務経験	保育園における全年齢の担任経験や、保育士・主任保育士・園長等の経験及び、行政における育児相談・地域への子育て支援事業の発信・啓蒙等の経験がある。それらの経験を活かして、子育ての楽しさ、大変さ、壁にぶつかった時の乗り越え方など、具体的な事例や演習を通して、共に考え、学び合う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 人間関係論　　授業コード：1321301　1321302

英文科目名称： Studies on Human Relationships

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
清水　聡			
生活科学学科生活情報専攻　専門科目（学科共通科目）		講義	ナンバリング：13A503
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、社会的場面における人間関係を学ぶことである。 複数の人間が近くに存在するあるいは一緒に活動している「社会的場面」における個人の心理的過程、対人行動、集団と個人の関係等についての代表的トピックスを取り上げて概説する。適宜実習も行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①社会的場面で外に表れた行動から、その場面における人間のこころの動きをある程度理解できる。	生活DP2	20
	目標②社会的場面における行動の法則性を理解した上で、日常社会生活で出会う場面に一段階深い問題意識を持てるようになる。	生活DP4	20
	目標③社会的場面における行動の法則性を理解した結果、社会生活上の問題を解決する能力を向上させる。	生活DP5	16
	目標④所属集団の他のメンバーについて省察するレポートを作成する過程で、他者の立場への理解度を向上させる。	生活DP7	29
	目標⑤同じ社会的場面においても人により考え方や行動の仕方に差異があることを学ぶことにより、所属集団における自己のあるべき姿について考察できる。	生活DP9	15
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。（和敬） 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	人間関係論とは、社会的促進	授業の進め方や評価の詳細について説明する。
	2	集団と人間1(集団の定義と集団の形成)	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	3	集団と人間2(集団の凝集性)	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	4	集団と人間3（斉一性への圧力と集団規範)	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	5	集団と人間4（集団による問題解決)	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	6	リーダーとリーダーシップ	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	7	集団内の人間関係の測定方法	実習を行い、それを踏まえレポート課題を出す。前回の授業の復習をして小テストに備える。
	8	自己1（自己概念と自尊感情)	前回の授業の復習をして小テストに備える。自分自身の自尊感情の状態について質問紙の結果から考察した小レポートを作成する。
	9	自己2（自己開示と自己呈示)	前回の授業の復習をして小テストに備える。自分自身の自己開示の状態について質問紙の結果から考察した小レポートを作成する。
	10	自己3（自己意識と対人行動)	レポート課題を提出する。前回の授業の復習をして小テストに備える。自分自身のセルフ・モニタリングの状態について質問紙の結果から考察した小レポートを作成する。
	11	魅力と対人関係（対人魅力の規定要因)	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	12	援助と攻撃1（援助行動の規定要因)	前回の授業の復習をして小テストに備える。自分自身の援助規範意識の状態について質問紙の結果から考察した小レポートを作成する。
	13	援助と攻撃2（攻撃行動の源泉と攻撃の抑制)	前回の授業の復習をして小テストに備える。自分自身の攻撃性の状態について質問紙の結果から考察した小

			レポートを作成する。
	14	社会的推論1（帰属理論）	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	15	社会的推論2（ヒューリスティック）	前回の授業の復習をして小テストに備える。
定期試験	試験に代わって、小テストおよびレポートで総合的に評価する。		
準備学習に必要な時間	毎回の小テストに備えて、授業中に指示したポイントを中心に前週の授業の復習を最低２時間は行うことが必要となる。また第7回目に課したレポート課題の作成には数日以上要する。レポート等は、評価後にフィードバックする。		
教科書	使用しない		
参考図書、教材、準備物等	適宜プリントを配布する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方および評価の方法については第1回目の授業の冒頭に説明する。第7回目に課すレポート課題については、作成上のポイントを詳細に記述したプリントを配布した上で説明する。		
評価の配点比率	初回を除く毎回の授業中に行う小テスト（全14回）56%(目標①～③）、中途に課すレポート29%(目標④）、授業内容に関連した質問紙の結果から自分自身の状態について小レポート15%(目標⑤)		
受講上の注意	一般常識よりもう一つ深いレベルで人間関係を理解できるようになって欲しいです。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 情報ネットワーク　　授業コード：1321401　1321402

英文科目名称： Information and Computer Network System

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前期	２年次	２単位	選択	
担当教員				
谷口　秀次				
生活科学学科生活情報専攻　専門科目		講義		ナンバリング：13B501
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は情報通信ネットワークシステムの仕組みを理解することである。 パーソナルコンピュータやスマートフォンなどでインターネットにアクセスしたりメールのやりとりをするなど、情報通信技術（ICT)は私達の毎日の暮らしや仕事に深いかかわりを持つようになっている。本授業では、扱われる情報のディジタル表現法、データ通信およびインターネットの仕組みや技術について詳しく学ぶ。加えて、インターネットの問題点やセキュリティ対策法について学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①インターネットを含む情報通信ネットワークの仕組みや基本的技術を理解することによりそれらの概要について説明できる。	ＤＰ１	60
	目標②論理的な思考に基づき、安全にネットワークを活用することができる。	ＤＰ４	30
	目標③生活情報専攻者として、広く社会に目を向け、問題意識を持ち、自らのキャリアを主体的に形成する態度を身につけることができる。	ＤＰ７	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：情報に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：情報に関する知識・技能にもとづき、論理的・合理的な思考力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、情報通信技術（ICT）概観	情報通信技術についての小レポートを課す
	2	ディジタル表現	ディジタル表現についての小レポートを課す
	3	ディジタル通信	ディジタル通信についての小レポートを課す
	4	インターネットの基礎知識、IPアドレス、ドメインネーム、サーバ	インターネット、IPアドレス、ドメインネーム等についての小レポートを課す
	5	情報通信ネットワークの基本的形態	インターネット通信体系、通信プロトコルについての小レポートを課す
	6	情報通信ネットワークのモデル化と通信プロトコル	OSI参照モデルについての小レポートを課す
	7	OSI参照モデルとTCP/IPプロトコル	TCP/IPプロトコルについての小レポートを課す
	8	OSI参照モデル下位層の役割り	IPアドレス、ネットワークアドレス等についての小レポートを課す
	9	ルータの役割、ルーティング（通信経路選択）	ルーティングについての小レポートを課す
	10	OSI参照モデル上位層の役割り	OSI参照モデル上位層についての小レポートを課す
	11	TCP/IPプロトコル最上位層の一機能：メールサービス	メールサービスについての小レポートを課す
	12	TCP/IPプロトコル最上位層の一機能：Webサービス	Webサービスについての小レポートを課す
	13	サイバー攻撃とネットワークセキュリティ技術について	ネットワークセキュリティについての小レポートを課す
	14	セキュア通信プロトコルとサイバー攻撃に対する防御技術について	「サイバー攻撃に対する防御技術」についての小レポートを課す
	15	復習・まとめ	本授業の内容に関する小レポートを課す
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、最終レポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	毎週の授業に対して、予習2時間、復習2時間を行っておくこと。 毎回、配布講義資料の指示箇所を読み、指示する課題についてレポート用紙にまとめる。		

教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：森川　恵『初歩からのネットワーク』（実教出版）、藤原正敏他『ネットワーク社会における情報の活用の技術』（実教出版）、三輪賢一『かんたんネットワーク入門』（技術評論社）、大塚裕幸他『基本からわかる情報通信ネットワーク』（オーム社) 教　材：プリントを資料として配付する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方については第1回目のガイダンスの中で説明する。毎回課す小レポートは必ず提出すること。授業時間外で質問等がある時は仁短Moodleメッセージや電子メール（shuujitaniguchi@go.jin-ai.ac.jp）で連絡すること。提出されたレポートは添削し、後日返却するので必ず復習しておくこと。
評価の配点比率	(1)毎回提出の小レポートについては全15個のうち最低10個を提出すること、最終レポートについては必ず提出することを合格の最低条件とする。 (2)毎回提出小レポートの評点の平均点（但し、分母は15）（目標1～目標3）をA、最終レポートの評点（目標1～目標3）をBとして、最終評点CをA×0.7＋B×0.3で算出する（A、B、Cはいずれも100点満点とする）。
受講上の注意	いろいろな専門用語が出てきて、はじめはなかなかなじみにくいかもしれませんが、じっくりと少しずつ理解を深めていきましょう。わからない用語が出てきたら、とりあえずすぐインターネット等で調べましょう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 情報メディア　　授業コード：1321501　1321502

英文科目名称： Information and Media

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
島田　貢明			
生活科学学科生活情報専攻　専門科目		講義	ナンバリング：13B505
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は情報機器で扱うことができる各種メディアの特性を理解することである。 具体的な例をあげながら、印刷メディア（新聞、雑誌、書籍等）や画像・音声メディア（写真、テレビ、ラジオ等）などについて取り上げる。しかし、「メディアの融合」という言葉で表現されるように、従来の情報はデジタル化することでコンピュータを用いて編集・加工が可能となっている。本授業では、メディアを「人間が直接情報に接する媒体」としてとらえ、これに関わるメディア技術を情報機器と活用事例を関連づけながら学ぶ。加えて人工知能（AI）技術の基礎とAIを活用したメディアに関する知識についても学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連 学習成果番号	重み付け%
	目標①一般生活及び企業活動においてメディアが果たす役割とそれにかかわる情報技術（AIを含む）を理解している。	ＤＰ１	60
	目標②あらゆる情報がデジタル化されインターネット上で公開される現状をふまえ、メディアに適した表現力を身につけている。	ＤＰ６	30
	目標③現状の情報メディア（AIを含む）に対する理解力と活用力・表現力をベースに、将来の新たな技術の活用について考察することができる。	ＤＰ７	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：情報に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：コミュニケーションに関する知識・技能にもとづき、他者の声に耳を傾け、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	情報メディアとは	授業のまとめを毎回LMS上に提出すること
	2	メディアの歴史	授業のまとめを毎回LMS上に提出すること
	3	メディアにおけるコンピュータの役割	授業のまとめを毎回LMS上に提出すること
	4	音声メディアの基礎知識（音響学）	授業のまとめを毎回LMS上に提出すること
	5	音声メディアの実際	授業のまとめを毎回LMS上に提出すること
	6	音声メディアのまとめ	授業のまとめを毎回LMS上に提出すること
	7	映像メディアの種類（検索課題）	授業のまとめを毎回LMS上に提出すること
	8	記録メディアの種類と特徴	授業のまとめを毎回LMS上に提出すること
	9	映像メディアの実際（表現技法）	PowerPointを使用して作品を作る
	10	映像メディアのまとめ	これまで提出した授業のまとめをベースにした記述式の小テストを実施する
	11	人工知能（AI）の情報メディアへの応用１（AI進化の歴史）	授業のまとめを毎回LMS上に提出すること
	12	人工知能（AI）の情報メディアへの応用２（画像関連）	授業のまとめを毎回LMS上に提出すること オリジナルアイコンの制作
	13	人工知能（AI）の情報メディアへの応用３（言語関連）	授業のまとめを毎回LMS上に提出すること
	14	人工知能（AI）の情報メディアへの応用４（音楽関連）	各自自由にテーマを設定して作品制作
	15	人工知能（AI）の情報メディアへの応用のまとめと将来について	最終レポートの内容を説明する
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、最終レポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	毎回、2時間程度の事後学習が必要、特に作品制作時には多くの時間が必要となる。		

教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	プリントを資料として配付する。 参考図書：二村　健『情報メディアの活用』（学文社　2006）、日本音響学会『音の何でも辞典』（講談社　2004）、山下隆義『イラストで学ぶディープラーニング』（講談社　2016）、中島能和『自分で動かす人工知能』（インプレス　2017）、淺井登『はじめての人工知能』（翔泳社　2019）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業のまとめ、作品、最終レポートの提出物は必ず提出すること。提出物はその都度返却し結果をフィードバックする。
評価の配点比率	目標①授業のまとめ30%、小テスト15%、最終レポート15% 目標②作品30% 目標③他者の作品に対する感想の提出10%
受講上の注意	課題作品の制作時には内容をしっかり理解し、これまでの授業で身につけたパソコンン技術の活用に努めること
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 情報の構造と表現　　授業コード：1321601　1321602

英文科目名称： Primary Introduction to Information Science and Data Processing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
小倉　久和			
生活科学学科生活情報専攻　専門科目		講義	ナンバリング：13B502
添付ファイル			

授業の概要	情報の表現と構造、処理アルゴリズムの考え方、に関連する基礎的知識を学ぶことが目的です。 情報科学の基礎理論、とくに情報の構造とその表現および処理アルゴリズムついて、教科書の具体的な対象に対して学習します。さらに、実践的な演習課題として、情報処理技術者試験のレベル１（ITパスポート試験）、レベル２（基礎情報処理技術者試験）の問題の中から基礎的・技術的なテーマを選び、基礎的な説明を踏まえて演習問題に取り組みます。なお、講義では、毎回、演習レポート課題に取り組みます。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①情報とは何か，どのように表現され扱われるか，コンピュータが行っている情報処理とその方法（アルゴリズム）を理解できます。	ＤＰ１	50
	目標②論理的に物事を考えることができます。	ＤＰ４	15
	目標③実践的課題として、情報処理技術者試験におけるレベル１（ITパスポート）を中心に関連分野の基礎的・実践的知識を身につけます。	ＤＰ４	20
	目標④毎回の授業における演習レポートに積極的に取り組みます。	ＤＰ５	15
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：情報に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：情報に関する知識・技能にもとづき、論理的・合理的な思考力を身につけている。 ＤＰ５：ビジネス活動に関する知識・技能にもとづき、問題を解決するための的確な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	1）ガイダンス（授業計画、授業の目標、評価方針、毎回の授業の構成、などについて） 2）　第1回の到達目標と授業内容 　情報とその表現について基本的な理解を得る 　1. 情報やデータの概念、情報を表現する、ことについて知る 　2. 情報の１つの形態である「数値」を「記号」で表現することについて学ぶ 3）演習課題に基づくレポートの作成・提出	◆毎回、講義ノートを作成し、事前にWebサイトへアップロードする。予備的な準備や予習に役立てる。 ◆毎回の授業は３部構成とする。 　1）前回レポートの解題・講義復習、評価結果返却 　2）講義：各回の講義ノート・補足資料などを配布し、プロジェクタを利用して解説・説明する。 　3）演習課題レポートの作成・提出 ◆毎回、講義内容に関する課題およびITパスポート演習問題をレポート課題として課し、授業中に回収する。アクティブラーニング時間として位置付け、十分な時間を確保する。 　講義ノートと教科書を中心に、グループで意見交換したりWeb サイトを利用して、必要に応じて教員へ質問し、レポートを作成し、提出する。 　やり残した課題は、自己学習して追加レポートとして作成し、次回に追加提出する。
	2	第2回の到達目標と授業内容 　情報の処理アルゴリズムについて基本的な理解を得る。 　1. 情報の表現と情報の処理アルゴリズムの関係について知る 　2. 数値の表現方法と加算アルゴリズムの関係について学ぶ	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。
	3	第3回の到達目標と授業内容 　計算道具からコンピュータへ、「アルゴリズム」概念の基本的な理解を得る。 　1. 足し算のアルゴリズムの機械化と、計算道具から計算機械への系譜を知る 　2. 掛け算のアルゴリズムを手順化した格子計算について理解する	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。

	4	第4回の到達目標と授業内容 コンピュータにおける情報表現について基本的な理解を得る。 １．0と1による自然数の表現と2進法を理解する ２．0と1による文字、図、画像などの表現法について知る	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。
	5	第4回の到達目標と授業内容 コンピュータにおける情報表現について基本的な理解を得る。 １．0と1による自然数の表現と2進法を理解する ２．0と1による文字、図、画像などの表現法について知る	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。
	6	第6回の到達目標と授業内容 負の整数の３つの表現法、特に「2の補数表現」について、基本を理解する。 1. 負の整数の表現法について、前回の内容を確認する 2. 「２の補数表現」について、学ぶ	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。
	7	第7回の到達目標と授業内容 コンピュータ、コンピュータネットワークの基本構成について、理解する。 1. コンピュータの基本的な構成について、理解する 2.コンピュータとネットワークなどについて、知る	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。
	8	第8回の到達目標と授業内容 １対１比較による勝ち抜きの基本的なアルゴリズムについて検討する。 1. 対戦型の勝ち抜きにおけるアルゴリズムの特徴について、理解する 2.トーナメント型の勝者決定アルゴリズムとその特徴について、理解する	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。
	9	第9回の到達目標と授業内容 データの並べ替え（Sorting, ソート）の基本的な考え方について検討する。 1. 代表的なソートのアルゴリズムについて、理解する 2. マージを利用したソートのアルゴリズムの特徴について、理解する	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。
	10	第10回の到達目標と授業内容 数式の表現と計算アルゴリズムの関係を理解する。 1. 数式と計算アルゴリズムの基本的な関係を検討する 2. 数式の構造を視覚的に表現する方法と計算アルゴリズムとの関係についての理解を得る	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。
	11	第11回の到達目標と授業内容 計算アルゴリズムと1対1に対応する数式表現を知る。 1. 数式のポーランド記法（前置記法）と逆ポーランド記法（後置記法）を知る 2. 数式とアルゴリズムが１対１に対応することの意味を理解する	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。
	12	第12回の到達目標と授業内容 言葉をコンピュータで扱うためのアルゴリズムについて知る。 1. 文の構造の記述、文法の構造、文構造のあいまいさ、などについて理解する。 2. コンピュータによる文の生成方法を検討し、意味理解について考える	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。
	13	第13回の到達目標と授業内容 コンピュータによる論理的推論とあいまいな知識の処理について考える。 1. 論理的推論の考え方と推論アルゴリズムについて理解する。 2. 薬効を例に、あいまいな知識の論理と判断の基本を理解する	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。
	14	第14回の到達目標と授業内容 コンピュータにおける帰納的アルゴリズムと処理について考える。 1. 論理的推論（演繹推論）アルゴリズムを確認するとともに、帰納的な考え方について理解する。 2. 帰納的な処理アルゴリズムについて、その基本的な考え方を理解する。	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。
	15	第15回の到達目標と授業内容 自己診断と再帰アルゴリズムとの関係について考える。コンピュータ（ＡＩ）がウソをつく？ 1. 止まらないコンピュータは自己診断をす	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。

	る。自己診断は信頼できるか？ 2. ウソとはなにか、ウソをつくアルゴリズムを検討する。コンピュータ（ＡＩ）はウソをつく？
定期試験	期末試験は行わない。講義の終了後に、最終演習課題レポートを課す。
準備学習に必要な時間	事前学習は１時間以上。事前にアップロードする講義資料を参照し予習する。 事後学習は１時間以上。毎回の授業の冒頭で、前回の演習レポートその解説を行うので、そこで再確認する。
教科書	小倉和久『情報科学の基礎論への招待』(近代科学社 1998)
参考図書、教材、準備物等	参考図書：ITパスポート試験によくでる問題集、岩代正晴・新妻拓巳、技術評論社、その他、情報処理技術者試験問題集 毎回、すべての講義資料や演習レポートなどを印刷配布するが、別途、オンラインネットサイトのe-ラーニングシステム（Moodle）にも掲載する。提出用レポート用紙も毎回配布し、授業中に回収する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	毎回、演習課題をレポートとして提出を義務付ける（レポートの提出がない場合は欠席扱い）。提出されたレポートは採点し、次回に返却する。また、授業の冒頭で、前回の演習レポートの解題を行う。欠席した場合は、ネットのMoodleサイトにログインしてレポート用紙をダウンロードし、記入して次回提出すること。 質問などは電子メールで連絡のこと。面談にも応じる。
評価の配点比率	目標①②③④　最終回を含め、毎回の演習レポート(100%)
受講上の注意	欠席した場合は、必ずMoodleサイトから演習レポート課題をダウンロードし、次回に提出すること。提出されたレポートは評価対象とする。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： データベース論　　授業コード： 1321701

英文科目名称： First Step to Algorithm and Database

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
後期	２年次	２単位	選択	
担当教員				
小倉　久和				
生活科学学科生活情報専攻　専門科目		講義		ナンバリング：13B510
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は、データベースについての基本的な知識や技術を背景に、リレーショナルデータベースの考え方およびその処理に関わる基礎的知識を身につけることです。 リレーショナルデータベースを操作するための言語SQLについて基本的な理解を得るために、MS-ACCESS を利用して、数回にわたって入門的なSQL実習を行います。さらに、実践的な演習課題として、情報処理技術者試験のレベル１（ITパスポート試験）、レベル２（基礎情報処理技術者試験）の問題の中からデータベースおよびそれに関連するテーマをいくつか選び、基礎的な説明を加えるとともに演習課題に取り組みます。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①データベースの機能、技術、あるいはデータ処理について基礎的な知識を身につけます。		ＤＰ１	60
	目標②実践的課題として、情報処理技術者試験におけるレベル１（ITパスポート）を中心に試験問題演習に取り組み関連分野の知識を身につけます。		ＤＰ４	30
	目標③毎回の授業における演習レポートに積極的に取り組みます。		ＤＰ７	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：情報に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：情報に関する知識・技能にもとづき、論理的・合理的な思考力を身につけている。		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	1) ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ（授業計画、授業の目標、評価方針、毎回の授業の構成、などについて） 2) 第1回の到達目標と授業内容→詳細は補足説明欄に記載 3)演習課題に基づくレポートの作成・提出	2)詳細：ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの発展の歴史とその基本について理解し、その基本的な考え方を知る。 1.ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾌｧｲﾙからﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽへの発展を理解し、ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの特徴を把握する 2.ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの基本的な構造とﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽを特徴づけている要件を理解する ◆毎回、講義ノートを作成し、事前にWebサイトへアップロードする。予備的な準備や予習に役立てる。 ◆毎回の授業は３部構成とする。 1) 前回レポートの解題・講義復習、評価結果返却 2) 講義：各回の講義ノート・補足資料などを配布し、プロジェクタを利用して解説・説明する。 3) 演習課題レポートの作成・提出 ◆毎回、講義内容に関する課題およびITパスポート演習問題を課し、授業中に回収する。アクティブラーニング時間として位置付け、十分な時間を確保する。 講義ノートを中心に、グループの意見交換したりWebサイトを利用して、必要に応じて教員へ質問し、レポートを作成し、提出する。 やり残した課題は、自己学習して追加レポートとして作成し、次回に追加提出する。
	2	第2回の到達目標と授業内容 データベースの基本的な構造と構成について、その考え方を知る。 1.データベースの３層スキーマ（構造）について、その目的について具体的に理解する 2.データベースの構造化のタイプを知り、基本的な構造について理解する	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。レポートは採点し、次回に返却する。
	3	第3回の到達目標と授業内容 リレーショナルデータベースの基本的な構造と特徴について理解する。 1.リレーショナルデータベースの基本的な構	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。レポートは採点し、次回に返却する。

		成について把握し、理解する 2.リレーショナルデータベースにおける主キーの基本的な役割を知る	
	4	第4回の到達目標と授業内容 リレーションをタプルの集合と見て、集合演算によるリレーションの操作について理解する。 1.集合演算と類似するリレーションにおける和演算、積演算、差演算について知る 2.リレーションにおける直積演算について知る	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。レポートは採点し、次回に返却する。
	5	第5回の到達目標と授業内容 リレーションを絞り込むための関係演算、および、関係を拡張する結合演算について、理解する。 1.リレーションの属性を絞り込む射影演算について知る 2.リレーションのタプルを絞り込む選択演算について知る	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。レポートは採点し、次回に返却する。
	6	第6回の到達目標と授業内容 リレーショナルデータベースにおける正規化について、データベース設計の立場から、その必然性を知る。 1.具体的なデータベースの設計における第１正規化について理解する 2.リレーショナルデータベースにおける主キーの必然的役割を理解する	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。レポートは採点し、次回に返却する。
	7	第7回の到達目標と授業内容 データベース設計における第２正規化、第３正規化の役割について、理解する。 1.リレーショナルデータベースの第２正規化について知る 2.リレーショナルデータベースの第３正規化について知る	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。レポートは採点し、次回に返却する。
	8	第8回の到達目標と授業内容 リレーショナルデータベースを管理・維持するうえで欠かせないデータベース管理システムを操作するデータベース言語SQLについて、理解する。 1.データベース管理システムの役割とSQLの関係について知る 2.SQLのデータベース検索言語としての文法と使い方を理解する	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。レポートは採点し、次回に返却する。
	9	第9回の到達目標と授業内容 ACCESSデータベースシステムを利用して、リレーショナルデータベースの検索言語としてのSQLについて、理解する。 1.ACCESSに複数のサンプルリレーションを入力作成し、SQLの検索コマンドの使い方を理解する 2.SQLの検索コマンドを利用して、射影、選択、などのリレーション操作について理解する	前回の復習とレポートの解説。実習内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。レポートは採点し、次回に返却する。
	10	第10回の到達目標と授業内容 ACCESSデータベースシステムを利用して、リレーションの無条件結合操作について理解する。 1.リレーションの無条件結合を行うSQLの検索コマンドの使い方を理解する 2.リレーションの無条件結合結果から選択と射影により必要なリレーションを得るためのSQLの検索コマンド操作について理解する	前回の復習とレポートの解説。実習内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。レポートは採点し、次回に返却する。
	11	第11回の到達目標と授業内容 ACCESSデータベースシステムを利用して、リレーションの条件付き結合操作である内結合について理解する。 1.リレーションの内結合を行うSQLの検索コマンドの使い方を理解する 2.リレーションの内結合における射影を行うためのSQLの検索コマンド操作について理解する	前回の復習とレポートの解説。実習内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。レポートは採点し、次回に返却する。
	12	第11回の到達目標と授業内容 ACCESSデータベースシステムを利用して、リレーションの条件付き結合操作である内結合について理解する。 1.リレーションの内結合を行うSQLの検索コマンドの使い方を理解する 2.リレーションの内結合における射影を行うためのSQLの検索コマンド操作について理解する	前回の復習とレポートの解説。実習内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。レポートは採点し、次回に返却する。
	13	第13回の到達目標と授業内容 データベース設計において用いられるＥ－Ｒモデルの考え方と利用の仕方について理解する。 1.Ｅ－Ｒモデルについて、基本的な記述方法について知る	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。レポートは採点し、次回に返却する。

		2.リレーショナルデータベースとＥ－Ｒモデルの関係を理解する	
	14	第14回の到達目標と授業内容 データベース管理システムとデータベースの関係、その役割と機能について理解する。 今回の授業内容： 1.データベースのトランザクション管理の役割と基本的な考え方について知る 2.データベースの障害におけるデータベース管理システムの役割について理解する	前回の復習とレポートの解説。講義内容に関する課題およびITパスポート演習課題を課し、授業中に回収する。レポートは採点し、次回に返却する。
	15	第15回の到達目標と授業内容 データベースのセキュリティについて理解し、データベース管理システムにおけるセキュリティの管理について理解する。 1.セキュリティの基本的な考え方について知る 2.データベース管理システムのセキュリティ管理の基本を知る	前回の復習とレポートの解説。今回とこれまでの講義内容に関する最終総合演習レポートを課し、授業中に回収する。
定期試験	期末試験は行わない。講義の終了後に、最終演習課題レポートを課す。		
準備学習に必要な時間	事前学習は１時間以上。事前にアップロードする講義資料を参照し予習する。 事後学習は１時間以上。毎回の授業の冒頭で、前回の演習レポートを返却しその解説を行うので、そこで再確認する。		
教科書	教科書は指定しない。講義ノートを別途配布する。Moodleのサイトにアップロードして事前学習に利用。		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：速水治夫『リレーショナルデータベースの実践的基礎』(コロナ社 2008) ITパスポート試験によくでる問題集、岩代正晴・新妻拓巳、技術評論社、その他、情報処理技術者試験問題集 毎回、すべての講義資料や演習レポートなどを印刷配布するが、別途、オンラインネットサイトのe-ラーニングシステム（Moodle）にも掲載する。提出用レポート用紙も毎回印刷配布し、授業中に回収する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	毎回、演習課題をレポートとして提出を義務付ける（レポートの提出がない場合は欠席扱い）。提出されたレポートは採点し、次回に返却する。また、授業の冒頭で、前回の演習レポートの解題を行う。 欠席した場合は、ネットのMoodleサイトにログインしてレポート用紙をダウンロードし、記入して次回提出すること。 質問などは電子メールで連絡のこと。面談にも応じる。		
評価の配点比率	目標①②③　最終回を含め、毎回の演習レポート(100%)		
受講上の注意	欠席した場合は、必ずMoodleサイトから演習レポート課題をダウンロードし、次回に提出すること。提出されたレポートは評価対象とする。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： プログラミングⅢ　　授業コード： 1321901

英文科目名称： ProgrammingⅢ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
島田　貢明			
生活科学学科生活情報専攻　専門科目		演習	ナンバリング：13B503
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、プログラミングの基礎と論理的な思考力を身につけることである。 デザイナー・アーティストのために開発されたプログラミング言語「Processing」を利用して、プログラミングによる視覚的な表現技法（イメージの生成、アニメーション、インタラクション）を学ぶ。Androidタブレット及びスマートフォンでの操作を想定したアプリケーションを開発する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①コードによる視覚的な表現を通して、基本的なプログラミング技法を習得する。	ＤＰ１	35
	目標②論理的に物事を考えられる。	ＤＰ４	35
	目標③アイデアをアプリケーションとして形にできる。	ＤＰ５	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：情報に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：情報に関する知識・技能にもとづき、論理的・合理的な思考力を身につけている。 ＤＰ５：ビジネス活動に関する知識・技能にもとづき、問題を解決するための的確な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	Processingとは（開発環境の使い方）	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題と授業アンケートをmoodle上に提出すること
	2	Processingの命令語について	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題と授業アンケートをmoodle上に提出すること
	3	プログラミングの第一歩	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題と授業アンケートをmoodle上に提出すること
	4	Processingのプログラム構造（画像を表示する）	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題と授業アンケートをmoodle上に提出すること
	5	画像を水平に動かす	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題と授業アンケートをmoodle上に提出すること
	6	範囲を決めて画像を動かす	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題と授業アンケートをmoodle上に提出すること
	7	画像をフレームの両端でバウンドさせる	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題と授業アンケートをmoodle上に提出すること
	8	画像を垂直に動かす	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題と授業アンケートをmoodle上に提出すること
	9	画像を上下にバウンドさせる	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題と授業アンケートをmoodle上に提出すること
	10	マウスの座標を利用して画像を動かす	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題と授業アンケートをmoodle上に提出すること
	11	マウスのクリックを利用したプログラミング（得点の加算）	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題と授業アンケートをmoodle上に提出すること
	12	マウスのクリックを利用したプログラミング（画像の動きを変える）	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題と授業アンケートをmoodle上に提出すること
	13	乱数の利用（画像の落下位置を変化させる）	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題と授業アンケートをmoodle上に提出すること
	14	画像を水平・垂直にバウンドさせる	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題と授業アンケートをmoodle上に提出すること
	15	総合課題とプレゼンテーション	復習により新しく学んだ技法を用いて独自のプログラムを作成し、その説明を発表できるようにすること

			課題と授業アンケートをmoodle上に提出すること
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、期末課題を提出させる。		
準備学習に必要な時間	毎回、１時間程度の復習をすることが望ましい。		
教科書	教科書は使用しない		
参考図書、教材、準備物等	必要に応じてプリントを配布する 参考図書： Casey Reas, Chandler McWilliams, LUST, 久保田 晃弘（監訳), 吉村 マサテル（翻訳)『FORM+CODE -デザイン／アート／建築における、かたちとコード』（ビー・エヌ・エヌ新社 2011/4) Casey Reas, Ben Fry, 船田 巧（翻訳）『Processingをはじめよう』第2版（オライリージャパン 2016/9)		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	Processingは公式サイト http://processing.org から無償でダウンロードができる。復習の際は、授業で学んだコードを改造し自分なりの表現を加えてみよう。		
評価の配点比率	目標①課題作品15%、授業毎の課題20% 目標②課題作品15%、授業毎の課題20% 目標③課題作品20%、授業毎の課題10%		
受講上の注意	日頃からなじみのある「アプリ」の制作を通して、プログラミングの楽しさを知ってほしいです。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： プログラミングⅣ　　授業コード： 1322001

英文科目名称： ProgrammingⅣ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
諏訪　いずみ			
生活科学学科生活情報専攻　専門科目		演習	ナンバリング：13B508
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、オブジェクト指向型プログラミング言語・JAVAおよびEclipseを用い、簡単なアプリケーションソフトを開発する能力を身に付けることである。 プログラミングの能力を養うため、 Java言語を用いてプログラミングの基礎的な考え方を学ぶ。また、Eclipseを用い、簡単なアプリケーションソフトを開発することにより、実践的な素養を養う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①JAVA言語の文法およびプログラミングの方法を理解している。	ＤＰ１	15
	目標②Eclipseを用いたアプリケーションソフトの開発方法を理解している。	ＤＰ１	15
	目標③JAVA言語により簡単なプログラミングが行える。	ＤＰ４	40
	目標④Eclipseを用いて簡単なアプリケーションソフトが開発できる。	ＤＰ５	20
	目標⑤主体的に課題に取り組むことができる。	ＤＰ７	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：情報に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：情報に関する知識・技能にもとづき、論理的・合理的な思考力を身につけている。 ＤＰ５：ビジネス活動に関する知識・技能にもとづき、問題を解決するための的確な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス　Eclipse入門	
	2	Java（オブジェクト指向）の考え方	授業後に課題提出と小テスト　paizaによる予習復習
	3	変数と型　演算子	授業後に課題提出と小テスト　paizaによる予習復習
	4	制御文１　if文による簡単な条件分岐	授業後に課題提出　paizaによる予習復習
	5	制御文2　if文による複雑な条件分岐	授業後に課題提出　paizaによる予習復習
	6	制御文３　while文による繰り返し処理	授業後に課題提出　paizaによる予習復習
	7	制御文４　for文による繰り返し処理	授業後に課題提出　paizaによる予習復習
	8	配列と繰り返し処理	授業後に課題提出　paizaによる予習復習
	9	条件分岐・繰り返し処理・配列のまとめ	授業後に課題提出　paizaによる予習復習
	10	並べ替え（ソート）	授業後に課題提出　paizaによる予習復習
	11	メソッドの利用	授業後に課題提出　paizaによる予習復習
	12	クラスとメソッド	授業後に課題提出　paizaによる予習復習
	13	コンストラクタ	授業後に課題提出　paizaによる予習復習
	14	クラス継承	授業後に課題提出　paizaによる予習復習
	15	まとめ演習	授業後に課題提出

定期試験	定期試験に代わって、全講義終了後に、最終課題を提出。
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事後学習が必要。参考図書やプログラミング学習サイト等を用いて理解を深めるのが望ましい。
教科書	使用しないが、下記の「Javaの絵本」のような文法解説の参考書を持つことを強く推奨する。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：Javaの絵本（第３版） Eclipse 4.3ではじめるJavaプログラミング入門 学習サイト：paizaラーニング

課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方、 成績評価の詳細に関しては、 第1回のガイダンスで説明する。授業の課題提出 ・資料提供は moodleを用いてを行う． 指定の技術的課題がクリアされているかどうかを評価基準とする． 提出物のフィードバックは直接又はポートフォリオ上に返す。成績評価を含め、 質問等がある場合は、 電子メール (suwa@jin-ai.ac. jp) で連絡すること。
評価の配点比率	目標①小テスト５% 授業での課題10%、 最終課題5% 目標②小テスト５% 授業での課題10%、 最終課題5% 目標③授業での課題25%、 最終課題5% 目標④授業での課題15%、 最終課題5% 目標⑤授業での課題10%
受講上の注意	言語としてはJavaを扱いますが、オブジェクト指向的なプログラミングの考え方を身につけます。 プログラミングⅢを受講していることが望ましいです。 積み上げ型の演習なので、欠席すると単位の取得が難しくなります。 初回は環境設定を行うので、欠席すると課題未提出扱いとなります。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL） □討議（ディスカッション、ディベート） □グループワーク □発表（プレゼンテーション） □実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク □反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) ■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 文章・言語表現　　授業コード： 1322101

英文科目名称： Introductory Method for Writing and Speech

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
張籠　二三枝			
生活科学学科生活情報専攻　専門科目		講義	ナンバリング：13D501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、社会生活の様々な場面でもとめられる適切な言語表現の在り方についての理解を深め、その習熟を図ることにある。 そのため、よりよい言語表現の探求を通し、私たちの暮らしを支える言語文化について正しく認識し、関心と敬意を確かなものにしていくことを学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①言語表現というものについて、その本質と基本を理解し、多様な表現を味わうことができる。	ＤＰ３	30
	目標②より効果的な言語表現の在り方を探究し、日常的によりよい表現を心がけることができる。	ＤＰ４	20
	目標③もとめられる文章の形式にのっとった言語表現に習熟することで、多様な表現の可能性を追求することができる。	ＤＰ６	25
	目標④言語表現への関心を持続し、言語文化全般への興味、言語文化をささえる日々の事象に細かいまなざしを向けることができる。	ＤＰ８	25
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：コミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：情報に関する知識・技能にもとづき、論理的・合理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：コミュニケーションに関する知識・技能にもとづき、他者の声に耳を傾け、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：建学の精神「仁愛兼済」や地域文化にもとづき自己を確立した上、多様な文化や考えの意義を理解し、共に生きる態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	「されどことば　～　たかがことば」 言語表現・文章表現に先立って、言語の本質に対する理解を深める。	授業のねらいと進め方を理解する。 随筆・抒情文・俳句・書簡を課題とする演習型の講座であることを了解し、創作活動に取り組むことへの心構えを持つ。 （新聞・雑誌等のエッセイ・コラムに目を止める）
	2	「随筆」執筆に向けて 随筆の特質・味わい（概説） 原稿用紙の使い方等	文章創作の基本を学ぶ。 次回までに執筆準備（素材を考える）。
	3	「随筆」執筆（風花随筆文学賞応募に向けて） 推敲のポイントについて（レクチャー）	作家津村節子氏及び審査員の作家について知る。 下書き（第一次草稿）完成に向けて各自で取り組む。
	4	書き上げた文章の自己評価と推敲 （自己評価のためのチェック項目、 推敲後のチェック項目）	下書きを完成 チェック項目に従い自己評価する 推敲を重ね、完成を目指す。
	5	風花随筆文学賞　応募（10月末日〆切） 次回予告（場合によってはテーマを提示）	課題提出①　清書・応募票記入 次回に向けて、構想しておく。
	6	「抒情文」（いわゆる作文）の執筆に向けて 抒情文の特質	体験をもとに、感じたことや考えたことを書き綴ることを目指して、準備する。
	7	執筆活動　（推敲も含めて）	下書き（草稿）の完成を目指して各自で取り組む。
	8	執筆活動（完成・清書）	課題提出②　推敲を経て清書
	9	俳句という表現 俳句の基本（創作に向けて）・名句鑑賞	課題提出③―１　感銘を受けた句、印象に残った句を三作選び、簡単な感想を作文する。
	10	俳句という表現～私たちの目ざす俳句 前回の課題をもとに、良い俳句について考察	俳句の基本を知り、創作への意欲を持つ。 次回までに構想しておく（習作三句）。
	11	俳句という表現～季語を学ぼう 句作と句会の概要	課題提出③―２　三句創作・投句 席題（当日詠）にそなえ準備しておく。
	12	句会・披講と優秀句の顕彰 俳句という表現～人生の詠懐	披講と句の評価について学ぶ。 卒業の句に向けて構想を練る。

	13	俳句という表現～一句の情景 卒業の句と、句の背景の作文	課題提出③―３　俳句および「一句の情景」執筆・完成 俳句と「一句の情景」
	14	書簡文～手紙という表現 正式な手紙文（形式の意味）	時候の挨拶その他を研究・構想。 便箋等を吟味、準備する。
	15	書簡文	課題提出④　大切な人に、卒業を報じる形式にのっとった手紙を書く。

定期試験	課題の提出を以て代替します （提出回の次の講義で評価基準を添えた成績を手渡すします。）
準備学習に必要な時間	執筆にそなえ、日々、身の回りに視線を注いでおくこと。地域のイベントや展覧会、公演など行事にも参加し、見聞を深めておくとよい。提出が遅れないよう、執筆に取り組むこと。事前・事後学習はとしては、日々の読書活動（新聞。雑誌等も含む）に加えて、1～２時間が必要である。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『学生・社会人のための表現入門』　　ＩＺＵＭＩ　ＢＯＯＫＳ４　和泉書院発行 教材　　：プリント教材を配布
課題（試験・レポート等）のフィードバック	提出物は、評価後にフィードバックする。 備考：エッセイはコンクールに応募・抒情文等は作品集などにまとめる。
評価の配点比率	目標①エッセイ（風花応募作）30％ 目標②抒情文30％ 目標③俳句　30％（10％×３） 目標④書簡10％
受講上の注意	提出物：随筆・抒情文・俳句（名句鑑賞文・習作三句・卒業句（解説付き）・書簡文一点。 授業の計画にそって提出すること。 提出物をもとに展開する回もあるので、時間内の提出を心がけること。 日頃から、読書をたしなみ、新聞雑誌等にも目を通すよう心掛けること。 文章表現を楽しみましょう！
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： ビジネスイングリッシュ　　授業コード： 1322201

英文科目名称： Business English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
野本　尚美			
生活科学学科生活情報専攻　専門科目		講義	ナンバリング：13C507
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、主にビジネスで用いられる英語の運用スキルを身につけることである。具体的には、来客応対や電話応対、会議、ビジネスEメール、プレゼンテーションなどで用いられる英語表現などについて学ぶ。また、TOEICテストについても基礎的な語彙・文法を中心に学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①ビジネス英語に関する文章や会話文を読んで、その内容を理解することができる。	ＤＰ２	50
	目標②ビジネス英語に関する基礎的な語彙力や文法力を背景として、状況に応じた英語表現を考えることができる。	ＤＰ５	20
	目標③積極的に他者と議論し、自分の考えをまとめ、発表することができる。	ＤＰ６	20
	目標④異なる文化について理解を深める意欲がある。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：ビジネス活動に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：ビジネス活動に関する知識・技能にもとづき、問題を解決するための的確な判断力を身につけている。 ＤＰ６：コミュニケーションに関する知識・技能にもとづき、他者の声に耳を傾け、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：建学の精神「仁愛兼済」や地域文化にもとづき自己を確立した上、多様な文化や考えの意義を理解し、共に生きる態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	Introduction / Unit 1　Job Hunting①	授業の進め方や、予習・復習の仕方について説明する。
	2	Unit 1　Job Hunting② / TOEIC練習問題①	授業前にReading&Writing(p.9, 10)を解いてくること。
	3	Unit 2　Job Interviews	授業前にBusiness Topic(p.16)を解いてくること。
	4	Unit 3　Company Profile / TOEIC練習問題②	授業前にReading&Writing(p.22)を解いてくること。
	5	Unit 4　Job Description	第1回小テストを行う。授業前にReading&Writing(p.28)を解いてくること。
	6	Unit 5　Announcing at Meeting / TOEIC練習問題③	授業前にReading&Writing(p.34)を解いてくること。
	7	Unit 6　Meeting Business Associates at the Airport	授業前にReading&Writing(p.40)を解いてくること。
	8	Review Part 1-6 / Unit 7　At the Reception Desk① / TOEIC練習問題④	授業前にReading&Writing(p.46)を解いてくること。
	9	Unit 7　At the Reception Desk② / プレゼンテーションの準備	授業前にBusiness Topic(p.49)を解いてくること。
	10	プレゼンテーション発表会	第2回小テスト及びプレゼンテーション発表会を行う。
	11	Unit 8　Introductions & Exchanging Business Cards　/ TOEIC練習問題⑤	授業前にReading&Writing(p.52)を解いてくること。
	12	Unit 9　Opening Remarks at a Meeting	授業前にReading&Writing(p.58)を解いてくること。
	13	Unit 10　Presentation	授業前にReading&Writing(p.64)を解いてくること。
	14	Unit 11　Negotiation	授業前にReading&Writing(p.70)を解いてくること。
	15	Unit 12　Invitation to Dinner	授業前にReading&Writing(p.76)を解いてくること。
定期試験	試験期間中に筆記試験を行う。		
準備学習に必要な時間	毎回2時間程度の事前・事後学習が必要です。授業後は必ず復習をした上で次回の授業に臨んでください。		

教科書	辻和成・辻勢都・Margaret M. Lieb著『実践ビジネス英語』（朝日出版社、2020）
参考図書、教材、準備物等	その他、必要と思われる教材を適宜配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	テストは採点後に返却します。成績評価を含め、質問等がある場合は、研究室前に掲示してあるオフィスアワーを利用するか、電子メール（nomoto@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。
評価の配点比率	目標①筆記試験　50% 目標②小テスト　20% 目標③プレゼンテーション　20% 目標④ミニレポート　10%
受講上の注意	実践的なビジネス英語について学びます。わからないところは積極的に質問してください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： コミュニケーション演習Ⅱ　　授業コード：1322301

英文科目名称： Communication SeminarⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
帆谷　和浩			
生活科学学科生活情報専攻　専攻科目		演習	ナンバリング：13D503
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、コミュニケーションの本質を理解し、多様な状況に応じた適切かつ理想的なコミュニケーション能力を身につけることである。近年、身近なグループから地域社会まで幅広い分野（家族、友人、大学、サークル、職場等）においてコミュニケーションの重要性が高まっている。本演習ではグループワークや地域活動などを通して効果的な対人及びオンラインコミュニケーションについて学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①多様な環境・状況に対して問題意識を持つことができる。	ＤＰ４	10
	目標②問題解決のための情報収集・分析等、効果的に情報技術を活用できる。	ＤＰ３	30
	目標③課題を多面的かつ筋道をたてて論理的に考えることができる。	ＤＰ４	10
	目標④発見した課題をチームで協動的に解決することができる。	ＤＰ９	20
	目標⑤他者の声に耳を傾け、自分の考えをわかりやすく伝えることができる（口頭、文書等）。	ＤＰ６	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：コミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：情報に関する知識・技能にもとづき、論理的・合理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：コミュニケーションに関する知識・技能にもとづき、他者の声に耳を傾け、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：地域社会や組織の一員としてリーダーシップを発揮し、チームで協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス テレワークとコミュニケーション	①情報収集と比較分析の概要を学習する。 ②新しい働き方（テレワーク）の概要を学習する。 ③協働作業とコミュニケーションの在り方を考える。 ④演習のためのグループ分けの実施。
	2	テレワークの種類とコミュニケーション	テレワークの種類についてレポートを提出する。 ①公私のコミュニケーション ・フォーマルコミュニケーション ・インフォーマルコミュニケーション ②テレワークが進んでいる企業 ③職種別テレワーク ④テレワークでのコミュニケーション
	3	テレワークコミュニケーションでのマナー	電子会議についてレポートを提出する。 ①対人コミュニケーションとオンラインコミュニケーションの比較 ②対人コミュニケーションのマナー ③オンラインコミュニケーションのマナー ④電子会議でのマナー
	4	非言語コミュニケーションについて	非言語コミュニケーションについてレポートを提出する。 ①コミュニケーションの種類 ・バーバルコミュニケーション ・ノンバーバルコミュニケーション ②ジェスチャーや合図、しぐさや態度での伝達 ③手話でのコミュニケーション ④SNSでのコミュニケーション
	5	上手なコミュニケーション	課題に対して、その解決策についてレポートを提出する。 ①話し方と聞き方 ②話し方（５Ｗ３Ｈ） ③聞き方とメモの在り方 ④ディジタルメモの活用方法

	6	社会でのコミュニケーションのあり方(1)	課題に対して、その解決策についてレポートを提出する。 ①地域社会に対する問題意識 ②地域社会との関わり方 ③名刺交換の重要性と名刺管理方法 ④名刺でのコミュニケーション
	7	社会でのコミュニケーションのあり方(2)	課題に対して、その解決策についてレポートを提出する。 ①名刺交換の方法 ②ＱＲコードの作成 ③名刺の作成
	8	社会でのコミュニケーションのあり方(3)	グループワーク。地域における課題について考える。 ①メールでのコミュニケーション ②ＳＮＳでのコミュニケーション ③ディジタル化と匿名性
	9	地域の課題について考える(2)	グループワーク。地域における課題について考える。 ①Twitterからのコミュニケーション ②ディジタル化と匿名性の問題点 ③リアルタイムでのコミュニケーションツール
	10	課題の発見と情報収集、整理	グループワーク。課題に関するレポートを作成する。 ①問題に対するアンケート調査 ②調査方法の種類 ③授業内でのアンケート作成
	11	地域活動の事前準備(1)	グループワーク。地域活動に関するレポートを作成する。 ①地域内での問題点の確認 ②地域内高齢者とのコミュニケーション ②問題解決の素案を考える
	12	地域活動の事前準備(2)	グループワーク。地域活動に関するレポートを作成する。 ①問題点の解決方法 ②社会貢献としてのコミュニケーションの是非
	13	プレゼンテーション(1)	地域活動について発表する。
	14	プレゼンテーション(2)	地域活動について発表する。
	15	地域コミュニティとその在り方について	これまでの活動をもとに、コミュニケーションについて考察する。 対人及びＳＮＳにおけるコミュニケーションのまとめ
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、レポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	毎回１時間程度の事後（事前）学習が必要。日々、新聞等のニュースソースに目を通し、地域や将来に関わる課題に対して問題意識を持つように心掛けてください。		
教科書	使用せず。毎回配布プリント、或いはPDFファイルを用意します。		
参考図書、教材、準備物等	教材：授業中に配布するプリント		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方については1回目のガイダンスで説明します。レポートは採点後に返却します。成績評価を含め、質問等がある場合は、研究室前に掲示してあるオフィスアワーを利用するか、電子メール（hotaboo@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。		
評価の配点比率	目標①②④⑤ ８～１２週目に実施されるグループ演習・発表内容 30%、レポートの提出 30% 目標③⑤ ８～１１週目に実施されるグループ演習課題 40%		
受講上の注意	問題意識をもって、楽しくコミュニケーション力をつけましょう。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： データベース演習Ⅱ　　授業コード： 1322401

英文科目名称： Practice of Database SystemⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
篭谷　隆弘			
生活科学学科生活情報専攻　専門科目	ビジネス実務士資格選択	演習	ナンバリング：13C505
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、データの活用方法と実践的な知識を身につけ、将来の企業実務においても利活用できるようになるためのビジネススキルを身につけることである。 学生は、情報化社会において、パーソナルコンピュータやネットワークを活用することで、次々と発生する情報を効率よく処理することが可能であることを理解する。また、データの入力・集計・分類・可視化といったビジネス現場に必要なデータ活用能力を身につける。 課題の提示・回収にLMS（Moodle）を利用する。実技内容を動画としても提示するので参照すること。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①表計算ソフトを活用して、業務データベースを作成できる。		ＤＰ１	30
	目標②企業実務における用語等について理解できる。		ＤＰ２	20
	目標③データを様々な角度から分析できる。		ＤＰ５	20
	目標④分析結果をグラフ等を活用して表現できる。		ＤＰ６	20
	目標⑤日商PC検定試験の合格を目指して、課題に取り組む意欲がある。		ＤＰ７	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：情報に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。 ＤＰ２：ビジネス活動に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：ビジネス活動に関する知識・技能にもとづき、問題を解決するための的確な判断力を身につけている。 ＤＰ６：コミュニケーションに関する知識・技能にもとづき、他者の声に耳を傾け、自らの考えを伝える表現力を身につけている。		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業概要説明、企業で扱うデータ	テキストで予習、演習課題で復習を行い提出
	2	業務フローとデータの流れについて	テキストで予習、演習課題で復習を行い提出
	3	業務データの入力・処理（計算）の基本	テキストで予習、演習課題で復習を行い提出
	4	業務データの分析	テキストで予習、演習課題で復習を行い提出
	5	業務データの可視化	テキストで予習、演習課題で復習を行い提出
	6	問題の発見と課題解決	テキストで予習、演習課題で復習を行い提出
	7	表作成の活用	テキストで予習、演習課題で復習を行い提出
	8	テーブルデータの処理	テキストで予習、演習課題で復習を行い提出
	9	利益の分析処理	テキストで予習、演習課題で復習を行い提出
	10	評価の表示	テキストで予習、演習課題で復習を行い提出
	11	集計処理の基本	テキストで予習、演習課題で復習を行い提出
	12	集計処理の応用	テキストで予習、演習課題で復習を行い提出
	13	様々なグラフの作成	テキストで予習、演習課題で復習を行い提出
	14	グラフの活用	テキストで予習、演習課題で復習を行い提出
	15	総合問題	テキストで予習、演習課題で復習を行い提出

定期試験	実技試験を行う。
準備学習に必要な時間	各回の授業内容を演習課題にて復習する。（30分～1時間）
教科書	日商PC検定試験データ活用２級公式テキスト問題集 Excel２０１３対応（FOM出版）

参考図書、教材、準備物等	市販のExcelに関する書籍や日商ＰＣ検定試験対策の書籍も参考にしてください。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	多くの演習課題を通して、与えられるテーマの問題に、どのような処理・操作が必要かを理解できる能力を身に着けてください。また、日商PC検定試験（データ活用２級）の受験・合格を目指してください。 演習課題の未提出・不備を減点の対象とする。 各回の課題はLMSに提出し、適正に提出できているかフィードバックする。
評価の配点比率	目標①期末の実技試験（実技・計算）30% 目標②期末の実技試験（知識）20% 目標③期末の実技試験（実技・分析）20% 目標④期末の実技試験（実技・可視化）20% 目標⑤各回の課題 10% 各回の課題の未提出は、5%減点する。また、日商PC検定試験結果を加点する。
受講上の注意	目標に向かって主体的に学習する必要があります。分からない点は、自ら調べる・仲間や教師に聞く、繰り返しトライする。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 生活会計学Ⅱ　　授業コード： 1322501

英文科目名称： Basic AccountingⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
大西　新吾			
生活科学学科生活情報専攻　専門科目		講義	ナンバリング：13C506
添付ファイル			

授業の概要	この授業の目的は、企業の規模に注目し、中小企業の会計を「情報と活用」という視点から捉え、理解することである。 　具体的には、中小企業の貸借対照表及び損益計算書の中で特に重要となる項目について学習した後、「経営分析」、「税金」等の観点から中小企業の会計を考察していく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①中小企業の会計の学びをとおして、ビジネスに関する基礎知識を身につけることができる。	ＤＰ２	30
	目標②経営分析をとおして、情報に関する論理的・合理的な思考力を身につけることができる。	ＤＰ４	30
	目標③税務会計の学びをとおして、課題に対する的確な判断力を身につけることができる。	ＤＰ５	30
	目標④経理に関わる人間として備えておくことが望ましい態度を身につけることができる。	ＤＰ７	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：ビジネス活動に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：情報に関する知識・技能にもとづき、論理的・合理的な思考力を身につけている。 ＤＰ５：ビジネス活動に関する知識・技能にもとづき、問題を解決するための的確な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	企業と会計―種類と規模、中小企業関連諸規定	中小企業とは何か、考えてみましょう。
	2	中小企業の会計（1）一巡	事前学習：簿記3級の内容を確認しておくこと。 事後学習：取引から決算までの一巡の流れをしっかり復習しておくこと。
	3	中小企業の会計（2）貸借対照表の重要項目	事前学習：貸借対照表とは何か、どのような項目があるかについて確認しておくこと。 事後学習：貸借対照表の重要項目について復習しておくこと。
	4	中小企業の会計（3）損益計算書の重要項目	事前学習：損益計算書とは何か、どのような項目があるかについて確認しておくこと。 事後学習：＜5つの利益＞について復習しておくこと。
	5	中小企業の経営分析（1）貸借対照表分析	事前学習：流動・固定分類について確認しておくこと。 事後学習：身近な企業の分析を試みてみること。
	6	中小企業の経営分析（2）損益計算書分析	事前学習：原価率について調べてみること。 事後学習：身近な企業の分析を試みてみること。
	7	中小企業の経営分析（3）総合分析	事前学習：第5回と第6回の振り返りをしておくこと。 事後学習：貸借対照表と損益計算書の関連を意識して、身近な企業の分析を試みてみること。
	8	確認テスト1（60分）と振り返り（30分）	事前学習：第1回から第7回の内容に関してしっかり復習をすること。 事後学習：確認テストの復習をしっかり行うこと。
	9	中小企業と税金（1）税金の意義と分類	事前学習：税金の種類を調べてくること。 事後学習：海外の税金についても調べてみること。
	10	中小企業と税金（2）　所得税（給与所得）	事前学習：年末調整制度について調べてくること。 事後学習：人的控除と物的控除についてよく復習しておくこと。
	11	中小企業と税金（3）　所得税（事業所得）	事前学習：個人事業と法人との違いについて調べてみること。

	11		事後学習：青色申告制度について自分でも調べてみること。
	12	中小企業と税金（4）法人税	事前学習：法人の種類について調べておくこと。 事後学習：所得税との違いを確認すること。
	13	中小企業と税金（5）消費税	事前学習：消費税の問題点について考えてくること。 事後学習：諸外国の制度と比較してみること。
	14	中小企業と税金（6）　その他の税金	事前学習：国税以外の税金について調べてみること。 事後学習：自分の就職先・進路に関わる税について考えてみること。
	15	確認テスト2（60分）と振り返り（30分）	事前学習：第9回から第14回の内容に関して復習すること。 事後学習：確認テストの復習をしっかり行うこと。
定期試験	授業中に行う確認テスト1 及び確認テスト2で評価する。		
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事前学習と1時間程度の事後学習が必要となる。特に、自らのキャリア（就職）を意識して、関心が有る企業の場合に当てはめて調べていく態度が求められる。		
教科書	教科書は使わない。授業中にプリントを配布する。		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『会社四季報 業界地図』（東洋経済新報社2020）、『日経 業界地図』（日本経済新聞社2020）、『会計クイズを解くだけで財務3表がわかる　世界一楽しい決算書の読み方』・大手町のランダムウォーカー・2020年3月28日初版(KADOKAWA)		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	確認テスト1及び確認テスト2の実施前に内容の確認を行い、実施後に振り返りをする。成績評価を含め質問がある場合はオフィスアワーを利用すること。		
評価の配点比率	目標①:確認テスト1（15%）、確認テスト2（15%）目標②:確認テスト1（30%）　目標③:確認テスト2（30%）　目標④:確認テスト1(5%)、確認テスト2（5%）		
受講上の注意	履修にあたっては、「生活会計学Ⅰ」、「生活会計学演習Ⅰ」、「生活会計学演習Ⅱ」を履修しておくことが望ましい。特に金融機関（銀行・証券会社・会計事務所等）に就職予定の学生は受講することが望ましい。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 生活商品学　　授業コード： 1322601

英文科目名称： Theory of Commodities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
南保　勝			
生活科学学科生活情報専攻　専門科目		講義	ナンバリング：13C509
添付ファイル			

授業の概要	「生活商品学」は、生活者の立場から商品のクオリティーや価格などを評価できる基礎知識を修得することを目的とする。 本講義では、テキストをベースに授業計画に沿って進める。各講義の終わりに当日の講義の復習も兼ねた演習に取り組む。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①組織的、社会的な活動での業務遂行に必要な分析力や計画性に関する知識・技能を身に着ける。	ＤＰ２	30
	目標②商品のクウォリティーや価格を評価する思考力を身に着ける。	ＤＰ４	15
	目標③現代社会における企業の在り方について説明できる。	ＤＰ５	15
	目標④時代変化に適合を目指す様々な企業の存在を理解し、共生できる多様性を身に着ける。	ＤＰ８	10
	目標⑤ある課題に対し自己の主張が述べられる。	ＤＰ６	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：ビジネス活動に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：情報に関する知識・技能にもとづき、論理的・合理的な思考力を身につけている。 ＤＰ５：ビジネス活動に関する知識・技能にもとづき、問題を解決するための的確な判断力を身につけている。 ＤＰ６：コミュニケーションに関する知識・技能にもとづき、他者の声に耳を傾け、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：建学の精神「仁愛兼済」や地域文化にもとづき自己を確立した上、多様な文化や考えの意義を理解し、共に生きる態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、構造変化と消費行動	授業の進め方、取り組みに方について説明
	2	構造変化と消費行動	経済・社会の変化と消費行動について
	3	商品の概念	商品とは何か
	4	商品の品質と価格	商品の品質と価格の妥当性について
	5	商品デザインとパッケージ	デザイン、パッケージの役割
	6	経済のサービス化と商品（その１）	消費ニーズの変化について
	7	経済のサービス化と商品（その２）	経済のサービス化の中での商品とは
	8	消費生活を取り巻く諸問題	消費生活の課題を考える
	9	ブランドの価値と役割（その１）	ブランドの役割について
	10	ブランドの価値と役割（その２）	ブランドの役割について
	11	少子高齢化社会における商品（その１）	少子高齢化社会で求められる商品とは
	12	少子高齢化社会における商品（その２）	少子高齢化社会で求められる商品とは
	13	商品と社会（その１）	社会的企業とは
	14	商品と社会（その２）	社会的企業の役割とは
	15	まとめ	講義内容の復習

定期試験	試験期間中に筆記試験を行う。
準備学習に必要な時間	毎回の授業に合わせて、教科書の該当箇所を事前学習しておくこと（60分程度）

教科書	見目洋子、榊原理著『現代商品論（第２版）』白桃書房2011年
参考図書、教材、準備物等	見目洋子、榊原理著『現代商品論（第２版）』白桃書房2011年
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業への取り組み方については、1回目のガイダンスで説明します。授業終了前に実施する演習は、評価の対象とするため真面目に取り組み提出すること。疑問点、質問などは、Eメール(nambo@fpu.ac.jp)、Moodleメッセージで連絡ください。
評価の配点比率	目標①　筆記試験出題数50問のうち20問 30% 目標②　筆記試験出題数50問のうち10問 15% 目標③　筆記試験出題数50問のうち10問 15% 目標④　筆記試験出題数50問のうち10問 10% 目標⑤　授業終了後毎回実施する演習15回 30%
受講上の注意	社会人として必要な生活センスを身に着けることも目標の一つとしています。そのため、疑問点などがあれば何時でも質問してください。
教員の実務経験	地方銀行及びその関連したシンクタンクで経済、経営学の実務を実践した教員が、その勤務経験を活かして、消費者からみた商品とは何かについて解説する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　■反転授業　■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： ビジネス実務演習Ⅰ　　授業コード：1322701　1322702

英文科目名称： Seminar in Business Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前期	２年次	１単位	選択	
担当教員				
澤崎　敏文				
生活科学学科生活情報専攻　専門科目	情報処理士資格選択・ビジネス実務士資格必修		演習	ナンバリング：13C504
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は、社会人として必要なビジネススキル（コミュニケーション、情報処理、企画立案、プレゼン、企画実行能力）を、演習活動を通して身に着けることである。 具体的な事例を用いて課題に対し具体的な解決策を見つけ出すケースメソッド型の演習を実施する。特に、演習Iでは、ビジネスの基礎、ビジネス文書作成等のコミュニケーション技術を、会議やプレゼンテーション形式で演習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①業務遂行に必要な分析や計画性に関する知識や手法について述べることができる。	ＤＰ２	15
	目標②ビジネス文書の目的・意義について理解することができる。	ＤＰ２	15
	目標③状況に応じて業務を管理する力を備えている。	ＤＰ５	30
	目標④課題に対してチームで協働的に問題解決をすることができる。	ＤＰ９	20
	目標⑤業務における課題を主体的に発見し、それに対応した的確な解決策を提示できる。	ＤＰ７	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：ビジネス活動に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：ビジネス活動に関する知識・技能にもとづき、問題を解決するための的確な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 ＤＰ９：地域社会や組織の一員としてリーダーシップを発揮し、チームで協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	会社とは、ビジネスとは、マネジメントとは	事後学習：会社で働くということについて調べてまとめる
	2	ビジネス実務の基礎、文書作成	ビジネス実務で必要とされる基礎的な文書について、実際にどのようなものがやり取りされ、なぜ必要か、また、どのような形式で作成していくかの基礎を習得する。 事後学習：ビジネス文書のフォーマットとその意味について比較検討をすること
	3	往復文書、依頼文、通知等の作成演習（社内文書）	グループワークにより稟議の演習を行う。 ビジネス実務で必要とされる基礎的な文書について、それぞれの形式が持つ意味を理解することで、ビジネス文書活用の意義を確認する。 事後学習：与えられた状況から考えて自分で依頼文書を作成してみる
	4	往復文書、依頼文、通知等の作成演習（社外文書）	グループワークにより稟議の演習を行う。 ビジネス実務で必要とされる基礎的な文書について、それぞれの形式が持つ意味を理解することで、ビジネス文書活用の意義を確認する。 事後学習：与えられた状況から考えて自分で依頼文書を作成してみる
	5	会議における議事録・報告書の作成演習	ビジネス実務で必要とされる基礎的な文書について、それぞれの形式が持つ意味を理解することで、ビジネス文書活用の意義を確認する。 事後学習：模擬会議のメモから議事録形式の文書を作成して共有する
	6	企画書・提案書の作成演習	グループワークにより、小売業の企画書を作成する。 ビジネス実務で必要とされる基礎的な文書について、それぞれの形式が持つ意味を理解することで、ビジネス文書活用の意義を確認する。 事後学習：与えられた状況を考えて、企画・提案書を作成してみる

	7	プレゼンテーション演習	グループワークにより、作成された企画・提案書の発表を行う。 事前学習：前週の企画・提案書を踏まえて、それらをプレゼンテーションできるよう準備
	8	ビジネス実務における電話対応、メール対応	電話対応・電子メール利用時における心構えやマナーについて学ぶ。 演習を通して、電話対応の在り方を考える 事後学習：電話対応の良い点・悪い点について映像を見てそれぞれを分析
	9	来客対応の実際、ビジネスマナーの実際、会議の実際	来客対応の基本的なマナーについて学ぶ 会議等での基本的なルールについて学ぶ 事後学習：与えられた状況課題から、一番ふさわしい来客対応とその理由を考える
	10	事務管理、経営と事務	事務と事務機能についての基礎を学びます。 事後学習：模擬会議を実施し、どのような事後、事前準備が必要かをまとめる
	11	実例から学ぶ事務管理（１）	秘書業務や事務管理に関するビデオを見て、仕事の進め方、働き方について議論を行います。 事後学習：与えられた議論ポイントについての考察、まとめを行うこと。
	12	実例から学ぶ事務管理（２）	秘書業務や事務管理に関するビデオを見て、仕事の進め方、働き方について議論を行います。 事後学習：与えられた議論ポイントについての考察、まとめを行うこと。
	13	実例から学ぶ事務管理（３）	秘書業務や事務管理に関するビデオを見て、仕事の進め方、働き方について議論を行います。 事後学習：与えられた議論ポイントについての考察、まとめを行うこと。
	14	事務管理とコンプライアンス	グループワークにより、コンプライアンスを事例から考える。まとめ、発表 事後学習：働き方についてのレポート作成
	15	本授業全体の振返り、まとめの小テスト	まとめの小テストについては、これまで学習してきたことを総合的に問う問題を出題します。 教科書に対応する箇所は第１章～１１章 事後学習：最終レポート
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、レポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	事後学習、授業準備に毎回１時間程度の時間が必要。		
教科書	「よくわかる基礎知識　マナー・文書・仕事のキホン」（ぎょうせい ISBN978-4-324-09452-5）		
参考図書、教材、準備物等	また、適宜プリント等を配布する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	企業等の業種を問わず、様々な実務の場面で活用できる知識・技能の習得を目指して演習活動を実施していきます。 ＬＭＳ(Moodle)を利用して課題の配布・提出が行われます。		
評価の配点比率	目標①　１５週目に実施する小テスト　15% 目標②　授業で提出するレポート課題　15% 目標③　授業内での演習課題　30% 目標④⑤　７週目、１４週目に実施する発表（プレゼンテーション）　各20%で、２回で合計 40%		
受講上の注意	課題等の提出が毎回あるので。Moodle（LMS）を定期的に確認すること。		
教員の実務経験	企業経営の経験、商工会議所等での専門アドバイザーとしての経験を有する教員が、その経験を活かして、ビジネスにおける基本的な知識や今日的な課題について講義を行う。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　☑発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　☑双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　☑自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： ビジネス実務演習Ⅱ　　授業コード：1322801　1322802

英文科目名称： Seminar in Business Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
澤崎　敏文			
生活科学学科生活情報専攻　専門科目	情報処理士資格選択・ビジネス実務士資格必修	演習	ナンバリング：13C508
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、社会人として必要なビジネススキル（コミュニケーション、情報処理、企画立案、プレゼン、企画実行能力）を、演習活動を通して身に着けることである。 具体的な事例を用いて課題に対し具体的な解決策を見つけ出すケースメソッド型の演習を実施する。特に、ビジネス実務演習Ⅱでは、ビジネス実務演習Iで習得した技能を活用し、課題解決、企画立案等の手法をマーケティングやマネジメントの考え方を応用しながら演習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①業務遂行に必要な分析や計画性に関する知識や手法について述べることができる。	ＤＰ２	15
	目標②ビジネス文書の目的・意義について理解することができる。	ＤＰ２	15
	目標③状況に応じて業務を管理する力を備えている。	ＤＰ５	30
	目標④課題に対してチームで協働的に問題解決をすることができる。	ＤＰ９	20
	目標⑤業務における課題を主体的に発見し、それに対応した的確な解決策を提示できる。	ＤＰ７	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：ビジネス活動に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：ビジネス活動に関する知識・技能にもとづき、問題を解決するための的確な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 ＤＰ９：地域社会や組織の一員としてリーダーシップを発揮し、チームで協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、ビジネス実務の基礎と実際	グループワークのためのチーム編成を行います。 事後学習：ビジネス実務演習Ｉで学習した内容、課題の見直し
	2	マーケティング入門（1）：マーケティングに関する基礎的な知識（３つのＣやＳＷＯＴ分析）を学びます。	グループワーク グループで、ビジネス事例について議論を行います。 事後学習：ビジネス事例についての問題点などをＳＷＯＴ分析に基づき検討する
	3	マーケティング入門（2）：マーケティングに関する基礎的な知識（３つのＣやＳＷＯＴ分析）を学びます。	グループワーク グループで、ビジネス事例について議論を行い、解決策について発表を行います。 事後学習：分析したビジネス事例についてレポート作成
	4	マーケティング入門（3）：マーケティングに関する基礎的な知識（４つのＰ、セグメント、ターゲティング）を学びます。	グループワーク マーケティング理論の基礎を学び、福井の事例について議論を行います。 事後学習：福井の事例に関するＳＷＯＴ分析の検討
	5	マーケティング入門（4）：マーケティングに関する基礎的な知識（ポジショニング）を学びます。	グループワーク マーケティング理論の基礎を学び、福井の事例について議論を行います。 事後学習：福井の事例に関するＳＷＯＴ分析のレポート作成
	6	マーケティング演習：基礎を応用して経営について考えます。	グループワーク ＳＷＯＴ分析、４つのＰ（マーケティングミックス）から、さらに、セグメンテーション、ターゲティングという考えを用いて効果的な戦略を考えます。 事後学習：ＳＷＯＴ分析を基に、経営計画を検討
	7	マーケティング演習：経営計画の発表	グループワーク 検討してきたビジネスプランをグループごとに発表し、意見交換を行います。 事前学習：経営計画を策定し、発表できる準備を行

			う。
	8	事例演習１（事例に基づくグループ演習）	グループワーク 福井市が主催するビジネスプランコンテストに出品します（予定）。その概要説明および企画立案について演習を行います。 事後学習：ビジネスプランについて、各自アイディアを出す
	9	事例演習２（事例に基づくグループ演習）：シナリオグラフで考えるビジネスプラン	グループワーク：シナリオグラフという手法を用いて、アイディアを広げます。 事後学習：アイディアのまとめ、議事録の作成
	10	事例演習３（事例に基づくグループ演習）：事業計画書の検討・作成	グループワーク ビジネスプランコンテストのプラン作成 ターゲット、ポジション、４つのPを考えたビジネスプランづくり 事後学習：事業計画の具体的な案を考える
	11	事例演習４（事例に基づくグループ演習）：事業計画書の検討・作成	グループワーク ビジネスプランコンテストのプラン作成 ターゲット、ポジション、４つのPを考えたビジネスプランづくり 事後学習：事業計画案の作成、議事録の作成
	12	事例演習５（事例に基づくグループ演習）：発表準備	グループワーク 作成したビジネスプランをグループごとに発表できるように準備します。 事後学習：発表案の作成
	13	事例演習６（事例に基づくグループ演習）：発表準備、パワーポイント作成	グループワーク 作成したビジネスプランをグループごとに発表できるように準備します。 事後学習：発表原稿および発表スライドの作成
	14	ビジネスプラン（事業計画）の発表と考察（１）	各グループのビジネスプランを、申込書および資料（パワーポイント）で説明してもらいます。 事前学習：発表原稿および発表スライドの作成
	15	ビジネスプラン（事業計画）の発表と考察（２）、相互評価、まとめ	各グループのビジネスプランを、申込書および資料（パワーポイント）で説明してもらいます。 その後、授業全体の振返りを実施 事後学習：これまでのビジネス実務演習Ⅰ、ⅠⅠでの学びを振り返る
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、レポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	事後学習、授業準備に毎回１時間程度の時間が必要。新聞等に目をとおして、気になったニュースを簡単にまとめて、伝えることができるように準備しておくこと。		
教科書	「よくわかる基礎知識　マナー・文書・仕事のキホン」（ぎょうせい ISBN978-4-324-09452-5）		
参考図書、教材、準備物等	また、適宜プリント等を配布する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	企業等の業種を問わず、様々な実務の場面で活用できる知識・技能の習得を目指して演習活動を実施していきます。 ＬＭＳ(Moodle)を利用して課題の配布・提出が行われます。		
評価の配点比率	目標①②　７週目に実施する発表および提出資料（企画書）15%、最終レポートの提出 15% 目標③　授業で毎回提出するレポート課題　30% 目標④　授業内での演習課題　20% 目標⑤　７週目、１４または１５週目に実施する発表（プレゼンテーション）　20%		
受講上の注意	課題等の提出が毎回あるので。Moodle（LMS）を定期的に確認すること。		
教員の実務経験	企業経営の経験、商工会議所等での専門アドバイザーとしての経験を有する教員が、その経験を活かして、ビジネスにおける基本的な知識や今日的な課題について講義を行う。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	☑課題解決型学習（PBL）　☑討議（ディスカッション、ディベート）　☑グループワーク　☑発表（プレゼンテーション）　□実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　☑双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　☑自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 日本の文化　　授業コード：1322901　1322902

英文科目名称： Japanese Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
集中講義	２年次	２単位	選択	
担当教員				
土井　百合子・鈴木　晴子				
生活科学学科生活情報専攻　専門科目		講義		ナンバリング：13D504
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は、日本の伝統文化を理解し、習得することである。 日本の伝統文化（茶道、華道、着付け）の歴史や理論に関する講義を受けるとともに、それぞれ実技を行うことにより、女性としての所作、言葉遣い、マナーを学びます。茶道・華道は土井が、着付けは鈴木が担当します。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①伝統的な技・精神・礼節を身につけることで、生活をより豊かにするばかりでなく、日本の美に対する感性を磨く。	ＤＰ３	22
	目標②感性豊かな人格を形成し、他者をもてなす心、やすらぎのある人間関係を構築する。	ＤＰ６	20
	目標③日本の豊かな自然に気づき、それを生活の中で生かすことに感謝する。	ＤＰ８	15
	目標④伝統美の美しさと、自らの自由な発想からくる創造の美の喜びを知る。	ＤＰ８	15
	目標⑤着物を通して、日本の伝統文化を女性として楽しむことができる。	ＤＰ７	28
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：コミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：コミュニケーションに関する知識・技能にもとづき、他者の声に耳を傾け、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 ＤＰ８：建学の精神「仁愛兼済」や地域文化にもとづき自己を確立した上、多様な文化や考えの意義を理解し、共に生きる態度を身につけている。	

	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
授業の計画	1	講義の概要と授業計画について	受講の際の心構えや持ち物などについて説明します。
	2	実社会における茶道の役割について　◎ビデオ「茶会に招かれて」 茶道は礼儀作法を通して知るコミュニケーションとおもてなしの文化で、外国文化をも受け入れてきた。 華道は伝統から創造へと受け継がれる日本固有の一つの生活芸術	茶道（土井担当） ※この授業は集中講義のため、華道・着付けと並行して行われる場合があります。 自宅で帛紗さばきの練習をしましょう。
	3	茶道の歴史・和室でのマナー 千利休大成の茶道の実技―パート１ 帛紗さばきの基礎	茶道（土井担当） ※この授業は集中講義のため、華道・着付けと並行して行われる場合があります。 自宅で帛紗さばきの練習をしましょう。
	4	茶会に招かれたときのマナー 千利休大成の茶道の実技―パート２ 帛紗さばきの基礎と客の基礎マナー	茶道（土井担当） ※この授業は集中講義のため、華道・着付けと並行して行われる場合があります。 自宅で帛紗さばきの練習をしましょう。
	5	茶道の精神「和敬清寂」について 千利休大成の茶道の実技―パート３ お茶会の基礎と客のマナー	茶道（土井担当） ※この授業は集中講義のため、華道・着付けと並行して行われる場合があります。 自宅で帛紗さばきの練習をしましょう。
	6	華道から学ぶマナーの精神 （１）　自然を敬い感謝する芸術 （２）古典から自由な創造へつながる作品の実習	華道（土井担当） 授業で活けた花を持ち帰って、自宅でも活けてみましょう。

	7	華道の歴史・基本的な花の生け方とマナー 自由な発想で生花（いけばな）実習	華道（土井担当） 授業で活けた花を持ち帰って、自宅でも活けてみましょう。
	8	基本的な生け方とマナー 更なる自由の創造へ生花（いけばな）実習	華道（土井担当） 授業で活けた花を持ち帰って、自宅でも活けてみましょう。
	9	茶道・華道に古典への挑戦実習おける基本的なマナーについて 古典への挑戦実習	華道（土井担当） 授業で活けた花を持ち帰って、自宅でも活けてみましょう。
	10	ライフスタイルと着物（季節と着物・家紋・格付、着物の種類）	着物の知識（鈴木担当） 自宅でも浴衣の着付けやたたみ方を練習しましょう。
	11	浴衣と半巾帯・着方（きもの各名称、小物の準備）	着付け（鈴木担当） 自宅でも浴衣の着付けやたたみ方を練習しましょう。
	12	浴衣と半巾帯・着方（きもの、帯、たたみ方）	着付け（鈴木担当） 自宅でも浴衣の着付けやたたみ方を練習しましょう。
	13	浴衣と半巾帯・着方（きもの、帯、たたみ方）	着付け（鈴木担当） 自宅でも浴衣の着付けやたたみ方を練習しましょう。
	14	浴衣と半巾帯・着方（立ち姿・歩き方・礼） ﾄｰｸに合わせ実技査定 着物の知識　筆記テスト	着付け（鈴木担当） 鏡を見ずに浴衣と半幅帯の着方、浴衣と帯のたたみ方、所作の実技査定 着物の知識　筆記テスト
	15	振袖・帯結び・着物の所作・きものメイク	講義（鈴木担当） 振袖の知識、所作、和装メイク
定期試験	茶道では、実習中の動作の仕上がりと、終了後のレポート提出 華道では、実習中の作品仕上がりと、終了後のレポート提出		
準備学習に必要な時間	毎回２時間程度の予習・復習が必要です。		
教科書	着付教本（山野流）、メイク教本（必要な資料を配布）		
参考図書、教材、準備物等	千宗室「裏千家茶道教科（1）～（4）」（淡交社刊行2011）、 笹島寿美「はじめての着付けと帯結び」（株式会社ナツメ2007）、 池坊専永「なぜ、花をいけるの」（財団法人池坊華道会2010）		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポート等の課題は後期ガイダンスにて返却する。 着付けの実習時は、タンクトップと半パンツ（又は、和装肌着）を着て、髪はまとめておく。 茶道の実習時にはソックス持参、かつあまり窮屈ではない服装で。		
評価の配点比率	レポート60%（茶道30%・華道30%）、実技テスト（着付け）28%、筆記試験（着付け）12%		
受講上の注意	本科目は、日本文化としての茶道、華道、着付けの概念を一方的に講義することではなく、その素晴らしさを実技を通して知ることである。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 国際理解　　授業コード： 1323001　1323002

英文科目名称： International Understanding

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
内藤　徹			
生活科学学科生活情報専攻　専門科目		講義	ナンバリング：13D502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、国際感覚を身につけながら英語能力を高めていくことである。 そのため、インターネットやＤＶＤなどで、主に米国の文化や情報にアクセスし、それらを受信したり発信したりしながら、多様な異文化を理解し、ＩＣＴ等を利用して楽しく英語を習得していく。これらにはＣＬＩＬ(Content Language Integrated Learning=内容言語統合型学習)という手法も取り入れられる。この授業では、21世紀のグローバル化された社会を主体的に有意義に生きるために、英語をコミュニケーションツールとしながら国際感覚に磨きをかけていく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①英語をツールとする国際感覚の基礎を身につけることができる。	ＤＰ３	20
	目標②情報を受信し発信する４つの技能 Listening, Speaking, Reading, Writing の総合的な英語能力の基礎を身につけることができる。	ＤＰ５	10
	目標③４つの技能を用いて積極的にコミュニケーションをとり、多様な立場から国際理解ができるようになる。	ＤＰ６	30
	目標④グローバル社会の中で、主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけることができる。	ＤＰ７	10
	目標⑤自己を確立し、多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけることができる。	ＤＰ８	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：コミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：ビジネス活動に関する知識・技能にもとづき、問題を解決するための的確な判断力を身につけている。 ＤＰ６：コミュニケーションに関する知識・技能にもとづき、他者の声に耳を傾け、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 ＤＰ８：建学の精神「仁愛兼済」や地域文化にもとづき自己を確立した上、多様な文化や考えの意義を理解し、共に生きる態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	It’s so nice to meet you!	全授業、英語の辞書とパソコンが必要。学習の仕方やweb版辞書の使い方の説明、等。
	2	Is he a popular professor?	各課の英語の内容把握、理解度チェック、発表。事後学習：各課Readingの課題をweb上で提出。
	3	He showed me “a” way.	各課の英語の内容把握、理解度チェック、ディスカッション、グループワーク、発表。事後学習：各課V. Dialogueの課題をweb上で提出。
	4	For here or to go.	各課の英語の内容把握、理解度チェック、発表。事後学習：各課Readingの課題をweb上で提出。
	5	She is so beautiful.	各課の英語の内容把握、理解度チェック、発表。事後学習：各課Readingの課題をweb上で提出。
	6	Catching a cab.	各課の英語の内容把握、理解度チェック、発表。事後学習：各課Readingの課題をweb上で提出。
	7	How romantic!	各課の英語の内容把握、理解度チェック、発表。事後学習：各課Readingの課題をweb上で提出。
	8	I’m not feeling well.	各課の英語の内容把握、理解度チェック、発表。事後学習：各課Readingの課題をweb上で提出。
	9	Tickets for a Yankees game.	各課の英語の内容把握、理解度チェック、発表。事後学習：各課Readingの課題をweb上で提出。
	10	What’s on the shopping list?	各課の英語の内容把握、理解度チェック、発表。事後学習：各課Readingの課題をweb上で提出。
	11	MoMa is fun.	各課の英語の内容把握、理解度チェック、発表。事後学習：各課Readingの課題をweb上で提出。
	12	The Fourth of July is coming up.	各課の英語の内容把握、理解度チェック、発表。事後

	12		学習：各課Readingの課題をweb上で提出。
	13	Who is that guy?	各課の英語の内容把握、理解度チェック、発表。事後学習：各課Readingの課題をweb上で提出。
	14	You’re my best friend.	各課の英語の内容把握、理解度チェック、発表。事後学習：各課Readingの課題をweb上で提出。
	15	We’re going to be late.	各課の英語の内容把握、理解度チェック、発表。事後学習：各課Readingの課題をweb上で提出。まとめ。

定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。
準備学習に必要な時間	予め各課の内容把握をするために２時間程度の事前学習が必要。また、さらに理解を深めるため、２時間程度の事後学習も必要。
教科書	TSUCHIYA, Takehisa(土屋武久), H.B.Smillie 他著『Hello, New York！』2020 (Kinsei-do 金星堂)
参考図書、教材、準備物等	その他、配布する教材など
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方については第1回目のガイダンスで説明するが、各課において、事前に語彙・文法事項などを調べて、その概要を掴んでおくこと。質問などがあれば、授業後や電子メール(t-naito@jin-ai.ac.jp)等を利用すること。
評価の配点比率	最終試験(英語運用能力診断の筆記試験)50%（目標①～⑤） DVDやネット情報の視聴による理解度10%（目標①） Comprehension check問題5%（目標②） Dialogueを通しての国際理解度15%（目標③） Let’s try による問題解決5%（目標④） まとめとしての議論15%（目標⑤）
受講上の注意	本科目は、パソコンの扱い方を学ぶのではなく、内容と言語を通しての統合化された語学の習熟を目指します。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 専門演習

授業コード： 1323101　1323102　1323103
1323104　1323105　1323106

英文科目名称： Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	選択
担当教員			
澤崎　敏文、大西　新吾、田中　洋一、諏訪　いずみ、野本　尚美、帆谷　和浩			
生活科学学科生活情報専攻　専門科目		演習	ナンバリング：13Z501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、チームで協働的に問題を解決する能力を身につけることである。 グループによるプロジェクト活動を通して、研究法やコミュニケーション方法を学ぶ。グループごとに課題を調査し、その課題に対して企画立案、企画実行し、自己評価・相互評価を経て、改善案を探り、報告書にまとめる。この授業での学習を卒業研究へとつなげていくことがねらいである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①研究テーマに合った研究法や研究デザインを考えられる。	ＤＰ４	20
	目標②根拠にもとづき、判断できる。	ＤＰ５	20
	目標③傾聴し、自らの考えを伝えられる。	ＤＰ６	20
	目標④主体的に行動することができる。	ＤＰ７	20
	目標⑤多様な文化や考えの意義を説明できる。	ＤＰ８	10
	目標⑥チームで目標を共有し、メンバーを支援することができる。	ＤＰ９	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：情報に関する知識・技能にもとづき、論理的・合理的な思考力を身につけている。 ＤＰ５：ビジネス活動に関する知識・技能にもとづき、問題を解決するための的確な判断力を身につけている。 ＤＰ６：コミュニケーションに関する知識・技能にもとづき、他者の声に耳を傾け、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 ＤＰ８：建学の精神「仁愛兼済」や地域文化にもとづき自己を確立した上、多様な文化や考えの意義を理解し、共に生きる態度を身につけている。 ＤＰ９：地域社会や組織の一員としてリーダーシップを発揮し、チームで協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス	※毎回、事後学習で次回までの課題を行う。
	2	研究テーマの検討	
	3	研究テーマとグループの決定	
	4	先行研究の調査（１）インターネット	
	5	先行研究の調査（２）書籍	
	6	先行研究の調査（３）論文	
	7	研究の方法（１）アンケート	
	8	研究の方法（２）インタビュー	
	9	研究計画の作成	
	10	データの収集	
	11	データの分析	
	12	データの考察	
	13	発表資料の作成	
	14	中間発表、相互評価	
	15	前期のまとめと後期研究計画	
	16	研究の振り返り	
	17	調査研究（１）	

	18	調査研究（２）	
	19	調査研究（３）	
	20	発表資料の作成	
	21	中間発表、相互評価	
	22	研究計画の修正	
	23	プロジェクト活動Ⅰ	
	24	プロジェクト活動Ⅱ	
	25	研究要旨の作成	
	26	発表資料作成	
	27	最終発表、相互評価	
	28	自己評価、改良	
	29	報告書作成（１）	
	30	報告書作成（２）	

定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、報告書を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、１時間程度の予習・復習が必要です。
教科書	向後千春『インストラクショナルデザイン研究法-卒論につながる３つの研究方法【2010年版】』 http://kogolab.chillout.jp/textbook/2010_IDK.pdf（参照2017/1/23 ）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：松井豊『改訂新版　心理学論文の書き方-卒業論文や修士論文を書くために』（河出書房新社2010）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明します。紙での提出物は、適宜返却するか、すべてPDF化して学習支援システム（Moodle）上に返します。卒業研究の方法論を学ぶため、遅刻・欠席はせず、事後学習にしっかりと取り組むこと。成績評価を含め、質問等がある場合は、担当教員の研究室前に掲示してあるオフィスアワー等を利用するか、電子メールで連絡してください。
評価の配点比率	目標①研究計画書及び修正10%、報告書10% 目標②中間発表及び最終発表5%、報告書15% 目標③中間発表及び最終発表10%、報告書10% 目標④中間発表及び最終発表20% 目標⑤中間発表及び最終発表5%、報告書5% 目標⑥中間発表及び最終発表10%
受講上の注意	卒業研究指導担当者から卒業研究のための方法論を学ぶ科目ですから、主体的に取り組んでください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 卒業研究　　授業コード： 1323201

英文科目名称： Graduation Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	必修
担当教員			
内山　秀樹			
生活科学学科生活情報専攻　専門科目		演習	ナンバリング：13Z502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、課題を探求する能力を身につけることである。 卒業研究を通して、問題を発見し、発見した問題に対する探究の方法を学び、問題を解決していく総合的な知識・技能・態度を学習する。 ※時間割の中には、授業を組まない。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①先行研究にもとづき、卒業研究のテーマ及び研究法を論理的・合理的に考えられる。		ＤＰ４	20
	目標②卒業研究における問題を解決するため、的確に判断できる。		ＤＰ５	20
	目標③他者の意見を傾聴し、自らの考えを伝えられる。		ＤＰ６	20
	目標④主体的に卒業研究に取り組むことができる。		ＤＰ７	20
	目標⑤多様な文化、多様な人や考えの意義を説明できる。		ＤＰ８	10
	目標⑥卒業研究の目標を実現するため、他者と協働し、リーダシップを発揮できる。		ＤＰ９	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】			
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：情報に関する知識・技能にもとづき、論理的・合理的な思考力を身につけている。 ＤＰ５：ビジネス活動に関する知識・技能にもとづき、問題を解決するための的確な判断力を身につけている。 ＤＰ６：コミュニケーションに関する知識・技能にもとづき、他者の声に耳を傾け、自らの考えを伝える表現力を身につけている。		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 ＤＰ８：建学の精神「仁愛兼済」や地域文化にもとづき自己を確立した上、多様な文化や考えの意義を理解し、共に生きる態度を身につけている。 ＤＰ９：地域社会や組織の一員としてリーダーシップを発揮し、チームで協働する態度を身につけている。		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について	
		【生活情報専攻】 情報・ビジネス実務・コミュニケーションの分野についての研究を行う。研究はグループごとに主題を定め、指導教員の指示に従い、主として演習形式で行うが、主題によっては異なった形式で行う場合もある。下記の計画は、専攻全体で実施する。	卒業研究指導担当者ごとに、自主学習に関する指導がある。	
		11月上旬：生活情報専攻　卒業研究中間発表会 1月２週目：卒業研究要旨の提出 1月末：卒業研究成果物の提出 2月中旬：生活情報専攻　卒業研究発表会	卒業研究指導担当者ごとに、自主学習に関する指導がある。	
定期試験	試験に代わって、卒業研究発表会にて口頭発表を行う。			
準備学習に必要な時間	毎回、１時間程度の予習・復習が必要です。			
教科書	向後千春『卒業研究はじめの一歩【2010年版】』http://kogolab.chillout.jp/textbook/2010_sotsuken.pdf（参照2017/1/23 ）			
参考図書、教材、準備物等	参考図書：都筑学『心理学論文の書き方-おいしい論文のレシピ』（有斐閣2006）、松井豊『改訂新版　心理学論文の書き方-卒業論文や修士論文を書くために』（河出書房新社2010）			
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明します。質問等がある場合は、担当教員の研究室前に掲示してあるオフィスアワー等を利用するか、電子メールで連絡してください。 卒業研究は履修規程第15条の通り、卒業研究成果物（卒業論文、卒業作品等）の提出、卒業研究要旨の提出、卒業研究発表会での発表の３つすべてが修了したうえで評価を行う。課題のフィードバックは、卒業研究指導担当者ごとに行う。			

評価の配点比率	生活情報専攻は次の配分で評価する。卒業研究成果物50%（目標①～③、⑤）、卒業研究要旨・発表50%（目標①～⑥）
受講上の注意	他の科目内容を統合し、総合的に研究する科目ですから、主体的に取り組んでください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 人間と仏教Ⅱ　　授業コード：1120101　1320101　1620101

英文科目名称： BuddhismⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	１単位	必修
担当教員			
CI委員長			
生活科学学科　教養科目		演習	ナンバリング：10A102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、宗教行事や講演など様々な活動を通して、建学の精神「仁愛兼済」の生き方を育み、学園是「和敬・精進・反省」の実践力を養うことである。 ※キャンパスカレンダーに記載されたＡＨの日を具体的な活動の場とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①仁愛学園の建学の精神について理解する。	生活DP7	30
	目標②仁愛学園の歩みについて説明できる。	生活DP1	10
	目標③仁愛学園の歩みについて説明できる。	生活DP6	10
	目標④「仁愛兼済」を実践する姿勢を身につける。	生活DP8	25
	目標⑤自らを振り返る態度を身につける。	生活DP9	25
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。（和敬） 生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。（精進） 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	1年次 4月　降誕会・・・第1回講義	第1回レポート
	2	4月　学歌・讃仏歌指導	
	3・4	5月　開学記念日	
	5	5月　2年後の理想像と１年次前期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の説明および記入
	6	6月　第2回講義	第2回レポート
	7	9月　CI企画 1年次前期の自己評価と後期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	8	12月　成道会	
	9	1月　讃仰会（追弔会）	
	10	2年次 4月　降誕会・・・講演 1年次の自己評価と2年次前期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入 ※遠隔非同期にて実施
	11・12	5月　開学記念日	※詳細は後日連絡
	13	9月　CI企画 2年次前期の自己評価と後期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	14	11月　成道会	
	15	12月　讃仰会（追弔会）・・・講演	第3回レポート
	16	1月　2年間の自己評価	『充実した学生生活を送るために』の記入

定期試験	試験に代わって、全講義終了後に第3回レポート『充実した学生生活を送るために』を記入してもらう。
準備学習に必要な時間	日常生活のなかで、常に仁愛の自覚を持ち、兼済の実践に努めること。また、課題の作成に多くの時間が必要になる。
教科書	使用しない

参考図書、教材、準備物等	参考図書：『礼讃抄』『和』（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 適宜、資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	各レポートは授業担当者が確認した後、返却されるので、修学ポートフォリオ（ファイル）にまとめておくこと。
評価の配点比率	目標①第1回レポート（30%） 目標②第2回レポート（10%） 目標③第2回レポート（10%） 目標④第2回レポート（10%）、第3回レポート（15%） 目標⑤第3回レポート（15%）、『充実した学生生活を送るために』（10%）
受講上の注意	AHは必ずスーツを着用し、学章・念珠を持って参加すること。ただし、5月の開学記念日は除く。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 社会活動実践　　授業コード： 1120201　1320201　1620201

英文科目名称： Social Activities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
通年	１・２年次	１単位	選択	
担当教員				
CI委員長・総合学務センター長				
生活科学学科　教養科目		演習		ナンバリング：10A501
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は、建学の精神に基づき、自らが他者のために働き出す実践的活動を行うことである。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。		生活DP2	5
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。		生活DP6	5
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。		生活DP7	10
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。		生活DP8	20
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。		生活DP9	10
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。		生活DP2	5
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。		生活DP6	5
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。		生活DP7	10
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。		生活DP8	20
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。		生活DP9	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。		
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。		
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。（和敬） 生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。（精進） 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について	
		単位認定の方法 本科目の単位認定は、通常の科目のように教員の作成したシラバスに基づいて実施されるものではなく、在学期間中に学生が自ら主体的に取り組んだ30時間以上の活動（ボランティア活動、地域支援活動、福祉活動、学習支援活動、NPO活動、国際貢献活動など）について単位を認定するものである。		
		活動後、所定の用紙（社会活動実践記録・単位認定申請書、社会活動実践レポート用紙）に活動内容、感想を記入し、資料と共に教務課に提出して認印を受ける。申請書類の提出をもって履修登録を兼ねることとする。夏期、冬期等休暇中の活動報告は休暇明け1週間以内に提出すること。		
		活動を証明する資料提出が困難な場合は、所定の用紙に活動先責任者の証明をもらうこと。また学生が多数で取り組んだ場合には、活動の指導者または責任者が取りまとめて申請することも可とする。ただし、レポート用紙は学生各人が提出しなければならない。		
定期試験	試験に代わって、レポートを提出してもらう。			
準備学習に必要な時間	適宜、事前事後学習を必要とする。			
教科書	使用しない			
参考図書、教材、準備物等	使用しない			
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートは、評価後にフィードバックする。			

評価の配点比率	目標①②レポート（100%）
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： ヒトの生物学　　授業コード： 1620301

英文科目名称： Human Biology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
大久保　嘉雄			
生活科学学科食物栄養専攻　教養科目		講義	ナンバリング：10B503
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、「人間とは何か」を考え理解することにより、社会で生きていく際の対応力と教養を修得することである。 そのためには、ヒトの体のしくみや行動、社会構造などを学習する。その際、他の生物と比較しながら進化についても考える。最後に、ヒトの進化と日本人の起源について学習することにより、「人間とは何か」に迫る。これらを通して、健康の増進や病気の予防、社会や自然の中で人間らしく、かつ、自分らしく生きていく素地ができる。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①日常生活の中で、ヒトの体のしくみや生物の生活のしかたを実感できる。	生活DP3	40
	目標②ヒトと関わる生物の生活や行動を観察する力を養うとともに、どのように接するかを考えることができる。	生活DP4	20
	目標③生態系を保全する解決策を考えることができる。	生活DP5	20
	目標④ヒトの進化と発明から「人間はどうあるべきか」を考えることができる。	生活DP9	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP3：人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ヒトとコウノトリの関わり（コウノトリの放鳥と福井県）	ヒトとコウノトリの関わり（コウノトリの放鳥と福井県）
	2	ヒトと絶滅危惧種（ツキノワグマの捕殺問題） ＫＰ法（紙芝居プレゼンテーション）の概略	事後学習：ツキノワグマ以外の絶滅危惧種をあげ、生態系で果たす役割をまとめる。
	3	ヒトと外来生物 ＫＰシートの作成１	事後学習：日本から外国に侵入して問題になっている外来生物についてまとめる。ＫＰシート１（外来生物）の作成
	4	ヒトと生物多様性（３つの多様性の確保）	事後学習：身近で生物多様性に取り組んでいる活動をまとめる。
	5	筋肉の収縮（物理的・化学的なしくみとエネルギー源）	事後学習：スーパーなどで赤身と白身の魚の種類を調べ、２つの筋肉の特徴をまとめる。
	6	神経の興奮の伝わり方（伝導と伝達） ＫＰシートの作成２	事後学習：カフェインを含む飲料を調べ、そのはたらきをまとめる。ＫＰシート２（筋肉の収縮、または神経の興奮）の作成
	7	視覚と行動（目の動きとコミュニケション）	事後学習：イヌやネコなどの身近な動物の白目の有無や、目を合わせたときの反応や行動をまとめる。
	8	色覚と進化　（２～４色型色覚と夜・昼行性） ＫＰシートの作成３	事後学習：２色型色覚動物の日常生活を疑似体験して、感じたことをまとめる。ＫＰシート３（視覚、または色覚）の作成
	9	生物を理解する三つの視点	事後学習：ダーウィンやラマルクの進化論など、主な進化論についてまとめる。
	10	骨格と進化（外骨格と内骨格）	事後学習：見たことのある動物を内骨格と外骨格、無脊椎動物に分類し、体を支えるしくみをまとめる。
	11	動物の社会、ヒトの社会	事後学習：群れや社会をつくる動物をあげ、その構造をまとめる。
	12	ヒトと食物（栽培植物の起源、発酵食品） ＫＰシートの作成４	事後学習：好きな発酵食品を３種類あげ、その製法をまとめる。ＫＰシート４（進化論、または発酵食品）の作成

	13	ヒトと科学技術（バイオテクノロジー）	事後学習：ｉＰＳ細胞の臨床的な応用をまとめる。
	14	日本人の起源とヒトの進化	事後学習：縄文人顔と弥生人顔の特徴から、家族や友人などを観察してまとめる。
	15	地球の環境問題、身近な植物の利用	事後学習：ＣＯＰ25の動向をまとめる。
定期試験	試験期間中に筆記試験を行う。		
準備学習に必要な時間	毎回、３時間程度の事前・事後学習を行いながら、その課題に取り組む。		
教科書	使用しない。		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：感覚器の進化.講談社ブルーバックス.岩堀修明 内蔵の進化.講談社ブルーバックス.岩田修明 教　材：毎回プリントを配付する。 準備物：クリアファイル（または、綴じ込みファイル）		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	講義で配付したプリントと事後学習をもとに、ＫＰ（紙芝居プレゼンテーション）シートを作成し、随時プレゼンテーションを行う。ＫＰシートにはコメントを書いて返却する。		
評価の配点比率	筆記試験60%、ＫＰシート１～４　40% 目標①体のしくみや生物の生活のしかたについて、第５～８回の内容のＫＰシート２・３と筆記試験40%。 目標②ヒトと関わる生物の生活や行動について、第９～12回の内容のＫＰシート４と筆記試験20%。 目標③生態系の保全について、第１～４回の内容のＫＰシート１と筆記試験20%。 目標④ヒトの進化と発明について、第13～15回の内容の筆記試験20%		
受講上の注意	自分の体や自然、社会に関心を持てるような題材を取り上げています。身のまわりにはおもしろいことがたくさんあります。その視点を学びましょう。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 環境の化学　　授業コード： 1620401

英文科目名称： Environmental Chemistry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
沖　昌也			
生活科学学科食物栄養専攻　教養科目		講義	ナンバリング：10B504
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、環境の変化によって人体に及ぼす影響に関して幅広く理解することである。 最初に、人体への影響を知る上で基礎となる人間の身体のしくみについて学習する。次に、過去に起こった公害や、薬害問題などを学習し、現在起こっている世界的な環境問題や環境悪化による人体への影響に関して学ぶ。また、現代社会が作り出した、ストレスや生活習慣病、アレルギー等、直面している問題に関しても学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①人間の身体の仕組みを説明できる	生活DP3	20
	目標②遺伝子組換え技術に関して説明できる	生活DP3	20
	目標③過去に起こった環境問題、現在の起こっている環境問題を説明できる	生活DP4	20
	目標④今後起こりうる環境問題、今後の対応策に関して説明できる	生活DP5	20
	目標⑤環境悪化における人体への影響に関して説明できる	生活DP9	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP3：人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	人間の身体のしくみ（遺伝子、細胞についてなど）	授業内容の重要な部分をまとめ提出
	2	遺伝について（血液型、お酒が飲めるかなど）	授業内容の重要な部分をまとめ提出
	3	遺伝子変異と様々な疾患について	授業内容の重要な部分をまとめ提出
	4	遺伝子組換え技術について	授業内容の重要な部分をまとめ提出
	5	日本で起こった公害	授業内容の重要な部分をまとめ提出
	6	日本国外で起こった公害	授業内容の重要な部分をまとめ提出
	7	日本国内外で起こった薬害問題（エイズなど）	授業内容の重要な部分をまとめ提出
	8	環境とエネルギー（原子力発電、その他の代替エネルギーなど）	授業内容の重要な部分をまとめ提出
	9	世界的な環境問題と対策 I	授業内容の重要な部分をまとめ提出
	10	世界的な環境問題と対策 II	授業内容の重要な部分をまとめ提出
	11	世界的な環境問題と対策 III	授業内容の重要な部分をまとめ提出
	12	環境悪化における人体への影響 I（環境因子とストレス）	授業内容の重要な部分をまとめ提出
	13	環境悪化における人体への影響 II(環境因子と生活習慣病)	授業内容の重要な部分をまとめ提出
	14	環境悪化における人体への影響 III(環境因子とアレルギー)	授業内容の重要な部分をまとめ提出
	15	環境悪化における人体への影響 IV（環境因子とその他の疾患）	授業内容の重要な部分をまとめ提出

定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、授業の内容の重要な部分をまとめたレポートを提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、３時間程度の事後学習が必要。

教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：生命と環境の科学（地人書館）、教材：必要に応じて資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	東日本大震災により、原子力発電所の問題をはじめ、日本のエネルギーに関する考え方は大きく変わりました。授業ではそのときどきの情勢により、より新しい問題に関して考えていきます。普段から環境問題に関する新聞記事に注目し、切抜きしましょう。また、毎回の講義終了後に提出してもらうレポートは、添削し、次の週の講義の際に返却します。成績評価も含め、質問等がある場合は電子メール（ma4sa6ya@u-fukui.ac.jp)で連絡すること。
評価の配点比率	毎回の授業内容の重要な部分をまとめた提出物で評価する。 目標①人間の身体の仕組みに関して授業内容の重要な部分をまとめた提出物20% 目標②遺伝子組換え技術に関して授業内容の重要な部分をまとめた提出物20% 目標③過去に起こった環境問題、現在の起こっている環境問題に関して授業内容の重要な部分をまとめた提出物20% 目標④今後起こりうる環境問題、今後の対応策に関して授業内容の重要な部分をまとめた提出物20% 目標⑤環境悪化における人体への影響に関して授業内容の重要な部分をまとめた提出物20%
受講上の注意	環境問題に関して、様々な視点から学び、個人個人でどのようなことが出来るか考えましょう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： スポーツ実技(生活科学学科)　　授業コード：1120601　1320601　1320602　1620501

英文科目名称： Sports Practical Skill

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
通年	２年次	１単位	選択	
担当教員				
出村　友寛				
生活科学学科　教養科目		実技		ナンバリング：10C101
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は、体力とスポーツの知識、技術、マナーを身につけることである。 そのために、各種スポーツを実践する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標① 積極的に各種スポーツに参加し、他者と共に体力の維持、増進に取り組むことができる。	生活DP6	40
	目標② 各種スポーツの技術を理解し、身につけることができる。	生活DP1	20
	目標③ 各種スポーツの知識を理解し、身につけることができる。	生活DP1	20
	目標④ スポーツの多様性を理解し、生涯にわたる関わり方を考えることができる。	生活DP9	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション・キンボール①基本技術（キャッチ、パス）	
	2	キンボール②基本技術（セット、ヒット）	
	3	キンボール③ゲーム	
	4	トランポリン①ストレート･バウンズ	膝保護のため、長パンを推奨
	5	トランポリン②ストレート･バウンズの発展技	
	6	トランポリン③ニー・ドロップ･バウンズ	
	7	トランポリン④シート･ドロップ･バウンズ	
	8	トランポリン⑤連続技	
	9	トランポリン⑥実技試験の構成と練習	
	10	トランポリン⑦実技試験とまとめ	実技試験①
	11	バレーボール①基本技術（パス、トス、サーブ）主に1対1	
	12	バレーボール②基本技術（スパイク）主に1対1	
	13	バレーボール③基本技術および連携プレー	
	14	バレーボール④実技試験	
	15	バレーボール⑤ゲーム	実技試験②
	16	バスケットボール①基本技術（ボールハンドリング、ドリブル）	
	17	バスケットボール②基本技術（パス）	
	18	バスケットボール③基本技術（フリースロー）	
	19	バスケットボール④基本技術（レイアップシュート）	
	20	バスケットボール⑤ゲーム	実技試験③
	21	フットサル①基本技術（パス、ドリブル）	レポート課題の提示

	22	フットサル②基本技術（シュート）	
	23	フットサル③ゲーム	
	24		後期前半にあたる開講23回で授業は終了
定期試験	試験に代わって、全講義終了後にレポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	体調を整えて授業に臨んでください。		
教科書	使用しない。		
参考図書、教材、準備物等	資　料：資料は掲示・板書によって提示する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	体調を整え、実技ができる状態で出席すること。運動に適した服装、靴が必要です。 レポートは、評価後にフィードバックする。 成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メール（tomodemu@jindai.ac.jp）で連絡してください。		
評価の配点比率	目標①、②実技試験60% 目標③、④レポート40%		
受講上の注意	運動禁忌等がある場合は、事前に申し出てください。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： データサイエンス入門　　授業コード： 1120701　1320901　1620601

英文科目名称： Introduction to Data Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
諏訪　いずみ			
教養科目(生活科学学科)		講義	ナンバリング：10D503
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、情報を整理・分析するための知識・技術を身に着けることを目的とする。 基礎的な数学と統計処理についての講義と演習を通して、データの処理・分析に必要な基礎知識と技術を学ぶ。表計算ソフトを使用した演習を行うことで、基礎数学・統計処理に関して立体的・実用的な知識・技術を身につける。これらを通して、データに基づいて考える力を身に着ける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①データ分析で必要となる基本統計量の意味や相関・回帰分析・検定の考え方を理解して利用できる。	生活DP1	33
	目標②数学的知識を元に、データとして現れる事象の数学的・物理的背景について説明する意欲がある。	生活DP8	27
	目標③データに基づいた論理的な判定・予想ができる。	生活DP4	30
	目標④表計算ソフトを用いて基本的なデータ処理ができる。	生活DP5	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。（精進）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、Excel 関数入門(1) 関数の基礎	以下毎回、Excel課題と記述課題の提出あり。 以下毎回、Moodle上の次回のプリントを読んでおく。
	2	Excel関数入門(2) 関数・数式利用の基本、参照グラフの利用	
	3	数学関数(1) 簡単なデータ処理	
	4	数学関数(2) 二次関数とグラフ	
	5	数学関数(3) 二次方程式を解く	
	6	数学関数(4) 指数関数と対数関数	
	7	数学関数(5) 三角関数の基礎	第１回特別課題出題
	8	数学関数(6) 三角関数の応用（媒介変数の利用による図形）	
	9	表計算と統計(1) 基本的な統計関数	
	10	表計算と統計(2) 分布の状態を知る：分散、標準偏差	
	11	表計算と統計(3) 正規分布	第１回特別課題提出
	12	表計算と統計(4) ２つの変量の関係：相関係数	第２回特別課題出題
	13	表計算と統計(5) 回帰分析	
	14	表計算と統計(6) 検定	
	15	データ分析アドインの利用と統計処理のまとめ	第２回特別課題提出
定期試験	定期試験に代わって、全講義終了後に期末課題を提出。		
準備学習に必要な時間	毎回、２時間程度の事前・事後学習が必要。全講義プリントをMoodle上に公開するので、目を通して授業に臨む。不明な用語等は、参考図書、高校教科書等で確認しておくことが望ましい。返却した課題は、理解が不十分だった点を次回以降の授業のために復習する。特別課題は、事後学習として行う。		

教科書	使用しない。毎回，授業内容・課題に関するプリントを配布する．配布したプリントは、すべて授業に持参すること
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『Excel関数全辞典』(技術評論社編集部　技術評論社　2016)等の関数辞典
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方、成績評価の詳細に関しては、第１回のガイダンスで説明する。Excel課題・記述課題は基本的に講義時間内で作成・提出とする。特別課題は事後学習として行う。記述課題は添削して返却する。課題で指定の項目が達成されていない場合は再提出を指示する。成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メール（suwa@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。
評価の配点比率	目標①授業内課題17%、2回の特別課題8%、期末課題8% 目標②授業内課題15%、2回の特別課題6%、期末課題6% 目標③授業内課題22%、2回の特別課題4%、期末課題4% 目標④授業内課題6%、2回の特別課題2%、期末課題2%
受講上の注意	情報を整理・分析するための知識・技術を身に着けることを目標とします。これらは情報を見極め、的確な判断を下す基礎となります。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 生活経営学　　授業コード： 1621101

英文科目名称： Family Resource Manageement

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
澤崎　敏文			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目（学科共通科目）		講義	ナンバリング：16A501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、自立した消費者として、安心・安全で豊かな消費生活を営むことができる知識と技能を身につけることである。 私たちは、現在、自分以外の人が作ったモノ、あるいは自分以外の人が提供してくれるサービスを消費することなくして生活することはできない。よりよい消費は生活の質を確保する一つの手段である。しかしながら消費に関する問題は後をたたない。現代の消費の問題を把握するとともに、具体的な消費の問題を考えることを通じて消費のトラブルを未然に防止する方法を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①　私たちの生活の中での消費の意義や重要性を主体的に考えることができる。	生活DP8	10
	目標②　消費者として商品やサービスの選択と購入を誤りなく計画的に実行することができる。	生活DP5	30
	目標③　現実の消費者問題を把握し，その問題の起きる背景を科学的に理解できる。	生活DP4	30
	目標④　問題の当事者になった際に，他に対して問題の内容を説明でき，制度的な手続きも含め，有効な対応策をとることができる。	生活DP2	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。（精進）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、生活経営についての概論	社会生活における「経営」の考え方について議論します。
	2	ファイナンシャルプランニング１ （目標） ・金融の仕組み、預金と投資の違い等に関して基礎的な知識を習得します。 ・会社の仕組み、株式の仕組みなどについて基礎的な知識を習得します。 （内容） ・銀行の仕組み、会社・株式の仕組みについて ・日経平均などの指標について ・投資シミュレーションをしてみよう！	事前学習：日経新聞から事前に日経平均株価について調べておくこと 事後学習：株式のポートフォリオシミュレーションを提出すること（Moodle上）
	3	ファイナンシャルプランニング２ ・会社の仕組み、株式の仕組みなどについて基礎的な知識を習得します。 ・上場企業、非上場企業の違い、株式市場などについて基礎的知識を習得します。 ・投資信託、分散投資などの基礎的知識について。	・会社・株式の仕組みについて、上場企業・非上場企業のメリット、デメリット ・日経平均などの指標について、投資信託と分散投資の意味 ・日経２２５の会社から自分のポートフォリオを組み立て 事後課題：実際の日経２２５企業からポートフォリオを作成します。
	4	ファイナンシャルプランニング３ ・投資信託、分散投資などの基礎的知識について知る。 ・前回作成したポートフォリオをグループごとに評価、発表してみます。	事前学習：前回作成したポートフォリオについて、発表できる資料等を準備すること。
	5	ファイナンシャルプランニング４ ・投資信託と分散投資について、実際の商品などを見比べてレビューします。	事前学習：証券会社のホームページ等で投資信託について事前に調査、理解してくること。

	6	契約概論 ・契約の基本的な考え方 ・債権と債務の関係 ・民法の基本	事前学習：民法典（eGov：政府公式法律データベース）の構成について事前に調査、理解してくること。
	7	契約概論２ ・民法に関する知識の復習（総則、債権） ・民法に関する知識（物権、家族法）	事前学習：民法典（eGov：政府公式法律データベース）の構成について事前に調査、理解してくること。
	8	契約と消費生活 ・消費生活に必要な知識 ・クーリングオフ制度 ・製造物責任について（PL法と消費者保護） ・インターネット上での契約、スマホなどのアプリでの契約	演習：LINEなどのアプリの利用規約（契約書）を読んでみよう！ 事前学習：SNS等無料で利用しているアプリ等の法律関係がどうなっているか調査、理解してくること。
	9	契約と消費生活２ ・ローンについて ・クレジットカードの仕組みと注意点 ・電子マネーの仕組み	事前課題：福井銀行、福邦銀行のホームページからローン等に関する内容を確認、金利等について調査、理解してくること。
	10	金融関連、民法、消費生活に関するまとめのテスト	これまで学習した内容（１～９週）についての確認テストを実施します（選択式、記述式ともにMoodle上で行います。）
	11	生活設計について考える１ ・１０週目のまとめテストに関するフィードバック（振り返り） ・保険に関する基本的なお話	事前学習：保険に関する状況調査を実施してくること（Moodle上）
	12	生活設計について考える２ ・第３週目に作成した株のポートフォリオを最新にして、分散投資のメリット、デメリット等についてグループで議論を行います。 ・最終課題となるライフプランプロジェクトの条件説明	【グループディスカッション】 グループに分かれて、ライフサイクルに合わせた生活設計について、プランを立てます。 次週までに、生活設計に関するレポートを提出、それらをもとに次週議論を行います。
	13	生活設計について考える３ 全国銀行協会のシミュレーターを利用して、グループごとに、自分たちが考える最適なライフプランを作成します。そのための準備を実施。	【グループディスカッション】 グループに分かれて、それぞれに議論した視点で、生活設計を行います。それらを、発表できる形でまとめてもらいます。次週までに、グループごとに発表形式（パワーポイントファイル）にまとめて、提出すること。
	14	生活設計について考える４ 全国銀行協会のシミュレーターを利用して、グループごとに、自分たちが考える最適なライフプランを作成します。そのための準備を実施。	【グループディスカッション】 発表のための根拠資料等の調査、発表資料作成を行います。
	15	最終プレゼンテーション（グループ演習） 生活経営のまとめ	これまで学んだ知識の再確認 最終レポートについての準備を行います。

定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、レポートを提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、３時間程度の事前・事後学習が必要。毎回の授業主題に関係する参考図書や資料は事前に授業中に示すので，授業を受ける前に参照してくることが有用である。また授業中に必要な資料を配付するので，当該授業のノートを事後に整理する際にあわせて整理していくことが授業内容の習得のために重要である。
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	資　料：Moodle等を利用して必要な教材、資料は配布する予定。 参考図書：授業の中で紹介する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	本講義は，自分の生活に密着した事象を題材に講義を行うものなので、受講生には、新聞を読んだり、消費生活センターを訪ねたりするなど、積極的に自己学習を行うことを期待する。レポート等は、評価後にフィードバックする。
評価の配点比率	目標①　ミニテストや課題提出　10% 目標②　ミニテストや課題提出　20%，最終レポート　10% 目標③　ミニテストや課題提出　20%，最終レポート　10% 目標④　ミニテストや課題提出　20%，最終レポート　10%
受講上の注意	毎回、授業最初にミニテストを実施します。これらミニテストの実施も全て評価となります。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	☑課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　☑発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　☑双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　☑自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 保育学　　授業コード： 1621201

英文科目名称： Childcare Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
岡田　和美			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目（学科共通科目）		講義	ナンバリング：16A502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、社会や家庭生活における保育を学ぶことである。 家庭科の教員や保育士といった専門職をめざすのではなく、一般の学生を対象にしている。 自分自身が育ってきた過程や子ども時代を振り返りながら、子どもの発達段階、子育ての方法や環境、社会のシステムなど保育に関わる基本的な知識を身につけ、子どもが育つこと、子どもを育てること、自分が育つこと等を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①０歳から６歳の子どもの発達を学びながら、 発達段階に合った子どもの接し方や育て方を知り、実践出来るようになる。	生活DP3	15
	目標②子どもに語りかけることや、年齢に適したふれあい遊びや絵本等を知り、自分なりに実践出来るようになる。 （古来の伝統行事や歌、手遊び、手作りおもちゃ等を含む。）	生活DP9	20
	目標③人の話を聞く、自分なりに考える、自分の考えを話す等、他者とのコミュニケーション能力を身につける。	生活DP6	35
	目標④子どもの発達段階に合った安全な環境や、代表的な病気、怪我等を知り、将来母親になった時に、安心して子育てが出来るようになる。	生活DP5	15
	目標⑤少子高齢化、情報の氾濫など、子どもを取り巻く社会の中で子育てをする親としての態度を身につける。	生活DP7	15
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP3：人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。 生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。（和敬） 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	保育学を学ぶことの意義と授業内容について グループワーク（妊娠、出産、子育てについて）オリエンテーション（保育学の内容と展開及び学ぶことの意義について）	自主学習：非認知能力について調べたり、自分の考えをまとめたりする。
	2	乳幼児保育、教育の現状と課題 グループワーク(非認知能力について) 質の高い保育、認定こども園・幼稚園・保育園の違い等	自主学習：自分の乳幼児期について、母子手帳で調べたり、親に聞いたりして、自分の考えをまとめる。
	3	自分の乳幼児期を振りかえる 母子手帳って何？どう記入してどう生かすの？ 歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技	自主学習：大好きな絵本とその理由をまとめる。
	4	子どもと絵本 グループワーク(自分が選んだ絵本の読み聞かせごっこ)	演習：絵本の読み聞かせ 自主学習：我が子がどんな子に育ってほしいかについて、自分の考えをまとめる。
	5	こどもの心身の発達と遊び（0～5か月ころ） 歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなど 実技演習：抱っこの仕方、おむつ交換の仕方	新生児人形を使用して学ぶ。 自主学習：初めて作る離乳食、どんなメニューにしますか。
	6	子どもの心身の発達と遊び（6～11か月ころ） 歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技演習：ミルクの作り方と与え方	新生児人形や本物の哺乳瓶、ミルク缶を使用して学ぶ(測り方、作り方、飲ませ方) 自主学習：かみつきやひっかきについて調べたり自分の考えをまとめたりする。
	7	子どもの心身の発達と遊び（1歳ころ）歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実	自主学習：歩き始めた時のことをお家の人にインタビュー

		技	
	8	子どもの心身の発達と遊び（2歳ころ）歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技、イヤイヤ期の対応の仕方について	自主学習：初めて集団生活に入った時期とその時の様子について調べたり自分の考えをまとめたりする。
	9	子どもの心身の発達と遊び（3歳ころ）歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技	自主学習：第一反抗期について調べたり自分の考えをまとめたりする。
	10	子どもの心身の発達と遊び（4歳ころ）歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技	自主学習：好きな折り紙あそびを仕上げる。
	11	子どもの心身の発達と遊び（5歳ころ）歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技	自主学習：授業で作ったおもちゃを仕上げる。
	12	子どもの心身の発達と遊び（6歳ころ）「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について歌・手遊び・ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなどの実技	自主学習：小学校入学前後の思い出ついて調べたり自分の考えをまとめたりする。
	13	子育て環境について考える(こども園等や小学校、地域社会とのよりよい連携及び障害児・児童虐待・子育て支援制度等について)	自主学習：乳幼児期に自分が経験した病気やけがについて調べる。
	14	子どもの代表的な病気とその対応を知る。	自主学習：ノートまとめ
	15	子どもの発達段階に応じた代表的な怪我とその対応を学ぶ。	自主学習：ノートまとめ

定期試験	課題についてのレポートと授業内容や自主学習をまとめたノートの提出。
準備学習に必要な時間	毎回、 3時間程度の事前・事後学習が必要。
教科書	河原紀子 「0歳～6歳子どもの発達と保育の本　第2版」　（学研）
参考図書、教材、準備物等	必要に応じてプリントを配布する。B5版ノート。毎回、糊とハサミを持参する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の内容をまとめるためのノート(Ｂ５版)を各自購入して準備する。(配布されたプリント、課題、授業で学んだこと等をまとめる) 定期試験終了後、いったんノートを提出するが、フィードバックしたノートは、将来に役立たせる。
評価の配点比率	最終レポート：35%（目標①5%、目標②5%、目標③15%、目標④5%、目標⑤5%） 課題、ノート作成：35%（目標①5%、目標②5%、目標③15%、目標④5%、目標⑤5%） 授業内小課題等：30%（目標①5%、目標②10%、目標③5%、目標④5%、目標⑤5%）
受講上の注意	子どもの発達や子育てのポイント等、教養としての「保育」を学ぶことで、将来少しでも安心して子どもを産み育てることができるようになると同時に、素敵な社会人、親、保護者になる考え方や態度が身につくように発信していく。
教員の実務経験	保育園における全年齢の担任経験や、保育士・主任保育士・園長等の経験及び、行政における育児相談・地域への子育て支援事業の発信・啓蒙等の経験がある。それらの経験を活かして、子育ての楽しさ、大変さ、壁にぶつかった時の乗り越え方など、具体的な事例や演習を通して、共に考え、学び合う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 食品加工実習　　授業コード： 1621301

英文科目名称： Exercise of Food Processing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
通年	２年次	１単位	選択	
担当教員				
小林　恭一				
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	栄養士免許必修・フードスペシャリスト資格必修		実習	ナンバリング：16D503
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は食品の加工の原理と技術を習得することである。食品学、食品衛生学、食品加工学等で学習した食品の総論・各論的な考え方、並びに食品加工、保存・貯蔵特性、包装及び加工食品の規格・表示制度、衛生管理等について、実習により自ら体験することによって理解を深める。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①種々の加工食品の製造方法を理解している。	ＤＰ１	30
	目標②種々の加工食品の製造原理を理解している。	ＤＰ２	20
	目標③新たな加工食品を試作できる能力を有する。	ＤＰ５	20
	目標④準備から後片付けまでの段取りができる。	ＤＰ８	20
	目標⑤他の人と協力して効率的に作業ができる。	ＤＰ９	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 ＤＰ２：人体の構造と生理を理解し、自然の営みや社会のしくみのなかで食と人間のかかわりを総合的に理解している。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：常に生活や社会を見据えて、自ら新たな課題を見出し、それを解決することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。 ＤＰ９：「仁愛兼済」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス	季節にあった材料を使用するので順序、内容が変わることがある。事後学習：ノートのとりまとめ
	2	うどんの製造	事後学習：ノートのとりまとめ
	3	ジャムの製造１（いちごジャム）	事後学習：ノートのとりまとめ、試作品の家族による評価。
	4	漬物類の製造１（梅干し、ラッキョウ漬け）	事後学習：ノートのとりまとめ、試作品の家族による評価。
	5	アイスクリームの製造	事後学習：ノートのとりまとめ
	6	トマトの加工１（トマトピューレ）	事後学習：ノートのとりまとめ
	7	トマトの加工２（トマトケチャップ）	事後学習：ノートのとりまとめ、試作品の家族による評価。ノート提出
	8	コンニャクの製造	事後学習：ノートのとりまとめ、試作品の家族による評価。
	9	漬物類の製造２（キムチ）	事後学習：ノートのとりまとめ、試作品の家族による評価。
	10	チーズの製造	事後学習：ノートのとりまとめ、試作品の家族による評価。
	11	ヨーグルト、乳酸菌飲料の製造	事後学習：ノートのとりまとめ
	12	ジャムの製造２（りんごジャム）	事後学習：ノートのとりまとめ、試作品の家族による評価。
	13	パンの製造	事後学習：ノートのとりまとめ
	14	たれ、ソース類の製造	事後学習：ノートのとりまとめ、試作品の家族による評価。
	15	菓子類の製造（みたらし団子、羽二重餅）	事後学習：ノートのとりまとめ。ノート提出
定期試験	試験は実施しない、実習ノート、実習態度で評価する。		

準備学習に必要な時間	実習時間外に、1時間程度の事後学習、実習ノート等を記入するなどが必要。
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	必要に応じて資料を配付する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	実習ノートは定期的に提出を求め、チェックを行い、フィードバックする。
評価の配点比率	目標①実習ノート　30% 目標②実習ノート　20% 目標③実習ノート　10%　実習態度　10% 目標④実習ノート　10%　実習態度　10% 目標⑤実習態度　10%
受講上の注意	この授業は給食管理実習とペアなので、クラスをＡ、Ｂに分けて隔週実施となり通年で１単位である。 遅刻、欠席しないように。実習は参加して、実際に手を動かすことが大切です。
教員の実務経験	公設試験研究機関において食品開発、食品分析、技術指導に携わった経験を持つ教員の指導の下、食品加工に必要な実践的な能力を身につけるための実習を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 臨床栄養学　　授業コード： 1621401

英文科目名称： Clinical Nutrition

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
木下　充子			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	栄養士免許必修	講義	ナンバリング：16E102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、疾病の改善や重症化予防のために疾患ごとの病態生理の理解と栄養状態の的確な評価を基にした栄養管理を実践に役立つよう修得することである。授業では、医療における予防・治療の重要性とそのための栄養管理スキルと実践の必要性について学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①各種疾患別の身体状況や栄養状態を理解し、それに応じた栄養管理の基本を述べることができる。	ＤＰ１	30
	目標②病気の要因及び病気になって起こる身体の変化、異常を正確に理解することで、適切な食事の調整ができる力を養う。	ＤＰ３	20
	目標③栄養管理に必要な基礎的な知識と応用力を習得する。	ＤＰ７	20
	目標④栄養スクリーニングと栄養アセスメントを理解し、栄養アセスメントによる栄養必要量の算定ができる。	ＤＰ６	20
	目標⑤栄養士として自分の考えや省察ができる。	ＤＰ９	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 ＤＰ３：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。 ＤＰ７：専門的な知識と豊かな人間性を基盤としたコミュニケーションができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：「仁愛兼済」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	臨床栄養学の意義と目的、栄養ケア・マネジメントの概要	本授業の目的は、疾病の改善や重症化予防のために疾患ごとの病態生理の理解と栄養状態の的確な評価を基にした栄養管理を実践に役立つよう修得することである。授業では、医療における予防・治療の重要性とそのための栄養管理スキルと実践の必要性について学ぶ。
	2	代謝・内分泌疾患①（おもに肥満症、るい痩、脂質異常症）	代謝・内分泌疾患の病態・栄養食事療法の説明。 事前学習としては、肥満症、脂質異常症など代謝・内分泌疾患の病態生理、栄養食事療法について教科書を読みノートにまとめる。事後学習としては、肥満、るいそう、脂質異常症等について教科書、資料を見直し内容を整理する。
	3	代謝・内分泌疾患②（おもに糖尿病、甲状腺機能亢進症・低下症）	代謝・内分泌疾患の病態・栄養食事療法の説明。事前学習としては、糖尿病の病態生理、栄養食事療法について教科書を読む。事後学習としては、糖尿病の分類、診断基準、栄養食事療法の基本等について教科書、資料を見直し内容を整理する。
	4	代謝・内分泌疾患③（糖尿病の症例検討の実際、栄養ケア・マネジメント表の作成）	糖尿病症例検討の説明。事前学習としては、糖尿病療養のための臨床検査について教科書を読みノートにまとめる。症例検討の準備をする。事後学習としては、提示症例の検討内容を栄養ケア・マネジメント表にまとめ完成させる。
	5	糖尿病提示症例の解説ならびに検討内容の発表。栄養ケア・マネジメント表の提出 循環器疾患（おもにメタボリックシンドローム、高血圧、心疾患）	糖尿病の症例検討、栄養ケア・マネジメントの発表。症例検討の解説。 循環器疾患の病態・栄養食事療法の説明 事前学習としてメタボリックシンドローム、高血圧など循環器疾患の病態生理、栄養食事療法について教科書を読みノートにまとめる。事後学習としては、循環器疾患について教科書、資料を見直し内容を整理す

			る。
	6	腎臓疾患（腎疾患、糖尿病性腎症）	腎臓疾患の病態・栄養食事療法の説明。事前学習としては、糖尿病と糖尿病性腎症の違い、腎臓病の病態生理、栄養食事療法について教科書を読みノートにまとめる。事後学習としては、CKD、糖尿病性腎症の病期分類、栄養食事療法等について教科書、資料を見直し内容を整理する。
	7	代謝・内分泌疾患、循環器疾患、腎臓疾患の確認テスト 消化器疾患(食道・胃の疾患、クローン病、潰瘍性大腸炎を含む腸疾患)	Moodleにて確認テストを行い、代謝・内分泌疾患、循環器疾患、腎臓疾患について振り返る。 消化器疾患の病態・栄養食事療法の説明。事前学習として食道・胃・腸の広範囲の消化器疾患について教科書を読みノートにまとめる。事後学習としては、特に栄養管理が重要となるダンピング症候群、クローン病について教科書、資料を見直し内容を整理する。
	8	肝臓・胆嚢・膵臓疾患	肝臓・胆嚢・膵臓疾患の病態、肝機能障害の分類、栄養食事療法の説明。事前学習・事後学習として、肝臓・胆嚢・膵臓疾患の病態および栄養食事療法について教科書を読みノートにまとめ資料を整理する。
	9	呼吸器疾患（おもに慢性閉塞性肺疾患）	呼吸器疾患および慢性閉塞性肺疾患と栄養管理の必要性を説明。 事前学習・事後学習として、呼吸器疾患の病態生理および慢性閉塞性肺疾患をはじめとする栄養食事療法について教科書を読みノートにまとめ資料を整理する。
	10	消化器疾患、肝臓・胆嚢・膵臓疾患、呼吸器疾患の確認テスト 脳血管疾患、摂食・嚥下障害	Moodleにて確認テストを行い、消化器疾患、肝臓・胆嚢・膵臓疾患、呼吸器疾患について振り返る。 脳梗塞・脳卒中の病態および脳卒中後遺症による摂食嚥下障害の栄養管理について説明。 事前学習・事後学習として脳卒中の栄養食事療法の基本、嚥下機能レベルに合わせた訓練食について教科書読みノートにまとめ資料を整理する。
	11	骨・関節疾患、（骨粗鬆症、サルコペニア、フレイル）	骨粗鬆症、サルコペニア、ロコモティブシンドロームなど骨・関節、骨格筋疾患の病態および栄養食事療法の説明。事前学習・事後学習については、骨・関節疾患と要介護との関係について教科書を読みノートにまとめ資料を整理する。
	12	栄養障害、低栄養（PEM、るい痩、ビタミン・ミネラル欠乏症）	低栄養の病態生理・栄養食事療法の説明。事前学習・事後学習については、低栄養がおよぼす栄養素欠乏症について教科書を読みノートにまとめ資料を整理する
	13	栄養補給法	栄養補給法の種類と選択の説明。 事前学習として疾病回復に寄与する経口栄養法以外の栄養補給法ついて教科書を読みノートにまとめる。事後学習としては、栄養法の適応や禁忌、合併症などを教科書、資料を見直し内容を整理する。
	14	高齢者疾患（褥瘡、認知症を含む高齢者に多くみられる障害）	高齢者の特異性、高齢者疾患の病態生理の説明。事前学習・事後学習として多岐にわたる老化に伴う生理的変化、栄養食事療法について教科書を読みノートにまとめ資料で整理する。
	15	脳血管疾患、摂食・嚥下障害、骨・関節疾患、低栄養、高齢者疾患の確認テスト 臨床栄養学の意義と栄養ケア・マネジメント概念の理解、本授業の振り返り	Moodleにて確認テストを行い、脳血管疾患、摂食・嚥下障害、骨・関節疾患、低栄養、高齢者疾患について振り返る。 事前学習として授業全体を振り返り疑問点を抽出する。事後学習としては、各疾患の病態に応じた栄養食事療法を臨床栄養学各論につなげるよう教科書、資料を見直し内容を整理する。

定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。
準備学習に必要な時間	毎回3時間程度の事前・事後学習が必要。事前学習では、疾患の病態生理や栄養食事療法を理解し、事後学習では栄養食事療法の適応や効果について教科書読みノートにまとめ資料の内容を整理して栄養管理のスキルを高めましょう。
教科書	佐藤和人、本間健、小松龍史編「エッセンシャル臨床栄養学」第8版第4刷発行　2019年2月10日（医歯薬出版株式会社）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：必要に応じて各疾患のガイドライン等を講義の中で紹介する。 教材：必要に応じて資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	Moodleにて確認テストは、自己採点可能。症例検討では、栄養アセスメント、問題点の抽出、管理目標の設定、モニタリング・評価の栄養ケア・マネジメントの実際を授業で説明しながらすすめ栄養ケア・マネジメント表を作成していく。完成後期日遵守し提出。確認後に返却。内容が十分でない場合は再提出とする。
評価の配点比率	目標①期末定期試験15%　確認テスト15% 目標②期末定期試験10%　確認テスト10% 目標③症例検討栄養ケア・マネジメント表20% 目標④症例検討栄養ケア・マネジメント表20% 目標⑤栄養ケア・マネジメント発表10%
受講上の注意	各疾患の病態に応じた栄養食事療法と栄養ケア・マネジメントの概念を取り入れた栄養管理が実践できるよう学びましょう。
教員の実務経験	病院の管理栄養士業務に携わった経験を活かし、疾患別の栄養･食事療法について例を挙げながら講義する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 臨床栄養学各論　　授業コード： 1621501

英文科目名称： Particular Clinical Nutrition

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
木下　充子			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	栄養士免許必修	講義	ナンバリング：16E502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は治療の根幹を成す栄養管理を修得することである。授業では、医療における予防・治療の重要性と個人を対象に治療に効果的な栄養管理を行うための、スクリーニング、アセスメント、栄養補給法、評価法、栄養食事療法の実際を理解し栄養管理スキルについて学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①栄養士業務が患者の生活習慣改善やＱＯＬ向上に貢献できることを理解し栄養食事療法の知識と技術を説明できる	ＤＰ１	30
	目標②疾病の変化・多彩さを理解し、患者ニーズに合った栄養ケア・マネジメントが適切に実践できる。	ＤＰ２	20
	目標③基礎的知識をもとに各疾患や患者個々に適応した栄養教育の必要性を述べることができる。	ＤＰ６	20
	目標④専門知識習得を通してコミュニケーション力・協働性を学び高めることができる。	ＤＰ８	20
	目標④専門知識習得を通してコミュニケーション力・協働性を学び高めることができる。	ＤＰ９	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 ＤＰ２：人体の構造と生理を理解し、自然の営みや社会のしくみのなかで食と人間のかかわりを総合的に理解している。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。 ＤＰ９：「仁愛兼済」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	医療と臨床栄養 医療制度の基本	授業の進め方の説明。臨床栄養管理の重要性と栄養士の役割、医療保険制度等を説明。事前学習として医療と臨床栄養、医療制度の基本について教科書を読みノートにまとめる。事後学習としては、栄養士の役割、医療制度について教科書、資料を見直し内容を整理する。
	2	福祉・介護と臨床栄養 介護保険制度	福祉・介護と臨床栄養、介護保険制度等を説明。事前学習として介護・福祉と臨床栄養、介護保険制度の基本について教科書を読みノートにまとめる。事後学習としては、栄養士の役割、医療と介護それぞれの保険制度について教科書、資料を見直し内容を整理する。
	3	栄養管理の目的とマネジメントサイクル 栄養ケア・マネジメントの進め方① 栄養スクリーニング 栄養アセスメント 栄養状態の判定	マネジメントサイクルに沿って栄養ケア・マネジメントの進め方を説明。事前学習として栄養スクリーニングなど栄養ケア・マネジメントの進め方について教科書を読みノートにまとめる。事後学習としてそれぞれに重要な点を教科書、資料等で見直し内容を整理する。
	4	栄養ケア・マネジメントの進め方② 栄養介入 栄養計画のプランニング 栄養補給・栄養教育・多職種連携 モニタリングと評価	マネジメントサイクルに沿って栄養ケア・マネジメントの進め方を説明。事前学習として栄養計画など栄養ケア・マネジメントの進め方について教科書を読みノートにまとめる。事後学習としてそれぞれに重要な点を教科書、資料等で見直し内容を整理する。
	5	代謝・内分泌疾患　症例検討①(肥満、脂質異常症、高尿酸血症など) 症例検討①栄養ケア・マネジメント表の作成	症例検討①の実際について説明。事前学習としては、代謝・内分泌疾患の病態生理、栄養食事療法について教科書を読みノートにまとめる。栄養ケア・マネジメントの進め方を確認し、症例検討の準備をする。事後学習としては、症例の検討内容を栄養ケア・マネジメ

			ント表にまとめ完成させる。教科書、資料を見直し内容を整理する。 栄養ケア・マネジメント表提出、確認返却後は整理し保存する。
	6	代謝・内分泌疾患　症例検討②(糖尿病) 症例検討①の栄養ケア・マネジメント表の提出 栄養ケア・マネジメント表②の作成	症例検討①の解説。症例検討②の実際について説明。事前学習としては、代謝・内分泌疾患の病態生理、栄養食事療法について教科書を読みノートにまとめる。栄養ケア・マネジメントの進め方を確認し、症例検討の準備をする。事後学習としては、症例の検討内容を栄養ケア・マネジメント表にまとめ完成させる。教科書、資料を見直し内容を整理する。 栄養ケア・マネジメント表提出、確認返却後は整理し保存する。
	7	腎臓疾患　症例検討③(慢性腎臓病) 症例検討②の栄養ケア・マネジメント表の提出 栄養ケア・マネジメント表③の作成	症例検討②の解説。症例検討③の実際について説明。事前学習として、腎臓疾患特に慢性腎臓病(CKD)の病態生理、栄養食事療法について教科書を読みノートにまとめる。栄養ケア・マネジメントの進め方を確認し、症例検討の準備をする。事後学習としては、症例の検討内容を栄養ケア・マネジメント表にまとめ完成させる。教科書、資料を見直し内容を整理する。 栄養ケア・マネジメント表提出、確認返却後は整理し保存する。
	8	症例検討③の栄養ケア・マネジメント表の提出 術前・術後の栄養管理、摂食・嚥下障害の栄養管理 栄養ケア・マネジメントの振り返り確認テスト	症例検討③の解説。 術前・術後の栄養管理、摂食・嚥下障害の栄養管理の説明。事前学習として、特に消化管手術と摂食・嚥下障害の病態生理、栄養食事療法について教科書を読みノートにまとめる。事後学習としては、事後学習としては、栄養法の適応や合併症などを教科書、資料を見直し栄養ケア・マネジメントに応用できるよう整理する。 Moodleにて確認テストを行い、栄養ケア・マネジメントについて振り返る。
	9	呼吸器疾患　症例検討④(COPD) 栄養ケア・マネジメント表④の作成	症例検討④の実際について説明。事前学習としては、呼吸器疾患特にCOPDの病態生理、栄養食事療法について教科書を読みノートにまとめる。栄養ケア・マネジメントの進め方を確認し、症例検討の準備をする。事後学習としては、症例の検討内容を栄養ケア・マネジメント表にまとめ完成させる。教科書、資料を見直し内容を整理する。 栄養ケア・マネジメント表提出、確認返却後は整理し保存する。
	10	骨・関節疾患　症例検討⑤(骨・関節疾患) 症例検討④の栄養ケア・マネジメント表の提出 栄養ケア・マネジメント表⑤の作成	症例検討④の解説。症例検討⑤の実際について説明。事前学習としては、骨・関節疾患の病態生理、栄養食事療法について教科書を読みノートにまとめる。栄養ケア・マネジメントの進め方を確認し、症例検討の準備をする。事後学習としては、症例の検討内容を栄養 症例検討④の解説。症例検討⑤の実際について説明。事前学習としては、骨・関節疾患の病態生理、栄養食事療法について教科書を読みノートにまとめる。栄養ケア・マネジメントの進め方を確認し、症例検討の準備をする。事後学習としては、症例の検討内容を栄養
	11	高齢者疾患　症例検討⑥（PEM、フレイル、サルコペニアなど）グループワーク、栄養ケア・マネジメント表⑥の作成　発表 症例検討⑥の栄養ケア・マネジメント表の提出	症例検討⑤の解説。症例検討⑥の実際について説明。授業の中で症例についてグループワーク、養ケア・マネジメント表を完成させ発表する。事前学習としては、高齢者疾患の病態生理、栄養食事療法について教科書を読みノートにまとめる。栄養ケア・マネジメントの進め方を確認し、症例検討の準備をする。事後学習としては、栄養ケア・マネジメントの進め方を確認し教科書、資料を見直し内容を整理する。 栄養ケア・マネジメント表提出、確認返却後は整理し保存する。
	12	高齢者疾患　症例検討⑦（認知症、介護施設における栄養ケア・マネジメント）グループワーク、栄養ケア・マネジメント表⑦の作成　発表 症例検討⑦の栄養ケア・マネジメント表の提出	症例検討⑦の実際について説明。授業の中で症例についてグループワーク、養ケア・マネジメント表を完成させ発表する。事前学習としては、高齢者疾患の病態生理、栄養食事療法について教科書を読みノートにまとめる。栄養ケア・マネジメントの進め方を確認し、症例検討の準備をする。 事後学習としては、栄養ケア・マネジメントの進め方を確認し教科書、資料を見直し内容を整理する。 栄養ケア・マネジメント表提出、確認返却後は整理し保存する。
	13	循環器疾患　症例検討⑧（脳卒中） 栄養ケア・マネジメント表⑧の作成	症例検討⑧の実際について説明。事前学習としては、循環器疾患の病態生理、栄養食事療法について教科書を読みノートにまとめる。栄養ケア・マネジメントの進め方を確認し、症例検討の準備をする。事後学習としては、症例の検討内容を栄養ケア・マネジメント表にまとめ完成させる。教科書、資料を見直し内容を整理する。 栄養ケア・マネジメント表提出、確認返却後は整理し保存する。

	14	臨床栄養における栄養教育（カウンセリング技術、行動科学技術） 症例検討⑧の栄養ケア・マネジメント表の提出 課題小テスト	症例検討⑧の解説。カウンセリング技術、行動科学技術など臨床栄養における栄養教育について説明。 事前学習として、臨床栄養における栄養教育について教科書を読みノートにまとめる。事後学習としては教科書、資料を見直し内容を整理する。 Moodleにて課題小テストを行い、栄養ケア・マネジメントについて振り返る。
	15	栄養ケア・マネジメントサイクルの理解、実践力の確認、本授業の振り返り	栄養ケア・マネジメント業務の必要性の説明。 事前学習として授業全体を振り返り疑問点を抽出する。事後学習としては、各疾患の病態に応じた栄養ケア・マネジメントの実践につながるよう教科書、資料を見直し内容を整理する。
定期試験	試験期間中の試験に代わって症例検討による栄養ケア・マネジメント表の発表・提出、振り返りの確認テスト課題小テストを実施する。		
準備学習に必要な時間	毎回3時間程度の事前・事後が必要。事前学習としては、症例の病態生理、栄養食事療法について教科書を読みノートにまとめ、栄養アセスメントの流れを確認して症例検討の準備をする。事後学習としては、症例の検討内容を栄養ケア・マネジメント表にまとめ完成させ各症例の内容を整理する。		
教科書	佐藤和人、本間健、小松龍史編「エッセンシャル臨床栄養学」第8版第4刷発行　2019年2月10日（医歯薬出版株式会社）		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：必要に応じて講義の中で紹介する。 教材：必要に応じて資料を配布する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	Moodleにて確認テストは、自己採点可能。課題小テストはコメント機能等でフードバック。症例検討では、解説してフィードバック。栄養ケア・アセスメント表は、期日遵守にて提出、確認後に返却。内容が十分でない場合は再提出とする。		
評価の配点比率	目標①症例検討栄養ケア・マネジメント表15%　確認テスト15% 目標②症例検討栄養ケア・マネジメント表10%　確認テスト10% 目標③症例検討栄養ケア・マネジメント表10%　課題小テスト10% 目標④症例検討栄養ケア・マネジメント表10%　栄養ケア・マネジメント発表10% 目標⑤症例検討栄養ケア・マネジメント発表10%		
受講上の注意	各疾患および患者さん個々に応じた栄養ケア・マネジメントが実践できるよう学びましょう。臨床栄養学の知識スキルを活かし相手の立場で食・栄養を支援する力を付けましょう。		
教員の実務経験	病院の管理栄養士業務に携わった経験を活かし、栄養ケア・マネジメントについて例を挙げ講義する。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 臨床栄養学実習　　授業コード： 1621601

英文科目名称： Clinical Nutrition Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
木内　貴子			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	栄養士免許必修	実習	ナンバリング：16E504
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、疾病の改善や重症化の予防のため、病態生理の理論に基づいた食事を正しく理解し、傷病者に対する具体的、かつ実践的な栄養管理法を習得することである。授業では各種疾患における栄養療法の意義や目的を学び、適切な栄養アセスメントに基づいた栄養状態の把握を基に、調理という具体的手法で食事指導ができる力を身に付けることを目指す。そのために、栄養成分のコントロールなど病態ごとの食事の考え方、各種疾患に適した献立の作成や調理技術について学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①病態生理の理論に基づき、疾患ごとの食事について正しく理解できる。	ＤＰ１	20
	目標②各疾患に適した栄養評価を行い、栄養状態の把握ができる。	ＤＰ２	20
	目標③各疾患や栄養状態に応じた栄養療法計画（献立作成）および治療食の調理ができる。	ＤＰ６	30
	目標④栄養療法の意義を説明し、調理に基づいた食事指導ができる。	ＤＰ７	20
	目標⑤グループワークを通して、和を尊重しながら学びを高めることができる。	ＤＰ９	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 ＤＰ２：人体の構造と生理を理解し、自然の営みや社会のしくみのなかで食と人間のかかわりを総合的に理解している。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。 ＤＰ７：専門的な知識と豊かな人間性を基盤としたコミュニケーションができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：「仁愛兼済」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス　臨床栄養学実習の概要	授業の取り組み方の説明 臨床調理の考え方の基本 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：臨床調理における「おいしさ」について整理する、栄養補給方法についてまとめる
	2	一般治療食（かゆ食・流動食）①	一般治療食の食事・献立の基本 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：治療食と食事形態についてまとめる
	3	一般治療食（かゆ食・流動食）②	★調理実習 一般治療食の調理と調理操作の実際 事前学習：一般治療食の特徴いついて確認する 事後学習：実習の記録と栄養計算
	4	たんぱく質・塩分コントロール食の食事・献立① 低たんぱく質食	低たんぱく質食の基本（腎疾患など） 「腎臓病食品交換表」による献立内容と献立作成 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：低たんぱく質の適応症と調理の工夫についてまとめる。
	5	たんぱく質・塩分コントロール食② 低たんぱく質食	★調理実習 たんぱく質・塩分コントロール食（低たんぱく質食）の調理と調理操作の実際 事前学習：低たんぱく質食の特徴いついて確認する 事後学習：実習の記録と栄養計算
	6	たんぱく質コントロール食① 高たんぱく質食	高たんぱく質食の基本（肝疾患など） 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：高たんぱく質食の適応症と調理の工夫についてまとめる

	7	たんぱく質コントロール食② 高たんぱく質食	★調理実習 たんぱく質コントロール食（高たんぱく質食）の調理と調理操作の実際 事前学習：高たんぱく質食の特徴いついて確認する 事後学習：実習の記録と栄養計算
	8	栄養素と疾病と調理 鉄欠乏性貧血と食事	★調理実習 鉄欠乏性貧血食の調理と調理操作の実際 事前学習：栄養素と疾病とその調理上の注意点について確認する 事後学習：実習の記録と栄養計算
	9	脂質コントロール食①	脂質コントロール食の食事・献立の基本 脂質コントロール食（脂質異常症など） 自主献立の作成（展開食） 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：脂質コントロール食の適応症と調理の工夫についてまとめる
	10	塩分コントロール食①	塩分コントロール食の食事・献立の基本 循環器疾患の食事（高血圧など） 自主献立の作成 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：塩分コントロール食の適応症と調理の工夫についてまとめる
	11	脂質コントロール食②	★調理実習（自主献立・展開食） 脂質コントロール食の調理と調理操作の実際 事前学習：脂質コントロール食の特徴いついて確認する 事後学習：実習の記録と栄養計算
	12	塩分コントロール食②	★調理実習（自主献立） 塩分コントロール食の調理と調理操作の実際 事前学習：塩分コントロール食の特徴について確認する 事後学習：実習の記録と栄養計算
	13	エネルギーコントロール食	エネルギーコントロール食の食事・献立の基本 「糖尿病食事療法のための食品交換表」について 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：「糖尿病食事療法のための食品交換表」による献立作成
	14	糖尿病食①	「糖尿病食事療法のための食品交換表」による献立の確認、発注 糖尿病食に関する媒体づくり、発表準備 事前学習：糖尿病食媒体づくりに関する情報収集 事後学習：グループ発表の準備
	15	糖尿病食②	★調理実習（自主献立） エネルギーコントロール食の調理と調理操作の実際 グループ発表（媒体説明） 事前学習：糖尿病食の特徴について確認する 事後学習：発表の振り返り、実習の記録と栄養計算
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施します。		
準備学習に必要な時間	毎回１時間程度の事前・後学習を要します。事前学習では疾病につて調べ、栄養療法の理解を深め、献立作成に必要な資料を準備しておきましょう。事後学習では授業内容をノートにまとめ、調理実習後は献立内容や調理作業の見直しをしましょう。グループ単位の実習があります。協力して取り組みましょう。		
教科書	玉川和子　口羽章子著「臨床調理　第７版」（医歯薬出版㈱　2019）、第７版「糖尿病食事療法のための食品交換表」（文光堂）		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：「腎臓病食品交換表　第９版」（医歯薬出版㈱）その他、適宜案内します。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方については第1回目のガイダンスで詳しく説明します。課題の提出は期日厳守とします。内容が十分でない場合は再提出となることがあります。課題は確認後に返却します。作成した献立やレポートは体系的に整理しておきましょう。		
評価の配点比率	期末定期試験40%、課題（献立作成、調理実習報告書）50%、実習の取り組み10% 目標①　期末定期試験10%　課題10% 目標②　期末定期試験10%　課題10% 目標③　期末定期試験10%　課題20% 目標④　期末定期試験10%　課題10% 目標⑤　実習の取り組み10%		
受講上の注意	臨床調理では、食事を疾病の改善や重症化の予防のための治療ととらえるため、形態や量、調味など様々な制約を伴います。疾病による精神的、肉体的負担に加え、食事の制約は傷病者の食欲を低下させることが多くあります。日々の食生活の中で、食味を低下させないヒントを探してみましょう。調理実習では白衣、帽子、上履きを適切に着用し、衛生管理に努めましょう。実習は延びることがありますので後の用事に注意してください。		
教員の実務経験	病院の管理栄養士業務に携わった経験のある管理栄養士のもと、各種疾患における栄養療法の意義をふまえ、基本献立から各種治療食への展開など、実践的な実習を行います。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　☑グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　☑実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　☑自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 調理学実習Ⅱ　　授業コード： 1621701

英文科目名称： CookingⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	選択
担当教員			
森　恵見			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	栄養士免許必修・フードスペシャリスト資格必修	実習	ナンバリング：16G501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、調理学実習Ｉで基礎を学んだのをうけて、応用調理を身につけることである。季節性のある食材を使用する献立を作成し、行事食・郷土料理・世界の料理などのテーマに適した献立にも対応できる能力を身につける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①喫食者の民族、年代、嗜好、季節に対応した献立をたてることができる。	ＤＰ１	20
	目標②喫食者に応じた配慮をしつつ、食材の季節感、料理様式をみたし衛生的に調理することができる。	ＤＰ４	25
	目標③一人分の栄養価、塩分濃度の計算ができる。	ＤＰ４	25
	目標④調理科学の理論が理解でき、失敗を理論的に説明できる。	ＤＰ７	20
	目標⑤自分の考えや作品を客観的に評価できる。	ＤＰ９	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 ＤＰ４：栄養学・食品学・調理学などの専門的知識にもとづく食事を提供することができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ７：専門的な知識と豊かな人間性を基盤としたコミュニケーションができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：「仁愛兼済」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	献立構成の講義とお菓子	実習ノートの説明
	2	春の日本料理(筍料理)	小テスト
	3	西洋料理（肉ソテー、アスパラガス料理、ババロア)	小テスト
	4	端午の節句（デコレーション寿司、刺身、柏もち)	実習ノート提出　小テスト
	5	春の中国料理（青豆蝦仁、焼売)	小テスト
	6	応用日本料理（巻きすし、いなりすし、草もち)	小テスト
	7	西洋料理（鶏の解体、マリネ)	小テスト
	8	松花堂弁当	実習ノート提出　小テスト
	9	応用西洋料理（ハヤシライス、サラダ)	小テスト
	10	応用西洋料理（フルコース料理)	小テスト
	11	応用西洋料理（テーブルマナー)	テーブルマナー
	12	寒天とゼラチンの実験	小テスト
	13	夏の中国料理（茄子料理、炒醤麺)	小テスト
	14	夏の日本料理（そうめん、くず桜)	実習ノート提出　小テスト
	15	指定材料を用いた自主献立（実技試験)	振り返りレポート
	16	秋の中国料理（栗と鶏の煮込、月餅)	小テスト
	17	秋の日本料理（おはぎ、おろし和え、いり鶏)	小テスト
	18	秋の西洋料理（ロールキャベツ、りんごパイ)	小テスト
	19	世界の料理（インド、ベトナム、韓国)	小テスト

	20	世界の料理（イタリア、スペイン、ドイツ）	小テスト
	21	冬の日本料理（おでん、茶飯）	実習ノート提出　小テスト
	22	福井の郷土料理（自主献立）	小テスト
	23	応用中国料理（前菜盛り合わせ、肉包子、豆沙包子）	小テスト
	24	年中行事食と食卓の演出	小テスト
	25	おせち料理	正月料理の説明
	26	クリスマス料理（ローストチキン、ロールケーキ）	実習ノート提出　小テスト
	27	冬の中国料理（火鍋子、干焼蝦仁）	小テスト
	28	上巳の節句	小テスト
	29	お菓子バイキング	小テスト
	30	指定材料による自主献立実習	実技試験、実習ノート提出、実技試験のレポート提出
定期試験	筆記試験を期間中に行う。		
準備学習に必要な時間	毎日、自宅で10分以上の調理時間が必要です。時間がない場合は、２分ほど千切りの練習をするだけでもいいので、毎日包丁に触れること。特に最終日の実技テストでは、自宅での調理時間が結果に現れます。		
教科書	第一回目授業時にレシピプリントを配布します。		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：谷洋子他「わかりやすい調理」みらい1998　食育に役立つ調理実習		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	一人分の栄養価計算をした「実習ノート」を作成し必ず提出すること。栄養計算の解答は、掲示する。返却されたら次回提出までに直し理解しておくこと。		
評価の配点比率	目標①実技試験20% 目標②実技試験10%　年中行事の食卓の演出5%　実習ノート10% 目標③実習ノート20%　小テスト5% 目標④小テスト10%　振り返りレポート10% 目標⑤振り返りレポート10%		
受講上の注意	調理学実習Ｉを終えて、基礎から応用にうつります。日々美味しいものを食べ、自分の舌を磨きましょう。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 公衆衛生学　　授業コード： 1621801

英文科目名称： General Public Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	必修
担当教員			
出口　洋二			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	栄養士免許必修・フードスペシャリスト資格必修	講義	ナンバリング：16B101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、公衆衛生活動の科学的基盤である公衆衛生学の基礎概念について理解を深めることである。学生が、公衆衛生学の基礎概念を構成する50のキーワードを簡潔に自分の言葉で説明する課題に自ら取り組むことにより、基礎概念の理解を深めるとともに、栄養士として必要な自己表現力の向上をめざす。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①学生が公衆衛生学の基礎概念を正しく説明できる。		ＤＰ１	80
	目標②学生が自己の表現力の向上を目指して努力できる。		ＤＰ８	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。		
	【思考力・判断力・表現力】			
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	公衆衛生活動の特徴と進め方	第1回目の講義日に50語のキーワード表を配布するので、教科書でキーワードはどのように説明されているか確認をしておくこと
	2	公衆衛生学の歴史と予防医学の考え方	
	3	衛生行政と保健医療福祉制度	
	4	保健統計の意義と種類	
	5	集団の健康指標　1.死亡指標	
	6	集団の健康指標　2.疾病指標	
	7	疫学の考え方　1.記述疫学と保健統計	
	8	疫学の考え方　2.分析疫学	
	9	母子保健　1.母性の保健対策	
	10	母子保健　2.小児の保健対策	
	11	学校保健	
	12	産業保健	
	13	成人・老人保健	
	14	環境保健　1.食品衛生	
	15	環境保健　2.廃棄物対策	

定期試験	キーワードの説明文を完成させる記述式筆記試験を実施する。試験終了後、解答と解説により正解を確認する。
準備学習に必要な時間	毎回、キーワードの説明文の作成準備（予習）2時間＋説明文の修正確認と反復練習（復習）2時間
教科書	鈴木庄亮監修 『シンプル衛生公衆衛生学2021』（南江堂）
参考図書、教材、準備物等	NHK取材班著『健康格差　あなたの寿命は社会が決める』　講談社現代新書2452　（2017年）

課題（試験・レポート等）のフィードバック	キーワード10語毎に説明文を記載した課題を提出させ、復習状況を確認し、誤りの多い部分について授業で補充説明をし修正させる。 試験終了後、解答と解説をし、誤った部分を再確認させる。
評価の配点比率	目標①　試験80％ 目標②　提出課題（キーワード50語の簡潔な説明）20％
受講上の注意	●公衆衛生学の基礎概念は、機械的に板書を書き写しても身につきません。自分ならどう説明するか常に意識して受講して下さい。 ●授業中は黒板を書き写すことよりも、その日のテーマとなっているキーワードの説明文が自分の用意した説明文とどう違うか、考えながら受講して下さい。復習は修正した説明文を確認し、繰り返し書くことで自分の理解を深めて下さい。 ●50語のキーワードの説明文の提出日を予告するので、予・復習を確実にすること。試験の準備対策にもなります。 ●課題（キーワードの説明文）は教員宛てメール（ydegu@go.jin-ai.ac.jp）に記載して提出し、教員からの受信通知と修正箇所の有無を確認して下さい。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 公衆衛生学各論　　授業コード： 1621901

英文科目名称： Particular Public Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
後期	２年次	２単位	選択	
担当教員				
出口　洋二				
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	栄養士免許必修		講義	ナンバリング：16B501
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は、公衆衛生活動の現状と課題について理解を深め、改善に向けて考察することである。学生が、母子保健・学校保健・産業保健・地域成人保健・地域老人保健・地域環境保健の現状・課題・対策について、6班の学習グループを編成し、自ら調査した内容をPowerPointを使って口頭発表し、他班からの質問に返答し、論文形式のレポートにまとめる課題解決型のグループ学習を通じて、将来栄養士として保健指導するための表現力を高める。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①学生が公衆衛生活動の現状・課題・対策を体系的に理解できる。	ＤＰ１	40
	目標②学生が公衆衛生活動の改善に向けて栄養士の役割を考察できる。	ＤＰ６	20
	目標③学生が専門知識を基盤として、調査内容を解かりやすく説明できる。	ＤＰ７	20
	目標④学生が自己の表現能力向上に努力できる。	ＤＰ９	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。 ＤＰ７：専門的な知識と豊かな人間性を基盤としたコミュニケーションができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：「仁愛兼済」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	学生が深く学びたいと思う環境要因を全員で列挙し、6つのテーマを選び学習グループを編成する。	第1回目の講義日に班編成をするので履修希望者は必ず出席すること。
	2～11	選定した環境要因に対する保健対策の現状と課題を調査し、 栄養士としてできることは何か考察し、5回に分けて発表する （各班各回20分）。 ↓	
	2～11	発表後教員の助言（各班10分）を受けて調査・発表を 繰り返し、毎回他班の学生全員から発表に対する評価 (10点満点）と質問を記載した質問票を受け付ける。 ↓	授業終了時、発表班に対する質問票を提出
	2～11	発表担当班は受けた質問内容を10点満点で評価し、回答を 記載した質問票を教員に提出する。 ↓	質問返答票は発表した次の週の授業終了時に教員へ提出
	2～11	発表に対する評価は説明の仕方・配布資料の適切さ・ 調査内容・時間配分・協力体制の5項目(10点満点）に ついて他班の学生全員から個別に評価を受ける。 ↓	
		教員は発表担当班長から質問票を受け取り、質問者の 個別質問得点（発表内容の理解度5点＋諮問の意	

	2～11	義5点）・ 発表得点および返答内容が適切かチェックし発表担当班から 質問票を提出した学生に返却する。	
	12	教員からレポート作成上の注意点について指示を受け原稿の作成を開始。（各班A４判12ページ程度のWordファイル）	
	13	レポート原稿提出	
	14	教員の指示のもとにレポート原稿を修正して全員にファイルを配布	各自のUSBメモリーに全班のレポートファイルをコピーする
	15	全班のレポート要旨を各自作成し、他班の達成度を評価する	各自レポートの要旨と達成度評価表に記載して提出

定期試験	試験を実施しない
準備学習に必要な時間	毎回、発表準備（予習）に2時間、発表後の他班からの発表に対するコメントの確認と質問に対する返答（復習）に2時間
教科書	鈴木庄亮監修 『シンプル衛生公衆衛生学2021』（南江堂）
参考図書、教材、準備物等	参考図書:厚生労働統計協会編『国民衛生の動向』（2020/21年） 図書館所蔵
課題（試験・レポート等）のフィードバック	質問・返答票への評価と回答は発表担当班が記載し、次週教員のチェック後、学生に返却する。 レポート原稿は昨年度学生のレポートを参考に構成・文章表現・剽窃に注意して作成し、教員がさらに修正箇所を指示して返却し完成する。
評価の配点比率	目標① 質問票得点（40%） 個人質問票得点40点 目標②③④各20% 班得点×班員寄与率（班長：100%） 班得点＝発表30点＋レポート30点（60点）
受講上の注意	●公衆衛生学各論はグループダイナミックスを活用した課題解決型学習により、情報収集力と口頭・文章両面での表現力向上を図ります。 ●欠席が4回以下でも質問評価点や班員寄与率が低いと単位認定は不可となるので注意して下さい。 ●各回の発表に対する班員各自の評価と質問を班長がWordファイルの一覧表にまとめて発表日に教員へメール（ydegu@go.jin-ai.ac.jp）で提出し、発表評価と質問の集計結果を発表担当班長へメールで通知しますので、次回の発表やレポート作成の参考にして下さい。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL） ■討議（ディスカッション、ディベート） ■グループワーク ■発表（プレゼンテーション） □実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク ■反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) ■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 栄養指導論Ⅱ　　授業コード： 1622001

英文科目名称： Instruction of NutritionⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
牧野　みゆき			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	栄養士免許必修	講義	ナンバリング：16F501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、栄養指導論Ⅰで学んだ基礎をふまえて、それぞれの対象に見合った栄養教育や個人指導のあり方や手法を理解することである。栄養指導を行う場面を想定して、実践的かつ具体的な方法を模索していく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①栄養指導の方法と技術について理解する。	ＤＰ１	40
	目標②栄養指導の対象別特性を理解する。	ＤＰ３	30
	目標③実践的な栄養指導を考案する。	ＤＰ８	10
	目標④栄養指導に活かせる行動変容技法を理解する。	ＤＰ６	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 ＤＰ３：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	栄養教育・指導の目的・マネジメント	栄養教育・指導は栄養士業務の本質であるので、まずはそれを理解をする。小テストを行う。
	2	栄養教育・指導に必要な基礎知識 （１）日本人の食事摂取基準	日本人の食事摂取基準（2020年版）の具体的な活用について解説する。小テストを行う。
	3	栄養教育・指導に必要な基礎知識 （２）日本食品標準成分表	調理学実習で栄養価計算に使用している日本食品標準成分表を栄養指導の場面で用いる場合について解説する。小テストを行う。
	4	栄養教育・指導に必要な基礎知識 （３）食品群別荷重平均成分表、食品構成表	食品群別荷重平均成分表、食品構成表の作成方法と利用方法を解説する。小テストを行う。課題を提出する。
	5	栄養教育・指導に必要な基礎知識 （４）食事計画・献立作成	食事計画にあたり、留意すべき点を説明する。小テストを行う。
	6	栄養アセスメント （１）栄養アセスメントの意義と方法	栄養アセスメントは栄養指導をするうえで重要である。その意義と方法について説明する。小テストを行う。
	7	栄養アセスメント （２）健康・身体状況調査	健康状態、身体状況の調査方法とデータの読み方を解説する。小テストを行う。
	8	栄養アセスメント （３）栄養・食生活調査	栄養・食生活調査の種類、使用する際の注意点を説明する。小テストを行う。
	9	栄養教育計画 （１）栄養教育計画の作成手順	栄養教育計画の作成についての手順を説明する。次回からのライフステージ別カリキュラムの立案の参考とする。小テストを行う。
	10	栄養教育計画 （２）ライフステージ別カリキュラムの立案 ：妊娠・授乳期、乳幼児期	グループで妊娠・授乳期、乳幼児期のカリキュラムについて話し合う。小テストを行う。
	11	栄養教育計画 （３）ライフステージ別カリキュラムの立案 ：幼児期、学童期	グループで幼児期、学童期のカリキュラムについて話し合う。小テストを行う。
	12	栄養教育計画 （４）ライフステージ別カリキュラムの立案 ：思春期	グループで思春期のカリキュラムについて話し合う。小テストを行う。

	13	栄養教育計画 （５）ライフステージ別カリキュラムの立案 ：成人期、高齢期	グループで成人期、高齢期のカリキュラムについて話し合う。小テストを行う。
	14	栄養教育・指導に活用される行動科学理論及び技法	栄養教育・指導によって行動変容させるため、行動科学についての理論や技法を説明する。小テストを行う。
	15	栄養教育・指導の評価	ＰＤＣＡサイクルを用いて評価する。小テストを行う。
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。		
準備学習に必要な時間	予習・復習に2時間程度を要する。		
教科書	関口紀子他「改訂　栄養教育・指導実習」（建帛社）　2020年		
参考図書、教材、準備物等	「栄養教育論」（建帛社） 「栄養教育論実習・演習」（ドメス出版）		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	小テストは次回に返却し、解説する。 定期試験の解説は学期末に行う。		
評価の配点比率	目標①期末定期試験30%、小テスト10% 目標②期末定期試験20%、小テスト10% 目標③課題5%、小テスト5% 目標④期末定期試験10%、課題5%、小テスト5%　の割合で評価する。		
受講上の注意	栄養指導論Ⅰの理解が前提となるので、しっかりと復習をしておく。		
教員の実務経験	行政栄養士としての栄養指導経験をもとに、栄養教育・指導の実際について講義する。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 栄養指導実習　　授業コード： 1622101

英文科目名称： Practice Instruction of Nutrition

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
牧野　みゆき			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	栄養士免許必修	実習	ナンバリング：16F502
添付ファイル			

授業の概要	栄養指導の対象は、特性を持ったある集団や、個性豊かな個人である。本授業の目的は、それぞれの対象に見合った栄養教育や個人指導のあり方を、事例を通して理解して実践できる能力を身につけることである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①栄養指導に必要な情報の収集を行い、表現する方法を理解する。	ＤＰ３	30
	目標②学生が自発的にグループごとで栄養指導の様々な課題を設定する。	ＤＰ６	30
	目標③栄養指導の対象者と指導者の役割や問題点が認識できるようになる。	ＤＰ７	20
	目標④他者から学ぶ姿勢をもち、意見を素直に受け入れる。	ＤＰ９	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。 ＤＰ７：専門的な知識と豊かな人間性を基盤としたコミュニケーションができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：「仁愛兼済」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	栄養情報収集と活用方法	栄養や健康に関する新聞記事を切り抜き、感想を添えて提出する。日頃から新聞等を読む習慣をつける。
	2	パワーポイントによる発表のための準備	校外実習で行った課題のまとめを基にして、テーマ別にパネルディスカッションを行うための準備をする。
	3	発表原稿およびパワーポイントの作成と確認	発表内容によってグループ分けをする。司会進行の学生を決める。
	4	発表① 嗜好調査をテーマとしたパネルディスカッション	校外実習で嗜好調査を課題とした学生による発表である。パワーポイントを用いて発表する。
	5	発表② 食事形態をテーマとしたパネルディスカッション	校外実習で食事形態を課題とした学生による発表である。
	6	発表③ 給食施設の衛生管理をテーマとしたパネルディスカッション	校外実習で衛生管理を課題とした学生の発表である。
	7	発表④ 幼児の食育をテーマとしたパネルディスカッション	保育園へ校外実習に行った学生の発表である。
	8	発表⑤ 治療食をテーマとしたパネルディスカッション	病院での校外実習で、治療食を課題とした学生の発表である。
	9	栄養教育・指導の応用 幼児対象栄養指導案作成	全員が栄養指導案を作成する。
	10	栄養教育・指導の応用 幼児対象栄養指導のためのグループワーク	各自が作成した栄養指導案をもとに、グループになって発表（実演）するための栄養指導案を作成する。
	11	栄養教育・指導の応用 幼児対象栄養指導に必要な媒体の作成	グループになって教育媒体を作成する。
	12	栄養教育・指導の応用 生活習慣病予防のための指導案作成	全員が壮年期対象の栄養指導案を作成する。
	13	栄養教育・指導の応用 生活習慣病予防のための指導の実演	各自が作成した指導案をもとに、グループになって発表（実演）するための指導媒体を作成する。
	14	栄栄養教育・指導の応用 生活習慣病予防のための指導の実演	グループ毎に実演する。
	15	栄養教育・指導のまとめ	栄養指導案と発表媒体の提出
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。		

準備学習に必要な時間	課題のまとめ、発表の準備には１時間程度の時間を要する。
教科書	関口紀子他「栄養教育・指導演習」（建帛社）2020年 （栄養指導論Ⅱと同じ教科書）
参考図書、教材、準備物等	準備物：6回以降は学生が作成する指導用媒体を用いる。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	グループ別演習では、事前に計画的に準備すること。 情報収集ファイルは点検・評価ののち返却する。期末定期試験の解答は掲示する。
評価の配点比率	目標①期末定期試験20%、課題（情報収集ファイル）10% 目標②期末定期試験10%、発表20% 目標③期末定期試験10%、発表10% 目標④発表20%
受講上の注意	栄養指導は栄養士の基本となる業務です。この授業でいろいろな場面を想定し実践してみましょう。
教員の実務経験	管理栄養士業務に携わった経験を持つ教員が、栄養指導の目的・対象・方法に関する基本的な知識や技術について実習する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 給食管理実習　　授業コード： 1622201

英文科目名称： Practice Food Service Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	選択
担当教員			
牧野　みゆき			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	栄養士免許必修	実習	ナンバリング：16G502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は実践的な給食運営の技術を身につけることである。 授業を効率よく行うため、グループ編成により役割を分担して実施する。 この実習を通して、給食を教材とした食教育のあり方を考察する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①給食運営における基本的作業を身につける。	ＤＰ４	30
	目標②給食に関する書類を整えられる。	ＤＰ５	30
	目標③グループでの協力体制が整えられる。	ＤＰ９	20
	目標④給食を評価するためのアンケート調査等を身につける。	ＤＰ６	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：栄養学・食品学・調理学などの専門的知識にもとづく食事を提供することができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：常に生活や社会を見据えて、自ら新たな課題を見出し、それを解決することができる。 ＤＰ６：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：「仁愛兼済」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	学内給食実習の要領説明　（前半学生）	
	2	学内給食実習の要領説明　（後半学生）	
	3	課題献立１の実習と教育媒体の作成	実習に関する一連の作業の役割分担（係）を確認しておく。実習の２週前までに栄養係が予定献立表・作業指示書・作業工程表を作成する。実習の１週前までに栄養係が掲示用媒体を作成する。実習の１週前までに発注係が注文書を作成し、業者に食材を発注する。実習の当日または前日に発注係が食材の納品を検収する。実習当日、衛生係が衛生チェックを行い、衛生管理記録表に記入する。調査係は喫食アンケートを配布・集計し、実習反省会で結果を報告する。栄養係は実習後、実施献立表を作成し、データを提出する。 (以下、30回まで同様)
	4	課題献立２の実習と教育媒体の作成	
	5	課題献立３の実習と教育媒体の作成	
	6	課題献立４の実習と教育媒体の作成	
	7	課題献立５の実習と教育媒体の作成	
	8	課題献立６の実習と教育媒体の作成	
	9	課題献立７の実習と教育媒体の作成	
	10	課題献立８の実習と教育媒体の作成	
	11	課題献立９の実習と教育媒体の作成	
	12	課題献立１０の実習と教育媒体の作成	
	13	課題献立１１の実習と教育媒体の作成	
	14	課題献立１２の実習と教育媒体の作成	
	15	課題献立１３の実習と教育媒体の作成	

	16	課題献立１４の実習と教育媒体の作成	
	17	課題献立１５の実習と教育媒体の作成	
	18	課題献立１６の実習と教育媒体の作成	
	19	課題献立１７の実習と教育媒体の作成	
	20	課題献立１８の実習と教育媒体の作成	
	21	課題献立１９の実習と教育媒体の作成	
	22	課題献立２０の実習と教育媒体の作成	
	23	課題献立２１の実習と教育媒体の作成	
	24	課題献立２２の実習と教育媒体の作成	
	25	課題献立２３の実習と教育媒体の作成	
	26	課題献立２４の実習と教育媒体の作成	
	27	課題献立２５の実習と教育媒体の作成	
	28	課題献立２６の実習と教育媒体の作成	
	29	課題献立２７の実習と教育媒体の作成	
	30	課題献立２８の実習と教育媒体の作成	

定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。
準備学習に必要な時間	実習当日担当する業務をあらかじめ作業工程表等で確認しておく。（30分程度）
教科書	使用しない。資料を配布する。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：殿塚婦美子他「大量調理」（学建書院）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	毎回提出する実習記録ノートは、確認後返却する。
評価の配点比率	目標①期末定期試験30％ 目標②実習記録ノート30％ 目標③期末定期試験20％ 目標④期末定期試験20％
受講上の注意	食品加工実習とペア授業で、隔週で履修する科目である。 集団給食実習室では、実習衣、帽子、マスクを着用し、衛生面に留意する。 グループ作業であり、あらかじめ作業計画・人員配置をするので、無断欠席は全体の迷惑になることを心得ておくこと。
教員の実務経験	管理栄養士として給食施設指導に携わった経験をもとに給食管理実習を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 給食管理臨地実習　　授業コード： 1622301

英文科目名称： Field Practice Food Service Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	選択
担当教員			
牧野　みゆき			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	栄養士免許必修	実習	ナンバリング：16G503
添付ファイル			

授業の概要	栄養士養成施設は法令等に基づき、学外特定給食施設での実習が必修となっている。本授業の目的は、実際に給食施設での実務を経験することにより、栄養士の役割や職務内容の理解を深めることである。 本学においては、病院、福祉施設、学校給食施設より、学生が卒業後の進路をふまえ、希望する施設で90時間以上の栄養士実務教育を受ける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連 学習成果番号	重み付け%
	目標①栄養士として具備すべき知識や技能を習得する。	ＤＰ３	30
	目標②給食業務を行うために必要な給食サービス提供を理解する。	ＤＰ４	30
	目標③実習を省察し、適切な記録をすることができる。	ＤＰ７	20
	目標④常に学ぶ姿勢をもち、意識を高めることができる。	ＤＰ９	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。 ＤＰ４：栄養学・食品学・調理学などの専門的知識にもとづく食事を提供することができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ７：専門的な知識と豊かな人間性を基盤としたコミュニケーションができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：「仁愛兼済」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		オリエンテーション	学外実習の説明、諸注意　　実習先の決定
		管理栄養士による特別講義	「栄養士の任務と実習心得」について、現職の管理栄養士から講義していただく。
		実習ノートの記録方法、研究課題の準備	実習施設訪問前に、研究課題（実習中に何を重点的に学びたいか）を決めておく。
		実習施設訪問：実習挨拶、指導者との打ち合わせ	電話で実習先に打合せの予約をする。打合せた内容について担当教員に報告する。
		学外実習（２年次８～９月中の10日間）	「給食の運営」について、栄養士業務全般を経験し、体得する。
		学外実習ノートの提出	実習先の指導者が毎日実習記録を確認し、コメントを記入する。
		校外実習研究課題のまとめ・発表	校外実習ノートとともに、研究課題のまとめを提出する。

定期試験	試験期間中に試験を実施しない。
準備学習に必要な時間	実習施設に応じた準備学習を充分にしておくこと。課題研究の下調べには少なくとも３時間を要する。
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：井上明美他編「給食経営管理実習」（㈱みらい） 学外実習ノート：担当者作成
課題（試験・レポート等）のフィードバック	実習後の報告会終了後、校外実習ノートを返却する。
評価の配点比率	目標①実習先指導者の評価30% 目標②実習先指導者の評価30% 目標③校外実習ノート20% 目標④研究課題20%

受講上の注意	学外の実習であるので、責任のある行動をとるように努めてほしい。
教員の実務経験	行政栄養士として給食施設指導業務を行った経験をふまえた授業を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 解剖生理学実験　　授業コード： 1622401

英文科目名称： Experiment of Anatomy and Physiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
髙木　康之			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	栄養士免許必修	実験	ナンバリング：16C501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、人体の構造と機能の理解を深めることである。 そのため、人体模型等を用い正常な人体の形態や構造の観察を行う、併せて機能は構造と密接に結びつくものであり、生体現象はこの両者の関連のなかに成り立っていることを各実験を通じて学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①人体を構成する各臓器やその組織形態の形状を把握する。	ＤＰ１	20
	目標②恒常性を維持するための生理（働き）の基本を理解する。	ＤＰ２	20
	目標③人体の正常機能を理解し健康について考えることができる。	ＤＰ３	20
	目標④得られた実験結果より考えられる理由を示すことができる。	ＤＰ５	10
	目標⑤グループで協力し実験を行い結果をまとめレポートが提出できる。	ＤＰ６	20
	目標⑥ノートや資料を整理し活用することができる。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 ＤＰ２：人体の構造と生理を理解し、自然の営みや社会のしくみのなかで食と人間のかかわりを総合的に理解している。 ＤＰ３：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：常に生活や社会を見据えて、自ら新たな課題を見出し、それを解決することができる。 ＤＰ６：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	実験の心得（安全な作業をするための注意・レポートの書き方など）	実験室に入室する際は、白衣を着用し、かかとの無い靴など動きやすい履き物を着用する。長髪者は、ヘアゴムなどで髪を束ねること。また指輪などの装飾品は身に着けないこと。
	2	血液①血球の観察	事前に教科書や配布するプリント等を読んでおくこと 実験終了後は実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	3	血液②リンパ球の単離	事前に教科書や配布するプリント等を読んでおくこと 実験終了後は実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	4	耐糖能試験①食後	事前に教科書や配布するプリント等を読んでおくこと 実験終了後は実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	5	耐糖能試験②空腹時	事前に教科書や配布するプリント等を読んでおくこと 実験終了後は実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	6	組織標本の観察①消化器系	事前に教科書や配布するプリント等を読んでおくこと 実験終了後は実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	7	組織標本の観察②循環器系	事前に教科書や配布するプリント等を読んでおくこと 実験終了後は実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	8	骨格標本の観察	事前に教科書や配布するプリント等を読んでおくこと 実験終了後は実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	9	人体・臓器模型の観察	事前に教科書や配布するプリント等を読んでおくこと 実験終了後は実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること

	10	身体計測	事前に教科書や配布するプリント等を読んでおくこと 実験終了後は実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	11	味覚実験	事前に教科書や配布するプリント等を読んでおくこと 実験終了後は実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	12	発汗	事前に教科書や配布するプリント等を読んでおくこと 実験終了後は実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	13	運動負荷試験	事前に教科書や配布するプリント等を読んでおくこと 実験終了後は実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	14	アルコールに対する表現型実験	事前に教科書や配布するプリント等を読んでおくこと 実験終了後は実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	15	ストレス・疲労度測定	事前に教科書や配布するプリント等を読んでおくこと 実験終了後は実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること

定期試験	筆記試験は試験期間中に実施
準備学習に必要な時間	毎回、実験概容や操作内容について1時間程度の事前学習を行うことが望ましい。 また、結果の整理など2時間程度の事後学習が必要となる。
教科書	青峰正裕、清松達人、長谷川昇ら他　イラスト解剖生理学実験　東京教学社　2020
参考図書、教材、準備物等	参考図書：「ネッター解剖生理学アトラス」 必要に応じプリントを配布予定 ノート、レポート用紙、グラフ用紙を準備する
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポート等の提出物は、スライド等を用いて授業時間内で学生へフィードバックする。 試験・レポート等に質問がある場合はオフィスアワー、電子メールなどを利用する。
評価の配点比率	目標①期末試験10%　レポート10% 目標②期末試験10%　レポート10% 目標③期末試験20% 目標④レポート10% 目標⑤レポート10%　実験に臨む姿勢10% 目標⑥実験に臨む姿勢10％
受講上の注意	安全のため実験中は白衣を着用し、かかとの無い靴など動きやすい履き物を使用する。 また、実験に適した髪型で参加すること（長髪者は髪をヘアゴムなどで束ねること）。また指輪などの装飾品は身に着けないこと。 実験は、薬品など使用し危険を伴うため、注意事項を理解し遵守すること。危険行為をとる者は退室とし単位を認めない場合がある。実験によっては、各自が被験者として検体を提出するものがある。実験は小グループ（4人程度を1班とする共同作業）で行い、課題あるいは実験内容をまとめたレポートを提出する（提出期日は随時指示する）。 想定外の結果や実験結果が得られないときこそ、考えることが重要である。 なお、授業内容は授業の進度等に応じて変更される場合がある。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 生化学Ⅰ　　授業コード： 1622501

英文科目名称： Biochemistry Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
髙木　康之			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	栄養士免許必修	講義	ナンバリング：16C102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、栄養士免許取得に必須な生化学の知識を学ぶことである。生化学は普遍的な生命現象のしくみを化学物質の変化として捉えて理解する学問である。そのため、栄養素の基本的構造と化学的性質を知り、体内での役割や代謝の過程を理解するための基礎知識を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①栄養素の酸化反応によって高エネルギー化合物が作られることを説明できる。	ＤＰ１	20
	目標②オルガネラの構造と働き、役割と機能的なつながりが説明できる。	ＤＰ２	30
	目標③栄養素から生命活動を担う生理活性物質が合成されることが説明できる。	ＤＰ３	20
	目標④生体内での栄養素の分解経路が説明できる。	ＤＰ６	20
	目標⑤ノートや資料を適切にまとめることができる。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 ＤＰ２：人体の構造と生理を理解し、自然の営みや社会のしくみのなかで食と人間のかかわりを総合的に理解している。 ＤＰ３：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	人体の構成	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	2	細胞の構造と機能	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	3	タンパク質を構成するアミノ酸とタンパク質の構造	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	4	タンパク質の性質	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	5	アミノ酸代謝	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	6	酵素と活性化エネルギー	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	7	酵素（基質特異性、温度依存性、pH依存性）	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	8	酵素（ミカエリス定数、補酵素、阻害剤）	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	9	糖の構造と性質	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	10	生体エネルギー	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと

			課題（小テスト）の実施
	11	糖質の代謝	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	12	脂質	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	13	脂質の代謝	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	14	核酸（DNAとRNAの構造の違い）	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	15	核酸（DNA複製、タンパク質の合成）	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
定期試験	最終課題（15回の講義終了後）を筆記試験の替りとする。		
準備学習に必要な時間	毎回、1～2時間程度の予習・復習が必要。 毎回、教科書の該当する箇所を読み、概容を確認する。また、理解できない専門用語をあげ整理する。		
教科書	奥恒行、山田和彦　基礎から学ぶ生化学　南江堂　2019		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：生化学　村松陽治編 化学同人 その他、授業の過程で随時提示		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題は、Moodle等を用いて授業時間内で学生へフィードバックする。 課題に質問がある場合は、オフィスアワーや電子メール、Moodleを利用する。		
評価の配点比率	目標①期末試験10% 小テスト10% 目標②期末試験20% 小テスト10% 目標③期末試験10% 小テスト10% 目標④期末試験20% 目標⑤期末試験10%		
受講上の注意	毎時間ノート等で授業内容をまとめ整理すること。 毎時間ごとに課題を課す。 授業内容と生化学実験との連動性にも意識をしてほしい。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 生化学Ⅱ　　授業コード： 1622601

英文科目名称： BiochemistryⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
谷　政八			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	栄養士免許必修	講義	ナンバリング：16C103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、ヒトのからだを構成している物質の化学的性質を明らかにし、これらの物質が生体内でどのような化学的変化を受けているかを理解し身につける。学生は、視聴覚資料などで観察し、また生体の成分が摂取された後どの様な代謝経路を経てからだの調節・維持に役立つかを学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①栄養素の代謝、エネルギー代謝の機構、調節相互関係（血液や尿など）等を生体側に立って理解できる。	ＤＰ１	40
	目標②からだの仕組みと生体成分の異化作用、同化作用を理解できる。	ＤＰ５	40
	目標③生きているということの物質代謝がほどよく滞りなく行われることが習得できる。	ＤＰ６	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：常に生活や社会を見据えて、自ら新たな課題を見出し、それを解決することができる。 ＤＰ６：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	食物成分の生体への取りこみとゆくえ（１）細胞の構造と役割(DVD教材)	細胞小器官、DNA（生命現象と調節):レポート（復習）
	2	食物成分の生体への取りこみとゆくえ（２）胃・腸の消化吸収の妙(DVD教材)	消化器官、消化酵素、消化と吸収:レポート（復習）
	3	食物成分の生体への取りこみとゆくえ（３）肝臓の化学反応の模様(DVD教材)	肝臓の働き（合成・分解・排泄):レポート（復習）
	4	生体内におけるタンパク質、糖質、脂質の相互交換(DVD教材)	三大栄養素の機能と相互作用:レポート（復習）
	5	エネルギーはどのように産生され利用されているのか	エネルギーの変換と利用
	6	タンパク質は生体内でどのように代謝されているのか	タンパク質の体内動態、アミノ酸代謝
	7	糖質は生体内でどのように代謝されているのか（１）	解糖系、クエン酸経路
	8	糖質は生体内でどのように代謝されているのか（２）	ｸﾞﾙｺｰｽの代謝、ｸﾞﾘｺｰｹﾞﾝの働き
	9	脂質は生体内でどのように代謝されているのか	脂質の生合成と分解、コレステロール代謝
	10	物質代謝の調節は何か	食物繊維、ビタミン、ミネラル、ホルモン
	11	恒常性と調節	水分の代謝
	12	血液の組成、血液の働きと一般的性質	血液の機能
	13	尿とはどのようなものか	正常・異常成分
	14	尿とはどのようにして作られるのか	尿素サイクル、ケトン体の生成
	15	免疫とはどのようなことか	自己と非自己の識別（抗体、抗原）アレルギーの対応（予習・復習）
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。		

準備学習に必要な時間	復習1，2，3，各３０分、予習・復習4，5，6，7，8，9、各６０分、復習10，11，12，13，14，各３０分　予習・復習15　30分
教科書	奥恒行・山田和彦編集　谷政八共著「基礎から学ぶ生化学」（改訂第３版）南江堂（2019）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：中野昭一編　「図説　からだの仕組みと働き、ヒトのからだ」医歯薬出版（2010）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題として栄養・食品・からだに関する興味ある単行本を読む習慣をつける。感想文を2回分の課題提出とするのでA4用紙1枚で書くことを心掛ける。内容からは、演習の課題をレポート提出する。評価された、後各自にフィードバックし提出物は返却する。
評価の配点比率	目標①ノートの内容テスト　25%　生体成分の体内への取り込み　15% 目標②ノートの内容テスト　25%　からだの仕組みと異化・同化作用　15% 目標③ノートの内容テスト　15%　健康と栄養に関するレポート　5%　以上の項目を総合評価して成績の評価とする。
受講上の注意	教科書には、からだと健康に関わる内容が豊富に記載されているので、たえず手元に置きながら資格取得のための参考書としても活用していただきたい。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 生化学実験　　授業コード： 1622701

英文科目名称： Experiment of Biochemistry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
髙木　康之			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	栄養士免許必修	実験	ナンバリング：16C503
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、栄養士免許取得に必須の生化学に関する知識を学ぶことである。生化学を理論的に理解したとしても、実際に実験で確認することは容易ではない。そのため、基礎的な実験技術の修得、結果の判定、結果からの考察などの重要な過程を学習し、生化学現象の一層の理解をめざす。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①実験を正しく安全に行う心得について理解できる。	ＤＰ１	20
	目標②酵素の特徴や栄養素の代謝、核酸の構造とはたらきが理解できる。	ＤＰ２	20
	目標③手順書に則り基本的操作ができる。	ＤＰ３	20
	目標④得られた実験結果より考えられる理由を示すことができる。	ＤＰ５	10
	目標⑤グループで協力し実験を行い結果をまとめレポートが提出できる。	ＤＰ６	20
	目標⑥ノートや資料を整理し活用することができる。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 ＤＰ２：人体の構造と生理を理解し、自然の営みや社会のしくみのなかで食と人間のかかわりを総合的に理解している。 ＤＰ３：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：常に生活や社会を見据えて、自ら新たな課題を見出し、それを解決することができる。 ＤＰ６：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	実験の心得（安全な作業をするための注意・レポートの書き方など）	実験室に入室する際は、白衣を着用し、かかとの無い靴など動きやすい履き物を着用する。 長髪者は、ヘアゴムなどで髪を束ねること。また指輪などの装飾品は身に着けないこと。
	2	比色定量分析	事前に配布するプリント等を読み、実験概容を確認しておくこと 実験終了後は、実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	3	血糖の定量	事前に配布するプリント等を読み、実験概容を確認しておくこと 実験終了後は、実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	4	血中コレステロールの定量	事前に配布するプリント等を読み、実験概容を確認しておくこと 実験終了後は、実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	5	酵素実験(1) 試薬の調整	事前に配布するプリント等を読み、実験概容を確認しておくこと 実験終了後は、実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	6	酵素実験(2) 酵素標品の調整	事前に配布するプリント等を読み、実験概容を確認しておくこと 実験終了後は、実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	7	酵素実験(3) 標準曲線の作製	事前に配布するプリント等を読み、実験概容を確認しておくこと 実験終了後は、実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること

	8	酵素実験(4) 酵素タンパク質の影響	事前に配布するプリント等を読み、実験概容を確認しておくこと 実験終了後は、実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	9	酵素実験(5) 酵素反応に及ぼす温度の影響	事前に配布するプリント等を読み、実験概容を確認しておくこと 実験終了後は、実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	10	酵素実験(6) 速度パラメータ①実験値	事前に配布するプリント等を読み、実験概容を確認しておくこと 実験終了後は、実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	11	酵素実験(7) 速度パラメータ②理論値	事前に配布するプリント等を読み、実験概容を確認しておくこと 実験終了後は、実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	12	タンパク質の定量(1) 試薬の調整	事前に配布するプリント等を読み、実験概容を確認しておくこと 実験終了後は、実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	13	タンパク質の定量(2) ビウレット法	事前に配布するプリント等を読み、実験概容を確認しておくこと 実験終了後は、実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	14	タンパク質の定量(3) ローリー法	事前に配布するプリント等を読み、実験概容を確認しておくこと 実験終了後は、実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること
	15	核酸実験	事前に配布するプリント等を読み、実験概容を確認しておくこと 実験終了後は、実験内容及び結果等は素早くまとめ、提出の準備をすること

定期試験	筆記試験は試験期間中に実施
準備学習に必要な時間	毎回、実験概容や操作内容について0.5～1時間程度の事前学習を行うことが望ましい。 また、結果の整理など2時間程度の事後学習が必要となる。
教科書	使用しない(プリント配布)
参考図書、教材、準備物等	参考図書：「生理･生化学実験第４版」谷政八編(地人書館) ノート、レポート用紙、グラフ用紙を準備する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポート等の提出物は、スライド等を用いて授業時間内で学生へフィードバックする。 試験・レポート等に質問がある場合はオフィスアワー、電子メールなどを利用する。
評価の配点比率	目標①期末試験10%　実験に臨む姿勢10% 目標②期末試験20% 目標③期末試験10%　実験に臨む姿勢10% 目標④レポート10% 目標⑤レポート20% 目標⑥レポート10%
受講上の注意	安全のため実験中は白衣を着用し、かかとの無い靴など動きやすい履き物を使用する。 また、実験に適した髪型で参加すること（長髪者は髪をヘアゴムなどで束ねること）。また指輪などの装飾品は身に着けないこと。 実験は、薬品などを使用し危険を伴うため、注意事項を理解し遵守すること。危険行為をとる者は退室とし単位を認めない場合がある。注意事項の詳細については授業1回目に説明する。実験によっては、各自が被験者として検体を提出するものがある。実験は小グループ（4人程度を1班とする共同作業）で行い、課題あるいは実験内容をまとめたレポートを提出する（提出期日は随時指示する）。 想定外の結果や実験結果が得られないときこそ、考えることが重要である。 なお、授業内容は授業の進度等に応じて変更される場合がある。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 運動生理学　　授業コード： 1622801

英文科目名称： Exercise and sports physiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
平井　一芳			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	栄養士免許必修	講義	ナンバリング：16C502
添付ファイル			

授業の概要	・本授業の目的は、身体活動・運動によってからだにどのような生理学的変化が生じるか、その現象としくみについて理解することである。 ・運動と栄養の関係や運動と健康、特に生活習慣病等の予防に関して学習し身体活動・運動の意義と必要性を理解する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①健康づくりのための身体活動・運動の意義と必要性を理解できる。	ＤＰ１	20
	目標②安静時のからだの仕組みと生理学的機能を理解し、運動時にその機能がどのように変化するのかを理解できる。	ＤＰ２	35
	目標③身体活動・運動が発育発達および加齢に及ぼす影響について理解できる。	ＤＰ３	10
	目標④運動前、運動中、運動後の栄養の摂取方法を理解できる。	ＤＰ６	10
	目標⑤ライフステージ及び個々人に応じた健康・体力の維持・増進のための運動処方について理解できる。	ＤＰ９	15
	目標⑥疾病予防、特に生活習慣病予防のための運動処方について理解できる。	ＤＰ７	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 ＤＰ２：人体の構造と生理を理解し、自然の営みや社会のしくみのなかで食と人間のかかわりを総合的に理解している。 ＤＰ３：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。 ＤＰ７：専門的な知識と豊かな人間性を基盤としたコミュニケーションができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：「仁愛兼済」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	運動と健康・体力（なぜ運動が必要か）	事後の自主学習：　プリントを見直し理解を促す。以下15回まで同様
	2	運動と筋肉①（骨格筋の構造）	
	3	運動と筋肉②（骨格筋の機能）	
	4	運動と呼吸・循環器系	
	5	運動と内分泌系	
	6	運動とエネルギー代謝	
	7	運動と食事・栄養①（運動と栄養素の関係）	
	8	運動と食事・栄養②（栄養摂取の仕方、一般人と鍛錬者（運動競技者）の食事）	レポート課題の提示
	9	運動と疲労の関係、疲労回復のための運動と栄養	レポート提出
	10	運動と外部環境（物理的環境：気温・湿度・気圧）	
	11	運動と発育発達・加齢の関係	
	12	運動処方①（メディカルチェックと運動処方の実際）	
	13	運動処方②（健康づくりのための身体活動基準）	レポート課題の提示
	14	運動処方③（運動療法：疾患の予防と改善のための運動）	レポート提出

	15	運動処方④（食事療法を併用した運動療法等）	
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。遠隔の場合にはレポートを課す。		
準備学習に必要な時間	毎回、2時間程度の事後学習が必要		
教科書	使用しない。		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：岸恭一・上田伸男・塚原丘美編『NEXT　運動生理学　人体の構造と機能　第2版』（講談社サイエンティフィック 2011） 教　材：毎回プリントを配布する。動画（DVD等）を用いて理解を深める。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	質問等がある場合は、下記の電子メールアドレスに連絡する。thirai@fpu.ac.jp		
評価の配点比率	目標①筆記試験（またはレポート）20% 目標②筆記試験（またはレポート）35% 目標③筆記試験（またはレポート）10% 目標④筆記試験（またはレポート）10% 目標⑤筆記試験（またはレポート）15% 目標⑥筆記試験（またはレポート）10%		
受講上の注意	わが国では運動不足が死亡危険因子の第3位と報告（2011）されており、現代人の運動不足が問題視されております。 本科目で運動と身体活動の必要性について理解を深め、日常生活の中での運動の動機づけや運動習慣を身につけることができれば幸いです。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 社会福祉　　授業コード： 1622901

英文科目名称： Social Welfare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
近藤　俊英			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	栄養士免許必修	講義	ナンバリング：16B102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、社会福祉の関連分野で就労するのに必要な社会福祉制度の知識を習得すること、そして、それを実践現場で活用する方法を身につけることである。 社会福祉・社会保障制度を知ることにより、社会福祉・社会保障制度が身近なものであること、現代社会の課題や、社会福祉・社会保障のこれまでの歴史と今後の方向性を理解する。また、社会福祉の知識を実践の場で活用する方法を事例を通して体験する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①社会福祉の制度・サービス・理念等を理解する。	ＤＰ１	36
	目標②社会福祉の制度やサービスを他者に説明できるようになる。	ＤＰ６	30
	目標③得られた情報を分析し、課題解決のための支援策を講じることができる。	ＤＰ３	16
	目標④支援対象者や関係者の意向をくみ取りつつ、課題解決のための結論を導き出すことができる。	ＤＰ９	18
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 ＤＰ３：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：「仁愛兼済」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス・生活を支える「食」と「社会福祉」	テキスト１，２章部分。社会福祉の概要と歴史について学ぶ。
	2	私たちの生活と社会保障①	テキスト3章の前半部分。社会保障の概要と年金制度について学ぶ。
	3	私たちの生活と社会保障②	テキスト3章後半部分。医療保険、労災補償保険、雇用保険、社会手当制度について学ぶ。
	4	公的扶助	テキスト4章。生活保護制度や生活困窮者支援について学ぶ。
	5	高齢者の福祉	テキスト5章。高齢者福祉や介護保険制度について学ぶ。
	6	児童家庭福祉	テキスト6章。児童家庭福祉制度について学ぶ。
	7	障害者の福祉	テキスト7章。障害福祉制度や障害者総合支援法について学ぶ。
	8	地域福祉	テキスト8章。地域（個人個人の生活圏域）における福祉の展開方法について学ぶ。
	9	社会福祉基礎構造改革と権利擁護	テキスト9章。福祉サービスの提供方法の変遷やその意義、権利擁護の制度について学ぶ。
	10	社会福祉における援助の方法	テキスト10章。社会福祉援助の進め方や対人援助の注意点について学ぶ。
	11	社会福祉実践の場、社会福祉の専門職	テキスト11、12章。社会福祉の施設・サービスの現場、社会福祉の専門職の種類。
	12	社会福祉の分野で働く栄養士	テキスト13章を読む。福祉対象者の食の状況、福祉対象者への食からの援助の状況について学ぶ。
	13	事例検討①	社会福祉の現場をもとにした事例検討をグループワークまたは個人ワークで行う。
	14	事例検討②	社会福祉の現場をもとにした事例検討をグループワークまたは個人ワークで行う。

	15	事例検討③	社会福祉の現場をもとにした事例検討をグループワークまたは個人ワークで行う。
定期試験	試験に代わって、毎授業ごとに小課題を課す。		
準備学習に必要な時間	事前学習・事後学習に２時間程度が必要。仁短Moodleに授業レジュメを提示するので、事前に目を通しておく。また、各授業の最後に小課題を課すので、授業の振り返りとして取り組むこと。		
教科書	「六訂　栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉」（株式会社　みらい、2020）		
参考図書、教材、準備物等	教　　材：必要に応じて配布。また、毎回レジュメを配布。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の進め方等に関しては初回のガイダンスで説明する。 毎回の授業後、小課題を提示するので授業終了後１週間以内に提出すること。小課題の提出をもって出席とみなし、成績評価も小課題により行う。 質問がある場合は授業中もしくは仁短moodleにある質問コーナー、Gmail等で質問すること。		
評価の配点比率	目標①1,2,4,5,6,7回目の小課題それぞれ6%、計36% 目標②3,8,9,10,11回目の小課題それぞれ6%　計30% 目標③12,回目の小課題　8%、13回目の授業（事例検討①）において、グループワークの結果をまとめたものをグループごとに発表及び提出　8%　計16% ※コロナ禍等によりグループワークを実施できない場合は個人ワークによる事例検討課題により行う。 目標④14,15回目の授業（事例検討②、③）において、グループワークの結果をまとめたものをグループごとに発表及び提出　事例検討②8%、事例検討③8%　計16% ※コロナ禍等によりグループワークを実施できない場合は個人ワークによる事例検討課題により行う。配点比率は事例検討②9%、事例検討③9%　計18%		
受講上の注意	社会福祉や社会保障は小難しい、取っつきにくい分野ですが、就職して社会に出る皆さんにとっては必須の事柄です。生活の知恵を身につける意味でも興味を持って取り組んでください。		
教員の実務経験	高齢、障害、児童（スクールソーシャルワーカー）、司法の各福祉分野での実践経験を持ち、かつ現役の専門職後見人として高齢・障害の福祉サービスの受け手側の視点を持つ教員が、各福祉分野の実情を踏まえつつ、実践現場の話を交えながら講義を行う。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 食料経済　　授業コード： 1623001

英文科目名称： Food Economics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中講義	２年次	２単位	選択
担当教員			
加藤　辰夫			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	栄養士免許選択・フードスペシャリスト資格必修	講義	ナンバリング：16G103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、栄養士として必要な社会生活の仕組みを学ぶことである。専門知識を深めるために、食料の流通の仕組みや需給の現状 、その社会科学的な分析手法を学ぶ。日本の食生活の変化、市場流通の仕組みと実態の変化、青果物や水産物、米など品目別の流通の仕組み、食品の安全性、食品加工業の発展と課題、食品の需要と供給などについて講述する。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①基本的な概念を学び、流通の基本的な仕組みを理解し、それらの専門用語を説明できること。		ＤＰ１	30
	目標②そのうえで、食料の生産・流通・消費がどのように変化しているのか、なぜ変化しているのかを理解し説明できること。		ＤＰ２	30
	目標③また食生活の経済的な分析手法を理解し、論理的に説明できること。		ＤＰ６	30
	目標④地域の食について安全安心や互助精神を理解し、正しく行動できること。		ＤＰ９	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 ＤＰ２：人体の構造と生理を理解し、自然の営みや社会のしくみのなかで食と人間のかかわりを総合的に理解している。		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：「仁愛兼済」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	食生活の変化１　豊かな食生活	教科書により授業の全体について予習をして受講してください。
	2	食生活の変化２　食料消費の変化	
	3	食生活の変化３　食生活の多様化	
	4	食料の市場流通　１　食品流通の仕組みと社会的使命	
	5	食料の市場流通　２　卸売流通の変化	
	6	食料の市場流通　３ 量販店と流通の多様化	レポートの課題を説明する。
	7	食品産業の発達と消費　１　食品加工業	
	8	食品産業の発達と消費　２　外食産業と中食産業	前半の復習と小テストを実施。
	9	加工食品の流通　１　品質管理と温度管理	
	10	加工食品の流通　２　食品表示制度と認証制度	
	11	加工食品の流通　３　HACCPとトレーサビリティ	レポートの課題を説明する。
	12	外食産業のマーチャンダイジング	
	13	外食産業のマーチャンダイジング	
	14	食料の資源と環境	
	15	食料の安全性	後半の復習と小テストを実施。

定期試験	講義中に小テストを実施する。試験期間中の筆記試験は実施しない。
準備学習に必要な時間	事前に４時間程度教科書に目を通して受講してください。小テストの前にも講義内容にもとづき１時間程度の学習をしてください。

教科書	三訂　日本フードスペシャリスト協会編　『食品の消費と流通』 建帛社、2016
参考図書、教材、準備物等	必要に応じてプリント等を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	試験およびレポートは、提出後に解説または採点して返却します。
評価の配点比率	目標①前半の講義から得られる知識に関する小テスト（30%）　目標②日本型食生活または卸売市場の変化に関するレポート（30%）　目標③後半の講義から得られる知識に関する小テスト（30%）　目標④食品の安全性または地域の豊かな食に関するレポート（10%）
受講上の注意	生活に密着した話題をとりあげます。レポートは必ず提出するように心がけてください。 配布する練習問題に取り組み、小テスト前に正解を確認してください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 栄養情報処理　　授業コード： 1623101

英文科目名称： Nutrision Data Processing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
牧野　みゆき			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	フードスペシャリスト資格必修	演習	ナンバリング：16H502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、フードスペシャリストに必要な知識や技能として、業務に必要な食品の官能評価と統計調査法、食事・栄養摂取による調査・診断する方法を身につけることである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け％
	目標①食品の官能評価、表計算ソフトの使い方を覚える。	ＤＰ３	40
	目標②得られたデータを分かりやすくまとめ、表現することができる。	ＤＰ６	40
	目標③設定した時間内に課題を仕上げる。	ＤＰ８	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	統計調査法の計画①　食品の官能評価について	Excelの使い方を復習しておく。
	2	統計調査法の計画②　表計算ソフトによる計算	Excelの関数や分析ツールを用いる。
	3	統計調査法の計画③　表計算ソフトによるグラフ作成	グラフ機能を使い、アンケート調査の結果をどのようなグラフで表現するとわかりやすいか作成してみる。
	4	調査データの統計解析の方法①　度数分布表の作成	課題提出① データの分布の形から考察する。
	5	調査データの統計解析の方法②　平均値と標準偏差	課題提出② データの平均値と標準偏差の求め方、求める意味を理解する。
	6	調査データの統計解析の方法③　基本統計量	課題提出③ 調査データの基本統計量のまとめ方を理解する。
	7	調査データの統計解析の方法④　散布図、相関係数	課題提出④ データの分布の形から、関係性を見出す。
	8	調査データの統計解析の方法⑤　回帰直線	課題提出⑤ データの分布の形から、関係性を見出す。
	9	調査データの統計解析の方法⑥　クロス集計表の作成	課題提出⑥ クロス集計表をピボットテーブルで作成する。相対危険度や寄与危険度を計算する。
	10	調査データの統計解析の方法⑦　独立性の検定	課題提出⑦ 作成したクロス集計表を用いて検定する。
	11	調査データの統計解析の方法⑧　対応のある差の検定	課題提出⑧ 繰り返し行う（対応のある）データの検定方法を理解する。
	12	調査データの統計解析の方法⑨　分散分析	課題提出⑨ ３つ以上のグループのデータの分析方法を理解する。
	13	調査データの統計解析の方法⑩　時系列データのまとめ方	課題提出⑩ 時系列データをわかりやすくまとめる方法を理解する。
	14	食事・栄養摂取による調査・診断①　栄養計算ソフトの活用	給食管理実習献立の栄養価を評価する。
	15	食事・栄養摂取による調査・診断③　栄養診断の方法	食物摂取頻度調査法（FFQ）を用いた栄養診断を行う。

定期試験	試験期間中の試験は実施しない。
準備学習に必要な時間	毎回１時間程度の事前事後学習が必要である。特に課題提出回においては復習をしておくことが望ましい。
教科書	使用しない。必要に応じて資料を配布する。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：「よくわかる統計学」（東京図書）　「栄養教育・指導実習」（建帛社）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業時間内で課題を完成するために、集中して取り組んでほしい。 提出した課題レポートは、次回に返却して解説をする。
評価の配点比率	目標①　課題40％ 目標②　課題40％ 目標③　課題20％
受講上の注意	パソコン使用の授業である。Ｅｘｃｅｌによるデータ解析は卒業研究に必要な知識でもあるので、しっかり理解してほしい。
教員の実務経験	行政栄養士としての職務における栄養統計処理等の実務経験をふまえて授業を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： フードスペシャリスト論　　授業コード： 1623201

英文科目名称： Introduction to Food Specialist

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
小林　恭一			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	フードスペシャリスト資格必修	講義	ナンバリング：16H101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、フードスペシャリストについて理解し、必要な基礎知識を学ぶことである。フードスペシャリストとは、食の本質が「おいしさ」、「楽しさ」、「おもてなし」にあることをしっかり学び、食に関する幅広い知識と技術を身につけた食の専門家である。フードスペシャリスト資格認定試験に必要なフードスペシャリスト論の基礎知識を学び、認定試験に合格できる力を身につける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①フードスペシャリストの業務について理解している。	ＤＰ２	20
	目標②食に関する他の科目と関連づけて理解できる。	ＤＰ３	20
	目標③現代社会での食品産業の役割、環境問題について認識できる。	ＤＰ５	20
	目標④氾濫する食情報について論理的に判断できる。	ＤＰ７	20
	目標⑤地域性など食文化の違いを理解し、他者を認めることできる。	ＤＰ８	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：人体の構造と生理を理解し、自然の営みや社会のしくみのなかで食と人間のかかわりを総合的に理解している。 ＤＰ３：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：常に生活や社会を見据えて、自ら新たな課題を見出し、それを解決することができる。 ＤＰ７：専門的な知識と豊かな人間性を基盤としたコミュニケーションができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	フードスペシャリストとは①概念②業務とその専門性③責務	栄養士の仕事とフードスペシャリストの仕事の重なる部分、異なる部分を理解する。事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。事後学習：配付資料の整理、ノートとリまとめ。
	2	人類と食物(1)　狩猟採集時代～現在	狩猟採取から農耕・牧畜によってもたらされたもの、良い点悪い点も含めて理解する。事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。事後学習：配付資料の整理、ノートとリまとめ。
	3	人類と食物(2)　①食品加工　②保存技術史	食品加工の意義、目的について理解する。事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。事後学習：配付資料の整理、ノートとリまとめ。
	4	世界の食　①食作法　②食の禁忌　③世界各地の食事。	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。事後学習：配付資料の整理、ノートとリまとめ。
	5	日本の食　①日本食物史　②食の地域差	レポート提示（次回に提出）事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。事後学習：レポート作成理、ノートとリまとめ。
	6	現代日本の食生活(1)　①食生活の変化　②食産業の変遷	レポート提出。事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。事後学習：配付資料の整理、ノートとリまとめ。
	7	現代日本の食生活(2)　①食料自給率　②環境と食	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。事後学習：配付資料の整理、ノートとリまとめ。、
	8	フードシステムと食品産業	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。事後学習：配付資料の整理、ノートとリまとめ。、
	9	食品製造業、食品卸売業、食品小売業、外食産業	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。事後学習：配付資料の整理、ノートとリまとめ。、

	10	食品関係法規（食品衛生法、健康増進法、JAS法他）	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。事後学習：配付資料の整理、ノートとリまとめ。
	11	食品表示について（食品表示法、機能性表示食品、トクホ等）	レポート提示（次回に提出）事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。事後学習：配付資料の整理、ノートとリまとめ、レポート作成。
	12	食情報と消費者保護	レポート提出。事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。事後学習：配付資料の整理、ノートとリまとめ。
	13	氾濫する食情報、フードファシズム	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。事後学習：配付資料の整理、ノートとリまとめ。、
	14	食を巡る情勢（食育、地産地消、農商工連携、6次産業化）	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。事後学習：配付資料の整理、ノートとリまとめ。
	15	フードスペシャリストの展望	事前学習：これまでに配付した資料について見直す。事後学習：ノートとリまとめ。
定期試験	定期試験（80%）、課題レポート（20%）で評価する。		
準備学習に必要な時間	復習、ノートとりまとめに毎回2時間程度必要、他にレポート作成にも時間が必要。		
教科書	日本フードスペシャリスト協会編　四訂フードスペシャリスト論第6版　建帛社　(2020)		
参考図書、教材、準備物等	必要に応じてプリント配布。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	小テストは時間中に確認、レポートはコメントを加えて返却する。		
評価の配点比率	目標①テスト　20% 目標②テスト　20% 目標③テスト　20% 目標④テスト　10%　レポート　10% 目標⑤テスト　10%　レポート　10%		
受講上の注意	食に関する総合的な知識が必要。今まで学習した食に関する科目の内容を整理しておくこと。		
教員の実務経験	公設試験研究機関において食品開発、食品分析、技術指導に携わった経験を持つ教員が、食の専門職の現状、フードスペシャリストの具体的な業務、食品産業の動向、関連法規等、身につけなければならない知識について実践的な講義を行う。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： フードコーディネート論　　授業コード： 1623301

英文科目名称： Theses of Food Coordination

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
森　恵見			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目	フードスペシャリスト資格必修	講義	ナンバリング：16H102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、料理形態や食事文化、献立構成、食卓の演出、食空間の設計、フードマネージメント、食環境などについて学んでいくことで、食のコーデイネート力をつけることである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け％
	目標①フードスペシャリストの資格に必須の科目であることから、安全で健康に良い、おいしくて価格も手ごろで喫食者のニーズに合った食事を快適な食空間で提供出来るようにする。	ＤＰ４	80
	目標②食べる人が食に対して何を求めているのかの要望を察知してコーデイネートできる。	ＤＰ５	15
	目標③食の企画立案、実行ができる。	ＤＰ８	5
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：栄養学・食品学・調理学などの専門的知識にもとづく食事を提供することができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：常に生活や社会を見据えて、自ら新たな課題を見出し、それを解決することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	フードコーディネートの基本理念	おいしさとは？おいしさとフードコーデイネートについて学ぶ。
	2	特別な日の食事	行事食について学ぶ。
	3	食卓のコーディネート１	要点、日本料理の食卓のコーディネートについて学ぶ。
	4	食卓のコーディネート２	中国料理、西洋料理の食卓のコーディネートについて学ぶ。
	5	サービスとマナー１	基本と日本料理のサービスとマナーについて学ぶ。
	6	サービスとマナー２	中国料理と西洋料理のサービスとマナーについて学ぶ。
	7	サービスとマナーについて３	パーティーのサービスとマナーについて学ぶ。
	8	メニュープランニング	メニュープランニングの要件
	9	食空間のコーディネート	色空間のレイアウト・インテリア・設備
	10	フードサービスマネジメント	マネジメントの基本、投資計画作成、収支計画
	11	食事の文化１	食のタブーや宗教について学ぶ。
	12	食事の文化２	縄文時代から鎌倉時代までの食事文化を学ぶ。
	13	食事の文化３	室町時代から昭和時代までの食事文化を学ぶ。
	14	自身のフードコーディネートについて１	レポート提出。
	15	自身のフードコーディネートについて２	レポート提出。

定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。
準備学習に必要な時間	毎回２時間程度の事後学習が必要。
教科書	「フードコーディネート論」（公社）日本フードスペシャリスト協会、建帛社、2019

参考図書、教材、準備物等	教材：必要に応じてプリントを配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	14回15回目の授業で、テーマごとに料理やテーブルコーディネートの実践を発表してもらいます。発表と自身のコーディネートのレポートと定期試験で評価します。
評価の配点比率	目標①定期試験70%、レポート5%、発表5% 目標②レポート10%、発表5% 目標③発表5%
受講上の注意	フードスペシャリスト協会指定の教科書を使用するフードスペシャリスト資格の必修科目です。「食のスペシャリスト」として、食に関する様々な場面において、要求に沿って満足できる状況を演出できるようになりましょう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 専門演習

授業コード： 1623401　1623402　1623403
1623404　1623405

英文科目名称： Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
通年	２年次	２単位	選択	
担当教員				
小林　恭一、牧野　みゆき、森　恵見、髙木　康之、木内　貴子				
生活科学学科食物栄養専攻　専門演習		演習	ナンバリング：16Z501	
添付ファイル				

授業の概要	１年次に学んだ食品、栄養、健康、衛生などの分野で特に興味のある内容について深く追求していくことを目的とした食物科学演習である。 授業の中で取り上げられなかった専門知識や最新の研究情報についても解説する。専門演習および卒業研究は実験系と調査系に大別される。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①研究テーマに合った研究法や研究デザインを考えられる。	ＤＰ５	30
	目標②根拠にもとづき、判断できる。	ＤＰ６	30
	目標③傾聴し、自らの考えを伝えられる。	ＤＰ７	10
	目標④主体的に行動することができる。	ＤＰ８	20
	目標⑤チームで目標を共有し、メンバーを支援することができる。	ＤＰ９	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：常に生活や社会を見据えて、自ら新たな課題を見出し、それを解決することができる。 ＤＰ６：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。 ＤＰ７：専門的な知識と豊かな人間性を基盤としたコミュニケーションができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。 ＤＰ９：「仁愛兼済」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	実験科学の考え方　/　調査研究の考え方　/　研究倫理について	専門演習は卒業研究の進行により授業内容が前後することがある。 調査や研究データの取り扱い方、著作権や知的所有権の尊重、インフォームドコンセント、プライバシーや個人情報の保護など研究倫理について理解を深める。
	2	仮説設定のための発想法	
	3	発想の方法	
	4	文献調査の目的、方法	
	5	文献調査①（文献の流れ）	文献調査では図書館の利用方法を学ぶ
	6	文献調査②（文献速報の利用）	
	7	文献調査③（学会誌講読　栄養と食糧）	
	8	文献調査④（学会誌講読　栄養改善学会）	
	9	文献調査⑤（学会誌講読　食品衛生学会）	
	10	実験方法の組み立て①（試料採取法、前処理など）　/　調査方法の検討	
	11	実験方法の組み立て②（分析法の選択など）　/　調査方法の決定	
	12	使用実験器具の説明（ガラス器具の取り扱い方法など）/ 調査内容の検討	
	13	使用機器の説明　/　調査内容の決定	
	14	実験試薬の説明①（試薬の性質など）/ 予備調査	

	15	実験試薬の説明②（秤量法、調製法など）/ 調査内容の修正	
	16	予備試験①(精度、操作）/ 調査依頼の仕方	
	17	予備試験②(不備の改良）/ 調査実施	
	18	中間報告	
	19	実験・調査結果のまとめ①（データ入力）	
	20	実験・調査結果のまとめ②（集計）	
	21	実験・調査結果のまとめ③（統計処理）	
	22	実験・調査結果のまとめ④（結果評価）	
	23	実験・調査結果のまとめ⑤（不足の追加）	
	24	論文作成①（緒言、方法）	
	25	論文作成②（結果、考察）	
	26	論文作成③（要旨作成）	
	27	プレゼンテーションの手法	
	28	図表の作成	
	29	発表の方法①（説明の具体性）	
	30	発表の方法②（質問の対処）	
定期試験	試験期間中に試験を実施しない。		
準備学習に必要な時間	予習・復習に毎回1時間程度必要		
教科書	使用しない。		
参考図書、教材、準備物等	必要に応じて資料を配布する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	ゼミの時間内にその都度、内容について協議、アドバイスを行う。		
評価の配点比率	目標①　中間発表　30% 目標②　レポート　30% 目標③　中間発表　10% 目標④　レポート　20% 目標⑤　中間発表　10%		
受講上の注意	本科目の中で学習する内容は卒業研究に応用できるものなので、専門演習を履修する学生は卒業研究と同じ担当者に登録する。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 卒業研究　　授業コード： 1623501

英文科目名称： Graduation Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	必修
担当教員			
内山　秀樹			
生活科学学科食物栄養専攻　専門科目		演習	ナンバリング：16Z502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、課題を探求する能力を身につけることである。 卒業研究を通して、問題を発見し、発見した問題に対する探究の方法を学び、問題を解決していく総合的な知識・技能・態度を学習する。 ※時間割の中には、授業を組まない。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①先行研究に基づき、研究のテーマ及び研究法を論理的・合理的に考えられる。		ＤＰ６	30
	目標②卒業研究における問題の解決方法を的確に判断できる。		ＤＰ５	30
	目標③他者の意見を傾聴し、自らの考えを伝えられる。		ＤＰ７	10
	目標④主体的に卒業研究に取り組むことができる。		ＤＰ８	20
	目標⑤他者と協働し、リーダシップを発揮できる。		ＤＰ９	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】			
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：常に生活や社会を見据えて、自ら新たな課題を見出し、それを解決することができる。 ＤＰ６：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。 ＤＰ７：専門的な知識と豊かな人間性を基盤としたコミュニケーションができる。		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。 ＤＰ９：「仁愛兼済」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について	
		「食や健康」にかかわる研究テーマについて、専門演習で学んだ調査・実験・実習・文献検索等の手法を用いて研究および制作などを進める。		
		卒業研究要旨及び卒業研究報告書を作成し、指導教員に提出する。（１月）		
		卒業研究発表会（２月）では、学生の司会・進行により各テーマ８分の持ち時間で発表を行う。		
定期試験	試験期間中に試験を実施しない。			
準備学習に必要な時間	予習・復習に毎回1時間程度必要			
教科書	卒業研究指導担当者の指示を受けること			
参考図書、教材、準備物等	卒業研究指導担当者の指示を受けること			
課題（試験・レポート等）のフィードバック	卒業研究は履修規程第15条の通り、卒業研究成果物（卒業論文、卒業作品等）の提出、卒業研究要旨の提出、卒業研究発表会での発表の３つすべてが修了したうえで評価を行う。課題のフィードバックは卒業研究指導担当者ごとに行う。			
評価の配点比率	目標①　卒業研究論文：30% 目標②　卒業研究論文：20%、卒業研究要旨・発表：10% 目標③　卒業研究要旨・発表：10% 目標④　卒業研究論文：10%、卒業研究要旨・発表：10% 目標⑤　卒業研究要旨・発表：10%			

受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 人間と仏教Ⅱ　　授業コード： 2120101

英文科目名称： BuddhismⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	１単位	必修
担当教員			
CI委員長			
幼児教育学科　教養科目		演習	ナンバリング：20A102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、宗教行事や講演など様々な活動を通して、建学の精神「仁愛兼済」の生き方を育み、学園是「和敬・精進・反省」の実践力を養うことである。 ※キャンパスカレンダーに記載されたＡＨの日を具体的な活動の場とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①仁愛学園の建学の精神について理解する。	ＤＰ７	30
	目標②仁愛学園の歩みについて説明できる。	ＤＰ７	20
	目標③「仁愛兼済」を実践する姿勢を身につける。	ＤＰ８	25
	目標④自らを振り返る態度を身につける。	ＤＰ９	25
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 ＤＰ８：地域社会に貢献したいという熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	1年次 4月　降誕会・・・第1回講義	第1回レポート
	2	4月　学歌・讃仏歌指導	
	3・4	5月　開学記念日	
	5	5月　2年後の理想像と１年次前期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の説明及び記入
	6	6月　第2回講義	第2回レポート
	7	9月　CI企画 1年次前期の自己評価と後期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	8	12月　成道会	
	9	1月　讃仰会（追弔会）	
	10	2年次 4月　降誕会・・・講演 1年次の自己評価と2年次前期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入 ※遠隔非同期にて実施
	11・12	5月　開学記念日	※詳細は後日連絡
	13	9月　CI企画 2年次前期の自己評価と後期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	14	11月　成道会	
	15	12月　讃仰会（追弔会）・・・講演	第3回レポート
	16	1月　2年間の自己評価	『充実した学生生活を送るために』の記入

定期試験	試験に代わって、全講義終了後に第3回レポート及び『充実した学生生活を送るために』を記入してもらう。
準備学習に必要な時間	日常生活のなかで、常に仁愛の自覚を持ち、兼済の実践に努めること。また、課題の作成に多くの時間が必要になる。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『礼讃抄』『和』（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 適宜、資料を配布する。

課題（試験・レポート等）のフィードバック	各レポートは授業担当者が確認した後、返却されるので、修学ポートフォリオ（ファイル）にまとめておくこと。
評価の配点比率	目標①第1回レポート（30%） 目標②第2回レポート（20%） 目標③第2回レポート（10%）、第3回レポート（15%） 目標④第3回レポート（15%）、『充実した学生生活を送るために』（10%）
受講上の注意	AHは必ずスーツを着用し、学章・念珠を持って参加すること。ただし、5月の開学記念日は除く。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 社会活動実践　　授業コード： 2120201

英文科目名称： Social Activities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
通年	１・２年次	１単位	選択	
担当教員				
CI委員長・総合学務センター長				
幼児教育学科　教養科目		演習		ナンバリング：20A501
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は、建学の精神に基づき、自らが他者のために働き出す実践的活動を行うことである。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。		ＤＰ７	10
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。		ＤＰ８	5
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。		ＤＰ９	35
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。		ＤＰ７	10
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。		ＤＰ８	5
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。		ＤＰ９	35
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】			
	【思考力・判断力・表現力】			
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 ＤＰ８：地域社会に貢献したいという熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について	
		単位認定の方法 　本科目の単位認定は、通常の科目のように教員の作成したシラバスに基づいて実施されるものではなく、在学期間中に学生が自ら主体的に取り組んだ30時間以上の活動（ボランティア活動、地域支援活動、福祉活動、学習支援活動、NPO活動、国際貢献活動など）について単位を認定するものである。		
		活動後、所定の用紙（社会活動実践記録・単位認定申請書、社会活動実践レポート用紙）に活動内容、感想を記入し、資料と共に教務課に提出して認印を受ける。申請書類の提出をもって履修登録を兼ねることとする。夏期、冬期等休暇中の活動報告は休暇明け1週間以内に提出すること。		
		活動を証明する資料提出が困難な場合は、所定の用紙に活動先責任者の証明をもらうこと。また学生が多数で取り組んだ場合には、活動の指導者または責任者が取りまとめて申請することも可とする。ただし、レポート用紙は学生各人が提出しなければならない。		
定期試験	試験に代わって、レポートを提出してもらう。			
準備学習に必要な時間	適宜、事前事後学習を必要とする。			
教科書	使用しない			
参考図書、教材、準備物等	使用しない			
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートは、評価後にフィードバックする。			
評価の配点比率	目標①②レポート（100%）			

受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 人間と文学　　授業コード： 2120301

英文科目名称： Human Being and Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位	選択
担当教員			
前田　敬子			
幼児教育学科　教養科目		講義	ナンバリング：20B501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、児童文学、短歌、詩に触れることや、自作表現を鑑賞し合うことによって、文学鑑賞力を高めるとともに、自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身に付けることである。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①短歌、童謡の魅力や良さを語ることができる。		ＤＰ３	20
	目標②作品のいくつかを暗唱することができる。		ＤＰ４	30
	目標③自分の生き方や社会との関わり方を支える文学の意義と効用を理解し、自らの生活に活かすことができる。		ＤＰ９	10
	目標④自ら言葉を大切にし、読み書き、音声の表現が的確にできる。		ＤＰ７	40
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。		
	【思考力・判断力・表現力】			
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	文学の魅力　金子みすゞの生涯（1）	各自、これまでの文学経験を語れるように準備しておく。
	2	金子みすゞの生涯（2）	作品の魅力を知る。
	3	金子みすゞの生涯（3）	絵本作家の作品をたどり、テーマや工夫を知る。
	4	絵本作家の魅力に迫ろう～田島征三・田島征彦～	自発的に絵本を読み、興味関心を深める。
	5	金子みすゞと西條八十	韻律になれ、声に出して読もう。
	6	金子みすゞと北原白秋	韻律になれ、声に出して読もう。
	7	山川登美子について調べよう。	グループごとに山川登美子について調べ、プレゼンテーションをする。
	8	山川登美子の歌を暗唱しよう。	好きな歌を紹介し合う。
	9	山川登美子の歌への理解を深めよう（1）	『恋衣』全体を通読し、自分と結びつけて感想をまとめる（1）
	10	短歌を詠み、互選しよう	共感できる歌、工夫されている歌について話し合おう。
	11	山川登美子の歌への理解を深めよう（2）	『恋衣』全体を通読し、自分と結びつけて感想をまとめる（2）
	12	山川登美子の歌への理解を深めよう（3）	『恋衣』全体を通読し、自分と結びつけて感想をまとめる（3）
	13	山川登美子の歌への理解を深めよう（4）	『恋衣』全体を通読し、自分と結びつけて感想をまとめる（4）
	14	山川登美子の晩年の歌を知る。	山川登美子を「明星」や故郷と結び付けて理解しよう。
	15	学びの成果をまとめよう	文学から受けた印象を作品に表現してみよう。

定期試験	全授業終了後、試験に代わってレポートを提出させる。
準備学習に必要な時間	テキストの下読みやプレゼンテーションの準備に毎時間２時間程度の事前事後学習が必要。
教科書	青空文庫『恋衣』（底本：「恋衣 名著復刻 詩歌文学館」日本近代文学館 1980（昭和55）年4月1日発行）

参考図書、教材、準備物等	新装版『金子みすゞ全集』Ⅰ～Ⅲ（ＪＵＲＡ出版局）、矢崎節夫『みんなを好きに金子みすゞ物語』（ＪＵＲＡ出版局2009）、逸見久美『恋衣全釈』（風間書房2008）、坂本正親編著『山川登美子全集』上下巻（文泉堂出版1994）など
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組みに関しては第１回のガイダンスで説明する。自主的に関連図書を通読することが望ましい。授業では臆せずに、感じた疑問や感想を発言するようにしてほしい。成績評価を含め、質問等がある場合は、オフィスアワーなどを利用して連絡すること　授業中の感想のまとめ、短歌や詩の創作、最終レポートはコメントとともに返却する。
評価の配点比率	目標①授業中の発表内容や感想のまとめ20％ 目標②作品の暗唱30％ 目標③短歌・詩の創作10％ 目標④授業中の発表技能と最終レポート40％
受講上の注意	時代は変わっても、人の心はそれほど大きくは変わらない。文学的な表現にふれて、言葉の美しさ、感覚の豊かさ、思考の深さを感じてみよう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 運動と健康　　授業コード： 2120401　2120402

英文科目名称： Health and Exercise

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
内田　雄			
教養科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	講義	ナンバリング：21C101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、健康や体力を管理する上で必要な基本的な知識や方法を身につけることである。 具体的には、講義を通して生涯にわたる体力の発達過程やその構造、生活習慣病や女性各種健康課題など健康や体力の維持増進に関わる専門的知識を学ぶ。また、レポートやLMS(Moodle)での課題を通して身に着けた知識を日常生活で実践する方法を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①健康を維持、増進するための手段・方法を習得する。	ＤＰ９	20
	目標②生涯にわたって自主的に健康・体力づくりを実践できる知識を獲得する。	ＤＰ９	60
	目標③生涯にわたる体力の発育発達過程を理解する	ＤＰ３	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	健康とは	事後学習：授業内容のスライドを復習し、Moodle上の復習問題に回答する。
	2	体力の構成と加齢変化	事後学習：授業内容のスライドを復習し、Moodle上の復習問題に回答する。
	3	健康・体力の維持増進のために　①生活習慣と健康	事後学習：授業内容のスライドを復習し、Moodle上の復習問題に回答する。 レポート課題①
	4	健康・体力の維持増進のために　②運動と健康	事後学習：授業内容のスライドを復習し、Moodle上の復習問題に回答する。
	5	健康・体力の維持増進のために　③トレーニングの基礎知識	事後学習：授業内容のスライドを復習し、Moodle上の復習問題に回答する。
	6	健康・体力の維持増進のために　④ダイエットの基礎知識	事後学習：授業内容のスライドを復習し、Moodle上の復習問題に回答する。
	7	女性・高齢者における運動の意義	事後学習：授業内容のスライドを復習し、Moodle上の復習問題に回答する。
	8	筆記試験および解説	

定期試験	試験期間中の定期試験は実施せず、最後の授業時に筆記試験と解説を行う。
準備学習に必要な時間	授業資料は事前にMOODLE上に掲載する。スライド数が多いため授業前の予習を通して理解を深める必要がある（1時間程度）。また、授業後はスライドを復習し、MOODLE上の復習問題に回答する必要がある（1時間程度）。
教科書	出村愼一　監修「健康・スポーツ科学の基礎」（杏林書院）
参考図書、教材、準備物等	適宜必要な資料をプリントし配布予定
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポート課題および試験結果に関しては希望者に対してオフィスアワー、もしくは電子メール（yuchida.ys@jin-ai.ac.jp）で対応する。
評価の配点比率	目標①　レポート課題20% 目標②　筆記試験40%、毎回の復習問題20% 目標③　筆記試験20%
受講上の注意	健康、運動がいかに大切かについて説明します。この講義が、日常生活の中で運動や健康を意識するきっかけ

	となれば幸いです。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： スポーツ実技(幼児教育学科)　　授業コード： 2120501　2120502　2120503

英文科目名称： Sports Practical Skill

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
通年	２年次	１単位	選択	
担当教員				
内田　雄				
幼児教育学科　教養科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	実技		ナンバリング：20C102
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は、学生生活を健康で送るための体力をつけるとともに、生涯にわたってスポーツを楽しめる技術や知識、マナーの習得を体力とスポーツの技術、知識、マナーを身につけることである。そのために多種多様なスポーツに積極的に取り組み自分自身の体力・技能の向上に取り組む。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①　積極的に各種スポーツに参加し、自分自身の健康増進や体力向上に取り組むことができる。	ＤＰ７	50
	目標②　各種スポーツの技術を理解し身につけることができる。	ＤＰ４	25
	目標③　運動会運営を通して他者と協調しながら活動し、自身の行動を反省することができる。	ＤＰ７	25
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション　&　体力測定	体力測定実施のため初回から上履き持参
	2	体力測定	
	3	フライングディスク　①基本技術の習得	
	4	フライングディスク　②アルティメットの紹介とミニゲーム	
	5	フライングディスク　③試合と実技試験	実技試験①
	6	バレーボール　①基本技術の習得とルールの理解	
	7	バレーボール　②ミニゲーム	
	8	バドミントン＆卓球　①　ルールの理解とミニゲーム	
	9	バドミントン＆卓球　②　試合の実施	
	10	トランポリン　①ストレートバウンズ	膝保護のため、長パンを推奨
	11	トランポリン　②ニードロップバウンズ	
	12	トランポリン　③シート・ドロップバウンズ	
	13	トランポリン　④連続技	
	14	トランポリン　⑤実技試験の構成と練習	
	15	トランポリン　⑥実技試験	実技試験②
	16	運動会種目準備　①種目＆役割決め	後期開始：教室で実施 グループワーク
	17	運動会準備　②種目計画案作成	教室で実施 グループワーク
	18	運動会準備　③種目計画修正と出場種目の調整	教室で実施 グループワーク
	19	運動会準備　④種目リハーサル	体育館で実施
	20	運動会準備　⑤全体リハーサル	体育館で実施

	21	運動会の運営及び参加	グラウンドで実施 ※雨天時は体育館にて実施
	22	運動会の運営及び参加	グラウンドで実施 ※雨天時は体育館にて実施
	23	運動会の運営および参加	グラウンドで実施 ※雨天時は体育館にて実施
	24	運動会の運営および参加	グラウンドで実施 ※雨天時は体育館にて実施
	25	運動会の反省	教室で実施 レポート提出
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に最終レポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	前期は各実技種目の実技課題やルールを確認して授業に臨むこと 後期は運動会準備の進行がスムーズにいくよう各グループで準備を進めること		
教科書	使用しない		
参考図書、教材、準備物等	資料は掲示・板書によって提示する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	体調を整え、実技ができる状態で、また、運動に適した靴、服装で授業に臨むこと。実技およびレポートの評価に関しては希望者に対してオフィスアワー、もしくは電子メール（yuchida.ys@jin-ai.ac.jp）で対応する。		
評価の配点比率	目標①毎回の活動反省 50% 目標②実技種目の実技試験　25% 目標③運動会レポート 25%		
受講上の注意	運動禁忌等がある方は事前に申し出てください。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 英語会話　　授業コード： 2120601　2120602　2120603

英文科目名称： English Conversation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	選択
担当教員			
野本 尚美			
幼児教育学科　教養科目	幼稚園教諭免許必修	演習	ナンバリング：20D102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、日常的な英語での会話ができ、またそれらを用いて簡単な指導を行うことができる力を身につけることである。園での１日の生活や年間行事などを軸に、様々な英語の語彙や表現、基本的な文法について学ぶ。テキスト内で用いられる英語は、園内だけに限らず日常生活においても役立つものである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①基礎的な英語会話を行うための語彙や表現を身に付けている。	ＤＰ３	20
	目標②園児を対象とした英語活動について考え、発表することができる。	ＤＰ４	10
	目標③外国語や異文化について理解を深め、保育者として早期英語教育について省察できる。	ＤＰ６	30
	目標④基礎的な英語を用いて他者とコミュニケーションを取ることができる。	ＤＰ７	40
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	Introduction to Early English Education	早期英語教育の概要や英語でコミュニケーションをするときの基本表現について学ぶ。
	2	Unit 1　Hi, I'm Yuri Tanaka	人に何かを頼むときの表現や英語での自己紹介について学ぶ。
	3	Unit 2　Where Is the Multi-purpose Room?	位置を伝える表現や戸外での道案内について学ぶ。
	4	Unit 3　Good Morning. How Are You Today?	今日の調子を聞く・答えるときの表現や英語の手遊び歌について学ぶ。
	5	Review Unit 1～3	教科書の復習を行う。
	6	Unit 4　What Color Do You Like?	好きなもの／嫌いなものを聞くときの表現や英語の絵本の読み方について学ぶ。
	7	Unit 5　There's a Ladybug on the Leaf	教室内のものの名前や場所を表す表現について学ぶ。
	8	Unit 6　It's Time to Play Outside	人に何かをするよう／しないように言うときの表現や英語の絵本の読み方について学ぶ。
	9	Unit 7　She Is Allergic to Eggs	食に関する好き嫌い、アレルギーの有無を聞くときの表現や食材の名前について学ぶ。
	10	Review Unit 4～7	教科書の復習を行う。
	11	Practice in Ｐronunciation	英語の発音練習を行う。
	12	Speaking Test	スピーキングテストを行う。
	13	Discussion & Presentation Preparation	園児を対象とした英語活動についてグループで意見を出し合い、準備を行う。
	14	Presentation Preparation	園児を対象とした英語活動の準備を行う。
	15	Presentation	英語活動の発表を行う。
	16	Unit 8　You Should Go to the Bathroom	しなければならないことを伝える表現や英語圏のジェスチャーについて学ぶ。
	17	Unit 9　We Made Masks Today	1日の活動と様子を伝える表現や世界各国の年中行事について学ぶ。
	18	Unit 10　If It Rains, What Happens?	仮定の表現や園行事の英語名について学ぶ。
	19	Unit 11　What Shall We Do Today?	ネイティブとの打ち合わせの際に用いる表現や動物の

	19		英語名について学ぶ。
	20	Review Unit 8～11	教科書の復習を行う。
	21	Unit 12　I Feel Feverish	病気及びけがの症状を伝える表現や身体の部位・医療品の英語名について学ぶ。
	22	Unit 13　This Is Yuri from Cosmos Day Care Center	電話応対で用いる表現や英語の歌について学ぶ。
	23	Unit 14　Thank You Very Much for Everything	お礼の表現や誕生日カードの書き方について学ぶ。
	24	Review Unit 12～14	教科書の復習を行う。
	25	English Songs for Children	様々な英語の歌や、歌を用いた英語活動について学ぶ。
	26	Discussion & Presentation Preparation	園児を対象とした英語活動についてグループで意見を出し合い、準備を行う。
	27	Presentation Preparation	園児を対象とした英語活動の準備を行う。
	28	Presentation Practice	英語活動の発表に向けて練習を行う。
	29	Presentation	英語活動の発表を行う。
	30	Presentation	英語活動の発表を行う。
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。		
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事前・事後学習が必要です。授業後は必ず復習をした上で、次回の授業に臨んでください。		
教科書	土屋麻衣子著『Happy English for Childcare　保育のための基礎英語』（金星堂、2015）		
参考図書、教材、準備物等	その他、必要と思われる教材を適宜配布する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	テストは採点後に返却します。成績評価を含め、質問等がある場合は、オフィスアワーを利用するか、電子メール（nomoto@jin-ai.ac.jp）で野本まで連絡すること。		
評価の配点比率	目標①　筆記試験20%　目標②　英語活動についての発表10% 目標③　レポート30%　目標④　筆記試験30%　スピーキングテスト10%		
受講上の注意			
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： データサイエンス入門　　授業コード： 2120801

英文科目名称： Introduction to Data Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
諏訪　いずみ			
教養科目　幼児教育学科		講義	ナンバリング：20D503
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、情報を整理・分析するための知識・技術を身に着けることを目的とする。 基礎的な数学と統計処理についての講義と演習を通して、データの処理・分析に必要な基礎知識と技術を学ぶ。表計算ソフトを使用した演習を行うことで、基礎数学・統計処理に関して立体的・実用的な知識・技術を身につける。これらを通して、データに基づいて考える力を身に着ける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①データ分析で必要となる基本統計量の意味や相関・回帰分析・検定の考え方を理解して利用できる。	ＤＰ３	33
	目標②数学的知識を元に、データとして現れる事象の数学的・物理的背景について説明する意欲がある。	ＤＰ８	27
	目標③データに基づいた論理的な判定・予想ができる。	ＤＰ４	30
	目標④表計算ソフトを用いて基本的なデータ処理ができる。	ＤＰ５	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：地域社会に貢献したいという熱意を有している。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、Excel 関数入門(1) 関数の基礎	以下毎回、Excel課題と記述課題の提出あり。 以下毎回、Moodle上の次回のプリントを読んでおく。
	2	Excel関数入門(2) 関数・数式利用の基本、参照グラフの利用	
	3	数学関数(1) 簡単なデータ処理	
	4	数学関数(2) 二次関数とグラフ	
	5	数学関数(3) 二次方程式を解く	
	6	数学関数(4) 指数関数と対数関数	
	7	数学関数(5) 三角関数の基礎	第１回特別課題出題
	8	数学関数(6) 三角関数の応用（媒介変数の利用による図形）	
	9	表計算と統計(1) 基本的な統計関数	
	10	表計算と統計(2) 分布の状態を知る：分散、標準偏差	
	11	表計算と統計(3) 正規分布	第１回特別課題提出
	12	表計算と統計(4) ２つの変量の関係：相関係数	第２回特別課題出題
	13	表計算と統計(5) 回帰分析	
	14	表計算と統計(6) 検定	
	15	データ分析アドインの利用と統計処理のまとめ	第２回特別課題提出

定期試験	定期試験に代わって、全講義終了後に期末課題を提出。
準備学習に必要な時間	毎回、２時間程度の事前・事後学習が必要。全講義プリントをMoodle上に公開するので、目を通して授業に臨む。不明な用語等は、参考図書、高校教科書等で確認しておくことが望ましい。返却した課題は、理解が不十分だった点を次回以降の授業のために復習する。特別課題は、事後学習として行う。
教科書	使用しない。毎回，授業内容・課題に関するプリントを配布する．配布したプリントは、すべて授業に持参すること

参考図書、教材、準備物等	参考図書：『Excel関数全辞典』(技術評論社編集部　技術評論社　2016)等の関数辞典
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方、成績評価の詳細に関しては、第１回のガイダンスで説明する。Excel課題・記述課題は基本的に講義時間内で作成・提出とする。特別課題は事後学習として行う。記述課題は添削して返却する。課題で指定の項目が達成されていない場合は再提出を指示する。成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メール（suwa@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。
評価の配点比率	目標①授業内課題17%、2回の特別課題8%、期末課題8% 目標②授業内課題15%、2回の特別課題6%、期末課題6% 目標③授業内課題22%、2回の特別課題4%、期末課題4% 目標④授業内課題6%、2回の特別課題2%、期末課題2%
受講上の注意	情報を整理・分析するための知識・技術を身に着けることを目標とします。これらは情報を見極め、的確な判断を下す基礎となります。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 保育原理　　授業コード： 2121101　2121102

英文科目名称： Principles of Early Childhood Education and Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	必修
担当教員			
増田　翼			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	講義	ナンバリング：21A112
添付ファイル			

授業の概要	本講義は、「保育の本質・目的」に関する基礎的知識のうち、とりわけ「保育の意義および目的」「保育所保育指針における保育の基本」「保育行政の現状と課題」「保育の思想と歴史的変遷」「諸外国における保育の現状と課題」について修得することを目的とする。具体的には、保育の理念と子どもの権利、子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づけ、保育所の社会的役割と責任、保育所保育に関する基本原則、子ども理解に基づく計画・実践・記録・評価・改善、子ども・子育て支援新制度、保幼小連携、欧米における保育思想の展開、日本における保育の歴史、諸外国における保育の現状と課題等を学びながら、保育を捉えるうえで必要となる様々な見方を獲得する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①「保育の意義および目的」「保育の思想と歴史的変遷」について説明できる。	ＤＰ１	25
	目標②「保育行政の現状と課題」「諸外国における保育の現状と課題」について説明できる。	ＤＰ３	20
	目標③「保育所保育指針における保育の基本」について説明できる。	ＤＰ５	25
	目標⑤ 自分の考えをレポートにまとめることができる。	ＤＰ６	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	保育の意義および目的（1）：保育の理念と子どもの権利（子どもの最善の利益）	【本講義15回すべてに共通する事項】 毎回、授業内容に関する小課題がある。授業毎に取り組み、LMS（仁短Moodle）に提出すること。 また、その日の授業内容に関する「事後学習プリント」を各回Moodle上でPDF配布するので、必ず目を通すこと。
	2	保育の意義および目的（2）：子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づけ、保育所の社会的役割と責任	【キーワード：保育所保育指針第１章総則、児童福祉法第39条、保育所の役割、保育所の社会的責任、保育士の秘密保持義務】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	3	保育所保育指針における保育の基本（1）：基本原則（保育の目標、保育の環境、保育における養護）	【キーワード：養護と教育の目標、保育の方法、保育の環境、育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。 ※なお授業内では、仁短YouTubeチャンネル動画「仁愛女子短期大学キャンパスツアー附属幼稚園篇」を参照しながら保育の環境構成について再考していくので、あらかじめ視聴しておくこと（オープンな教育リソースの活用）。
	4	保育所保育指針における保育の基本（2）：子ども理解に基づく計画・実践・記録・評価・改善	【キーワード：３つの視点、５領域、10の姿、保育の実施に関して留意すべき事項、全体的な計画、第三者評価】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。

	5	保育所保育指針における保育の基本（3）：保育の内容・方法【生活】	【キーワード：生活の自立、食育基本法、食物アレルギー、特定原材料等27品目、エピペン®】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	6	保育所保育指針における保育の基本（4）：保育の内容・方法【遊び】	【キーワード：ホイジンガ『ホモ・ルーデンス』、カイヨワ『遊びと人間』、遊びを通した保育、外遊びと屋内遊び】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	7	保育行政の現状と課題（1）：子ども・子育て支援新制度、幼保連携型認定こども園教育・保育要領	【キーワード：子ども・子育て関連３法、社会全体による費用負担、幼児教育・保育の無償化、在園時間の長短、入園時期・登園日数の違い】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。また、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領（第1章 総則）」を事前に読んでおく。授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	8	保育行政の現状と課題（2）：保幼小連携	【キーワード：小１プロブレム、５・５交流、接続期カリキュラム、生活科、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	9	欧米における保育思想の展開（1）：オーベルラン、オウエン	【キーワード：神学、幼児保護所、産業革命、性格形成学院】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	10	欧米における保育思想の展開（2）：フレーベル、モンテッソーリ	【キーワード：『人間の教育』、恩物、Kindergarten、教具、子どもの家、敏感期】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	11	日本における保育の歴史(1)：幼稚園の成立、保育所（託児所）の成立	【キーワード：東京女子師範学校附属幼稚園、中村正直、関信三、松野クララ、豊田芙雄、ハウ、頌栄幼稚園、新潟静修学校附設託児所】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	12	日本における保育の歴史（2）：戦前・戦後における保育	【キーワード：倉橋惣三、城戸幡太郎、幼稚園保育及設備規程、幼稚園令、戦時託児所】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	13	諸外国における保育の現状と課題（1）：スウェーデン、フランス	【キーワード：合計特殊出生率、ひのえうま、1.57ショック、事実婚、婚外子】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	14	諸外国における保育の現状と課題（2）：台湾	【キーワード：幼托整合、幼児園教保活動課程大綱、台湾の保育者養成教育】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	15	まとめ：これからの保育者に求められる資質能力	第15回終了後、授業内容に基づく最終レポートを作成し期限までに提出する。
定期試験	試験期間中の試験に代わって、全講義終了後に最終レポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	復習：学習した内容について、「事後学習プリント」などを参考にしながら整理しておく（毎回1時間程度）。 予習：次回の授業内容について、上記「補足説明」欄のキーワードなどを事前に調べ、理解しておく（毎回1時間程度）。 ※最終レポート作成には、多くの時間が必要となる。		
教科書	厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館 2018）		
参考図書、教材、準備物等	教 材：適宜、プリント資料を配布する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	毎授業終了時に提出する小課題については、次回授業の冒頭でフィードバック（特徴的な意見の紹介、全体の傾向など）する。また最終レポートについては、授業担当者が添削し採点を付したPDFデータをMoodle上で返却することでフィードバックする。なお、成績評価を含め授業内容に関する質問等がある場合は、Moodleのメッセージや電子メール（masuda@jin-ai.ac.jp）の利用、研究室訪問（オフィスアワー）などの手段が可能である。		
評価の配点比率	目標①授業内小課題 15%、最終レポート 10% 目標②授業内小課題 15%、最終レポート ５% 目標③授業内小課題 20%、最終レポート ５% 目標④最終レポート 30%		

受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 教育社会学　　授業コード： 2121301　2121302

英文科目名称： Sociology of Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
増田　翼			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修	講義	ナンバリング：21A501
添付ファイル			

授業の概要	本講義は、幼稚園教諭として理解しておくべき教育の基礎理論のうち、とりわけ社会的事項について修得することを目的とする。各回を通じて「教育と社会」との関係について学ぶとともに、私たちが教育について語る際に無意識のうちに抱いている「当たり前」の「常識」を疑いながら自らの教育観を見直していく。具体的には、早期教育、しつけ、学校の機能、学歴社会、子どもの安全、開かれた学校づくり、多文化共生社会、ジェンダーについて学ぶが、各テーマそれぞれにおいて、保育・幼児教育との関連性を踏まえながら考察していく。

授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標① 教育と社会との関係を説明できる。	ＤＰ１	40
	目標② 社会変化によって生じる保育・教育の新たな課題とそれに対応するための教育政策の動向について説明できる。	ＤＰ３	10
	目標③ 子どもの安全に関する現代日本の具体的状況と課題について説明できる。	ＤＰ３	10
	目標④ 学校と地域との連携・協働について説明できる。	ＤＰ３	10
	目標⑤ 自分の考えをレポートにまとめることができる。	ＤＰ６	30

本科目で身に付ける学習成果(DP)		
	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。
	【主体性・多様性・協働性】	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション：「社会学」とは？ 「教育社会学」とは？	【本講義15回すべてに共通する事項】 各回、授業内容に関する小課題がある。授業毎に提出すること。 また、各回でPDF配布する授業資料には、復習等で活用するための参考文献（授業内容に関するもの）を記載している。
	2	早期教育（1）：早期教育が普及する理由	【キーワード：フラッシュカード、ドッツカード、バイリンガル、体操教室、ヨコミネ式】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	3	早期教育（2）：早期教育の何が問題なのか？	【キーワード：保育・幼児教育の学校化、ハイパー・メリトクラシー社会、早期教育産業】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	4	しつけ（1）：しつけと社会化、しつけ方法の種類	【キーワード：規範と文化、社会化、逸脱行為、自己統制、社会統制】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	5	しつけ（2）：見えない教育方法、子育ての私事化	【キーワード：日本のしつけの傾向、見えない教育方法、教育家族、子育ての私事化】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
		学校の機能：社会化、選別と分配、学校文化の伝達	【キーワード：社会化、選別と分配、学校文化の伝達、隠れたカリキュラム】

	6		事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	7	学歴社会（1）：日本型学歴社会とその変化	【キーワード：メリット、メリトクラシー、能力、学力、努力、可能性、平等、高校進学率、大学進学率】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	8	学歴社会（2）：教育格差、ハイパー・メリトクラシー社会と幼児期の育ち	【キーワード：学力格差、教育機会格差、文化資本、再生産、学力の「ふたこぶラクダ」現象、二極化】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	9	子どもの安全（1）：学校保健安全法にもとづく安全教育・安全管理、幼児期における危険回避能力の獲得	【キーワード：学校保健安全法、学校安全、安全教育、安全管理、保育の環境構成、危険回避能力、森のようちえん、規律訓練型社会、環境統制型社会】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	10	子どもの安全（2）：子どもと電子メディアとのかかわり、保育・幼児教育におけるICT利活用	【キーワード：スマホ育児、乳幼児のメディア利用、デジタル連絡帳】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	11	開かれた学校づくり：子どもが育つ地域社会、学校と地域との連携・協働	【キーワード：学校経営改革、選択と競争、学校運営協議会、消滅可能性都市、人口減少地図、地域の特色を活かした保育・教育】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	12	多文化共生社会と教育：社会的排除・包摂、日本および諸外国における多文化保育の現状と課題	【キーワード：多文化共生、社会的排除・包摂、マジョリティ・マイノリティ、一時的セミリンガル、ダブル・リミテッド、日本語指導が必要な児童生徒】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	13	ジェンダー（1）：幼児期における「男らしさ・女らしさ」構築のプロセス	【キーワード：子育てに関するジェンダー意識、男の子に対する期待・女の子に対する期待、遊びのなかの「男らしさ」「女らしさ」、男の子の国・女の子の国（戦隊ヒーロー、アニメ・漫画）、男性保育者】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	14	ジェンダー（2）：LGBTと保育、「母親像」の変遷	【キーワード：LGBTQ、母性と父性】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	15	教育のこれから：近年の日本における教育政策、諸外国の教育改革の動向	第15回終了後、授業内容に基づく最終レポートを作成し期限までに提出する。
定期試験	試験期間中の試験に代わって、全講義終了後に最終レポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	復習：学習した内容について、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら整理しておく（毎回1時間程度）。 予習：次回の授業内容について、上記「補足説明」欄のキーワードなどを事前に調べ、理解しておく（毎回1時間程度）。 ※最終レポート作成には、多くの時間が必要となる。		
教科書	使用しない。適宜、資料を配布する。		
参考図書、教材、準備物等	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018）		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	毎授業終了時に提出する小課題については、次回授業の冒頭でフィードバック（特徴的な意見の紹介、全体の傾向など）する。また最終レポートについては、授業担当者が添削し採点を付したPDFデータをMoodle上で返却することでフィードバックする。なお、成績評価を含め授業内容に関する質問等がある場合は、Moodleのメッセージや電子メール（masuda@jin-ai.ac.jp）の利用、研究室訪問（オフィスアワー）などの手段が可能である。		
評価の配点比率	目標①授業内小課題 20%、最終レポート 20% 目標②授業内小課題 10% 目標③授業内小課題 10% 目標④授業内小課題 10% 目標⑤最終レポート 30%		

受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 子育て支援　　授業コード： 2121401　2121402　2121403

英文科目名称： Child Care Support

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
通年	２年次	１単位	選択	
担当教員				
玉　節子				
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修		演習	ナンバリング：21C512
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は、保育士の専門性を生かした子育て支援の意義・目的を理解し、保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の掲示、職員間や地域関係機関との連携・協働等、保育相談支援に必要な専門的知識及び技術を身に付けることである。様々な場での子育て家庭に対する保育相談支援の事例検討や体験学習等を通して、保育士の行う子育て支援の特性と展開、保護者の保育実践力につながる支援内容・方法・技術を学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の掲示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解できる。	ＤＰ２	57
	目標②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、事例検討や体験学習等を通して具体的に理解できる。	ＤＰ３	32
	目標③保育者として、多面的な視点をもち、他者への思いやりの心とコミュニケーションの能力を身に付ける。	ＤＰ７	11
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、子どもの保育とともに行う保護者支援	事後学習：テキスト第１講「保育所の特性や保育士の専門性を生かした支援」について復習。
	2	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成	グループワーク：ロールプレイ体験をする。 事前学習：テキスト第２講から「バイスティックの７原則」について予習。
	3	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解	グループワーク：事例検討（テキスト第３講　演習１・２） 事後学習：テキスト第３講「障害受容の段階について」復習。
	4	子ども・保護者が多様な他者とかかわる機会や場の提供 子育て支援センターの事業内容及び体験学習について	グループワーク：テキスト第10講ｐ110「３．地域の子育て支援の場と人」及び配布資料に基づき、子ども・保護者が多様な他者とかかわる機会や場について考える。 事後学習：子育て支援センターの事業内容・体験に向けた留意事項を理解し、体験施設・実施日程を決めておくこと。
	5	子ども及び保護者の状況・状態の把握	演習：ジェノグラムとエコマップ作成 事前学習：テキスト第４講「ジェノグラム及びエコマップ」について予習。
	6	支援計画と環境の構成	グループワーク：テキスト第５講演習１図表５－４支援計画ワークシート作成　事前学習：テキスト第５講演習１の事例及び図表５－３保育の記録について予習。
	7	支援の実践・記録・評価・カンファレンス	グループワーク：テキスト第６講演習１図表６－３作成　事前学習：テキスト第６講図表６－１、６－２について予習。
	8	職員間の連携・協働、社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	グループワーク：事例検討（テキスト第７講　図表７-３作成） 事後学習：テキスト第８講から、「活用できる社会資源」について復習。

	9	保育所等における支援	グループワーク：事例検討（テキスト第９講　演習１・２） 事後学習：保育所・認定こども園・幼稚園等が行っている子育て支援情報を収集する。
	10	地域の子育て家庭に対する支援	演習（課題レポート）：子育て支援センター体験学習で実践する保育相談支援計画案作成。 事前学習：子育て支援センター体験学習時の実践内容考えておく。
	11	障害のある子ども及びその家庭に対する支援	グループワーク：１日のスケジュール表及び支援カードづくり 事後学習：テキスト第11講「実践力を高める手順」について復習。
	12	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援	グループワーク：事例検討（テキスト第12講演習１・２） 事後学習：保護者自身に特別な配慮が必要な事例について、図書館の本等から学習。
	13	子どもの虐待の予防と対応	グループワーク：事例検討（テキスト第13講演習１・２） 事後学習：児童虐待防止法等関係する制度の内容を復習。
	14	要保護児童等の家庭に対する支援 子育て支援の重要ポイントについての振り返り	グループワーク：事例検討（テキスト第14講演習１・２） 事後学習：子育て支援の重要ポイント復習。
	15	多様な支援ニーズをかかえる子育て家庭の理解 定期試験	講義３０分終了後　試験６０分 事前学習：子育て支援の重要ポイントの学習 事後学習：子育て支援センターで実践する遊びや絵本の読み聞かせなどの練習をしておくこと。
定期試験	定期試験：課題レポート（子育て支援センター体験学習で実践する保育相談支援計画案作成）と併せて保育士の行う子育て支援に必要な専門的知識に関する試験を実施する。		
準備学習に必要な時間	毎回１時間程度の事前・事後学習が必要。特に課題レポート作成時には多くの時間が必要となる。また、グループワープでは、自分の考えを積極的に発表できるよう数時間の事前学習を行うことが望ましい。		
教科書	西村重稀・青井夕貴編　新基本保育シリーズ⑲『子育て支援』（中央法規出版 2019） 厚生労働省編『保育所保育指針解説』（フレーベル館2018）		
参考図書、教材、準備物等	適宜資料を配布する。 授業11回目グループワーク「１日のスケジュール表及び支援カード作り」では、色鉛筆やマジックの準備をすること。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・演習やグループワークの記録及び課題レポート・体験学習レポートに記載された内容や質問について、コメントを記載したり、講義で説明したりしてフィードバックする。 ・定期試験の前の週の授業で、子育て支援の重要ポイントについて振り返りをし、定期試験のフィードバックとする。		
評価の配点比率	目標①定期試験47%、課題レポート10%（子育て支援センター体験で実践する保育相談支援計画案作成） 目標②演習及び事例検討等の記録や作成シート提出12%（１%×12回　授業第2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14回目） 子育て支援センターでの実習と体験学習レポート20%（実習態度10%。体験学習レポート10%） 目標③グループワークの参加態度（事前学習・相手の考えを聴く・自分の考えを伝える・調整する）11% （1%×11回　授業第2, 3, 4, 6, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14回目） 成績は、子育て支援センターで体験学習し、体験学習レポート提出後の後期に発表する。		
受講上の注意	演習やグループワークを通した理論や技術の習得を重視する為、積極的・意欲的な参加を求めます。 演習やグループワークの記録用紙及び作成したシートは評価しますので、授業終了時に提出してもらいます。 子育て支援センター体験学習後、２週間以内に、体験学習レポートを学び支援課に提出すること。		
教員の実務経験	保育士として、保育園や子育て支援センターに勤務し、子育て支援に携わった経験をいかし、実践例を挙げながら講義する。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 社会的養護Ⅱ　　授業コード： 2121501　2121502　2121503

英文科目名称： Social Nursing Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
木越　直昭			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	演習	ナンバリング：21506
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、社会的養護を必要としている児童および家庭との関わり方を学ぶと共に、社会的養護施策についても学び、保育士として要保護家庭を早期に発見できる知識と技能の習得を目的とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①社会的養護の理念と概念を学び社会的養護の理解を深める。	ＤＰ１	10
	目標②児童の権利に関する条約から児童福祉法の変遷・施策の変化を学び保育士として社会的養護の一端を担うべき責任感を持たせる。	ＤＰ２	20
	目標③被虐待児童および発達障害の適切な養育知識と技術を身につける。	ＤＰ５	40
	目標④社会的養護を必要とする家庭に適切な養育を短い時間でアドバイスできる知識と技術を身につける。	ＤＰ８	10
	目標⑤保育士として倫理と専門技術および相談技術を高め、利用者の子どもと親に良きモデルになるようにする。	ＤＰ１	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：地域社会に貢献したいという熱意を有している。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	社会的養護を必要とする子どもとは　（グループワーク）	事前学習：厚生労働省のHPなどを利用し,社会的養護の基本理念と社会的養護を必要とする子ども達はどのような環境で生活をしていたのかをまとめておく。 事後学習：社会的養護の原理として掲げられている６つをまとめレポートを出す。
	2	社会的養護の歴史的変遷　（グループワーク）	事前学習：児童福祉法誕生から1994年「児童の権利に関する条約」に批准し今日に至るまでの歴史を調べ、質問をまとめておく。 事後学習：2016（平成28年）「児童福祉法等の一部を改正する法律」について４つの概要をまとめたレポートを提出する。
	3	社会的養護を必要とする子どもの権利擁護（グループワーク）	事前学習：「児童の権利に関する条約」の前文と第３条・第１２条・第１９条・第２０条・第２６条を熟読すること。 事後学習：児童福祉施設の子どもの権利養護の実践と課題をまとめレポートを提出。
	4	乳児院における子どもの養育（グループワーク）	事前学習：全国乳児福祉協議会のHP等から乳児院のあゆみ・乳児院を利用する理由、また入所している子どもたちの人数を調べておく。 事後学習：乳児院における養育の在り方と今後の課題をまとめレポートを提出。
	5	児童養護施設における子どもの養育（家庭的養育）（グループワーク）	事前学習：全国児童養護施設協議会HPや厚生労働省のHPから児童養護施設を利用する理由と児童養護施設ではどのように子どもを養育しているのかをまとめる。 事後学習：児童養護施設での養育がどのように変化しているのか、また今後の課題をまとめレポートを提出する。
	6	被虐待児（発達障害児）への関わり方（実技）	事前学習：厚生労働省HP「児童虐待の定義と現状」から児童虐待の定義をまとめておく。さらに厚生労働省HPから平成２９年度児童相談所の児童虐待相談対応件数から４種類の虐待の数の移り変わりをまとめておく。 事後学習：被虐待児が受ける後遺症と援助方法をまとめレポートを提出する。

	7	第７回：被虐待児（発達障碍児）への関わり方（施設の環境整備）（グループワーク）	事前学習：発達障害について図書館などで調べ、それぞれどのような障がいなのかをまとめておく。 事後学習：被虐待児および発達障害を抱えている児童の関わりとして大切なことを施設の環境整備の上からまとめレポートを提出する。
	8	第８回：社会的養護家庭再構築のアプローチ（児童虐待防止の家庭支援）（グループワーク）	事前学習：要保護児童対策地域協議会について質問できるようにしておく。 事後学習：児童虐待防止に関する家庭支援の現状と課題をまとめレポートを提出。
	9	自立支援計画表アセスメントおよび作成（グループワーク）	事前学習：児童自立支援計画とはなにかまとめておく。 事後学習：提示する事例に伴い自立支援計画を作成し提出する。
	10	子ども最善の利益のための自立支援（リービングケア・アフターケア）　（実習）	事前学習：家庭的養護と家庭養護の違いと自立支援のためにどのようなケアをしているのかまとめておく。 事後学習：授業の内容から児童養護施設等の施設養育と里親養育においてアフターケアに関することをまとめアフターケアの計画表を作成する。
	11	パーマンシーの保障と課題（グループワーク）	事前学習：厚生労働省平成２９年８月に出された「新しい社会的養育ビジョン」の概要についてまとめておく。 事後学習：授業よりフォスタリング機関およびパーマネンシ - 保障としての特別養子縁組の推進についてまとめレポートを提出する。
	12	社会的養護の家庭支援に対する相談援助技術（グループワーク）	事前学習：第１１回までの授業を復習し、社会的養護における家庭支援について、何が必要なのかを自分なりに考えまとめておく。 事後学習：社会的養護における家庭支援の在り方をまとめレポートを提出する。
	13	子どもの権利擁護ノート作成　（実技）	事前学習：児童福祉施設等の権利ノートの内容を調べ発表できるようにしておく。事後学習：児童の権利に関すはる条約・授業で扱った子どもの権利をまとめ「権利ノート」を作成する。
	14	社会的養護と地域福祉の現状と課題　（グループワーク）	事前学習：令和2年4月に出される福井県社会的養育推進計画を読み、福井県の社会的養育の現状をまとめる。 事後学習：授業の内容から市町で行う子ども・子育て支援制度と社会的養護のつながりをグループで図にまとめ、今後の地域福祉のあり方をまとめる。
	15	援助者としての倫理と資質、専門技術と相談援助（グループワーク）	事前学習：児童福祉施設および保育士の倫理綱領を熟読し、支援者における倫理の必要性をまとめる。 事後学習：社会的養護における倫理の重要性と専門性を深める意義をまとめレポートを提出する。

定期試験	試験に代わって、全授業終了後にレポートを提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事前・事後学習が必要。
教科書	必要に応じて、資料を配付する。
参考図書、教材、準備物等	必要に応じて、資料を配付する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業中にフィードバックを行う。
評価の配点比率	目標①②③④⑤レポート100％
受講上の注意	
教員の実務経験	乳児院・児童養護施設の職員・施設長としての実務経験を基にして解説する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 教職論　　授業コード： 2121601　2121602

英文科目名称： Introduction to the Childcare and Teaching Profession

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
増田　翼			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	講義	ナンバリング：21A111
添付ファイル			

授業の概要	本講義は、保育者として理解しておくべき保育職・教職の社会的意義、保育者の役割、保育者の職務内容等を修得することを目的とする。具体的には、「保育職・教職の社会的意義」「保育者の役割と倫理」「保育者の制度的位置づけ」「保育者の組織的協働・危機管理」「保育者の専門性」「保護者対応」「保育者の資質向上とキャリア形成」について理解していく。各回において、保育職・教職において要求される資質能力の基礎について学ぶことを通じて、この仕事に対する自らの期待や不安を自覚・言語化し、保育者になることの意義を再認識する。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①「保育職・教職の社会的意義」「保育者の役割と倫理」「保育者の制度的位置づけ（服務上・身分上の義務）」について説明できる。		ＤＰ１	30
	目標②「保育者の組織的協働（連携および分担）・危機管理」について説明できる。		ＤＰ３	10
	目標③「保育者の専門性」について説明できる。		ＤＰ５	10
	目標④「保護者対応」について説明できる。		ＤＰ７	10
	目標⑤「保育者の資質向上とキャリア形成」について説明できる。		ＤＰ９	10
	目標⑥ 自分の考えをレポートにまとめることができる。		ＤＰ６	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション：保育職・教職の社会的意義、保育職・教職を選択するということ	【本講義15回すべてに共通する事項】 各回、授業内容に関する小課題がある。授業毎に提出すること。
	2	保育者の役割と倫理(1)：子どもにとって保育者とは	【キーワード：全国保育士会倫理綱領、モデルとしての保育者、子ども理解（観察と評価）】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	3	保育者の役割と倫理(2)：職場の多様性、園務分掌	【キーワード：新任・初任、中堅（ミドルリーダー）、熟練・熟達、キャリアアップ、園務分掌、職員会議、就労時間、記録物、保育要録・指導要録】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	4	制度的位置づけ：保育所・幼稚園に関係する法令、服務および身分保障	【キーワード：日本国憲法、児童憲章、児童の権利に関する条約、教育基本法、学校教育法、児童福祉法、幼稚園設置基準、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準、児童虐待の防止等に関する法律、認定こども園法、教育職員免許法、地方公務員法、学校保健安全法】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。

	5	保育者の組織的協働（1）：危機管理(ケガ・感染症への対応、災害時の対応)	【キーワード：crisis management、危機管理マニュアル、東日本大震災、「地震ごっこ・津波ごっこ」、保育中における事故・ケガ、食物アレルギー発症への対応】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	6	保育者の組織的協働（2）：リスクマネジメント(各種予防、避難訓練、不審者対策)	【キーワード：risk management、避難訓練、不審者対策、安全教育、感染症対策、ヒヤリ・ハット報告、情報のデータ化】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	7	保育者の組織的協働（3）：チームとしての学校、多職種・地域社会との連携・分担	【キーワード：チームとしての学校、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、看護師、特別支援教育支援員、臨床心理士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、地域資源の活用】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	8	保育者の専門性（1）：生活と遊びを通して	【キーワード：生活に必要なきまり、生活に伴う倫理的雰囲気、遊びの環境構成、遊びの援助・指導】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	9	保育者の専門性（2）：指導案作成と環境構成の意義	【キーワード：指導計画作成の注意点、環境構成の意義、子どもの前に立つときの注意点】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	10	保護者対応(1)： 登・降園時の留意点と連絡帳の役割	【キーワード：園バス送迎、礼儀・マナー、情報共有、連絡帳の役割、連絡帳の書き方】 ※授業内で、実際に連絡帳の返事を書き提出する。
	11	保護者対応(2)： 園だより・クラスだより	【キーワード：園だより・クラスだよりの役割、クラスだよりの書き方】 ※授業内で、実際にクラスだよりを作成し提出する。
	12	保護者対応(3)： クレーム対応から何を学ぶか	【キーワード：苦情解決、保護者のニーズ、理不尽なクレーム】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	13	保育者の資質向上とキャリア形成(1)：産前産後休業・育児休業、男性保育者	【キーワード：産休と育休、保母から保育士へ、男性保育者の悩み】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	14	保育者の資質向上とキャリア形成(2)：専門性の発達と研修体制（反省的実践家を目指して）	【キーワード：反省的実践家、行為のなかの省察、Donald Alan Schön、研修の種類、初任者研修、中堅教諭等資質向上研修、保育者の専門性】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	15	まとめ：これからの保育者に求められるもの（マネジメントとリーダーシップ）	第15回終了後、授業内容に基づく最終レポートを作成し期限までに提出する。
定期試験	試験期間中の試験に代わって、全講義終了後に最終レポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	復習：学習した内容について、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら整理しておく（毎回1時間程度）。 予習：次回の授業内容について、上記「補足説明」欄のキーワードなどを事前に調べ、理解しておく（毎回1時間程度）。 ※最終レポート作成には、多くの時間が必要となる。		
教科書	使用しない。適宜、資料を配布する。		
参考図書、教材、準備物等	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018）		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	毎授業終了時に提出する小課題については、次回授業の冒頭でフィードバック（特徴的な意見の紹介、全体の傾向など）する。また最終レポートについては、授業担当者が添削し採点を付したPDFデータをMoodle上で返却することでフィードバックする。なお、成績評価を含め授業内容に関する質問等がある場合は、Moodleのメッセージや電子メール（masuda@jin-ai.ac.jp）の利用、研究室訪問（オフィスアワー）などの手段が可能である。		

評価の配点比率	目標①授業内小課題 10%、最終レポート 20% 目標②授業内小課題 10% 目標③授業内小課題 10% 目標④授業内小課題 10% 目標⑤授業内小課題 10% 目標⑥最終レポート 30%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 子ども家庭支援の心理学　　授業コード： 2121701　2121702

英文科目名称： Psychology of child-and-family support

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
千崎　愛			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	講義	ナンバリング：21B502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、生涯発達に関する心理学・精神保健の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解することである。また、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係、現代の社会状況に基づいて、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。	ＤＰ２	40
	②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。	ＤＰ２	20
	③子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題について理解する。	ＤＰ３	20
	④子どもの精神保健とその課題について理解する。	ＤＰ２	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	乳児期の発達	誕生から2歳頃までの初期発達の特徴とこの時期に必要な保育者の関わりについて理解する。
	2	幼児期の発達	幼児期の発達段階における認知、社会性、自我の発達を理解する。発達精神病理学の観点から幼児期における保育者の役割について考える。
	3	学童期の発達	小学校入学以降の学童期前期の発達の特徴を理解する。乳幼児期から学童期に移行する際に起こる発達と教育の諸問題について考える。
	4	青年期の発達	学童後期から青年期かけての身体的発達、認知発達、対人関係、問題行動について理解する。
	5	成人期・中年期の発達	成人期・中年期の発達、対人関係や役割の変化について理解する。
	6	高年期の発達	高年期における発達、高年期を取り巻く社会状況、高齢福祉や支援などについて理解する。
	7	中間試験、中間まとめ	1～6回の授業内容について中間試験(60分)を実施し、解説する(30分)。
	8	家族・家庭の意義と機能、 家族関係・親子関係の理解	家族に関する基本的な理解をもち、家族関係・親子関係を支援するための理論や技法について学ぶ。
	9	子育ての経験と親としての育ち	保護者に対する子育て支援を行うために、親の意識や心理を理解し、親としての育ちについて学ぶ。
	10	子育てを取り巻く社会的状況、 ライフコースと仕事・子育て	日本における子育てをめぐる状況を理解する。ライフコースの視点から人の生涯発達を理解する。
	11	多様な家族とその理解	近年、多様化する家庭のありよう、家族の関係に焦点をあて、家族関係の移行を経験する家庭状況や課題について学ぶ。
	12	特別な配慮を要する家庭	不適切な養育と家族の機能不全について理解する。
	13	子どもの生活・生育環境とその影響	子どもの年齢に応じて必要とされる生育環境について理解し、適切な生育環境が整えられない場合に子どもの精神状態に与える影響について学ぶ。
	14	子どものこころの健康にかかわる問題	子どものこころの健康の課題や問題について理解する。

	15	子どものこころの健康にかかわる問題の対応	子どものこころの健康の課題や問題の対応について学ぶ。
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。		
準備学習に必要な時間	毎回３時間程度の授業外学習を前提として、試験を実施する。 復習：授業ごとに2時間程度の事後学習として、授業内容を復習すること。 予習：次回の授業の教科書の指定範囲を読み、重要と思われる内容をノートにまとめること(1時間程度)。		
教科書	白川佳子・福丸由佳（編）『新・基本保育シリーズ９　子ども家庭支援の心理学』（中央法規出版 2019） その他、適宜資料を配布する。		
参考図書、教材、準備物等	参考図書については授業中に紹介する。必要に応じて資料を配布する。配布資料はファイルを作成し綴じておくことが望ましい。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	この授業の進め方、取り組み方、試験、評価については、第1回目の授業の冒頭に説明する。		
評価の配点比率	試験：100％ 目標①：中間試験40％、 目標②：期末試験20％、 目標③：期末試験20％、 目標④：期末試験20％		
受講上の注意	疑問点は授業中に質問することが望ましい。 自分が保育者になった時に子どもやその家庭を理解し、支援・対応できる実践的知識を身につけましょう。		
教員の実務経験	公認心理師・臨床心理士としての実務経験を活かし、子ども家庭を支援するために必要な知識や援助方法について講義を行う。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 子ども理解の理論と援助方法　　授業コード： 2121801　2121802　2121803

英文科目名称： Theories and Methods for Understanding Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
中尾　繁史			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21B111
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、様々な心理学的知識を既習概念と対応させながら体系的に学び、行動観察や発達検査を通して子どもの理解に資する知識および技術を習得することを目的とする。子どもの問題行動や発達障害等の特徴とその指導法について理解を深め、適切な子ども理解ができる保育者としての実践力を養う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	乳幼児の発達を理解することの意義を説明できる。	ＤＰ１	20
	乳幼児の発達状況を捉えるための様々な心理学の理論・概念を理解し、概説できる。	ＤＰ２	20
	乳幼児の発達状況を捉えるための様々な手法について理解し、環境や各種資源の制約のもと、乳幼児の発達を捉えるための適した方法について説明できる。	ＤＰ３	30
	様々な情報から乳幼児の発達状況を評価し、発達状況に即した援助方法を考えることができる。	ＤＰ６	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	子どもを理解することとは 授業冒頭にオリエンテーションを実施する。	「子どもの発達を理解すること」は、自分の中でどのような位置づけなのかを確認するため、グループワークを実施する。 事後学習：配布する様式に合わせて、実習やボランティアでの子どもの発達を実感した体験をまとめること。
	2	乳児期の発達とその理解(1)：発達課題と子どもの行動の対応	乳児期の子どもの発達について、どのような行動が発達を理解する指標となりうるのかを学ぶ。 事前学習：第1回で示されたテーマについて200文字程度で言語化しておくこと。 事後学習：どのような客観的指標が発達理解に役立つかをまとめておくこと。
	3	乳児期の発達とその理解(2)：親と子どもの様子	愛着形成の過程を理解し、乳児期の愛着形成がいかに重要なのかを学ぶ。 事前学習：自分と親との愛着形成について、第2回で示す様式でまとめておくこと。 事後学習：愛着形成の重要性を概説できるようにまとめておくこと。
	4	行動観察法と質問紙法の理解(1)：遠城寺式乳幼児分析的発達検査法の紹介 乳児期の発達に関する小レポート課題を提示する。	遠城寺式乳幼児分析的発達検査法について学ぶ。 事後学習：検査内容をまとめておくこと。
	5	幼児期の発達とその理解(1)：集団の中での子どもの行動	集団の中で子どもの様子をどのように捉えるのか、映像を活用して観察する。社会性の発達に着目することの重要性を理解する。 事後学習：社会性の発達について概説できるようにまとめておくこと。
	6	幼児期の発達とその理解(2)：4歳から6歳頃の子どもの認知機能と行動	3歳以降の子どもの発達の個人差や、認知機能と行動の関係について学ぶ。 事後学習：幼児期の知的発達の過程についてイメージ

			を持てるように学習内容を整理しておくこと。
	7	幼児用個別式発達検査（新版K式発達検査2001）の実施(1)	発達検査を実施し、検査内容を理解する。 事前学習：新版K式発達検査について情報収集しておくこと。 事後学習：自分の担当した検査項目について配布する様式に従いまとめておくこと。
	8	幼児用個別式発達検査（新版K式発達検査2001）の実施(2)	発達検査を実施し、検査内容を理解する。それぞれが担当した検査項目についてグループで共有し、第9回の検査結果の解釈に備える。
	9	幼児用個別式発達検査（新版K式発達検査2001）の解釈 個別実施検査に関する小レポート課題を提示する。	発達検査の解釈方法を学ぶ。第7回と第8回の内容をグループで共有しておく必要がある。 事後学習：配布する様式に従い、グループでの検査結果の解釈をまとめる。
	10	行動観察法と質問紙法の理解(2)：生活能力評価	代表的な生活能力評価指標を紹介する。
	11	行動分析と記録方法	ABC分析と行動記録を体験する。ロールプレイから行動分析と行動記録を試みる。 事後学習：配布する様式に従い、任意の特定の人物の行動観察を実施すること。
	12	子育てファイル「ふくいっ子」にみる理解と援助	福井県が作成した『子育てファイル「ふくいっ子」』にふれ、実際に評価を行う。
	13	ビデオによる事例分析の方法 行動観察と記録に関する小レポート課題を提示する。	保育者によるビデオ撮影と映像の利用について検討する。 事前学習：保育室のビデオ記録について、情報収集しておくこと。
	14	保護者支援のための子ども理解	保護者支援に不可欠な、保護者に寄り添うためのコミュニケーション方法についてグループワークで検討する。
	15	保育者の資質 最終レポート課題を提示する。	保育者の資質について、授業内容を振り返りながら考えをまとめる。 「子どもの発達を理解すること」についての考えは、第1回からどのように変化したのかをまとめよう。
定期試験	試験期間中の試験に代わって、全講義終了後に最終レポートを課す。		
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事前学習と事後学習が必要である。事前学習として各回のテーマについて情報収集を行うこと。事後学習として授業中に提示するテーマについてまとめておくこと。特に最終レポートの制作時には多くの時間が必要となる。		
教科書	テキスト：使用しない。必要に応じて資料を配布する。		
参考図書、教材、準備物等	参考図書： 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018）		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	小レポートにはコメントを付して返却する。		
評価の配点比率	目標①小レポート20％ 目標②小レポート20% 目標③小レポート30% 目標④最終レポート30%		
受講上の注意	各回の授業への質問や感想をミニッツペーパーを活用して収集し、次の授業冒頭でフィードバックを行う。ミニッツペーパーを積極的に活用することが望ましい。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 子ども家庭支援と教育相談　　授業コード： 2121901　2121902

英文科目名称： Principles of Family Support and Educational Counseling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
中尾　繁史			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格選択	講義	ナンバリング：21B501
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、教育相談を実施し子育て家庭を支援する際に必要となる基礎知識の習得と、教育相談と子育て家庭の支援を実施するための具体的方略を学ぶことを目的とする。子どもだけでなく保護者について起こる問題についても理解を深め、問題解決のために第三者も含めて支援体制を構築し、どのように支援体制を維持するかを実践的に学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	「子ども家庭支援と教育相談」を保育者が行う意義について説明できる。	ＤＰ１	40
	「子ども家庭支援と教育相談」に関わる基礎的な理論・概念を理解し、概説できる。	ＤＰ２	20
	「子ども家庭支援と教育相談」の進め方やポイントについて、支援体制の構築や社会資源の活用などをふまえて説明できる。	ＤＰ６	20
	発達障害や要保護児童など、乳幼児と家庭をとりまく教育的・社会的課題について、その多様性を理解している。	ＤＰ７	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	教育相談の定義と歴史	授業の進め方についてオリエンテーションを実施する。 事後学習：教育相談の歴史的変遷について概説できるように配布資料を整理すること。
	2	基礎理論(1)：ライフサイクルと心理的問題の理解	我々が直面するであろう人生の様々な局面における心理的問題について、自身のこれまでの経験を踏まえながら考察していく。 事前学習：これまでに悩んだことがある様々な内容を思い起こし、言語化できるように300文字程度で文章化しておくこと。 事後学習：ライフイベントに特有の心理的問題について概説できるように配布資料を整理すること。
	3	基礎理論(2)：保育者の基本的態度（カウンセリングマインド）	カウンセリングマインドを基礎を学ぶために、ロールプレイを実施する。積極的に参加すること。 事前学習：バイスティックの7原則について情報収集しておくこと。 事後学習：カウンセリングマインドについて概説できるように配布資料を整理すること。
	4	基礎理論(3)：アセスメント方法 第1回の小レポートの課題を提示する。	子どもの発達を評価する各種の発達検査や知能検査について紹介する。 事前学習：第3回で提示するキーワードを元に書籍やインターネットなどでアセスメント方法の特徴について情報収集しておくこと。 事後学習：発達検査や知能検査の特徴について的確に述べられるようにまとめておくこと。
	5	事例(1)：子どもの障害、虐待	子どもの障害や虐待など、養育・発育環境に影響を及ぼしうる様々な事象について理解する。 事前学習：インターネットを活用して子どもの障害や虐待に関する記事を5件程度収集すること。 事後学習：子どもの養育・発育環境を悪化させる様々

			な事象について概説できるようにまとめておくこと。
	6	事例(2)：問題行動、習癖	子どもの問題行動や習癖など、養育・発育環境に影響を及ぼしうる様々な事象について理解する。 事前学習：インターネットを活用して子どもの習癖に関する情報を収集すること。 事後学習：子どもの養育・発育環境を悪化させる様々な事象について概説できるようにまとめておくこと。
	7	教育相談と子育て家庭の支援を並行することの重要性	なぜ、教育相談と子育て家庭の支援を並行して行う必要があるのかを理解する。保護者と保育者のロールプレイを元に、グループワークで支援方法を検討する。 事前学習：自身の親子関係について、第6回に提示するテーマを元に300文字程度で文章化しておくこと。 事後学習：返却される第1回の小レポートを元に、授業内容を整理しておくこと。
	8	基礎理論(4)：育児不安とストレス	現代的な子育て家庭が抱える育児不安やストレス、さらには育児不安やストレスに起因する課題について理解する。 事前学習：第7回で提示する育児不安に関するキーワードを元に情報収集すること。 事後学習：育児不安やストレスを低減するために必要なことを概説できるように配布資料を整理すること。
	9	基礎理論(5)：精神障害	思春期以降に起こりやすい精神障害と、親の心理状態の関連を理解する。 事前学習：第8回で提示する精神障害に関するキーワードを元に情報収集すること。 事後学習：親の心理状態を知る様々な指標について概説できるように配布資料を整理すること。
	10	基礎理論(6)：介入方法（行動療法、集団療法）	子どもと保護者のそれぞれを対象とした行動療法と集団療法について理解する。 事前学習：第9回で提示する心理療法に関するキーワードを元に情報収集すること。 事後学習：様々な心理療法の特徴について概説できるように配布資料を整理すること。
	11	事例(3)：子どもの発達や育て方に関する相談支援 第2回の小レポートの課題を提示する。	子どもの行動変容を元にした保護者との関係構築を理解する。 事前学習：実習での体験をもとに、第10回で示されるテーマについて300字程度で文章化しておくこと。 事後学習：カウンセリングマインドについて概説できるように配布資料を整理すること。
	12	事例(4)：親の様々な悩みの相談	保護者が抱える様々な悩みについて理解を深める。 事前学習：実習での体験をもとに、第11回で示されるテーマについて文章化しておくこと。 事後学習：第11回の内容も併せて、保護者との関係構築の方法を概説できるように資料を整理すること。
	13	子ども家庭支援と教育相談を円滑に行うための園内体制	子育て家庭の支援と教育相談を円滑に行うための環境構成を中心に、どのような視点が必要かをグループワークを通して理解する。 事前学習：実習での体験をもとに、第12回で示されるテーマについて文章化しておくこと。 事後学習：園内体制の構築と維持について概説できるように配布資料を整理すること。
	14	地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携 第3回の小レポートの課題を提示する。	地域の専門機関について、事前の情報収集を元に理解を深める。 事前学習：インターネットを活用して医療機関や福祉施設などの情報収集をしておくこと。 事後学習：返却される第2回の小レポートを元に、授業内容を整理しておくこと。
	15	子ども家庭支援と教育相談の課題 最終レポートの課題を提示する。	これまでの授業の総括と課題について整理する。 事後学習：最終レポート作成に向けて、配布資料を整理すること。

定期試験	試験期間中の試験に代わって、全講義終了後に最終レポートを課す。
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事前学習と事後学習が必要である。事前学習として各回のテーマについて情報収集を行うこと。事後学習として授業中に提示するテーマについてまとめておくこと。特に小レポート、最終レポートの制作時には多くの時間が必要となる。
教科書	使用しない。必要に応じて資料を配布する。
参考図書、教材、準備物等	参考図書： 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	小レポートにはコメントを付して返却する。
評価の配点比率	目標①最終レポート40% 目標②小レポート20% 目標③小レポート20% 目標④小レポート20%
受講上の注意	各回の授業への質問や感想をミニッツペーパーを活用して収集し、次の授業冒頭でフィードバックを行う。ミ

	ニッツペーパーを積極的に活用することが望ましい。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 子どもの保健　　授業コード： 2122001　2122002

英文科目名称： Child Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
齋藤　正一			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	講義	ナンバリング：21B114
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、子どもの生命を守り心身の健康を増進するに必要な情報･知識を身につけることである。成長･発達の基礎、子どもの健康、健全な成長･発達のありかた、疾病やケガとそれらへの予防と対処など、子どもの生育環境、家庭や他職種との連携の重要性とも併せて学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標① 子どもの健康と健全な成長･発達のありかたを理解し、説明できる。	ＤＰ２	35
	目標② 「こころとからだの健康」という観点から、子どもと成人との違いを理解する。	ＤＰ２	35
	目標③ 子どもの病気やケガ、その予防と対策、発生時の処置に関する知識を自身が修得し、子どもに接する他者（家族など）にも教えることができる。	ＤＰ３	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	成長･発達、子どもの定義と特徴	導入講義。事前：講義前に教科書の全ての目次に目を通しておく。講義用プレゼンテーションをＬＭＳに置くので、各自のペースで読み（聴き）進めてゆく。事後：プレゼン中に案内する教科書の該当箇所を精読する。プレゼンは全ての講義が終了するまで見られる状態にしておくので、理解が十分でないと感じたところを受講後にも見直す。
	2	発育の全体像と発育曲線	事前：教科書の該当箇所の見出し･キーワード･図表に目を通しておく。講義用プレゼンテーションをＬＭＳに置くので、各自のペースで読み（聴き）進めてゆく。事後：プレゼン中に案内する教科書の該当箇所を精読する。プレゼンは全ての講義が終了するまで見られる状態にしておくので、理解が十分でないと感じたところを受講後にも見直し、必要に応じてプリントをダウンロード･印刷して知識を確かにする。
	3	成長とその評価	同上
	4	発達（１） 発達の概要、知覚と運動の発達	同上
	5	発達（２）言語、情緒、自我の発達	同上
	6	発達（３）知能と発達の評価	同上
	7	小児の栄養	同上
	8	子どもの病気、大人の病気との違い	同上
	9	小児期トラブルの予防･対策･処置	同上
	10	出生と新生児期	同上
	11	周産期疾患、新生児疾患	同上
	12	感染症	同上
	13	感染症の予防と対策	同上
	14	小児の非感染性疾患	同上

	15	小児固有の疾患、授業全体のまとめ、期末課題の案内	終了した講義のプレゼンテーションと配布済みプリントを見返し、期末レポートの準備をする(復習)。
定期試験	講義終了後に課題を提示し、期末レポートの提出を求める。		
準備学習に必要な時間	未知の内容が多いので、 所定の学習時間を復習に重点配分する こ と。 未知の内容が多いので、学習時間は復習に重点配分すること（例：予習1時間、復習3時間）。 予習： 事前に案内した内容を中心に、教科書の該当箇所に目を通しておく。 復習： 授業中に強調された重要事項をふり返り、案内された教科書の箇所を精読し、必要ならプリントをダウンロード･印刷して見直す。		
教科書	巷野悟郎（編）　『子どもの保健』　7版（増補）　診断と治療社2018		
参考図書、教材、準備物等	教材： 以下をＬＭＳにアップロードする。①各回の講義プレゼンテーション（全15回の講義が終了するまで閲覧可能な状態で残置すす。）、②プリントのファイル（ダウンロード･印刷用）。各回の講義内容は、それ以前に学んだ事柄と関連付けることで理解が深まるので、繰り返し参照して復習に利用するとよい。 準備物： プリントの保存用にファイルフォルダー（Ａ４サイズ）を準備しておくとよい。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	各回の講義の後、小テストを行う。その目的は、①知識の整理、②理解度の評価、③さらなる理解の深化なので、小テストの解答後、正解を提示するとともに必要により解説を加える。充分な理解が得られない、あるいは誤解が生じていることが推測される場合は、次の回以後の講義で再度解説する。なお、小テストは成績評価にも用いる（下記）。		
評価の配点比率	目標① 小テストの成績40％ 目標② 期末レポートの成績 40％ 目標③ 小テストの成績 20％		
受講上の注意	感染防止の観点から対面授業が困難なため、令和３年度は遠隔講義とする。講義は非同期･オンデマンド形式で、小テスト解答や課題その他の応答を含め、すべてＬＭＳの上で行う。 ①授業は講義のプレゼンテーションを受講者自身が独自のペースで読み（聴き）進め、受講終了後に小テストを受ける形式にする。 ②プレゼンテーションには音声による説明が入るが、音声の利用ができない受講者にも配慮し、音声が聴けなくても充分な理解が得られるよう、スライド等を工夫する。 ③個人所有のスマートフォンによる受講も可能とするが、最善の受講環境として以下を推奨する。１）ネットワークに接続され、通信ソフトウェアとファィルのアップ/ダウンロードが可能なパーソナル･コンピュータと、２）プレゼンテーションマネジャー、またはビューイングアプリケーションソフトウェア（例：マイクロソフト社製パワーポイント、またはビュワー）が利用可能であること、３）ダウンロードしたファイルが印刷できるプリンタがあること。 ④環境が整わないなど、不便や不都合を感じる場合には、可及的速やかに大学（アドバイザ教員、学び支援課など）の助言や支援を求めること。 ⑤その他、受講にあたって必要な事柄は、講義開始前にＬＭＳに掲示して案内するとともに、初回の講義でも説明する。		
教員の実務経験	病院等における40年以上の小児科の臨床経験にもとづき、健全な発育をめざした子どもや保護者への対応、配慮、助言等について講じる。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 子どもの食と栄養Ⅱ　　授業コード：2122101　2122102　2122103

英文科目名称： Nutrition for ChildrenⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
木内　貴子			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	演習	ナンバリング：21B503
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、子どもの発育・発達をふまえ、健康でたくましく育つために保育者に求められる食育の基本と内容を学び、実践力を高めることである。授業では、妊娠（胎児）期、乳児期、幼児期、学童期の各ライフステージにおいて、子どもの発育・発達のために必要な栄養と食生活、食環境に関する知識について学習する。また、社会や家庭環境の変容を受け、さまざまな問題を抱える子どもの食生活の現状を考察し、子どもの育ちを意識した食育について考える。

授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深め、援助・指導ができる	ＤＰ２	30
	目標②調理実習を通して、発達段階に応じた食事づくりができる	ＤＰ３	10
	目標③保育所における食育の基本と内容、進め方について理解できる	ＤＰ４	25
	目標④心身の特徴と食生活の関係についての基本的な知識を習得し、食行動の諸問題について対応ができる	ＤＰ６	25
	目標⑤グループ活動では和を尊重し協力しながら学びを高めることができる	ＤＰ９	10

本科目で身に付ける学習成果(DP)		
	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス　妊娠・胎児期の食生活	妊娠と母体の変化、妊娠中の食生活 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：妊娠・胎児期に必要な栄養素について整理する
	2	乳児期の食生活と栄養	乳児期の発育と栄養の特徴、母乳栄養の意義 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：母乳栄養、人工栄養それぞれの利点、問題点を整理する
	3	離乳期の食生活と栄養	離乳の意味、離乳の進め方の基本、「授乳・離乳の支援ガイド」 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：「授乳・離乳の支援ガイド」を参考に離乳食の進め方を整理する
	4	幼児期の食生活	幼児期の発育に伴う食行動の変化と課題 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：幼児期の食の問題と気になる行動について整理する
	5	幼児期の栄養	幼児期に必要とされる栄養素の特徴と適切な量 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習間食の意義について整理する
	6	学童期の食生活と栄養	学童期の食生活の特徴、小学校給食の栄養と内容 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：小学校給食の特徴をまとめる
	7	家庭や児童福祉施設の食事と栄養	児童福祉施設の種類と食事の特徴、家庭における食事の現状 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：児童福祉施設の給食の特徴を整理する
	8	食育の基本と内容	食育とは、食育の目的、保育所における食育 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：保育所保育指針における「食を営む力」に

			ついて自分の考えをまとめる
	9	食育の計画	食育の年間計画、食育指導案、評価の方法 事前学習：範囲の教科書を読む、食育指導案作成のための情報収集 事後学習：食育指導案の作成、見直し、修正媒体づくりに必要な資料検討、媒体作成
	10	食育の実践	食育の実践発表：食育計画を実際に展開・表現、振り返り 演習：食育指導案に沿った食育講座の実践 事前学習：発表準備 事後学習：発表の振り返り
	11	地域や家庭と連携した食育	地域との連携、家庭への支援 事前学習：食育の取り組みを行うための地域資源の情報収集 事後学習：地域、家庭への情報発信方法について考察する
	12	調理における衛生管理・安全管理	調理上の衛生・清潔、災害時の食事 事前学習：子どもの食事づくりにおける衛生管理について調べる 事後学習：保育所における食品を含めた備蓄についてまとめる
	13	乳児期の食事	乳児期の食事づくり 事前学習：衛生管理について確認する（身だしなみ） 事後学習：実習報告書の作成
	14	幼児期の食事	14・15回、2回の授業を使用して調理実習 事前学習：衛生管理について確認する（身だしなみ） 事後学習：実習報告書の作成
	15	幼児期の食事	14・15回、2回の授業を使用して調理実習 事前学習：衛生管理について確認する（身だしなみ） 事後学習：実習報告書の作成
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施します。		
準備学習に必要な時間	毎回１～2時間程度の事前・事後学習を要します。事前学習では教科書の予定範囲部分を読んでおきましょう。事後学習で授業内容をノートにまとめるようにしましょう。		
教科書	岩田章子 寺嶋昌代 編　「新・子どもの食と栄養」（㈱みらい　2021）		
参考図書、教材、準備物等	小川雄二「子どもの食と栄養　第３版」（㈱建帛社　2018）　厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018）　その他、適宜案内します。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方については第1回目のガイダンスで詳しく説明します。提出物は期日厳守とします。課題の内容が十分でない場合は再提出となることがあります。		
評価の配点比率	期末定期試験40％　課題45　グループワーク10％　調理実習5％ 目標①期末定期試験15％　課題15％ 目標②調理実習5％　課題5％ 目標③期末定期試験10％　課題15％ 目標④期末定期試験15％　課題10％ 目標⑤グループワーク10％ 実習態度、課題の内容を総合的に評価する		
受講上の注意	この授業を通して、子どもの発育・発達をふまえた食生活を理解し、「食を営むを力」の育成に向けて、家庭や地域支援ができる保育者をめざしましょう。グループワークに備え、下調べ、情報収集をしましょう。調理実習ではマニュキュアを取る、清潔なエプロンを着用するなど身なりを整え、衛生管理に努めましょう。また、けがのないように注意しましょう。		
教員の実務経験	保育園において栄養士経験がある教員が、現代の子どもの食を取り巻く環境をふまえ、適正な食習慣を支援するための食育について講義し、実践的な演習を行う。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 保育内容総論　　授業コード： 2122201　2122202　2122203

英文科目名称： Contents of Early Childhood Education and Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	必修
担当教員			
松川　恵子			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C511
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、実習経験を基に、乳幼児期の教育・保育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示されたねらい及びないようについて理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定した指導案を作成し、模擬保育を行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①幼稚園教育要領、保育所保育指針等における乳幼児期の教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解し、説明できる。	ＤＰ１	10
	目標②乳幼児期の教育・保育において育みたい資質・能力を踏まえて、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導法を理解し、説明できる。	ＤＰ４	30
	目標③乳幼児期の教育・保育における評価の考え方を理解し、説明できる。	ＤＰ５	10
	目標④領域ごとに乳幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科とのつながりを理解し、説明できる。	ＤＰ６	10
	目標⑤各領域の特性や乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育の構想に活用することができる。	ＤＰ４	10
	目標⑥指導計画の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導計画を作成することができる。	ＤＰ５	10
	目標⑦模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。	ＤＰ５	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	第１回	授業の概要（オリエンテーション） 子どもの発達に応じた指導計画の作成及び評価について	事前に、本授業の講義概要を読んでおきましょう。 事後に、実習で担当した子どもたちの発達の状況を振り返り、指導計画を作成しましょう。【課題１】
	第２回	乳幼児の教育・保育の基本について①（環境を通して行う教育・保育、乳幼児期の教育・保育における見方・考え方）	事前に、「幼稚園教育要領解説」26頁～32頁を読んでおきましょう。 事後に、テキスト『保育内容総論』93頁～104頁を復習しましょう。
	第３回	乳幼児の教育・保育の基本について②（生活や遊びを通しての総合的な指導）	事前に、「幼稚園教育要領解説」33頁～40頁を読んでおきましょう。 事後に、テキスト『保育内容総論』105頁～116頁を復習しましょう。 その上で、「乳幼児期の教育・保育の基本」についてまとめましょう。【課題２】
	第４回	養護と教育の一体的な展開及び養護のねらい・内容について	事前に、「保育所保育指針解説」30頁～37頁を読んでおきましょう。 事後に、テキスト『保育内容総論』13頁～24頁を復習しましょう。
	第５回	乳児保育に関わるねらい及び内容について（3つの視点）	事前に、「保育所保育指針解説」86頁～120頁に目を通しておきましょう。 事後に、テキスト『保育内容総論』25頁～28頁を復習しましょう。
	第６回	１歳以上３歳未満児の保育に関わるねらい及び内容について（５領域の視点）	事前に、「保育所保育指針解説」121頁～181頁に目を通しておきましょう。 事後に、テキスト『保育内容総論』28頁～29頁を復習しましょう。
	第７回	３歳以上児の保育に関わるねらい及び内容について（５領域の視点）	事前に、「保育所保育指針解説」182頁～281頁に目を通しておきましょう。 事後に、テキスト『保育内容総論』29頁～36頁を復習しましょう。

	第８回	０歳児の発達と保育内容	事前に、保育所実習の実習日誌を振り返り、０歳児の姿を思い出しておきましょう。 事後に、「０歳児の発達と保育内容」についてまとめましょう。【課題３】
	第９回	１・２歳児の発達と保育内容について	事前に、保育所実習の実習日誌を振り返り、１・２歳児の姿を思い出しておきましょう。 事後に、「１・２歳児の発達と保育内容」についてまとめましょう。【課題４】
	第10回	満３歳児クラスの指導計画と実践・評価（模擬保育と相互評価）	事前に、保育所実習の実習日誌を振り返り、満３歳児クラスの子どもの姿を思い出しておきましょう。 事後に、「満３歳児クラスの子どもの発達と保育内容」についてまとめましょう。【課題５】
	第11回	３歳児クラスの指導計画と実践・評価（模擬保育と相互評価）	事前に、幼稚園実習・保育所実習の実習日誌を振り返り、３歳児クラスの子どもの姿を思い出しておきましょう。 事後に、「３歳児クラスの子どもの発達と保育内容」についてまとめましょう。【課題６】
	第12回	４歳児クラスの指導計画と実践・評価（模擬保育と相互評価）	事前に、幼稚園実習・保育所実習の実習日誌を振り返り、４歳児クラスの子どもの姿を思い出しておきましょう。 事後に、「４歳児クラスの子どもの発達と保育内容」についてまとめましょう。【課題７】
	第13回	５歳児クラスの指導計画と実践・評価（模擬保育と相互評価）	事前に、幼稚園実習・保育所実習の実習日誌を振り返り、５歳児クラスの子どもの姿を思い出しておきましょう。 事後に、「５歳児クラスの子どもの発達と保育内容」についてまとめましょう。【課題８】
	第14回	教育・保育における観察と記録及び評価・改善	事後に、「教育・保育における観察と記録及び評価・改善」についてまとめましょう。【課題９】
	第15回	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」及び小学校との接続、保育の多様な展開について	事前に、「幼稚園教育要領解説」50頁～73頁を読んでおきましょう。 事後に、テキスト『保育内容総論』143頁～154頁を復習しましょう。 その上で、「保育の内容と小学校の教科とのつながり」についてまとめましょう。【課題10】

定期試験	定期試験に代わって、課題、模擬保育、ポートフォリオで評価する。
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事前・事後学習が必要です。特に、指導計画作成、模擬保育の実施にあたっては、各自入念な準備を行ってください。
教科書	石川昭義・松川恵子編『新基本保育シリーズ⑭　保育内容総論』（中央法規 2019） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館 2018）
参考図書、教材、準備物等	適宜、資料を配布します。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題は、評価をした上で必要に応じて添削し、フィードバックします。
評価の配点比率	目標①：課題２（10%）　目標②：課題３～８（30%）　課題③：課題９（5%）ポートフォリオ（5%） 目標④：課題10（5%）ポートフォリオ（5%）　目標⑤：課題１（5%）ポートフォリオ（5%） 目標⑥：課題１（5%）ポートフォリオ（5%）　目標⑦：模擬保育（15%）課題９（5%）
受講上の注意	提出物は期限を守りましょう。提出物の遅れについては減点します。 配布した資料は、ファイルを作成して綴じておきましょう。（授業終了後、ポートフォリオとしてまとめ、提出してもらいます。）
教員の実務経験	保育者としての実務経験を活かし、子どもの発達に即した指導計画作成、模擬保育の実施、評価等に関する指導を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： うたと伴奏Ⅰ　　授業コード： 2122301

英文科目名称： Singing and the piano accompaniment Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
木下　由香・川﨑　美砂子			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21D501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、保育現場で歌われる幼児の歌のピアノ弾き歌いの技能を身につけることである。テーマに沿った課題曲に歌唱とピアノ伴奏付けの二方面から取り組み、保育に必要な音楽表現力を高める。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①歌唱やピアノ演奏をするために必要不可欠な楽典（音楽の決まり）を理解し、楽譜を読むことができる。	ＤＰ４	20
	目標②創意工夫を生かした音楽表現をするために、音符を正しく読み取る基礎技能を身につけ、正確な音程で表情豊かに歌うことができる。	ＤＰ４	20
	目標③楽譜から音楽を形づくっている要素を知覚し、音程・リズム・音型の判断をしながら、歌唱やピアノ演奏につなげることができる。	ＤＰ６	20
	目標④幼児の歌に関心を持ち、歌唱やピアノの学習に主体的に取り組もうとする。	ＤＰ７	20
	目標⑤グループやペアでの合唱や演奏などに積極的に参加し、他者との関係づくりができる。	ＤＰ７	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス 保育現場におけるピアノの役割と保育者の役割について考える。	木下、川﨑担当
	2	幼児の歌①歌唱 右手で歌の旋律を弾きながら、はっきりと伝える歌い方ができる。	川﨑担当
	3	幼児の歌①ピアノ コードの読み方を理解することができる。	木下担当
	4	幼児の歌②歌唱 右手で旋律を弾きながら、簡単な左手をつけて音楽的に歌うことができる。	川﨑担当
	5	幼児の歌②ピアノ コードの付け方を理解することができる。	木下担当
	6	幼児の歌③歌唱 歌譜を読み、和音を感じ、右手で弾きながら表情豊かに歌うことができる。	川﨑担当
	7	幼児の歌③ピアノ コードネームをつけ、両手で演奏し、さらに曲想にあった伴奏型を選ぶことができる。	木下担当
	8	幼児の歌④歌唱 ヘ長調の曲を歌う。	川﨑担当
	9	幼児の歌④ピアノ 移調奏をすることができる	木下担当
	10	幼児の歌⑤歌唱 ヘ長調の曲を歌う②リピート記号を正しく読み取り、ハ長調との違いを感じながら表情豊かに歌う。	川﨑担当
	11	幼児の歌⑤ピアノ 移調奏ができ、曲のイメージを表現することができる。	木下担当
	12	幼児の歌⑥歌唱 曲のイメージをふくらませて、歌の表現に生かすことができる。	川﨑担当

	13	幼児の歌⑥ピアノ 音のバランスを考えて演奏することができる	木下担当
	14	幼児の歌⑦歌唱 楽曲の分析および歌詞の理解を踏まえて、表情豊かな演奏をすることができる。	川﨑担当
	15	幼児の歌⑦ピアノ 楽曲の分析および歌詞の理解を踏まえて、表情豊かな演奏をすることができる。	木下担当
定期試験	定期試験期間中には行わない。		
準備学習に必要な時間	毎日30分間以上の練習を行ってください。どうしても鍵盤に触れることができない時は、楽譜を黙読するだけでも有効です。		
教科書	『こどものうた200』（小林美実編 チャイルド本社 1975)、『続こどものうた200』（小林美実編 チャイルド本社 1996）		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『こどものうた100』（小林美実監修 チャイルド本社 1982）、『こどものうた12か月』（井上勝義編 ひかりのくに 2003） 教材：適宜プリントを配布します。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	各回毎に課題を仁短Moodleに提出してもらいます。提出後、個別講評をフィードバックします。		
評価の配点比率	目標①20%、目標②20%、目標③20%、目標④20%、目標⑤20%		
受講上の注意	連絡事項等は仁短Moodleを使って連絡する。その他、質問等があれば、木下研究室（E102）を訪問するか、電子メール（kinoy@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： うたと伴奏Ⅱ　　授業コード： 2122401

英文科目名称： Singing and the piano accompaniment Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
後期	２年次	１単位	選択	
担当教員				
木下　由香・川﨑　美砂子				
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	演習		ナンバリング：21D512
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は、保育現場で歌われる幼児の歌のピアノ弾き歌いの技能を身につけることである。テーマに沿った課題曲に歌唱とピアノ伴奏付けの二方面から取り組み、保育に必要な音楽表現力を高める。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①歌唱やピアノ演奏をするために必要不可欠な楽典（音楽の決まり）を理解し、楽譜を読むことができる。	ＤＰ４	20
	目標②創意工夫を生かした音楽表現をするために、音符を正しく読み取る基礎技能を身につけ、正確な音程で表情豊かに歌うことができる。	ＤＰ４	20
	目標③楽譜から音楽を形づくっている要素を知覚し、音程・リズム・音型の判断をしながら、歌唱やピアノ演奏につなげることができる。	ＤＰ６	20
	目標④幼児の歌に関心を持ち、歌唱やピアノの学習に主体的に取り組もうとする。	ＤＰ７	20
	目標⑤グループやペアでの合唱や演奏などに積極的に参加し、他者との関係づくりができる。	ＤＰ７	20

本科目で身に付ける学習成果(DP)		
	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス 保育現場におけるピアノ弾き歌いを行う意義や保育者の役割について考える。	木下、川﨑担当
	2	幼児の歌①歌唱 ハ長調の曲を使用し、曲の内容を理解して子どもに伝える歌い方ができる。	川﨑担当
	3	幼児の歌①ピアノ ハ長調の和音について理解し、拍を感じて演奏することができる。	木下担当
	4	幼児の歌②歌唱 ハ長調の様々な曲想を理解し、子どもと共に楽しむ歌い方ができる。	川﨑担当
	5	幼児の歌②ピアノ ハ長調の様々な曲想を理解し、両手で弾くことができる。	木下担当
	6	幼児の歌③歌唱 ヘ長調の曲を使用し、発声に留意しながら音楽的に歌うことができる。	川﨑担当
	7	幼児の歌③ピアノ ヘ長調の和音について理解し、子どもの声や様子を感じながら演奏することができる。	木下担当
	8	幼児の歌④歌唱 ヘ長調の様々な曲想を理解し、子どもと共に楽しむ歌い方ができる。	川﨑担当
	9	幼児の歌④ピアノ ヘ長調の曲をリズムなど気をつけながら両手で弾くことができる。	木下担当
	10	幼児の歌⑤歌唱 ト長調の曲を使用し、様々な曲想を表現して音楽的に歌うことができる。	川﨑担当
	11	幼児の歌⑤ピアノ ト長調の和音について理解し、ピアノの音色を良く聞きながら両手で弾くことができる。	木下担当

	12	幼児の歌⑥歌唱 ニ長調の曲を使用し、様々な曲想を表現して音楽的に歌うことができる。	川﨑担当
	13	幼児の歌⑥ピアノ ニ長調の和音について理解し、曲の構成を理解しながら両手で弾くことができる。	木下担当
	14	幼児の歌⑦歌唱 変ホ長調や短調の曲を使用し、曲想を理解し表情豊かに歌うことができる。	川﨑担当
	15	幼児の歌⑧ピアノ 変ホ長調や短調の和音について理解し、曲想を踏まえて表情豊かな演奏をすることができる。	木下担当

定期試験	定期試験期間中には行わない。
準備学習に必要な時間	毎日30分間以上の練習を行ってください。どうしても鍵盤に触れることができない時は、楽譜を黙読するだけでも有効です。
教科書	『こどものうた200』（小林美実編 チャイルド本社 1975）、『続こどものうた200』（小林美実編 チャイルド本社 1996）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『こどものうた100』（小林美実監修 チャイルド本社 1982）、『こどものうた12か月』（井上勝義編 ひかりのくに 2003） 教材：適宜プリントを配布します。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	各回毎に課題を仁短Moodleに提出してもらいます。提出後、個別講評をフィードバックします。
評価の配点比率	目標①20%、目標②20%、目標③20%、目標④20%、目標⑤20%
受講上の注意	連絡事項等は仁短Moodleを使って連絡する。その他、質問等があれば、木下研究室（E102）を訪問するか、電子メール（kinoy@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 乳児の生活とあそび　　授業コード： 2122501

英文科目名称： Life and Play in Infants

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
小川　智枝・玉　節子・坂本　流美			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21C508
添付ファイル			

授業の概要	この授業では、乳児、および１歳以上３歳未満児における生活や遊びの様相やその発達的変化についての知識を習得し、乳児保育など他科目で学んだことをベースとして、具体的な関わり方について考察を深め、遊びのレパートリーを広げていくことを目的とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①乳児および3歳未満児の心身の発達を習得し、生活習慣の自立を促す保育の展開について説明できる。	ＤＰ２	26
	目標②個人差に応じた生活面の援助や、乳児および3歳未満児の自信や意欲につながる関わりができる。	ＤＰ３	12
	目標③コミュニケーションを通じて、職員同士が共通理解し、連携して保育することを学習し、子どもの行動や動線を予測して保育することができる。	ＤＰ７	12
	目標④乳児および3歳未満児の発達段階を踏まえた様々な「わらべうたあそび」の基本的演習を通して遊びのレパートリーを広げる事ができる。	ＤＰ３	20
	目標⑤乳児および3歳未満児の自ずと持っている繊細で鋭敏な感受性に働きかけ、表現する意欲と豊かな創造性を引き出す為の手法を理解する。	ＤＰ４	20
	目標⑥目標④⑤を踏まえ乳児および3歳未満児の遊びの指導計画をねらいを持って作成できる。	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	【小川担当分】 乳児の生活と遊びを学ぶ意義	授業の進め方、評価等について説明する。
	2	【乳児の生活：玉担当分2～8回】 ３歳未満児の１日の生活の流れを知り、安全で、安心して過ごすことができる環境づくりについて	グループワーク：朝の受け入れ時の保育案作成。（保育室の環境整備、子どもとの関わり方、子どもの健康観察、保護者との連携、保育士間の子どもに関する情報共有などについて考える） 事前学習：実習先の園で保育士が実践していたことを振り返り、グループワークの準備をする。
	3	０歳児の発達と生命の保持、情緒の安定、生理的欲求を満たす保育の方法について	グループワーク：０歳児指導案作成（子どもの姿から、応答的な関わり方や予想を立てて欲求を満たす関わり方を考える） 事後学習：授業資料の復習
	4	消化器官の発達と、ミルクの与え方、離乳食の進め方、食事面の基本的生活習慣の自立を促す保育について	グループワーク：食事面に関する保育案作成。（ミルクの作り方と飲ませる時の関わり方、離乳食の進め方・与え方、スプーンや箸の持ち方等の指導方法について実践を通して考える） 事後学習：具体的な関わり方を復習。また、身近な所で実践したり、親子の様子に目を向けたりする。
	5	身体機能や言語の発達と、個人差に配慮した衣類の着脱に関する保育の方法について	グループワーク：着脱面に関する保育案作成。個人差に応じたきめ細やかな保育の仕方（言葉がけ・行動見本・見守り・褒めるなど）について実践を通して考える） 事後学習：授業内容の復習。また、身近な所で、実践したり、親子の様子に目を向けたりする。
	6	脳や排泄器官の発達と、排泄の自立を促す保育の方法について	グループワーク：トイレトレーニングに関する保育案を作成。（子どもの不安に寄り添い、自信や意欲につながる言葉がけや環境構成について考える） 事後学習：図書館などで、事例が書かれた本を探し、学習を深める。

	7	人間関係に関わる発達や自己中心性などの３歳未満児の特性を理解し、子ども同士の交流を深める援助の仕方や子ども同士のトラブル時の仲立ちの仕方について	グループワーク：事例検討。（事例を通して、子どもの社会性を育む仲立ちの仕方について考える） 事後学習：図書館などで事例が書かれた本を探し、学習を深める。
	8	生活をスムーズに進めたり、探索活動を保障したりするために必要な保育士同士の連携について 新任の保育士に求められる専門性について	子どもの行動や動線を予測して、コミュニケーションしながら、職員同士が共通理解したり、連携したりして保育していることを学習し、その中で自分が果たす役割を考える。 復習レポート：３歳未満児の生活面で学習したことや大切にしたいこと、さらに、新任の保育士として取り組んでいきたいことについて記載し提出する。 事後学習：社会人として言葉の使い方、文章の書き方、質問の仕方、保育士の専門性について、復習。
	9	【乳児のあそび：坂本担当分9～15回】 乳児および3歳未満児のあそびにとっての音楽教育の役目・わらべうたあそびの大切さについて知る わらべうたあそびの実践（楽しさを知る）	グループワーク 事前学習：知っているわらべうたを考える 事後学習：幼児教育での必要性を復習
	10	通常のわらべうたあそびの実践①親子遊び・マンツーマンのふれあいあそび	グループワーク 事前学習：習ったわらべうたを覚える 事後学習：あそび方を理解する
	11	通常のわらべうたあそびの実践②小物を使ったあそび	グループワーク 事前学習：習ったわらべうたを覚える 事後学習：あそび方を理解する
	12	文学とわらべうたあそび①六角変わり絵の制作	事前学習：六角変わり絵の展開を考える 課題：仕上げてくる
	13	文学とわらべうたあそび②六角変わり絵を使っての発表	グループワーク 事前学習：六角変わり絵の発表の練習 課題：仕上げてくる
	14	わらべうたあそびを取り入れた指導案作成	事前学習：習ったわらべうたを振り返る 課題：指導案を仕上げる
	15	指導案の発表 授業全体の振り返り	グループワーク 事前学習：発表の練習 事後学習：振り返り

定期試験	試験に代わって、授業内の課題とレポートにより評価する。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事前事後学習が必要。
教科書	教科書は使用しない。適宜資料を配布する。
参考図書、教材、準備物等	・『保育所保育指針解説』（厚生労働省編、フレーベル館、2018） ・『幼稚園教育要領解説』（文部科学省編、フレーベル館、2018） ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館、2018） （乳児の生活） ・『資料でわかる乳児の保育新時代』（乳児保育研究会編、ひとなる書房、2018） ・『現代の保育学８　第９版　乳児保育』（待井和江・福岡貞子編、ミネルヴァ書房、2015） （乳児の遊び） ・『わらべうた・音楽の理論と実践―就学前の音楽教育』（フォライ・カタリン著・知念直美編・畑玲子訳、明治図書出版、1991） ・『幼稚園・保育園のわらべうた・あそび 春・夏』（畑玲子・知念直美・大倉三代子、明治図書出版、1994） ・『幼稚園・保育園のわらべうた・あそび 秋・冬』（畑玲子・知念直美・大倉三代子、明治図書出版、1994） ＜準備物＞制作の時、定規・ハサミ・のり・黒マジック・色鉛筆・クレヨンを各自準備する
課題（試験・レポート等）のフィードバック	（玉）復習レポートやグループワークで作成した保育案・事例検討記録は授業終了時に提出すること。 （坂本）配布したプリントや作成したレポートは各自ファイルに綴ること。 各教員への提出物は小川が取りまとめ、全授業終了後に返却する。質問等がある場合は小川研究室を訪問するか、電子メール、Moodleで連絡すること。
評価の配点比率	目標①保育案作成+事例検討記録18%（3%×6回）、復習レポート８％（第8回の授業） 目標②実践を通し、課題の習得状況12%（2%×６回） 目標③毎回の授業参加態度（グループワークでの事前準備・自分の意見を伝える・相手の意見を聞く・折り合いをつける）12%（2%×6回） 目標④授業復習（あそび方やわらべうたを覚えている）15%　授業復習レポート5% 目標⑤六角変わり絵作成5%　発表7%　事前レポート3%　授業復習レポート5% 目標⑥保育指導案作成5%　実践での表現力5%
受講上の注意	・実践やグループワークを通した理論や技術の習得を重視する為、積極的・意欲的な参加を求めます。 ・制作の時は事前に案を考えてくる。定規・ハサミ・のり・黒マジック・色鉛筆・クレヨン各自準備する。 ・わらべ歌実技の時は動きやすい服装で受講すること。
教員の実務経験	保育士として乳児保育に携わった経験を活かし、事例を挙げながら授業を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 障害児保育と特別支援Ⅰ　　授業コード： 2122601　2122602　2122603

英文科目名称： Child Care for Children with Disabilities and Special Needs

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
中尾　繁史			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C507
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、心身の障害や生活環境による困難を抱える乳幼児の状態像を理解するとともに、適切に支援していくための基本的考え方を身につける。また、特別支援教育を支える理念、制度、仕組みを理解し、それを実現するための協働体制について理解する。このため、講義を中心としながら、適宜ワークシートなどを用いて自ら考える機会を持ちながら授業を進めていく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	特別の支援を必要とする乳幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。	ＤＰ２	60
	特別の支援を必要とする乳幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。	ＤＰ２	30
	障害はないが特別の教育的ニーズのある乳幼児、児童及び生徒の把握や支援について理解する。	ＤＰ２	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション、特別な支援を必要とする子ども達とは？	特別な支援を必要とする子どもとはどのような子どもたちだろうか。さまざまな情報をもとに、多角的に考えてみよう。 事後学習：実習やボランティアの経験から、資料について理解を深める。
	2	特別支援教育を支える理念	特別支援教育を支える理念と、保育者に求められる視点や行動について考えてみよう。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料をもとに、自分の行動傾向について理解を深める。
	3	障害の状態像と支援方法の理解①：知的能力障害とダウン症	知的能力障害とその支援に資するさまざまな知識を学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料をもとに、知的能力について理解を深める。
	4	障害の状態像と支援方法の理解②：自閉症スペクトラム障害	自閉症スペクトラム障害の特徴を学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料をもとに、社会性、コミュニケーション、イマジネーションの発達について理解を深める。
	5	障害の状態像と支援方法の理解③：注意欠如・多動性障害	注意欠如・多動性障害の特徴を学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料をもとに、1次障害だけでなく2次障害についても理解を深める。
	6	障害の状態像と支援方法の理解④：発達期における限局性学習障害と協調運動障害	学習障害など学齢期で課題となりうる障害について学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料をもとに、幼児期にどのような支援が

			できるのかを考える。
	7	障害の状態像と支援方法の理解⑤：視覚・聴覚障害	情報保障の重要性を学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料をもとに、保育・幼児教育現場ではどのような支援ができるのかを考える。
	8	障害の状態像と支援方法の理解⑥：コミュニケーションの障害	コミュニケーションの障害と、その把握のための具体的方法を学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：事例と資料をもとに、保育・幼児教育場面での支援をシミュレーションする。
	9	障害の状態像と支援方法の理解⑦：肢体不自由と病弱	肢体不自由児および病弱児について概説する。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料の理解を深める。
	10	生活環境による特別な教育的ニーズの理解と支援	子どもの生活する環境や所属しているコミュニティによりニーズが変化しうることを学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料をもとに、自身の過去の経験についてまとめる。
	11	問題行動と発達のグレーゾーン	子どもに関わる大人側の要因によっても子どもたちの行動が変化することを学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料をもとに、自身の過去の経験についてまとめる。
	12	特別支援教育に関する制度とその仕組み	就学前のさまざまな準備と就学後に利用できる社会資源を概説する。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料の理解を深める。
	13	保育形態とインクルーシブ教育	子どもたちを育む環境構成の視点と、その背景の思想について学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料の理解を深める。
	14	個別の指導計画を作成する意義と方法	個別の指導計画の重要性を学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料の理解を深める。
	15	支援体制の構築と連携の重要性	園内での支援体制の構築や、専門機関との連携の重要性について学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料の理解を深める。
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。		
準備学習に必要な時間	回で合計1時間程度の事前・事後学習を前提としてレポート課題、期末試験を実施する。		
教科書	『やわらかアカデミズム・わかるシリーズ よくわかる障害児保育　第2版』(尾崎康子，小林真，水内豊和，阿部美穂子編、ミネルヴァ書房 2010) その他、必要に応じて資料を配布する。		
参考図書、教材、準備物等	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018） 『新・基本保育シリーズ⑰　障害児保育』（西村重稀，水田敏郎編、中央法規出版、2019）		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題レポートについて、特に良かったものを個人名を伏せて授業時に紹介する。		
評価の配点比率	期末試験（80%） 課題レポート（20%）		
受講上の注意			
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 障害児保育と特別支援Ⅱ　　授業コード： 2122701　2122702　2122703

英文科目名称： Child Care for Children with Disabilities and Special Needs

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
内田　彰夫			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C513
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、「障害児保育と特別支援Ｉ」での基本的知識をもとに障害の理解を深め、子どもたちの力やつまずきに気づく視点を身につけることと、子どもひとりひとりの特性理解に基づいた具体的な支援の組み立て方を学ぶことを目的とする。そのために授業中に紹介する架空事例に対する支援を各々で考え、次に自分たちの考えをグループで共有することを通して自身の視点を拡げる。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①障害のある子どもへの援助や配慮について概論できる。	ＤＰ２	20
	目標②子ども一人一人の特性理解に基づき、子どもが過ごしやすい環境を構築できる。	ＤＰ３	30
	目標③障害のある子どもの支援計画の作成、支援の実施、支援方法の評価、再計画ができる。	ＤＰ５	20
	目標④障害のある子どもの保護者への支援、教育機関や関係機関との連携について理解する。	ＤＰ６	20
	目標⑤障害のある子どもの保育について、現状と課題を理解する。	ＤＰ７	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	子どもひとりひとりの特性を理解する①：子どもの行動の様子から、その子の特性をつかむ。授業冒頭にオリエンテーションを実施する	『障害児保育と特別支援Ｉ』で学んだ内容を振り返りつつ、診断名や子どもの行動の様子からその子の特性をつかむ取り組みについて学ぶ。
	2	子どもひとりひとりの特性を理解する②：アセスメントツールをつかって子どもの特性をつかむ	幼児期支援の現場でよく使用されるフォーマルなアセスメントについて学ぶ。代表的な発達検査を紹介し、実施方法や結果の解釈について概略を学ぶ。
	3	個々に応じた支援方法①：『安心』を支援する。	環境の何らかの側面にデリケートなお子さんへの支援について検討し、考えをグループで共有する。子どもが不安や苦痛を感じる側面の多様さを学ぶ。
	4	個々に応じた支援方法②：『ひとりでできた』を支援する。	身の回りのことを自立して行えるようにするための支援について考え、グループで共有する。子どもがどこでつまずいているのかを分析する手法について学ぶ。
	5	個々に応じた支援方法③：『コミュニケーション』を支援する…表出の支援	より『伝えやすい』ようにどのような支援ができるか考え、グループで共有する。子どもたちの表出における様々なつまずきと、支援のアイデアについて学ぶ。
	6	個々に応じた支援方法③：『コミュニケーション』を支援する…理解の支援	より『理解しやすい』ようにどのような支援ができるか考え、グループで共有する。子どもたちの理解における様々なつまずきと、支援のアイデアを学ぶ。
	7	個々に応じた支援方法④：『集団活動に参加しにくい』を支援する。	集団活動に参加しにくい子どもへの支援について検討し、考えをグループで共有する。なぜ参加しにくいのかを考えることから支援を検討し、多様な『参加』のあり方について考える機会ともする。
	8	個々に応じた支援方法⑤：『望ましくない行動』に対して支援する。…行動の背景を分析する	行動の背景を分析し、そこから支援方法を考えていくことを学ぶ。行動背景を分析する手法の一つとしてABC分析について学ぶ。
	9	個々に応じた支援方法⑤：『望ましくない行動』に対して支援する。…対処策をたてる	行動背景の分析をもとに対処法を考え、グループで共有する。予防的対応が大切であることを学ぶ。

	10	個々に応じた支援方法⑥：視覚障害、聴覚障害に対して支援する。	資料（動画またはプリント）を事前に視聴し、情報入力が制限される子どもたちに対する日常的な工夫や配慮についてグループで検討する。
	11	保護者や家族に対する理解と支援 家族の想いに寄り添う。 家族との協働。	資料（動画またはプリント）を事前に視聴し、障害のある子どもを育てる保護者の想いについて考える機会とする。家族と連携して支援するために自分たちができることについてグループで検討する。
	12	『支援』について考える。 なぜ早期支援が大切なのか？	なぜ『早期支援』が大切なのかを考え、自分たちの役割についてグループで討議する。
	13	関係機関と連携した支援① 横のつながり	幼児期を支える様々な機関と、それぞれの役割について学ぶ。
	14	関係機関と連携した支援① 縦のつながり	就学時のスムーズなスタートのために、どういった情報を次の機関にひきつぐとよいのかを考える。
	15	支援計画を立てる際のポイント	これまでの授業内容をふりかえりつつ、支援計画を立てる上でのポイントを整理する。
定期試験	試験期間中に試験を実施しない。授業内の発表や提出物によって代替する。		
準備学習に必要な時間	事前学習：授業内容について、対応する教科書指定範囲を読むなどして事前に理解を深めておく（毎回30分程度） 事後学習：学習した内容について教科書を参考に、応用可能な知識として整理しまとめておく（毎回30分程度）。		
教科書	「障害児保育と特別支援Ｉ」で指定されている書籍を利用する。		
参考図書、教材、準備物等	参考図書については、授業内で適宜紹介する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	提出したワークシートの記載内容をふまえ、特に補足等が必要な内容があれば、次の授業の冒頭で解説する。		
評価の配点比率	目標①ワークシート記載内容20% 目標②ワークシート記載内容30% 目標③ワークシート記載内容20% 目標④ワークシート記載内容20% 目標⑤ワークシート記載内容10%		
受講上の注意	各回のテーマについて、まず自分で考え、その後自分の考えをグループ内で共有する。多様な視点を身に着けるために、他者の考えに耳を傾けること。他者の考えやアイデアも聴いたうえで再度自分の考えを整理し、記入したワークシートを提出してもらう。ワークシートの記載内容を評価の材料とする。		
教員の実務経験	児童発達支援における実務経験(10年)を活かした解説・指導をしながら講義する。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 保育の専門性　　授業コード： 2121201

英文科目名称： Professional Competence for Sustainable Early Childhood Education and Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
増田　翼			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	講義	ナンバリング：21A512
添付ファイル			

授業の概要	本講義の目的は、現場保育者に求められる専門性とは何かを理解することである。具体的には、日常的に求められる基礎的な表現力や、遊びを充実させるための環境構成・指導方法について確認していくなかで、保育者はどのような実践知（勘やコツ）を働かせているのか考察していく。さらに、子どもを理解するうえで欠かせない専門的な観察方法および記録方法について、実際に附属幼稚園を訪問しながら習得していく。可能であれば、自らの観察および記録をもとに、子どもの遊びやそこでの学びをどのように評価すべきか受講生同士で議論していきたい。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け％
	目標①　「保育」に特有の考え方や方法（遊びを通じた保育、子ども中心主義、環境構成）について説明できる。	ＤＰ１	25
	目標② 保育者が特有の勘やコツを働かせている場面（臨機応変に思考したり即座に判断したりしている場面）について説明できる。	ＤＰ４	25
	目標③ 何を知りたいのかという目的意識をもちながら、子どもの姿を観察できる。	ＤＰ２	15
	目標④ 観察した子どもの姿を特定の方法に従って記録できる。	ＤＰ５	15
	目標⑤ 自らの観察および記録をもとに、子どもの遊びやそこでの学びについて説明できる。	ＤＰ５	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション：授業紹介、野菜の苗植え	毎回、授業内容に関する小課題がある。授業毎に取り組み、LMS（仁短Moodle）に提出すること。 なお、15回の授業のうち、附属幼稚園での観察を複数回行う。附属幼稚園の行事等の関係で、授業内容の実施順序が入れ替わる場合がある。
	2	自然に親しむ：蚕の飼育（養蚕と福井）、ネイチャーゲーム	福井の文化を語る際に欠かせない「蚕」について、その生態と飼育方法について学ぶ。併せて、子どもたちが小動物を飼育する際の指導のコツなどについても考察する。加えて、自然を体感する様々な遊びについて実際経験しながら理解を深める。
	3	音を楽しむ：音楽ワークショップ	子どもたちと楽しく音楽活動を展開するために、保育者が身につけておくべき指導のコツについて考察する。
	4	言葉に出会う：絵本ワークショップ	国内外で出版されている多種多様な絵本のなかから、自分のお気に入りの一冊を選び、他の受講生にそれを紹介する。お互いに絵本を紹介し合うことで、様々な世界に触れるとともに、子どもたちがそれらの絵本をどのように感じるのかについて考察する。
	5	身体で表現する：リズムダンスの創作と指導	課題曲に対して、グループごとに振り付けを創作し実際に練習する。併せて、子どもたちへの指導のコツについても考察していく。 事前学習として、課題曲にどのような振り付けをつけたらよいか各人で考えてくること。
	6	伝統文化に親しむ：和太鼓の叩き方と指導	短大の和太鼓を実際に叩きながら、受講生全員で曲を練習し完成させる。併せて、子どもたちへの指導のコツについて考察する。

	7	保育における観察・記録・評価（1）：附属幼稚園での観察・記録【PART ⅰ】	附属幼稚園の各クラスに分かれながら、朝の自由遊び、クラス活動などを観察し記録する。記録用紙は期日までに完成させ提出すること。
	8	保育における観察・記録・評価（2）：観察・記録の方法	前回の自分の観察・記録を踏まえながら、専門的な観察方法および記録方法について理解する。
	9	保育における観察・記録・評価（3）：附属幼稚園での観察・記録【PART ⅱ】	附属幼稚園の各クラスに分かれながら、朝の自由遊び、クラス活動などを観察し記録する。記録用紙は期日までに完成させ提出すること。
	10	保育における観察・記録・評価（4）：観察・記録にもとづく評価	前回の自分の観察・記録をもとに、記述内容から子どもの遊びやそこでの学びをどのように評価していくのか受講生同士で議論する。
	11	保育における観察・記録・評価（5）：附属幼稚園での観察・記録【PART ⅲ】	附属幼稚園の各クラスに分かれながら、朝の自由遊び、クラス活動などを観察し記録する。記録用紙は期日までに完成させ提出すること。
	12	保育における観察・記録・評価（6）：子どもの学びを捉えるとは	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」も視野に入れながら、附属幼稚園での観察記録から読み取れることについて考察する。
	13	食材への意識：野菜の収穫および簡単な調理	オリエンテーション時に植えた野菜を収穫し、簡単な調理を施した後に試食する。事前に、調理等の計画と準備をしておくこと。
	14	ICT利活用：パソコン操作を磨く	パソコン室において、Excelを用いて少し複雑な表を作成するという課題に取り組む。事前に、Excelの基本的操作を確認しておくとよい。
	15	まとめ：「保育者になる」ということ	第15回終了後、授業内容に基づく最終レポートを作成し期限までに提出する。

定期試験	試験期間中の試験に代わって、全講義終了後に最終レポートを提出させる。
準備学習に必要な時間	事前課題などが出されている回については、それらを仕上げるのに１回当たり２時間程度必要。 また、附属幼稚園での観察をもとに記録用紙をまとめるために、該当時期は、１回当たり２時間程度必要。 ※最終レポート作成には、さらに時間が必要となる。
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：講義中に随時紹介する。 教　材：適宜、資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	環境構成・指導方法（表現力）等については、授業内での活動に対して、その都度その場でフィードバックを行う。他方、子どもを観察・記録し提出された課題については、授業担当者が添削・コメントしたPDFデータをMoodle上で返却するとともに、次回授業の冒頭でフィードバック（記録の仕方の解説を）する。なお、成績評価を含め授業内容に関する質問等がある場合は、Moodleのメッセージや電子メール（masuda@jin-ai.ac.jp）の利用、研究室訪問（オフィスアワー）などの手段が可能である。
評価の配点比率	目標①小課題シート 10%　最終レポート 15% 目標②小課題シート 10%　最終レポート 15% 目標③附属幼稚園観察・記録用紙 15% 目標④附属幼稚園観察・記録用紙 15% 目標⑤小課題シート 5%　最終レポート 15%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： ふくいの保育　　授業コード： 2122801

英文科目名称： Early Childhood Education and Care of Fukui

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
香月　拓・江端　佳代			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21A511
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、福井県内の保育現場における特徴や今日的な課題について理解を深め、さらにその課題に取り組んでいくための実践力の育成を目的とする。具体的には、建学の精神の浸透や保幼小接続についての学習に取り組む。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	①『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を基に乳幼児期の保育や教育、幼小接続について説明できる。	ＤＰ１	15
	②福井県の保育についての現状や課題について理解し、説明できる。	ＤＰ３	20
	③自分の考えをまとめさらに話し合いを通して学びを深め、他者に説明できる。	ＤＰ６	15
	④建学の精神に基づく保育者像について、自分の考えを述べることができる。	ＤＰ１	20
	⑤自分が育った地域の特色や文化について説明できる。	ＤＰ８	15
	⑥グループワークや課題への取り組みを通して、自己の生き方を謙虚に振り返ることができる。	ＤＰ９	15
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：地域社会に貢献したいという熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション	
	2	福井県の保育の現状と課題について	資料を通してグループで話し合い、課題についてまとめる。
	3	福井県の幼小接続の取組について	事前に『学びをつなぐ　希望のバトン　カリキュラム』第1,2章を読んで授業に臨むこと。
	4	福井市内小学校授業参観	小学校を参観する。事前に『学びをつなぐ　希望のバトン　カリキュラム』第5章を読んでおくこと。
	5	幼小接続についてのグループ発表に向けて（ポスター制作）	グループワーク。グループ発表テーマの情報収集を行い、テーマに沿って模造紙にまとめる。
	6	幼小接続についてのグループ発表に向けて（ポスター制作）	グループワーク。グループ発表テーマの情報収集を行い、テーマに沿って模造紙にまとめる。
	7	グループによる発表会	
	8	仁愛兼済からみる子どもとの関わり―ともに育ち合う保育	グループワーク
	9	保育者の主体性・多様性・協働性―自尊感情を育む保育	グループワーク
	10	自分が育った地域についての調査	
	11	自分が育った地域についての発表	スライドとプロジェクターを用いた発表
	12	保育者としての仁愛兼済―四恩の自覚と和敬・精進・反省の実践について	7～12回目の授業の振り返りを行い、まとめのレポート課題を提示する
	13	何のために生まれて何をして生きるのか―これまでとこれからの自分について	課題製作
	14	模擬誕生会の計画及び準備	グループワーク。模擬誕生会に向けて、企画や運営を行う。
	15	模擬誕生会	実際の保育現場で行っているような誕生会を実践する。そのための事前準備や出し物の練習が必要である。
定期試験	試験に代わって、授業中に示した課題に関する発表や提出物、まとめのレポートを評価の対象とする。		

準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事後学習を必要とする。また、課題の作成には多くの時間が必要になる。
教科書	厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館　2018）文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018）内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館 2018）
参考図書、教材、準備物等	参考図書 『和』（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 『学びをつなぐ　希望のバトン　カリキュラム』（福井県幼児教育支援センター） 教材 適宜、プリント資料を配付する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	成績評価を含め授業に関する質問等がある場合は、オフィスアワー等を利用すること。
評価の配点比率	①レポート15% ②課題に対するレポート20% ③課題に対する発表15% ④レポート20% ⑤課題に関する発表15% ⑥課題に関する提出物15%
受講上の注意	授業の取り組み方については、第1回目のガイダンスで説明する。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： おもちゃ研究　　授業コード： 2122901

英文科目名称： Toy Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
香月　拓・重村　幹夫			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21D511
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、子どもの遊びを豊かにするためのおもちゃ研究や身近な材料を使ったおもちゃ作りを行う。これらの学習を通して「おもちゃで遊ぶ」、「おもちゃを作る」、「おもちゃ作りを指導する」といった、保育者としての表現技術や指導方法を修得することを目的とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	①子どもの成長発達に応じたおもちゃの役割について説明できる。	ＤＰ２	20
	②優良なおもちゃの特徴を理解し、子どもとの関わり方について説明できる。	ＤＰ４	20
	③保育者に必要な論理的思考力や観察力、表現力を身につけることができる。	ＤＰ６	5
	④おもちゃとの関わりを通りて、社会性や対人関係能力を身につけることができる。	ＤＰ７	5
	⑤おもちゃに関する制作技術と指導方法を身につけることが出来る。	ＤＰ４	25
	⑥おもちゃの制作と子どもへの指導の、計画、実施・評価・改善を実践していく能力を身につけることが出来る。	ＤＰ５	25
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	おもちゃ学総論	授業計画、評価の基準の説明
	2	凧の制作、模擬保育の準備	
	3	凧による模擬保育	
	4	ビー玉転がしの制作、模擬保育の準備	
	5	ビー玉転がしによる模擬保育	
	6	ホチキス遊びによる模擬保育	
	7	0～2歳児対象のおもちゃ製作	
	8	前半の振り返り　グループワークとレポート	
	9	伝承おもちゃ	グループワーク、ワークシート
	10	プログラミング教育に関わるおもちゃ	グループワーク、ワークシート
	11	コミュニケーション力を育むおもちゃ	グループワーク、ワークシート
	12	おもちゃ発掘調査―優良なおもちゃを選ぶ視点	
	13	おもちゃ発掘調査の成果発表	スライドとプロジェクターを用いた発表
	14	子どもの成長とおもちゃの役割	
	15	まとめ―子どもとおもちゃと、時々、保育者	9～15回目のまとめのレポート課題を提示する

定期試験	試験に代わって、授業中に示した課題に関するワークシートや発表、まとめのレポートを評価の対象とする。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事後学習を必要とする。また、課題の作成には多くの時間が必要になる。
教科書	使用しない

参考図書、教材、準備物等	適宜、プリント資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	成績評価を含め授業に関する質問等がある場合には、オフィスアワー等を利用すること。
評価の配点比率	①まとめのレポート20% ②課題に関する発表15%、ワークシート5% ③ワークシート5% ④ワークシート5% ⑤おもちゃ、模擬保育準備物25% ⑥振り返りレポート25%
受講上の注意	授業の取り組み方については、第1回目のガイダンスで説明する。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： レクリエーションⅠ　　授業コード：2123001　2123002

英文科目名称： Recreation Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
大久保　郁子			
幼児教育学科　専門科目	レクリエーション・インストラクター資格必修	演習	ナンバリング：21C119
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、人々がレクリエーションの活動を通して「心を元気にすること」を支援していくためのレクリエーション・インストラクターについて学ぶことである。楽しく生きたいと願う人間の基本的欲求を理解し、ホスピタリティ及びアイスブレーキングの手法を習得し支援の方法を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①”遊び”を理解することで、レクリエーションの意義や役割を理解することができる。	ＤＰ４	15
	目標②アイスブレーキングの基本技術を習得することができる。	ＤＰ４	15
	目標③ホスピタリティの示し方を理解できる。	ＤＰ７	30
	目標④対象者に合わせたレクリエーション・ワークの基本技術を理解できる。	ＤＰ５	20
	目標⑤段階的アレンジの方法を、保育現場に生かすことができる。	ＤＰ６	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	アイスブレーキング・モデルの体験	コミュニケーションづくりの基本的なプログラムを体験する。
	2	モデル・プログラムの習得１	遊びの展開の仕方を記録する。
	3	レクリエーション活動の習得１　ジャンケンあそび	
	4	レクリエーション活動の習得２　新聞あそび	
	5	レクリエーション活動の習得３　袋で遊ぶ	
	6	レクリエーション活動の習得４　協調ゲーム	
	7	アイスブレーキングの効果を高める支援技術の習得	アイスブレーキングの技術を習得できるように事後学習をする。
	8	ハードル設定の習得	様々 な遊びの応用を考える。
	9	信頼関係づくりの理論	人との関わり方を学ぶ。
	10	信頼関係づくりの方法　ホスピタリティ１	
	11	信頼関係づくりの方法　ホスピタリティ２	
	12	レクリエーション支援の理解	重要な語句を理解する。
	13	レクリエーション活動の楽しさを通した心の元気づくり	
	14	対象者の心の元気づくり	自分を取り巻く人たち「元気」について考える
	15	レクリエーション・インストラクターの役割	

定期試験	試験に代わって、全講義終了後に課題（ミニレポート・振り返り課題）を提出させる。
準備学習に必要な時間	授業後、演習ノートを見直して、技術習得に励む（1時間程度）。グループ発表は、チームワークを発揮して事前準備をする。
教科書	『楽しさをとおした心の元気づくり』　（日本レクリエーション協会、　２０１７）

参考図書、教材、準備物等	教　材：演習ノートをプリントして配布する。資料としてプリントは随時配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	演習ノートに授業内容を記録し、振り返りを行う。グループ課題への取り組みを重視する。
評価の配点比率	目標①演習ノート・振り返り15% 目標②実技テストを行う15% 目標③実技の表現の仕方20%、ミニレポート10% 目標④グループ発表20% 目標⑤幼稚園実習での実践レポート20%
受講上の注意	遊びを通して、対象者に合わせた支援の仕方を学びます。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： レクリエーションⅡ　　授業コード： 2123101　2123102

英文科目名称： Recreation Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
後期	２年次	１単位	選択	
担当教員				
大久保　郁子				
幼児教育学科　専門科目	レクリエーション・インストラクター資格必修	演習		ナンバリング：21C509
添付ファイル				

授業の概要	本授業の目的は、人々がレクリエーションの活動を通して「心を元気にすること」を支援していくためのレクリエーション・インストラクターについて学ぶことである。楽しく生きたいと願う人間の基本的欲求を理解し、支援技術の方法及びプログラム企画運営評価の方法を学ぶ。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①目的に合わせたレクリエーション・ワークの全体像を理解することができる。		ＤＰ４	20
	目標②対象者に合わせたレクリエーションプログラムを立案することができる。		ＤＰ５	30
	目標③対象者に合わせたレクリエーションプログラムを実践することができる。		ＤＰ６	20
	目標④レクリエーション支援について説明ができる。		ＤＰ８	10
	目標⑤小規模なイベントの運営ができる。		ＤＰ７	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 ＤＰ８：地域社会に貢献したいという熱意を有している。		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	良好な集団づくりの理論	集団のまとまりを学ぶ。
	2	自主的、主体的にレクリエーション活動を楽しむ力を育む理論	
	3	アレンジ方法の習得	一つのゲームから、対象者に合わせたアレンジ方法を考える。
	4	CSSプロセスの習得	
	5	アイスブレーキングの効果を高める支援技術の習得	
	6	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法の総合的な演習	
	7	モデル・プログラムの立案	プログラム立案では事前準備を行い、チームワークを発揮する。
	8	モデル・プログラムの習得１	プログラムを立案する立場、参加者の立場から支援の方法を学ぶ。
	9	モデル・プログラムの習得２	
	10	モデル・プログラムの習得３	
	11	安全管理の方法	各役割に分かれて、準備をする。
	12	総合的レクリエーション支援のプログラム立案方法の習得	各役割に分かれて、準備をする。
	13	総合的レクリエーション支援のプログラム立案	企画決定後、 各自チラシを作製し提出する。
	14	総合的レクリエーション支援のプログラム実施・評価	全員で力を合わせて運営する。
	15	レクリエーション支援の改善	
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に課題（ミニレポート・振り返り課題）を提出させる。		

準備学習に必要な時間	授業後、演習ノートを見直して、技術習得に励む（1時間程度）。グループ発表は、チームワークを発揮して事前準備をする。
教科書	『楽しさをとおした心の元気づくり』　（日本レクリエーション協会、　２０１７）
参考図書、教材、準備物等	教　材：演習ノートをプリントして配布する。資料としてプリントは随時配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	演習ノートに授業内容を記録し、振り返りを行う。グループ課題への取り組みを重視する。
評価の配点比率	目標①ミニレポート20％ 目標②コミュニケーションプログラム15％　イベント立案15％ 目標③グループ実践発表20％ 目標④”支援”についての発表10％ 目標⑤イベント実践20％
受講上の注意	簡単なイベントを実施するための方法を学び、実践します。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　■反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 教育実習Ⅰ　　授業コード： 2123201

英文科目名称： Tearching PracticeⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	４単位	選択
担当教員			
松川　恵子			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修	実習	ナンバリング：21E101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、実際に幼稚園の教育に参加し、体験を通して幼稚園や幼稚園教諭の役割を理解するとともに、幼稚園教諭としての保育技術を習得することである。1年次9月に附属幼稚園で1週間、2年次6月に学外幼稚園で3週間、計4週間の実習を行い、各授業において学んだ理論と技術に基づいて直接幼児と接し、具体的に幼稚園教育を体験し、保育に必要な知識や技能を身に付ける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①保育実践を通して、計画－実践－反省・評価－改善という循環の重要性について説明することができる。	ＤＰ５	30
	目標②幼児理解に基づいたねらい・内容の設定、ねらい・内容を達成するための環境構成、援助などについて具体的に理解し、指導計画を作成・実践することができる。	ＤＰ１	20
	目標③実際に幼児とふれ合い、指導計画を作成して保育を体験する中で、一人一人の幼児の姿及び一人ひとりに応じた指導法を身に付けることができる。	ＤＰ４	20
	目標④教育実習に臨む態度が身に付き、挨拶、服装など基本的なマナーを実践することができる。	ＤＰ７	10
	目標⑤自己の実習を省察し、適切に実習ノート・日誌を記入・提出するとともに、幼稚園教諭としての自己の課題を明確化することができる。	ＤＰ９	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
授業の計画		〔附属幼稚園実習〕 1年次9月を中心として1週間（学科が割り振りした時期）、仁愛女子短期大学附属幼稚園で実習をする。 〈実習の概要〉 見学・観察を通して幼児の心身の発達過程と特性を観察し、知的・身体的・情緒的・社会的実態の大略を把握する。また、幼稚園教育、幼稚園の指導法等について全体的に理解し把握するとともに、指導計画を作成して保育を行う。	〔附属幼稚園実習〕 1.附属幼稚園でのオリエンテーションを通して把握した内容を、教育実習ノートの「園の概況表」にまとめておくこと。 2.実習前に、教育実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識をもって教育実習に臨むこと。 3.毎日、一日の流れを記録し、一日を振り返って心に残った出来事、幼児の姿、教師の援助について観察や話し合い等で学んだことなどを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、教育実習ノートに記入して実習担当教諭に提出すること。 4.実習終了後に、教育実習ノートの「自己の研究テーマについてのまとめ」「全体反省会の記録」及び「実習を終えて」を記入し、附属幼稚園に提出すること。
		〔学外指導実習〕 2年次6月に3週間、出身地等の幼稚園（各自が交渉する）において実習をする。 〈実習の概要〉 附属幼稚園実習において習得したものを基に、指導実習を行う。 教師の役割について意識しながら行動したり、指導計画を作成して保育を実践・反省・評価するという体験をしたりして、教師の役割を理解し、自覚を強くもつ。	〔学外指導実習〕 1.実習幼稚園でのオリエンテーションを通して把握した内容を、教育実習ノートの「園の概況表」にまとめておくこと。 2.実習前に、教育実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識をもって教育実習に臨むこと。 3.毎日、一日の流れを記録し、一日を振り返って心に残った出来事、幼児の姿、教師の援助について観察や話し合い等で学んだことなどを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、教育実習日誌に記入して実習担当教諭に提出すること。 4.実習終了後に、教育実習ノートの「自己の研究テーマについてのまとめ」及び「実習を終えて」を記入し、実習園に提出すること。

定期試験	試験に代わって、実習終了後に教育実習ノートを提出させる。
準備学習に必要な時間	適宜、事前事後学習を必要とする。
教科書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館　2018）
参考図書、教材、準備物等	内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・実習ノートは実習後回収し、閲覧後返却する。 ・質問等がある場合は、オフィスアワーを利用するか、電子メールで連絡すること。
評価の配点比率	目標①②③④⑤実習園からの評価表 60% 目標①②③④⑤実習ノート 40%
受講上の注意	・教育実習Ｉは幼稚園教諭二種免許状を取得する学生が受講することが望ましい。 ・1年次の履修科目のうち、5科目以上が単位不認定となった場合は、2年次における教育実習は履修できない。 ・1年次の仁愛女子短期大学附属幼稚園での実習評価表を基に学科実習指導委員会で検討を行い、その結果によっては2年次の教育実習を履修できない場合がある。
教員の実務経験	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かし、教育実習の具体的な内容を指導するとともに、実習園と連携しながら一人一人の学生を支援する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 教育実習Ⅱ　　授業コード： 2123301　2123302　2123303

英文科目名称： Tearching PracticeⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	１単位	選択
担当教員			
江端　佳代・松川　恵子			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修	実習	ナンバリング：21E101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、教育実習Ⅰ（1年次9月の附属幼稚園実習及び2年次6月の学外指導実習）がより良い効果をあげ有意義なものとなるように、事前に実習の基礎的事項を把握し、実習への心構えや目標を明確にもつことができるようにすることである。2年間を通して適切な時期に、実習内容・方法などを取り上げ、事前指導、または、事後指導を行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①教育実習の意義・目的を説明することができる。	ＤＰ１	10
	目標②保育に必要な表現技術を身に付けている。	ＤＰ２	30
	目標③保育の計画、実践、反省、評価、改善の循環について説明することができる。	ＤＰ５	20
	目標④教育実習の内容を理解し、自らの課題を明確にもつことができる。	ＤＰ６	10
	目標⑤教育実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。	ＤＰ９	20
	目標⑥挨拶や言葉遣い等教育実習に必要なマナーを身に付けることができる。	ＤＰ７	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	教育実習オリエンテーション（全体計画）	毎回配布する資料はファイルに綴じて、実習前に復習すること。
	2	子どもの発達理解①（３歳児）	毎時間感想レポートを提出する。
	3	子どもの発達理解②（４・５歳児）	
	4	清掃体験（仁愛女子短期大学附属幼稚園）	動きやすい服装で臨むこと。
	5	幼稚園教育実習の心構えについて	『実習要項』を事前に読んでおく。授業後、附属幼稚園実習の心構えを記入しておく。
	6	実習要項・実習ノート等について	『実習要項』『実習ノート』の関連ページを読んでおく。
	7	附属幼稚園実習オリエンテーションについて	オリエンテーションの項目を確認し、研究テーマなどの課題について考えておく。
	8	附属幼稚園でのオリエンテーション	
	9	教育実習ノートの記入について	
	10	指導計画作成について	実習で活用できるような教材を準備しておく。
	11	附属幼稚園実習事後指導（自己評価及び指導実習に向けて）	自己評価アンケートを行う。次の実習に向けての課題を明確にしておく。
	12	幼児が楽しめる遊びの環境づくりと実践（「じんあいこどものくに」）	「じんあいこどものくに」に向けて、準備しておく。
	13	電話対応の基本	
	14	電話対応の応用	
	15	実習先を訪問するときのマナー	
	16	教育実習報告会（1年次発表）	

	17	幼稚園（学外指導）実習　事前指導	
	18	実習幼稚園でのオリエンテーション	オリエンテーションで質問することを整理しておく。
	19	敬語表現について	
	20	文体の統一　手紙文について	
	21	幼稚園（学外指導）　実習心構え　諸注意	オリエンテーションの内容や指示されたことを教育実習ノートにまとめておく。
	22	幼稚園（学外指導）　実習総括　実習報告会オリエンテーション	
	23	教育実習報告会（2年次発表）	学習成果のポートフォリオを作成し、提出する。
定期試験	試験に代わってレポートを課し、全授業終了後にポートフォリオを提出させる。		
準備学習に必要な時間	適宜、事前事後学習を必要とする。		
教科書	【１回生で使用】関仁志編著『これで安心！保育指導案の書き方』(北大路書房2009) 【２回生で使用】財団法人幼少年教育研究所編著『遊びの指導　乳幼児編』（同文書院　2009） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館　2018） 内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館 2018）		
参考図書、教材、準備物等	必要に応じて資料を配付する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては、第１回目のオリエンテーションで説明する。実際の実習の場をイメージして授業に取り組むことが望ましい。各回の最後に振り返りカードに学習したことを記述する。配布した資料は足跡としてポートフォリオにまとめ、いつでも振り返りができるようにしておく。質問などある場合は、オフィスアワーを利用するか、電子メールで連絡すること。		
評価の配点比率	目標①②③④⑤⑥ レポート80%　ポートフォリオ20%		
受講上の注意	教育実習Ⅱは幼稚園教諭二種免許状を取得する学生が受講することが望ましい。幼稚園実習に直結する授業なので、やむを得ず欠席した場合は、その時の授業内容を必ず確認に来ること。		
教員の実務経験	幼稚園教諭として幼児教育を携わった経験を生かし、実習に向けての心構えや態度、指導案作成など事例を挙げながら講義及び演習を行う。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 保育実習Ⅰ　　授業コード： 2123401

英文科目名称： Field Practice on Childcare Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	４単位	選択
担当教員			
松川　恵子・中尾　繁史			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	実習	ナンバリング：21E111
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、実際に保育所・施設の保育に参加し、体験を通して子ども・利用者への理解、保育士の役割や職務内容等への理解、保育所・施設の役割や機能への理解等を深めることである。1年次2月に保育所で（担当：松川）、2年次8月に保育所以外の児童福祉施設等で（担当：中尾）、各80時間実習を行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解するとともに、子どもの保育及び保護者への支援について説明することができる。	ＤＰ１	10
	目標②観察や子どもとの関わりを通して子ども一人一人の理解を深め、説明することができる。	ＤＰ２	20
	目標③個に応じた援助をすることができる。	ＤＰ４	10
	目標④保育の計画、観察、記録及び自己評価等について、具体的に説明することができる。	ＤＰ５	10
	目標⑤保育士の業務内容や職業倫理を理解し、挨拶、服装など基本的なマナーを実践することができる。	ＤＰ７	30
	目標⑥自己の実習を省察し、実習ノートを適切に記入・提出することができる。	ＤＰ９	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		保育所実習　〔松川 担当〕 実習保育所で、以下の内容を学ぶ。 1.保育所の役割と機能 (1)保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2)保育所保育指針に基づく保育の展開	・保育所でのオリエンテーションを実施していただき、保育実習ノートの「園の概況表」にまとめておきましょう。 ・実習前に、保育実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識をもって保育所（参加・観察）実習に臨みましょう。 ・毎日、一日を振り返り、心に残る出来事、子どもの姿、保育士の援助について学んだこと、話し合い等で学んだことなどを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、保育実習ノートに記入しましょう。 ・保育所（参加・観察）実習終了後に、保育実習ノートの「参加・観察実習でのまとめ」を記入し、実習園に提出してください。
		2.子どもの理解 (1)子どもの観察とその記録による理解 (2)子どもの発達過程の理解 (3)子どもへの援助や関わり	
		3.保育内容・保育環境 (1)保育の計画に基づく保育内容 (2)子どもの発達過程に応じた保育内容 (3)子どもの生活や遊びと保育環境 (4)子どもの健康と安全	
		4.保育の計画・観察・記録 (1)全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2)記録に基づく省察・自己評価	

		5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携・協働 (3)保育士の役割と職業倫理	
		施設実習　〔中尾 担当〕 実習施設で、以下の内容を学ぶ。 1. 施設の役割と機能 (1)施設における子どもの生活と保育士等の援助や関わり (2)施設の役割と機能	1. 実習施設でのオリエンテーションを実施していただき、実習初日までに、施設実習ノートの「施設の概要」にまとめておきましょう。 2. 実習初日までに、施設実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識をもって実習に臨みましょう。 3. 毎日一日の流れを記録し、一日を振り返って心に残った出来事、利用児・者の姿、援助者のかかわりについて観察や話し合い等で学んだこと、課題の達成度などを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、施設実習日誌に記入しましょう。 4. 実習終了後に、施設実習ノートの「自己の研究テーマについて」及び「実習を終えて」を記入し、実習施設に提出してください。
		2. 子ども（利用者）の理解 (1)子ども（利用者）の観察とその記録 (2)個々の状態に応じた援助や関わり	
		3. 施設における子どもの生活と環境 (1)計画に基づく活動や援助 (2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応 (3)子どもの活動と環境 (4)健康管理、安全対策の理解	
		4. 計画と記録 (1)支援計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価	
		5. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)保育士の役割と職業倫理	

定期試験	試験に代わって、実習終了後に実習ノートを提出させる。
準備学習に必要な時間	実習時間外に、実習ノート等を記入するなどの学習が必要です。
教科書	厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018）
参考図書、教材、準備物等	適宜、資料を配布します。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	実習ノートは、実習後回収し、評価後返却します。
評価の配点比率	目標①②③④⑤⑥ 実習先からの評価表 60% 目標①②③④⑤⑥ 実習ノー ト40%
受講上の注意	・保育実習Ⅰは保育士資格を取得する学生が受講してください。 ・1年次の全履修科目のうち、5科目以上が単位不認定となった場合は、2年次における保育実習は履修できません。 ・実習前に保育実習指導Ⅰの授業内容を復習し、熱意をもって実習に臨んでください。
教員の実務経験	保育者としての実務経験を活かし、保育所実習の具体的な内容を指導するとともに、実習園と連携しながら一人一人の学生を支援する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 保育実習指導Ⅰ　　授業コード： 2123501　2123502　2123503

英文科目名称： Guidance for Field Practice on Childcare Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	２単位	選択
担当教員			
松川　恵子・中尾　繁史・山下　清美			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	演習	ナンバリング：21E112
添付ファイル			

授業の概要	この授業では、保育実習Ⅰ(1年次2月の保育所実習及び2年次8月の施設実習)が有意義なものとなるように、事前に実習への心構えや目的等を明確にもつことができるようになるとともに、実習後には自己の実習を省察して保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲへの課題を明確にもつことができるようになることを目的とする。2年間を通して適切な時期に、保育所実習については松川が、施設実習については中尾が、実習内容に応じた指導を行う。

授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①保育実習の意義・目的を説明することができる。	ＤＰ１	20
	目標②実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について説明することができる。	ＤＰ７	10
	目標③保育に必要な表現技術を身につけている。	ＤＰ４	10
	目標④保育の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に説明することができる。	ＤＰ５	10
	目標⑤保育実習の内容を理解し、自らの課題を明確に説明することができる。	ＤＰ６	20
	目標⑥実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。	ＤＰ９	20
	目標⑦挨拶や言葉遣いなどの保育実習に必要なマナーを身につけることができる。	ＤＰ７	10

本科目で身に付ける学習成果(DP)		
	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	保育所実習指導　〔松川・山下 担当〕 実習に役立つ表現遊び講習①（折り紙遊び）	資料はファイルに綴っておき、実習前に復習しましょう。 毎時間、感想レポートを提出してもらいます。 事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	2	実習に役立つ表現遊び講習②（手遊び）	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	3	保育所生活の理解と実習の心得について	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	4	清掃体験（仁愛保育園）	
	5	保育士のマナーについて	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	6	保育実習の意義・目的及び実習の概要について	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	7	実習の内容と課題、実習保育所依頼の手続き等について	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	8	保育所の機能と目的について	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	9	保育士の仕事と役割について	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	10	保育所実習報告会への参加	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	11	保育所実習の心構えについて（子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシー保護と守秘義務、など）	実習前にファイルに綴った資料を確認し、復習しましょう。
	12	実習保育所でのオリエンテーションについて	オリエンテーションで質問することを整理しておきましょう。

	13	実習保育所でのオリエンテーション	オリエンテーションの内容や指示されたことを保育実習ノートにまとめましょう。
	14	実習における計画と実践、観察・記録及び評価について	実習までに「私の心構え」と「自己の研究テーマ」を記入しましょう。
	15	実習の総括と課題の明確化－自己評価及び保育実習Ⅱに向けて	学習成果のポートフォリオを作成し、提出しましょう。
	16	施設実習指導　〔中尾 担当〕 施設実習の目的・概要	
	17	実習の内容と課題	
	18	2回生による実習報告会への参加	
	19	実習に際しての留意事項（人権、守秘義務、マナー等）	
	20	施設見学に関するオリエンテーション、諸注意	
	21	施設（障害者支援施設）見学	学外での学習になります。
	22	施設（障害者支援施設）見学	学外での学習になります。
	23	実習の計画と記録、実践・観察の視点	
	24	各実習種別における特徴及び実習の目的と概要	
	25	実習日誌の書き方、心構え、諸注意	
	26	実習施設でのオリエンテーション	
	27	実習の総括(1)－自己評価・課題の明確化	
	28	実習の総括(2)－グループワーク	
	29	実習の総括(3)－報告会に向けて	
	30	実習報告会での発表（１・2回生合同）	

定期試験	（保育所実習指導）試験に代わってレポートを課し、全授業終了後にポートフォリオを提出させる。 （施設実習指導）試験に代わってレポートを提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度資料を基に復習し、実習前にはもう一度資料を確認するなどの事後学習の時間が必要です。
教科書	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平：編著『新しい保育講座⑫　保育・教育実習』（ミネルヴァ書房 2020）
参考図書、教材、準備物等	厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポート等は、適宜添削し返却します。
評価の配点比率	〔松川・山下担当〕目標①②③④⑤⑥⑦ レポート 35%、ポートフォリオ 15% 〔中尾担当〕目標①②③④⑤⑥⑦ 授業中の提出課題 30%、レポート 20%
受講上の注意	保育実習指導Ⅰは保育士資格を取得する学生が受講してください。 積極的に質問等をしてください。感想レポートに記入していただいた質問にも対応します。 実習時に、自分で考え、自分で判断し、行動することができるよう、主体的に授業に臨んでください。
教員の実務経験	保育者としての実務経験を活かし、保育所実習に必要な表現技術、実習の心構えやマナーなどについて、具体的な事例なども取り入れながら授業を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 保育実習Ⅱ　　授業コード： 2123601

英文科目名称： Field Practice on ChildcareⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	選択
担当教員			
木下　由香			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	実習	シラバス番号：21E102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、保育実習Ⅰを基に、体験を通して保育士としての役割や業務について理解することである。保育実習Ⅱは、2年次9月に80時間以上保育所で実習（指導実習）を行う。実習園は、原則として保育実習Ⅰ（保育所実習）を実施した園と同様とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①保育所の役割や養護と教育が一体となって行われる保育について、具体的な実践を通して説明することができる。	ＤＰ１	10
	目標②観察に基づき子どもの心身の状態や活動と保育士の援助について把握し、説明できる。	ＤＰ２	10
	目標③既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に説明することができる。	ＤＰ３	5
	目標④環境を通して行う保育、生活や遊びを通して行う保育の理解に基づき、保育の実践ができる。	ＤＰ４	15
	目標⑤保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に作成・実践することができる。	ＤＰ５	15
	目標⑥実習に臨むにあたり自己の研究テーマを設定し、テーマについて経験を踏まえた考察ができる。	ＤＰ６	15
	目標⑦保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて説明することができる。	ＤＰ７	10
	目標⑧観察や行事等への参加を通して、地域社会との連携の意義について説明することができる。	ＤＰ８	5
	目標⑨自己の実習を省察し、実習ノート・日誌を適切に記入・提出するとともに、保育士としての自己の課題を明確化することができる。	ＤＰ９	15
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 ＤＰ８：地域社会に貢献したいという熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		実習保育所で、以下の内容を学ぶ。 （1）保育所の役割や機能の具体的展開 ①養護と教育が一体となって行われる保育 ②保育所の社会的役割と責任	１．保育所でのオリエンテーションを実施していただき、保育実習ノートの「園の概況表」にまとめておくこと。
		（2）観察に基づく保育理解 ①子どもの心身の状態や活動の観察 ②保育士等の動きや実践の観察 ③保育所の生活の流れや展開の把握	２．実習前に、保育実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識を持って保育所(指導)実習に臨むこと。
		（3）子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連帯 ①環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 ②入所している子どもの保育者支援及び地域の子育て家庭への支援 ③地域社会との連携	３．毎日一日の流れを記録し、一日を振り返って心に残った出来事、子どもの姿、保育士の援助について観察や話し合い等で学んだことなどを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、保育実習日記に記入すること。
		（4）指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 ①全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 ②作成した指導計画に基づく保育実践と評価	４．保育所(指導)実習終了後に、保育実習ノートの「自己の研究テーマについて」及び「実習を終えて」を記入し、実習園に提出すること。
		（5）保育士の業務と職業倫理 ①多様な保育の展開と保育士の業務 ②多様な保育の展開と保育士の職業倫理	

		(6) 自己の課題の明確化	
定期試験	試験に代わって、実習終了後に実習ノートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	事前事後学習は保育実習指導Ⅱで行う。		
教科書	使用しない。		
参考図書、教材、準備物等	実習要項		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・全ての実習ノート、日誌を、実習報告会終了後提出する。成績通知日に返却する。 ・質問等がある場合は、木下研究室（E102）を訪問するか、電子メール（kinoy@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。		
評価の配点比率	目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨実習先からの評価表60%、実習ノート40%		
受講上の注意	・保育士資格を取得する学生が受講することが望ましい。 ・さらに「保育実習Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)		

講義科目名称： 保育実習指導Ⅱ　　授業コード： 2123701　2123702　2123703

英文科目名称： Guidance for Field Practice on Childcare Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	１単位	選択
担当教員			
木下　由香			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21E501
添付ファイル			

授業の概要	この授業では、保育実習Ⅱの事前学習及び事後学習を行うことにより、保育実習Ⅱによる学びを促進することを目的とする。保育実習Ⅱは、保育実習Ⅰで学んだことをふまえたうえで、さらに子ども、家庭、地域への理解を深化させたものとなる。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①これまでの各科目、保育実習Ⅰでの学びをもとに保育実習Ⅱの目的を理解し、そのねらいと内容を設定できる。	ＤＰ１	60
	目標②自己の実習に必要と考えられる遊び、指導案等を準備して実習に臨み、その成果を記録することができる。	ＤＰ５	20
	目標③実習生としての心構えを持ち、実習の留意事項を説明できる。	ＤＰ７	10
	目標④実習を振り返り新たな学習の課題を明確にする。	ＤＰ９	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	指導案作成について	保育実習Ⅰで観察した子どもの姿をイメージして、事前に3、4、5歳児の設定保育指導案を作成してくること。
	2	表現遊び演習①（手遊び）	手遊び実技。事前に手遊びレシピを作成し、発表できるように練習してくること。（提出物）手遊びレシピ
	3	表現遊び演習②（わらべうた遊び講習）	わらべうた実技。動きやすい服装、靴で参加すること。（提出物）事後レポート
	4	指導案作成演習①（責任実習の指導案）	事前に責任実習の指導案を作成してくること。
	5	指導案作成演習②（乳児保育の指導案）	事前に乳児保育の指導案を作成してくること。
	6	保育実習（指導）の心得について	これまでの実習ノート（研究テーマ、反省）、実習日誌を振り返り、実習について質問したいことを考えてくること。（提出物）事後レポート
	7	実習課題の設定、実習の諸注意について	保育実習Ⅰでの実習課題を踏まえ、自己の研究テーマを考えてくること。 実習要項、実習ノート、実習日誌を持参すること。
	8	実習保育所でのオリエンテーション	質問事項をまとめておくこと。
	9	実習の総括①（自己評価）	（提出物）実習アンケート
	10	子どもが楽しめる遊び環境づくりと実践（じんあいこどものくに）	クラスごとのグループワーク。乳幼児、児童を対象に遊びの場の環境構成と実践を行う。事後に活動記録を作成する。（提出物）活動記録
	11	実習の総括②（報告書作成ー保育記録の意義）	「実習報告書」を作成する。実習ノート、実習日誌を持参すること。　（提出物）実習報告書
	12	実習の総括③（報告書作成ー振り返り）	「実習報告書」を作成する。実習ノート、実習日誌を持参すること。　（提出物）実習報告書
	13	実習の総括④（報告書作成ー課題の明確化）	「実習報告書」を作成する。実習ノート、実習日誌を持参すること。　（提出物）実習報告書
	14	実習の総括⑤（報告会に向けて）	報告会での発表原稿を作成し、報告会までに練習をしておくこと。
	15	全体を通したまとめ（保育所実習報告会）	報告会での発表（プレゼンテーション）発表は、ルーブリックに基づき評価する。

定期試験	試験期間中に試験を実施しない。授業内の提出物、実習報告書、実習報告会によって代替する。
準備学習に必要な時間	指導案作成、実習ノート記入、実習報告書作成等の準備学習が毎回1時間程度必要。
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	実習要項、その他必要に応じて資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・実習報告書は印刷製本し、実習報告会にて参加者に配布する。 ・提出物は、全授業終了後に返却する。 ・質問等がある場合は、木下研究室（E102）を訪問するか、電子メール（kinoy@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。
評価の配点比率	目標①②③④ 実習報告書（30%）、実習報告会（40%）、提出物（30%）により評価する。
受講上の注意	・保育士資格を取得する学生が受講することが望ましい。 ・実習への事前の取り組み、事後の反省・考察の授業である。欠席してそのままにしておくと、後で取り返しがつかないため、必ず教員とアポイントメントを取り、説明や資料の配布を受けるようにすること。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 保育実習Ⅲ　　授業コード： 2123801

英文科目名称： Field Practice on ChildcareⅢ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	選択
担当教員			
中尾　繁史・増田　翼			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	実習	ナンバリング：21E512
添付ファイル			

授業の概要	保育実習Ⅲは、児童福祉施設等（保育所は除く）での実習を通じて、児童家庭福祉および社会的養護に対する理解を深めるとともに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養うことを目的とする。実習は、２年次９月に80時間以上、児童福祉施設等（保育所は除く）で行う。			
授業の到達目標	目標		学位授与の方針との関連	
			学習成果番号	重み付け%
	目標①児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について説明できる。		ＤＰ１	20
	目標②保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけながら説明できる。		ＤＰ３	20
	目標③対象児・者を理解したうえで、個別支援計画（自立支援計画）を作成できる。		ＤＰ５	20
	目標④児童家庭福祉および社会的養護に対する理解をもとに、家庭と地域の生活実態と必要な支援を論理的に判断できる。		ＤＰ６	20
	目標⑤自己の実習を省察し、実習ノート・日誌を適切に記入・提出するとともに、保育士としての自己の課題を示すことができる。		ＤＰ９	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		実習施設で、以下の内容を学ぶ。	
		１．児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能	実習施設でのオリエンテーションを実施していただき、実習初日までに、施設実習ノートの「施設の概要」にまとめておくこと。
		２．施設における支援の実際 １）受容、共感する態度 ２）個人差や生活環境に伴う子ども(利用者)の ニーズの把握と子ども理解 ３）個別支援計画(自立支援計画)の作成と実践 ４）子ども(利用者)の家族への支援と対応 ５）多様な専門職との連携 ６）地域社会との連携	実習初日までに、施設実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識をもって実習に臨むこと。
		３．保育士の多様な業務と職業倫理	毎日一日の流れを記録し、一日を振り返って心に残った出来事、利用児・者の姿、援助者のかかわりについて観察や話し合い等で学んだこと、課題の達成度などを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、施設実習日誌に記入すること。
		４．保育士としての自己課題の明確化	実習終了後に、施設実習ノートの「自己の研究テーマについて」「実習を終えて」を記入し、実習施設に提出する。その後、最終的には、短大側が設ける期日までに施設実習ノートを提出（短大へ）すること。
定期試験	試験期間中の試験に代わって、実習終了後に実習ノートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	事前事後学習は保育実習指導Ⅲで行う。		
教科書	使用しない。		

参考図書、教材、準備物等	必要に応じて準備する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	実習ノートは、実習後回収し、評価後返却します。
評価の配点比率	目標①実習評価表12%、実習ノート8% 目標②実習評価表12%、実習ノート8% 目標③実習評価表12%、実習ノート8% 目標④実習評価表12%、実習ノート8% 目標⑤実習評価表12%、実習ノート8%
受講上の注意	①保育士資格を取得する学生が受講することが望ましい。 ②さらに「保育実習Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 保育実習指導Ⅲ　　授業コード： 2123901　2123902　2123903

英文科目名称： Guidance for Field Practice on Childcare Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	１単位	選択
担当教員			
増田　翼			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21E502
添付ファイル			

授業の概要	本講義は、保育実習Ⅲに向けての事前学習および実習後の事後学習を目的とする。保育実習Ⅲは保育所以外の児童福祉施設等での実習であり、保育実習Ⅰにおける施設実習をより深化させたものとなっている。具体的には、「保育実習Ⅲの意義と目的」の理解、「実習時に必要となる保育実践力」の育成、「計画、観察・記録、自己評価の仕方」の理解、「保育士の専門性と職業倫理」についての理解などを目指す。また事後指導においては、「実習を通じての自己課題の明確化」を行っていく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標① 実習施設の概要（基本理念、生活、援助内容、職員間の協働など）を説明できる。	ＤＰ１	20
	目標② 実習日誌および個別支援計画（自立支援計画）の書き方の基本を説明できる。	ＤＰ５	10
	目標③ 実習報告書を作成できる。	ＤＰ６	20
	目標④ 実習報告会において、明快な論旨に基づき発表できる。	ＤＰ６	20
	目標⑤ 実習報告会において、実習を振り返ることで明らかになった自己の課題を発表できる。	ＤＰ９	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	保育実習Ⅲの意義と目的	
	2	自己の実習施設に対する理解	第2回～第5回にかけて、受講生同士で、実習施設先に関するプレゼンテーションを行う。各授業においてスムーズに発表ができるよう、事前にパワーポイント等で準備をしておくこと。
	3	実習施設で生活する子ども（利用者）の理解とニーズの把握	
	4	実習施設における生活について―事例を通して―	
	5	多様な専門職との分担・連携	
	6	実習日誌について（観察、記録、評価）	
	7	個別支援計画（自立支援計画）について（計画と実践）	過去の事例に基づきながら、実際に個別支援計画（自立支援計画）を作成してみる。
	8	子ども（利用者）の家族・保護者への支援と対応について	
	9	保育士としての職務（専門性）と職業倫理	
	10	実習課題の設定、実習の諸注意について	
	11	実習施設でのオリエンテーション	
	12	実習の総括①（報告書作成―振り返りと自己評価）	第12回～第14回で、実習報告会に向けて「実習報告書」を作成する。
	13	実習の総括②（報告書作成―課題の明確化）	
	14	実習の総括③（報告会に向けて）	
	15	全体を通したまとめ（実習報告会）	
定期試験	試験期間中に試験を実施しない。授業内の発表や提出物、実習報告書、実習報告会によって代替する。		

準備学習に必要な時間	実習施設先に関するプレゼンテーション資料の作成には、少なくとも1回あたり2時間以上を要する。 また「実習報告書」作成には、指定様式や様々な条件等もあり、それらを踏まえ完成させるまでには相当の時間を要する。 さらに「実習報告会」に向けて、発表内容をまとめたり練習したりする時間も必要である。
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	必要に応じて資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	プレゼン発表については、その都度その場で発表内容等についてフィードバックする。また、提出された課題（実習報告書など）については、授業担当者が確認・添削したうえで、Moodle上で返却するなどしてフィードバックする。なお、成績評価を含め授業内容に関する質問等がある場合は、Moodleのメッセージや電子メール（masuda@jin-ai.ac.jp）の利用、研究室訪問（オフィスアワー）などの手段が可能である。
評価の配点比率	目標① 実習施設先に関するプレゼンテーション資料の作成と発表 20% 目標② 事例をもとにした個別支援計画（自立支援計画）の作成 10% 目標③ 実習報告書 20% 目標④ 実習報告会 20% 目標⑤ 実習報告会 30%
受講上の注意	保育実習指導Ⅲは保育士資格を取得する学生が受講することが望ましい。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 保育・教職実践演習（幼稚園）　　授業コード： 2124001

英文科目名称： Practice Seminar on Childcare and Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
重村　幹夫・香月　拓・増田　翼・松川　恵子			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21Z511
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、２年間の学びの総まとめとして、保育士および幼稚園教諭に必要な知識技能を修得していることを確認することを目的とする。グループワーク、ロールプレイなどの活動や外部講師による特別講義を通して、これまでの学修の振り返りを行い、自己の課題の克服と資質能力のさらなる向上を図る。また、自己の学修の成果と課題を絶えず自覚し、主体的に資質能力の向上に努められるよう、授業全体を通してポートフォリオを作成する。 なお、本授業は履修履歴を踏まえて指導を行うものであり、計画と内容には保育現場からの意見が取り入れられている。 本授業は６部構成、１週あたり連続２コマとして15週実施する。第２部～第５部では全受講生を４班に分割し、班ごとに受講順が異なる。班ごとの受講順は以下の通りである。 第１班　第１部→第２部→第３部→第４部→第５部→第６部 第２班　第１部→第３部→第４部→第５部→第２部→第６部 第３班　第１部→第４部→第５部→第２部→第３部→第６部 第４班　第１部→第５部→第２部→第３部→第４部→第６部 各部を担当する教員は以下の通りである。 重村：第１部、第4部、第30回 増田：第２部 香月：第３部 松川：第５部 第27～29回では特別講師による講義を行う。 班分け、授業計画などの詳細は初回オリエンテーションにて説明するため、必ず出席すること。やむを得ず出席できない場合には、必ず次週の授業までに担当教員（重村）にアポイントメントをとり、資料を受け取り、説明を受けておくこと。

授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①保育者としての使命感や責任感、教育的愛情をもっている	ＤＰ１	30
	目標②保育者としての社会性や対人関係能力をもっている	ＤＰ７	20
	目標③子どもを理解し、クラスを経営することができる	ＤＰ２	30
	目標④教科・保育内容等を指導できる	ＤＰ４	20

本科目で身に付ける学習成果(DP)		
	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。
	【思考力・判断力・表現力】	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	第１部：オリエンテーション	遠隔非同期にて実施
	2	第１部：これまでの学修の振り返り	遠隔非同期にて実施
	3	第２部：KJ法による「理想の保育」の探求――保育者の使命、役割、責任とは（１）	
	4	第２部：KJ法による「理想の保育」の探求――保育者の使命、役割、責任とは（２）	
	5	第２部：保育場面の動画映像――誠実、公平かつ受容的な態度とは（１）	
	6	第２部：保育場面の動画映像――誠実、公平か	

	6	つ受容的な態度とは（2）	
	7	第２部：保育者に求められる資質能力――自己の課題を把握する（1）	
	8	第２部：保育者に求められる資質能力――自己の課題を把握する（2）	
	9	第３部：保育者としてのマナー（1）	
	10	第３部：保育者としてのマナー（2）	
	11	第３部：保育場面の創作劇の企画（1）	
	12	第３部：保育場面の創作劇の企画（2）	
	13	第３部：保育場面の創作劇の発表（1）	
	14	第３部：保育場面の創作劇の発表（2）	
	15	第４部：共同制作による製作	
	16	第４部：幼児造形教育の考え方	
	17	第４部：造形遊びの製作	
	18	第４部：造形遊びについての振り返りとまとめ	
	19	第４部：絵画制作	
	20	第４部：乳幼児の絵画表現と指導法	
	21	第5部：乳幼児の理解に基づいた評価	
	22	第5部：実習で心に残った出来事（エピソード記録）	
	23	第5部：3歳未満の子どもについての事例発表	
	24	第5部：3歳未満の子どもについての理解（グループ討議）	
	25	第5部：3歳以上の子どもについての事例発表	
	26	第5部：3歳以上の子どもについての理解（グループ討議）	
	27	第６部：保幼小連携で必要なこと	遠隔非同期にて実施
	28	第６部：地域・他機関との連携の実際	遠隔非同期にて実施
	29	第６部：保育者としての心構え	遠隔非同期にて実施
	30	第６部：全体のまとめ	遠隔非同期にて実施

定期試験	試験に代わって、各部毎に、制作物・レポートの提出または発表を行う。
準備学習に必要な時間	各回において提示される課題は、全体として30時間以上の授業外学習を行うことを前提として実施・評価する。
教科書	厚生労働省『保育所保育指針解説書』（厚生労働省 2018）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018）、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館 2018）
参考図書、教材、準備物等	適宜、担当教員が指示する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	適宜、担当教員が指示する。
評価の配点比率	目標①：30%、目標②：20%、目標③：30%、目標④：20% 第２部～第６部における制作物・レポートなどの提出または発表に対して20%ずつ割り当てた上で総合的に評価する。
受講上の注意	この授業は２年間の学びの総まとめであり、幼稚園教諭・保育士・保育教諭として現場で働くための最終確認・準備として位置づけられています。自ら学ぼうとする姿勢及び積極的な参加を求めます。 各部において、授業における前後のつながりが非常に強く、また１日に２コマ連続で行うため、一度の欠席がその後の参加、ひいては評価に大きく影響する。欠席の場合は、その都度授業や配布物、提出物について各部の担当教員に確認すること。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 保育総合ゼミナール

英文科目名称： General Seminar of Early Childhood Education and Care

授業コード： 2124101 2124102 2124103 2124104 2124105 2124106 2124107 2124108 2124109 2124110 他2件

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	必修
担当教員			
松川　恵子・重村　幹夫・前田　敬子・香月　拓・河野　久寿・木下　由香・増田　翼・内田　雄・中尾　繁史・小川　智枝			
幼児教育学科　専門科目		演習	ナンバリング：21Z501
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、乳幼児の教育・保育に関する一人一人の課題を探究し、その成果を学内外に向けて発表することにより、乳幼児教育・保育の専門的知識・技術 及び 思考力・判断力・表現力 並びに 主体性・多様性・協同性を身に付けることを目的とする。学生一人一人が探究したい教育・保育に関する課題・テーマを見出し、必要な情報を収集する、研究方法を学ぶ、作品を制作する、文章で表現するなどして、学内外に向けて学習成果を発表する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①自分自身の課題を見出し、課題を探究することができる。	ＤＰ３	20
	目標②自分の考えを主張するとともに、他者の意見を受け入れながら、協同して活動することができる。	ＤＰ７	20
	目標③状況に応じて主体的に判断し、行動することができる。	ＤＰ６	20
	目標④活動を振り返り、省察・改善することができる。	ＤＰ９	20
	目標⑤学習の成果を学内外に広く発信することができる。	ＤＰ８	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 ＤＰ８：地域社会に貢献したいという熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス（指導教員決め）	毎回、授業後に活動状況について自己評価を行い、次回への課題を持つようにしてください。 活動振り返りシートはファイルに綴じておき、学習の足跡が残るポートフォリオとなるようにするとともに、授業終了後に提出してもらいます。
	2	研究テーマの検討	
	3	研究テーマとグループの検討	
	4	研究テーマとグループの決定	
	5	研究についての計画検討	
	6	研究についての計画決定	
	7	研究に向けての資料収集	
	8	研究に向けての資料のまとめ	
	9	研究に向けての成果検討①（話し合い）	
	10	研究に向けての成果検討②（研究準備）	
	11	研究に向けての成果検討③（研究開始）	
	12	前期のまとめ	
	13	研究発表に向けての活動の振り返り	
	14	後期の活動計画作成	
	15	研究・制作①（部分制作）	
	16	研究・制作②（共有）	
	17	研究・制作③（中間発表に向けてのまとめ）	

	18	中間発表と相互評価	
	19	研究発表に向けて活動計画修正	
	20	研究・制作④（修正）	
	21	研究・制作⑤（改良）	
	22	研究・制作⑥（自己評価）	
	23	研究・制作⑦（完成）	
	24	学習成果の発表に向けて①（自己評価）	
	25	学習成果の発表に向けて②（相互評価）	
	26	学習成果の発表に向けて③（改善）	
	27	学習成果の発表に向けて④（ブラッシュ・アップ）	
	28	会場研修①（会場整備）	
	29	会場研修②（参加・発表①）	
	30	会場研修③（参加・発表②）	

定期試験	試験に代わって、ポートフォリオ 及び 学習成果の発表で評価する。
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事後学習が必要です。
教科書	必要に応じて資料等を配布する
参考図書、教材、準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館　2018） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館　2018） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説』（フレーベル館　2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	ポートフォリオは、評価が終わった後返却します。
評価の配点比率	ポートフォリオ 50%（目標①②③④⑤）　　発表 50%（目標①②③④⑤）
受講上の注意	授業の取り組み内容に関しては、第1回目のガイダンスで説明します。 活動振り返りシート、資料などはファイルに綴じておきましょう。（授業終了後に、ポートフォリオを作成し、提出してもらいます。） 質問等がある場合は、担当教員のオフィス・アワーを活用するか、メールで連絡してください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

講義科目名称： 子どもと絵本　　授業コード： 2124201

英文科目名称： Picture Books and Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	選択
担当教員			
松川　恵子・前田　敬子			
認定絵本士称号取得科目	認定絵本士称号取得必修	演習	ナンバリング：21C514
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、子どもや高齢者、支援を必要とする人など、様々な状況の人々に絵本を届ける意味、知識や技能、姿勢などを学び、保育者として子どもたちと一緒に絵本を楽しむ環境を構成する力を身に付けることである。福井県内外で絵本に関する様々な活動を実践されているゲストスピーカーの方々から、(1)絵本に関する知識を深める (2)絵本を広げる技能を高める (3)感性を磨く の3分野から専門的な内容を学び、学んだ内容を文章などでまとめることを通して、認定絵本士として必要な資質・能力を高める。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	①様々な絵本についての知識を深め、説明することができる。	ＤＰ４	32
	②子どもや高齢者、ケアを必要とする人などに、絵本の世界を広げる技術を身に付ける。	ＤＰ４	33
	③様々な絵本の世界を感じ取り、表現することができる。	ＤＰ６	18
	④講座で学んだ知識や技能を活かし、地域や保育現場で絵本の魅力や可能性を伝えていく姿勢を身に付ける。	ＤＰ８	17
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：地域社会に貢献したいという熱意を有している。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション〔担当：松川〕	認定絵本士の役割や資質について説明します。 ファイルを作成し、配布される資料を綴じておきましょう。
	2	絵本総論（絵本とは何か）〔担当：前田〕	課題①
	3	絵本各論①（絵本の歴史、絵本賞について）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	課題②
	4	絵本各論②（視覚表現、言語表現から見た絵本）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	課題③
	5	絵本各論③（子どもの知的・社会的発達と絵本との関わり）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	
	6	絵本各論④（メディアとしての絵本の位置付け）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	課題④
	7	さまざまなジャンルの絵本①（物語の絵本）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	
	8	さまざまなジャンルの絵本②（昔話、童話を基にした絵本）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	
	9	さまざまなジャンルの絵本③（科学絵本）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	
	10	絵本と出会う①（はじめての絵本との出会い）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	
	11	絵本と出会う②（保育・教育の場での出会い）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	
	12	絵本と出会う③（図書館等での出会い～絵本の活用及び地域連携の可能性～）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	
	13	絵本と出会う④（書店での出会い）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	
	14	絵本の世界を広げる技術①（絵本を探す技術）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	

	15	絵本の世界を広げる技術②（ワークショップ）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	課題⑤
	16	絵本の世界を広げる技術③（絵本コンシェルジュ術）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	
	17	絵本を紹介する技術①（ブックトークの技術）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	課題⑥
	18	絵本を紹介する技術②（書評・紹介文の書き方）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	
	19	絵本を紹介する技術③（支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	課題⑦
	20	おはなし会の手法①（おはなし会を開こう）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	課題⑧
	21	おはなし会の手法②（おはなし会のテクニック）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	課題⑨
	22	絵本の持つ力（さまざまな角度から絵本を見る）〔担当：前田〕	
	23	心に寄り添う絵本（心のケアと絵本の可能性）〔担当：前田〕	
	24	絵本のある空間（絵本のある望ましい空間とは）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	
	25	子どもの心をとらえるもの（子どもの心をとらえて離さないもの）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	
	26	大人の心を豊かにする絵本（人生で3度、絵本を手にする喜び、大人にこそ絵本を）〔担当：前田〕	課題⑩
	27	ホスピタリティに学ぶ（人を楽しませるための手法を学ぼう）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	
	28	絵本が生まれる現場①（作家の感性に触れる）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	課題⑪
	29	絵本が生まれる現場②（絵本の編集）〔担当：松川、ゲストスピーカー〕	
	30	ディスカッション（認定絵本士としての今後の活動）〔担当：松川〕	

定期試験	定期試験に代えて、課題とポートフォリオ及び各回の受講票で評価する。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事後学習が必要です。
教科書	絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ編『認定絵本士養成講座テキスト』（中央法規　2020）
参考図書、教材、準備物等	各種絵本 適宜、資料を配布します。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題、ポートフォリオなどは、評価が終わった後返却します。
評価の配点比率	目標①：課題①②③④（20%）受講票（12%）　　目標②：課題⑤⑥⑦⑧⑨（25%）受講票（8%） 目標③：課題⑩⑪　　（10%）受講票（8%）　　目標④：ポートフォリオ（15%）受講票（2%）
受講上の注意	・本授業は、「認定絵本士」称号取得を目指す学生が受講してください。 ・「認定絵本士」称号取得のためには、本授業の80%以上に出席し、単位を修得することが必要です。 ・本授業の受講人数は、35名を上限とします。 ・授業で配布された資料は、全てファイルに綴っておいてください。（授業終了後に、ポートフォリオとしてまとめ、提出してもらいます。） ・第1回目の授業で、具体的な日程を連絡します。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業　□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)